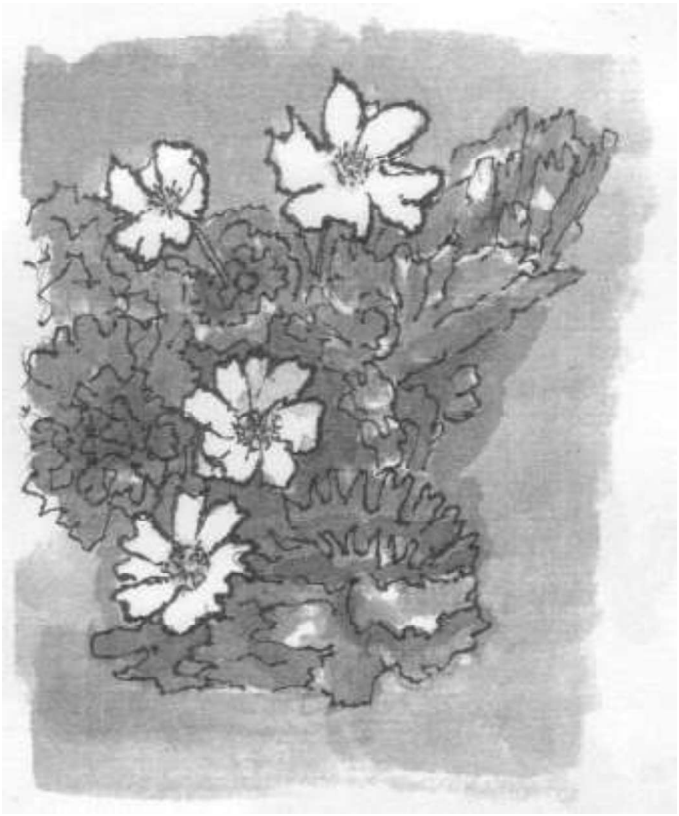
やまなみ

第 8 号



岳人あびこ

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ

やまなみ

第８号



手賀沼（曙橋付近より）

やまなみ 第８号　　目　　次

『やまなみ』　第８号発刊に寄せて　　平成１９年度会長　中村隆泰

平成１８年度活動方針

NO.	山　　名	山　　域	月　日	執 筆 者	ページ
	平成１８年度(2006年3月～2007年2月)		２００６年度		
476	兜山･棚山	中央線沿線	3/12	佐藤健一	1
477	難台山・吾国山（新人歓迎山行）	茨城	3/26	やまたん	3
478	宮地山～岩殿山	中央線沿線	4/2	大畠清江	7
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	4/9	矢野貞子	9
480	水無川本谷～源次郎沢	丹沢	4/15-16	堀口昭二	11
481	帯那山	甲州北部	4/30	安田みづほ	13
482	上州武尊岳	谷川連峰	5/3-4	由布仁子 千葉有子	15
483	悪四郎山･熊野古道	熊野	5/14-16	細野清子	18
484	小川谷・悪谷	奥多摩	5/21	佐藤明子	21
485	霧降高原	奥日光	5/24	榊原文子	23
486	那須旭岳・大白森山	那須連峰	5/27-28	岡田秀子	25
487	笠取山～和名倉山～飛竜山～雲取山～長沢山	奥秩父・奥多摩	6/2-5	大串秀雄	27
488	高山（県連平日ハイク）	奥日光	6/8	柴田節子	32
489	日光男体山（市民登山）	日光	6/11	やまたん	34
490	妙法ヶ岳	奥秩父	6/25	箕輪完二	40
491	森吉山・姫神山	東北	6/26-27	細野清子	42
492	会津朝日岳	南会津	7/1-2	外崎　蓮	46
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	7/2-7	大串秀雄	49
494	北岳	南アルプス	7/13-15	原田和昭	54
495	大岳山	奥多摩	7/16	千葉有子	57
496	草津白根山	上州	7/31-8/1	斉藤清一	59
497	荒川三山～赤石山	南アルプス	8/4-6	外崎　蓮	61
498	万太郎谷	谷川連峰	9/2-3	堀口昭二	64
499	錫ヶ岳～前白根山	奥日光	9/9ー10	武内勇二	66
500	以東岳～大朝日岳	南東北	9/16-18	高橋英雄	69
501	富士山～佐白山（ｳｨｽﾞﾊｲｸ）	茨城	9/23	やまたん	71
502	蓼科山	八ヶ岳	9/30-10/1	藤倉貞子	75
503	八海山・平ヶ岳	越後	10/3-5	大串秀雄	77
504	甲斐駒ケ岳	南アルプス	10/8-9	佐藤健一、他	81
505	東八ヶ岳縦走	八ヶ岳	10/13-15	柴　勇	84

NO.	山　　名	山　　域	月　日	執 筆 者	ページ
506	南八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	10/14-15	武内勇二	87
507	南八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	10/14-15	やまたん	90
508	八ヶ岳（天狗尾根）	八ヶ岳	10/14-15	由布仁子	92
509	八ヶ岳本峰縦走	八ヶ岳	10/13-15	矢野貞子	96
510	天女山	八ヶ岳	10/15	松本豊	100
511	半月山（県連平日ハイク）	奥日光	10/19	田村光子	102
512	大峰山～吾妻耶山	谷川連峰	11/5	村松敏彦	104
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩連嶺	11/5-6	大串秀雄	106
514	菰釣山～三国山	西丹沢	11/11-12	坂口よし江	109
515	伊予ヶ岳・富山（県連４０周年記念祭）	房総	11/18-19	柴　勇	112
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	11/23	本間恭子	115
517	大福山・三石山（県連ロングハイク）	房総	12/23-24	斉藤清一	117
518	鶏足山～花香月山（忘年山行）	栃木・茨城	12/10	佐藤健一	120
519	高尾山	奥多摩	12/17	中村八重子	124
520	谷川岳	谷川岳	12/22-23	高橋　重	126
521	高水山～棒の折山	奥多摩	1/21	由布仁子	129
522	浜石岳	駿河	1/21	細野清子	131
523	花咲山	中央沿線	1/28	高橋芳恵	133
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2/3-4	青山寿子	135
10周年記念行事					
	10周年記念祭報告			外崎　蓮	137
	10周年記念イベントを迎えて			村松敏彦	139
	渡邊輝男氏講演要旨　「山で遭難しないために」			柴　　勇	140
	講演会風景				141
資 料	推移グラフ（1996年～2006年）			編集者	143
	山行一覧表（2006年度）			編集者	144
	活動の記録（1996年～2006年）			編集者	148
編集後記				編集者	—

＊表紙イラスト提供　：　箕輪完二氏　キタダケソウ（キンポウゲ科）

『やまなみ』第８号発刊によせて

平成１９年度会長　　中　村　隆　泰



わが岳人あびこの大きな財産である「やまなみ」も第８号を迎えることができました。多くの執筆者とそれを一冊の本に作り上げていただいた編集担当の皆さんに心から感謝申し上げます。

岳人あびこの特色は「きちんと」「ちゃんと」にあると思います。Plan～Do～Check～Action という品質管理でいう QC サークルが創立以来「きちんと」「ちゃんと」回り続けているのです。そのあかしの記録が毎月発行の「やまたん」であり、毎年発行の「やまなみ」です。

山行や行事を企画実行したリーダーや実行委員の皆さん、それに参加して楽しみと感動を味わった会員の皆さん、その様子を文章にした執筆者の皆さん、最後に、一冊の本に編集して形にした編集委員の皆さん、それぞれの立場で、それぞれの役割りを果たす中で、岳人あびこの有形無形の財産が綿々と引き継がれております。

この一冊の「やまなみ」にはこのような「岳人あびこ」の活動のすべてが凝縮されています。本を手にとって見ると、ずっしりと重さを感じます。ページをめくってみると、感動が伝わってきます。かって「やまなみ」の発行に関わったことのある一人として、あの編集の苦労の結果が、今の第８号へつながっているのだと思うと感慨一入であります。

平成１８年度は創立１０周年の年です。例年の内容に記念行事や記念山行などが加わって盛りだくさんです。皆さん、折にふれ　この「やまなみ」を開いて、「山への情熱」を燃やし続けようではありませんか。そして苦労して書いた文章が活字となって残っているうれしさを噛み締めていただきたいと思います。

以　上



やまたん２５号

やまたん５０号



やまたん７５号



やまたん１００号





第 11 期岳人あびこ活動方針

10 年の年輪を活かして更なる飛躍（気持ちを緩めず安全登山）

1. 10 周年記念行事を推進します

　10 年前、東北の会津朝日岳の麓のテントの中で産声を上げた「岳人あびこ」も本年で 10 年目の節目を迎えます。この記念すべき年を会員の皆様と祝うべく昨年度に 10 周年記念行事準備委員会」を設け検討を加えてきました。この委員会が中心になって、記念山行は 10 月に八ヶ岳」、記念品は T シャツ、記念行事はミニ講演会と展覧会等に大まかに決まりました。本年度はこの準備委員会を発展させ、仮称「10 周年記念行事実行委員会」と名前を変え、さらに具体的な計画と実行に移していきます。その際は会員の皆様の絶大なる賛同と協力で記念事業にふさわしいよりよいイベントになる様、期待するものです。

2. 活発な山行と事故防止のために

　当会は創立以来、年 50～60 の山行を実施してきましたが、大きな事故はありませんでした。それは会員の皆様の登山技術の向上とリーダー及び関係者のたゆまぬ研修会や講習会実施の結果だと思います。本年よもこの輝かしい記録を続けるために研修会、講習会を機会ある毎に実施すると同時にヒヤリ、ハットの報告の義務化とその原因については徹底的に検討を加えて事故 0 を目指します。

　又、山の会としての最大のフィールドは山行です。多様化する会員の山行志向に応えるためにもバラエティーに富んだ尚かつ質の高い山行を数多く行います。

3. 会員同志の親睦と連帯感を保持するために

　例年続けて多くの参加者を得て盛り上がりを見せる新人歓迎山行を 3 月に、また忘年山行を 12 月に行います。岳人祭は本年度は記念行事と重なりますので実施しません。

4. 自然の中での市民との交流

　労山の理念である地域に密着した山の会であるためにも、又、平素あまり交流のない市民に登山の素晴らしさを体験して頂くためにも、創立時から継続している 12 回目の公開登山を 6 月に、又市内の福祉作業所に通所する人達と自然の中で 1 日過ごすウイズハイクを今年度も 9 月に実施します。

5. やまたん、やまなみ、ホームページについて

　会の機関紙的な役割を担って、会の運営及び山行案内等広く会員に理解していただく場としての「やまたん」を従来通り発刊します。又「やまなみ」第 6 号を現在、関係者が本年度に発刊すべく懸命に努力しています。

　現在、会の活動、会の内容等広く伝える手段としてのホームページは貴重な広報の場としての役目を果たします。現在休止状態ですが、何とか本年度は軌道にのせて広報の場としての役目を果たすようにしたいと思います。

6. 県連と他の山岳団体との交流

　所属している千兼県連の理事会、各専門委員会に参加して、その役目を遂行すると共に県連行事の参加を通して、他の団体との交流を図ります。

平成１８年度

平成１８年３月～平成１９年２月

＜４７６＞

兜山　・　棚山

（９１３m）（１１７１m）

佐藤健一

この山にはカブトムシが一杯生息しているから兜山と呼ばれているのか、又は山の姿が兜に似ているところから「兜山」と呼ばれるようになったのか、僕にはよく判らないが、山梨百名山の一つに選ばれているということでなんとなくこの山行に参加する事になった。

何時もの時間に（千代田線５：３３AM）我孫子を出て、高尾で中央線に乗り継ぐ。車窓からは扇山、百蔵、滝子と続く中央沿線の名山を背景に、紅梅、白梅が咲き乱れてなかなかのものだ。

登山口迄タクシーを使って時間を節約し、案内板に沿って登り始める。やがて分岐があり、岩場コースと書かれた道を登った。しばらくして鎖場に出る。これはたいしたことがなく、鎖を掴まなくても登れるような感じ。しばらく登り、せり出した大岩で小休止。岩肌にはハーケンが見えた。この岩場は絶好の展望台で、正面に御坂山塊、富士山、大菩薩嶺等が見渡せる。

大岩の横を左に巻くと、尾根に出る。やがて尾根がゆるくなると、もう山頂は近い。ゆるやかな自然林の道を進んで小さな山頂に着く。ここにも定番の「山梨百名山」の標柱。ベンチもあるが、風が吹き抜けていて、歩行停止すると寒い。展望台が３分と書かれていた。なかなかいい眺めである。

兜山から棚山へは尾根通しに行ける。兜山への別ルートとして歩かれているようで、踏跡もしっかりしていた。尾根を外さぬように地図を確かめながら歩き、なんとか棚山に到着した。

下山は兜山分岐まで一旦戻り、岩堂峠を越えて積翠寺、武田神社に向かうルート。さほど綺麗でもなく詰まらなく思えた下山道が、急に趣を変えた。

静かな山間に突然深草観音が現れた。巨大な岩搭に幾つもの石仏がある不思議な感じがする。深草観音足下には水場が有った。やわらかくおいしい水で、渇いた喉に沁みる。林野庁山梨森林管理事務所発行のパンフレットには次のように記載されている。

『高い岩壁を穿ってつくられた観音堂で有名な深草観音は、甲斐国観音霊場六番札所で、別名、岩堂観音とも呼ばれています。この地は要害山の南麓に位置する瑞岩寺（７４６年創建）の旧地で、灯篭のある場所が山門跡と伝えられています。以前、観音堂の中に安置されていた本尊は現在、瑞岩寺に保管されており、岩穴の中には身代わりに三体の観音増が祀ってあります。本尊は高さ5.4ｃｍと小さいものですが、33 年に一度開帳される秘仏となっています。･･･略』

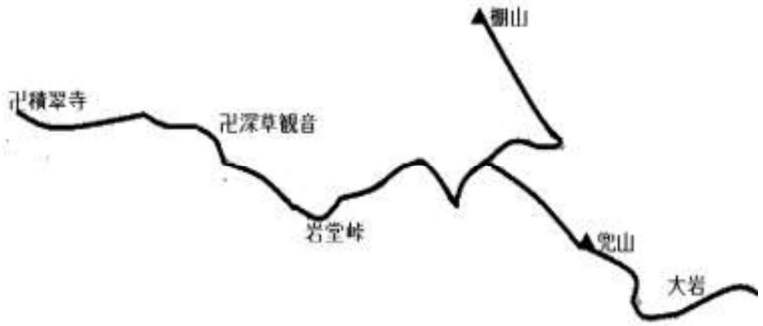
石仏がたくさん安置されている石段を進むと、切り立った岩の上に舞台のように大きな洞窟が見えた。本尊のあった岩棚のところに垂直に伸びている鉄製の梯子は、少し登ると自分の体重で大きく湾曲し、高所恐怖症でなくても怖い。安全第一と言い聞かせて撤退する。それでも好奇心旺盛な何人かが右側にある岩場を、鎖を頼りに岩肌をよじ登って行った。平凡過ぎた山ではあったが、結果的には宗教と歴史と静寂なアクセントを付加した面白い山旅となった。

感慨の深草観音を後にして、一行は甲府市内に戻り、かぼちゃの入った熱いほうとうと冷たい生ビールで腹ん中を掻き回し、共に満足して、柏・我孫子に帰った時は、夜もかなり更けていた。



兜山山頂にて

概念図





棚山山頂　→

概　　要

山名	兜山･棚山		
月日	平成 18 年 3 月 12 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	塩山・甲府北部
目的	1、 静寂なルートを探して展望の山へ 2、 早春の息吹を求めて山梨100名山に登る		
費用	約3000円、ホリデイパス利用	交通機関	ＪＲ・バス・タクシー
日程コース	我孫子駅 5:33(千代田線)→新松戸→高尾駅 7:25 小淵沢行→山梨市駅着 9:04 タクシー→兜山登山口 9:30⇒兜山 10:35/10:55⇒棚山分岐 12:40⇒棚山 13:05⇒兜山分岐 13:50⇒岩堂峠 14:20 ⇒深草観音 15:30/15:50⇒積翠寺バス停 16:23/16:43→甲府駅 17:00/18:55 (特急)→新宿駅神田駅→我孫子駅 21:45		

ﾙｰﾄ状況	1、 兜山登山口は駐車場(10 台以上)とトイレが完備されている。 3 ルート(尾根、沢、岩コース)を示す大きな案内板が設置されていた。 2、 兜山迄の岩コースの登山道は良く整備されている。２０m位のクサリ場があるが注意して登れば、クサリは要らないくらいです。 3、 兜山から棚山の分岐以降は道標及び地図には登山道は明記されていないが境界尾根を忠実にたどれば問題ない。(エフも多すぎるくらい在る) 4、 棚山までの稜線は地図には登山道は明記されていないがしっかりした道が付いている。
参加者	村松(L)、外崎(SL)、中村隆、中村八、堀口、佐藤健、藤倉 男４名、女３名、計７名

＜４７７＞　新人歓迎山行

難台山・吾国山

（５５３ｍ・５１８ｍ）

「やまたん」より転載

行動記録

Ａコース

・計画書では岩間駅～愛宕山だったが、吾国山のカタクリ観賞のため往復１時間行程が長くなるため、愛宕神社までバスで向かう。車道はサクラの名所で３分咲きのサクラを観賞しながら愛宕神社到着。

・洗心館到着 11：50 だったので、懇親会会場予約 13:00 で申し込みしていたが、ダメモトで洗心館事務所に 12:00 に変更をお願したところ気持ちよく了承していただき、食担は１時間早く準備に取り付けたので、Bコース、Ｃコースのメンバーを料理を前にお預け状態で 40 分近く待つ。ヒヤリハットなし。

Ｂ１コース

・林道から鳴滝の往復の時間カットする為、鳴滝から尾根に向かう途中道迷い、又尾根から団子石坂迄の時間が結果的に予定より多く時間がかかった。　リーダーとしての判断が甘かった事を反省している。
洗心館での新人歓迎の宴は良かった。また、食担のナベ汁は本当に良かった。

Ｂ２コース

・山寺から鳴滝へのコースは一旦北東に伸びる峠超えの道を 500ｍも進んだ為、余分な遠回りで 15 分損失。（Ｌが鳴滝の位置を地図上で確認していなかった為）

・本来は鳴滝見物後 200ｍバックして登山道を取るべきところ、迂闊にも気づかず沢筋の踏み跡を登らせてしまったのが第二の間違い。

・おそらくは団子石峠ー難台山を結ぶ尾根に対し、直角に取り付く予定の本来の登山道に辿り着いたが、ここも自分で判断する事を怠り、先行パーティの 50～100ｍ後を絶対的に信頼してついて行った結果、次第に道が無くなり、予定外の藪漕ぎを 30 分も続けることになった。多分 300ｍの等高線上を林道と尾根の交差する地点まで漕いだ事になる。（第３のミス）

・11 時半近くになったので昼食をとって歩き始めたが、早々に現れた当会Ｃコースのメンバーにいろいろ尋ねられたり、からかわれたり。

・難台山と難台城は、遠く南北朝の動乱時代から足利一族が勢力を拡張して行った頃の古戦場。617 年前、城跡や山頂付近では多くの将兵が血を流し、命を落とした怨念の地。（あとで調べた）

Ｃコース

・Ｃコースのメンバー9 人は全員が健脚で歩調が合って歩き易い。

・吾国山頂上直下のカタクリ群生地は広くて保護も充分にしてある。花は少し咲いていたが時期が少し早くて残念。4 月上旬頃が見ごろと思う。

・吾国山から難台山に掛けては快適な登山道。数箇所のピークで展望を楽しみながら歩く。

・展望台からの下山ルートを変更して直接に鳴滝に降りるコース（地図には点線で表記）を探すが下山口が見つからず苦労をする。全員でルートを探しながらの緊張した瞬間でした。目的の鳴滝に到着した時は安堵の気持ちで笑顔がでる。全員が無事に下山出来てホット一息する。低山でも注意を要す。

・懇親会はＡ班の皆さんの心のこもった美味しい料理を沢山有難う御座いました。新会員の皆さんと始めての懇親会を充分に堪能させて戴きました。これからは皆さんと一緒に楽しい山行に行きたいと思います。

新人の感想

・難台山では美味しい料理をご馳走になり、山の歌も久し振りに歌い、アルコールも楽しみ過ぎました。皆様の温かい歓迎に厚く御礼申し上げます。
嶽・岳・山・丘・森・岩・石・谷・渓・沢・木・日・道・径・土・雪・月・花・風・水・空・人・・・・民族・歴史など全てに目的

を持って「ゆっくり遊山」を楽しみたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

《高橋重》

・山に行く前は，いろいろ心配でしたがみなさまのご配慮のおかげで楽しい一日を過ごせました。今後もよろしくお願い致します。
・これまでは山好きな夫とは年数回山登りを楽しんできましたが、これからはグループに加わって山の自然と花を楽しみたいので入会しました。こういう山行は初めてなので、行く前は不安と緊張感でいっぱいでしたが、みなさんのあたたかいもてなしとご配慮のおかげですぐこの会にとけこむことができました。
・桜はまだ開花してませんでしたが、満開の梅を堪能できましたし、低い山でも時期を選べば十分楽しめるものだと実感しました。それに下山後のおしゃべりもたのしいですね。次回の登山が待ち遠しくなりました。
今後ともよろしくお願い致しよす。

《本間恭子》

・「岳人あびこ」の山をこよなく愛する会長さんと皆さんが、強い絆で団結されているのに感動しました。
会に入っての山行は初めての体験で、ついて行けるかどうか心配でしたが、リードして下さった方のアドバイスや体験談等のご指導を頂きながら無事に、完歩する事が出来ました　本当に有り難うございました。
・団子汁の美味しかったこと皆で合唱した『山賊の歌』など等、少し肌寒かった天候でしたが身体も心もすっかり暖まりました。お世話になりました皆様、有り難うございました。感謝とお礼申し上げます。

《 山崎　寿美子》

・久しぶりの早起で半眠りながらバス移動中は、諸先輩のお喋り聞きながら、何時の間にか登山口まで運んで頂きました。
出発前，リーダー先導で軽いストレッチしながら、愛宕神社の大きな天狗面に見下ろされ新人の緊張感は高まりました。ゆっくり坂やがて急坂の団子坂―難台山への途中で，リーダー先輩が、冬枯れ木立のなかに黄色い春蘭を見つけた頃には、心身とも暖かくなり上着は不要でした。
・コース道は広くよく整備されて快適。また良く立てられた予定に従い洗心館到着。食事迄の合間に吾国山頂のブナ林の中に良く保全されたカタクリ原生を観る。一週間後の満開時を想像すると気が豊かになりました。
曇空で山頂も展望箇所も期待した眺望はなく、足下だけを見て黙々と歩いた印象が強かった半日でしたが、洗心館での手作り食事は楽しく美味しく豪華でまた帰路のバスも修学旅行のような雰囲気の歓迎会でした。
登り下りの技術、変わらない歩調、春のような雰囲気、おいしい食事、豪快な酒の酔い方などなど、諸先輩の心遣いに包まれたいへん有意義な一日でした。また茨城県阿見に過去 10 年近く生活した事があったのに、筑波山以南しか認識無く今回の歴史・眺望・変化のある山コースには無知でした。勉強になりました。
でも先輩のような計画準備が出来るまで最低 10 年は必要だなと思いながらのバス内でした。

《府賀伸彦》



吾国山山頂神社

概　　要

山名	難台山・吾国山		
月日	平成 18 年 3 月 26 日(日)		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ｂ/２Ｂ
山域	茨城	地形図 1/2.5 万	岩間・加波山・羽黒
目的	新人歓迎		
費用	2,950 円	交通機関	貸切バス

日程コース	我孫子 5:30→谷和原インター→友部 SA（休憩）→友部インター→ （以下、各コース毎） 懇親会 14:40/16:00→洗心館発 16:30→(バス)→道の駅休憩 18:10/18:30→我孫子駅北口着 19:40
参加者	**Aコース** 青山（L）、中村八（SL）、武内、清家、外崎、桐生、矢野、吉川、本間、高橋重、府賀、山崎賢、山崎寿 男 5 名　女 8 名　計 13 名 **Ｂ１コース** 高橋英（L）、庄司（SL）村松峯、細野省、細野清、中村隆、中村美、原田君、高橋寿、中野弘 男 3 名　女 7 名　計 10 名 **Ｂ２コース** 佐藤健（L）、堀口（SL）、藤倉、飯沼、原、高橋、柴田、飯合、小川誠 男 4 名　女 5 名　計 9 名 **C コース** 原田和（L）、佐々木（SL）、柴、岡田、村松敏、佐藤明、加藤、田村、大畠 男 5 名　女 4 名　計 9 名 参加者合計 41 名

Ａコース



日程コース	友部インター→愛宕神社駐車場 8:20/8:40⇒すすきヶ原 9:15⇒南山展望台 9:20/9:30⇒団子石峠 9:45⇒屏風岩 10:25/10:30⇒難台山 10:40/11:00⇒洗心館 11:50/12:30⇒吾国山 13:00⇒洗心館 13:25 ＜曇り　　歩行時間：4 時間＞
ルート状況	・南山展望台は見晴らしがよく、お天気がよければ最高の場所。 ・難台山頂は難台山城址となっていて広い山頂。C コースのメンバーと一緒に昼食をとる。

Ｂ１コース



日程コース	友部インター→瓦谷バス停到着 9:15/9:20（登山開始）⇒鳴滝 10:15/10:20⇒尾根 10:40/10:50⇒団子石坂 11:30/11:45（昼食）⇒難台山 12:35/12:40⇒洗心館 13:35/13:40⇒吾国山 14:05/14:10⇒洗心館 14:25
ルート状況	・バスを降りて登山口に向かうが登山口がわからず村人に聞く ・鳴滝から尾根まで、出るまでヤブと杉林の道亡き道を登る ・尾根から団子石坂までヤブの連続 ・団子石坂から難台山までアップダウンがきついハイキングコースとは思いない ・吾国山の登り、下りも結構きつかった

Ｂ２コース



日程コース	友部インター→瓦谷バス停 9:20⇒山寺⇒鳴滝⇒不明尾根 10:40⇒団子石峠 11/25／11:40⇒432 高地 11:55⇒難台城分岐 12:30⇒難台山 12:32/12:40⇒洗心館 13:30/13:35⇒吾国山 13:55⇒洗心館 14:15 ＜歩行時間：4 時間 30 分＞
ルート状況	・瓦谷バス停から山寺までは 1 本道。ここから団子石峠までは予定コースを大きく踏み外したので余り参考にな

ルート状況	らない。詳細は下記のメモ欄参照のこと。 ・難台山への道はピークが 3 個所あり、その後は急登となって山頂に突き上げる。・勾配はきついが道は広く歩きやすい。 ・難台山から道祖神峠までの下りはよく踏み鳴らされた広い道であるが、ここも幾つかのピークがあって、上ったり下ったり。 ・下降は斜度がきつく、滑りやすかった。冬期又は雨後の登山は要注意。



歓迎会（洗心館にて）

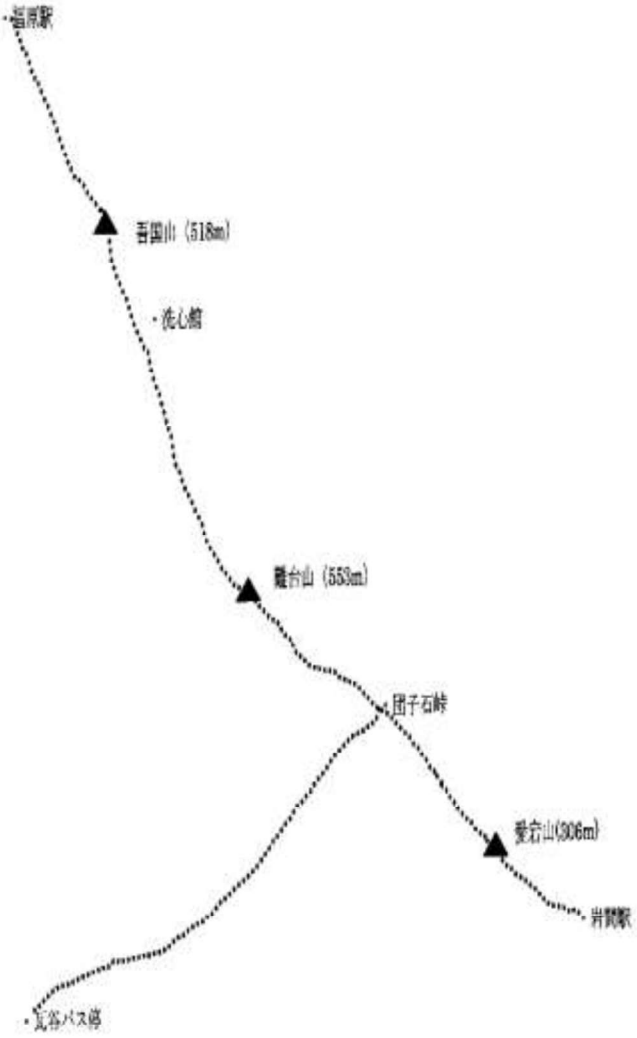
Cコース





日程コース	友部インター→福原登山口着 7:47/7:55⇒休憩(衣服調整)8:12/8:15⇒林道に出る 8:25⇒切り通しへの分岐 8:50/8:55⇒吾国山 9:05/9:13⇒洗心館 9:27/9:37⇒道祖神峠 9:52⇒ピーク 10:10/10:18⇒難台山 10:40/11:00(昼食)Ａ班と合流⇒屏風岩 11:14 ⇒獅子ヵ鼻 11:18⇒Ｂ班と出会う 11:45⇒団子石 11:48⇒展望台 12:12⇒すすきが原 12:20⇒下山ルートを探す⇒展望台に戻る 13:18/13:22⇒鳴滝 13:48⇒瓦会郵便局着 14:15/14:15(バス)→洗心館 14:35
ルート状況	・福原から吾国山への登山道は標識が要所に設置されて歩き易い。 ・吾国山頂上手前の北斜面にカタクリの群生地が在る。 ・吾国山からの下山道は急傾斜で滑り易いから注意を要す。 ・道祖神峠から難台山へのコースは途中に数箇所のピークがある。 ・展望台からの下山道のコースを変更し、鳴滝に直接下りるコースを探すが見つからない。尾根道からの降り口には何も標識は無いので注意が必要。 ・下山ルートの始めはテープの目印しが有るが途中からは無くなるので注意。

概念図



＜４７８＞

宮路山　～　岩殿山

（１１１３ｍ）（６３４ｍ）

大畠清江

締め切りが迫っている。書かなきゃぁ。いつも頭の隅っこにあった。１年前の山行、「宮地山」の「やまなみ」である。編集担当者のご苦労を思い重い腰をあげた。

私はこの山行の１週間前の新人歓迎山行で右ひざを痛めていた。直ったかと思っていたが登り始めてすぐに違和感を覚えていた。右足が重い。それに最初からすごい急登だった。聞きしに勝る急登だった。立ち止ったらずれ落ちそうだった。回りの立ち木にしがみつき、しがみつき攀じ登った。後ろの方で誰かが「アキレス腱が伸びちゃうよぉ～」って言っていた。そんな中リーダーはスイスイと登っていった。



宮地山山頂

どんよりとした曇り空だった。冬枯れの木立の中にアブラチャンが咲いていた。灰褐色の風景の中に黄色いちっちゃなコンペイトウを散らしたように咲いていた。したたる汗を拭きながら眺めた。やっと登りきった所で地図を確認し、西に直角に曲がるとすぐに宮地山の小広い山頂だった。木々に囲まれ展望はなかった。

聞きしに勝ることがもう一つあった。リーダーの下山である。カモシカのごとく身軽に飛ぶように下山して行く。聞いてはいたがすごいよ。二番手の私は夢中で付いていく。後ろから「待ってぇ～、待ってぇ～」の声。しかし、リーダーには届かず、ずんずん行く。

大垈山分岐でザックをデポし、大垈山西峰に向かう。山頂に立つと西に滝子山がどっしりと構えていた。滝子山をバックにベンチ代わりの丸太ん棒にみんなで腰掛けて記念撮影。冷たい風が吹いていた。立ち上がった時右ひざに痛みが走った。歩き出したが皆さんに待ってもらってバンテリンを塗りたくった。休憩の度に塗りこんだが効き目はなかった。このコースはエスケープルートがいくつもあった。その分岐の度に「私こっちに行くぅ～」と駄々を捏ねた。そのたびにリーダーに「がんばって！」と、励まされてしぶしぶリーダーの後に付いた。右手にずっと滝子山が見え隠れしていた。なんだか私を励ましてくれてるような気がした。左手の開けたところで百蔵山と扇山が集落を挟んですぐ近くに見えた。

ああ、岩殿山はまだまだだなぁ。それからは「岩殿山はまだか、岩殿山はまだか」と念仏を唱えるように歩いた。無事岩殿山の長い階段を降りきった時、安堵感と共に色んな事が頭をよぎった。リーダーはじめ同行の皆さんにご迷惑を掛けてしまった事、荷物を分けて持ってくださったみんなの優しさ、自分の軽率さ不甲斐なさ等々。Ｈ さんが「よく頑張ったな」と声を掛けてくれた。思わずほろりとしてしまった。ほんとにみんな優しいんだもの。

大月駅前での反省会ではもうすっかり元気になった私がいた。リーダー、皆さんほんとにお世話になりました。



概　　要

山名	宮地山～岩殿山		
月日	平成１８年４月２日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3B
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	大月
目的	静かなロングコース		
費用	3、000 円	交通機関	JR、タクシー
日程コース	我孫子 5:33→（千代田線）→高尾駅 7:10/7:11→大月駅 7:57→宝鐘寺薬師堂 8：10/15⇒宮地山 9:58/10:05⇒大岱山（おおぬた山）10:50/11:00⇒鉄塔下（昼食）11:18/11:35⇒セーメーバン 11:45⇒サクラ沢峠 12:15/12:25⇒高ノ丸 12:35⇒トズラ峠 12:50⇒笹平 13:40⇒稚児落し 14:15/14:25⇒岩殿山 15:15/15:25⇒大月駅 16:15/17:50⇒我孫子駅 20:35 ＜曇り時々雨　　歩行時間：7 時間＞		
ルート状況	・宝鐘寺薬師堂後方に登山口標識があり分り難い。迷ったお陰でカタクリの群生を観賞できた。 ・登山口～宮地山は急登の連続で、気温は低く曇りなのに大汗をかき、アキレス腱が伸びきってしまう。 ・急登が終わり水平移動し、分岐点で方向確認のため全員で地図読みをする。 ・宮地山山頂は宮路山と表示があり、欠けた 3 等 3 角点が設置してあった。 ・大岱山東峰にザックを置き西峰をピストンする。西峰からの展望は曇天にもかかわらず良かった。 ・セーメーバン（清明盤）山頂は 3 等 3 角点が設置してある。 ・7 年前の山行では時間切れのため、サクラ坂峠～金山に下山しているが、今回は時間的には余裕があるので、当初の予定どうり岩殿山まで縦走する。 ・高ノ丸、笹平は標識が無く、気がつかないまま通過してしまう。 ・稚児落しの絶壁は一見の価値あり。足がすくむ程の巨大な絶壁。 ・天神山～築坂峠間にある兜岩、鎧岩は岩場コースと林間コースがあり、今回岩場コースを選択したが、雨で鎖が濡れているので慎重に下降する。		
参加者	青山（L）、武内（SL）、柴、高橋英、原田和、外崎、大畠、田村 男　４名　女　４名　計８名		



セーメーバン山頂

概念図



＜４７９＞

鬼ヶ岳　～　節刀ヶ岳

（１７３８m）（１７３６m）

矢野貞子

三日と続かぬ春の晴れといいますが、前日、冷たい北風が雨戸をたたき、良く眠れないまま朝を向かえました。何時もの通り我孫子駅、５時半に出発、途中、中央線の車中から見れる桜が満開、鈍行列車なので、各駅での待ち時間合間もたっぷり満開の桜を楽しみました。

富士急鉄道に乗換えても富士山をバックにさくら、もも、今年は気候のせいで遅くまでさいている梅の花を見ることができました。

河口湖駅からタクシー3台に乗り魚眠荘前まで行きました。準備体操をしていざ出発９時４５分。

まず初めに堰堤の下で地図読み学習。地面に 2 万５千分の１の地図とコンパスを広げ武内さんの指導のもと目的の山鬼ヶ岳にコンパスを合わす。急な登りを一時間位登ると、富士山が目の前に広がる。さらに急な斜面を登って辛い。ふと視界がひらける１２時２２分。箱庭のような景色だ。眼下に西湖右手奥の中腹に山中湖、青木ヶ原の樹海、左手に精進湖？を見ながらここで昼食２０分。ここから５分ほどで雪頭が岳頂上、そして大きな岩の鬼が岳頂上に立ち地図読み研修をする。そこから節刀ヶ岳が見渡せる。岩場を下り、なだらかな道を行き、金山を通り１３時４５分節刀ヶ岳頂上到着。地図読み研修。コンパスを鬼が岳に合わせ、来た道を引き返す。鬼が岳１４時４０分到着。ここから鍵掛峠を目指す。鬼が岳から見た時はそれ程の道とは見えなかったが、道は狭い岩場でロープの箇所があり、傾斜もかなりきつい小さなピークをいくつも超えるので慎重に足を運び思ったより時間を要す、ときおり見える富士山が心をなぐさめる。鍵掛峠に到着。そこからは岩もない九十九折の山道を下り漁眼荘前到着１６時４５分。漁眼荘前からタクシーに乗り赤く染まった富士山を見ながら河口湖駅に到着１７時１０分。天候に恵まれ、終始富士山の雄姿を見ながらの山行でした。

概　　要

山名	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳		
月日	平成 18 年 4 月 9 日(日)		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
山域	富士周辺	地形図 1/2.5 万	河口湖西部・鳴沢
目的	富士の展望。研修山行(地図読み)		
費用	約6，０００円	交通機関	ＪＲ　富士急、タクシー
日程コース	我孫子駅 5:33⇒新松戸駅 5:47/5:51→西国分寺駅 6:47/6:55 → 高尾駅 7:22/7:25→大月駅着 8:15/8:19→河口湖駅着 9:10 発 9:17→(タクシー)→魚眠荘前着 9:37/9:45 ⇒ 地図読み研修 10:00/10:10⇒衣服調整 10:30/10:35⇒休憩 11:25/11:30⇒展望地(昼)12:22/12:45⇒雪頭ヶ岳頂上 12:50 通過⇒鬼ヶ岳 13:00/13:05⇒金山 13:30 通過⇒節刀ヶ岳 (地図読み研修)13:45/14:07⇒金山 14:20⇒鬼ヶ岳 14:43/14:50⇒鍵掛峠 15:40/15:45⇒林道に出る 16:25⇒魚眠荘前 16:45/16:50→(タクシー)→河口湖駅 17:10/17:20→大月駅 18:15/18:25→高尾駅 19:08/19:11→西国分寺駅 19:33/19:38→新松戸駅 20:33/20:38→我孫子駅着 20:53 ＜快晴　歩行時間 5 時間 40 分、地図読み研修と休憩時間 1 時間 20 分＞		
ﾙｰﾄ状況	①西湖根場民宿村～雪頭ヶ岳～鬼ヶ岳へは、2.5 万地形図にルートは記載されていないが、尾根筋の急登が続くもののよく踏まれ、特に危険箇所なし ②節刀ヶ岳～鍵掛峠はアップダウンが続き、楽しい道。		
参加者	武内(L)、青山(SL)、佐々木、原田和、小川誠、高橋重、府賀、柴田、外崎、原田君、小黒、中村美、桐生、矢野 男６名、女８名、計１４名		

概念図



地図読み中





節刀ヶ岳山頂



＜４８０＞

水無川本谷～源次郎尾根

堀口昭二

前日まで天気の判断に悩みながらの沢計画の実行になり、リーダーは迷ったと思われます。しかし例年行われています、沢講習ということで、ある一部の会員だけが楽しみにしているので決行になった。

１日目の岩トレは、参加者は何回か実施しているため、再確認ということで行う事が出来、午後からは、モミソ沢遡行と岩トレ班に分れて行われた。

私はモミソ沢を遡行して、最後の大滝を何度登っても遣り応えのある滝です。

戸沢に戻り、キャンプファイヤーの準備に取り掛かり、就寝に入るまで盛り上がり、やはり沢には焚き火が持ってこいと改めて実感しました。出来ましたら多くの会員の方も体験してみたら如何ですか。

夜中から降り出した雨が２日目の朝まで続き、沢に入るのを検討し午後から雨が上がる予報で決行した。

今回の私なりの課題は、詰めの２０ｍの大滝の直登は無理なので、トラバースにていかに早く尾根に出られるかが目標です。

本谷は水無川では人気度ナンバーワンで遡行者も多く、ルートも明瞭で参加メンバーも足並みも揃いなんなく遡行出来た。沢にいるときは寒さは感じられなかったが、尾根に出ると風の勢いと小雨による影響で塔ノ岳山頂についた頃は、じっとしていられず下山する。

源次郎沢を下降する予定を源次郎尾根を下ることに変更、ルートハンティングの楽しみを味わいながらの山行でした。

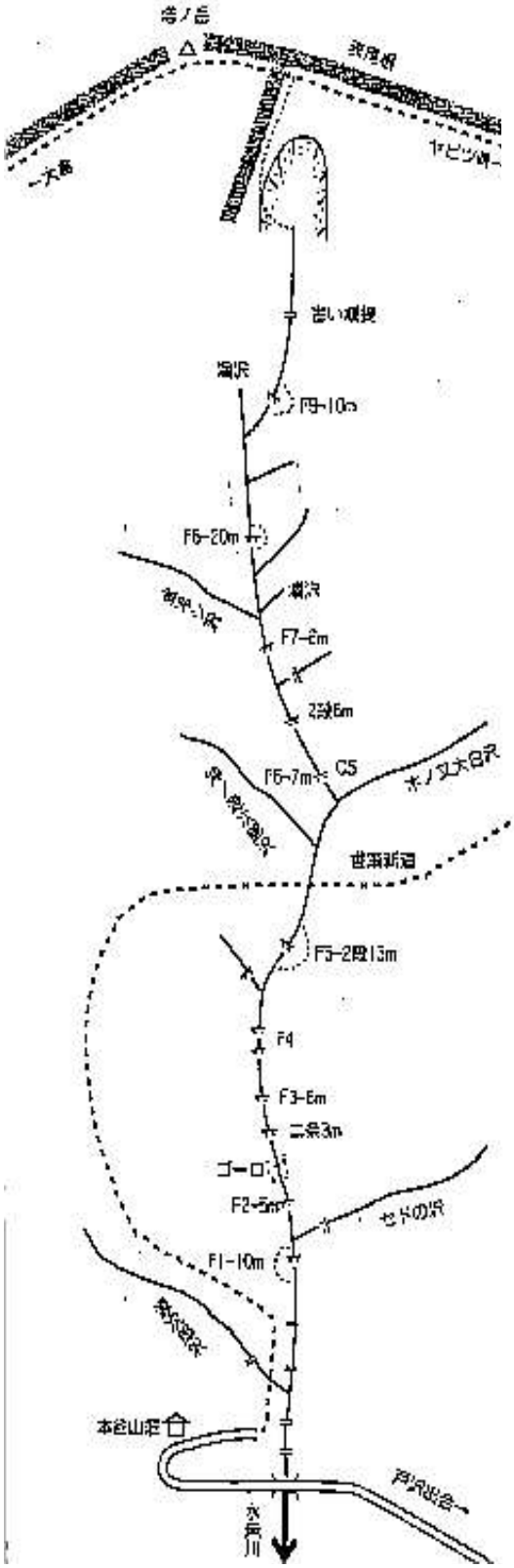
概　　要

山名	水無川本谷～源次郎尾根			
月日	平成 18 年 4 月 15 日(土)～16 日(日)			
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｄ	
山域	丹沢、水無川流域	地形図 1/2.5 万	大山	
目的	1.　本年初の沢登りを楽しむ 2.　楽しいテントライフを体験する			
費用	７，０００円（除入浴料）	交通機関	レンタカー	
日程コース 一日目	柏公設市場 5:00→柏ＩＣ→大井松田ＩＣ→戸沢テント場 8:30/9:00⇒懸垂岩にてトレーニング　～12:30／13:00　２班に分かれる（モミソ沢班）⇒大棚下 13:40⇒大棚上 14:30⇒戸沢テント場　14:50 着（トレーニング班）戸沢テント場 15:00 着 ＜歩行時間：２時間＞			
日程コース 二日目	戸沢テント場 7:45⇒本谷入渓 8:15⇒Ｆ３ 9:15⇒Ｆ５ 9:30⇒書策新道横断地点⇒Ｆ６ 9:50⇒金冷しの沢出合 10:50⇒Ｆ８下 11:10⇒沢終了⇒登山道 12:25⇒塔ノ岳山頂 12:45／13:00⇒（源次郎尾根）⇒戸沢テント場 14:20→渋沢（入浴、食事）→柏 19:40 ＜歩行時間：６時間３０分（休憩含）＞			
ﾙｰﾄ状況	＊　本谷の滝のほとんどに鎖が設置されている。 ＊　20ｍのＦ８は直登不能。右のがれたルンゼを登る。ルンゼ上部にロープがある。上を登る人の落石に注意。 ＊　Ｆ９に戻るのは難しい。そのまま稜線を目指す。斜面は急な上、滑りやすくまた、踏み跡も見当たらない。			
参加者	佐藤健(L)、堀口(SL・指導)、吉川、佐藤明、田村、由布、千葉 男３名　女４名　計７名			



モミソ３人衆

概念図

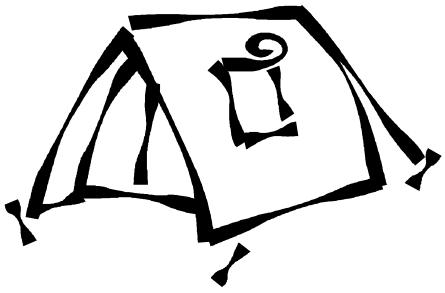


懸垂岩にて全員集合



崩壊Ｆ８の右壁ガレ場を慎重に登る





＜４８１＞

帯　那　山

（１３８１ｍ）

安田みづほ

蕾の桜と芽吹きの春をハイキング

新緑を求めて 4／30（日）帯那山へ！桜やアヤメなどの花の山とのことで楽しみに参加しました。山梨市駅からお馴染みになった佐野さんのタクシー3 台に分乗して登山口に 9：40 分に着く。ストレッチをして歩き始める。さわやかな気候、足取りも軽い。道端には可憐な白い花やスミレも咲いている。林道が山頂近くまであるのがちょっといただけないが…。甲府市の消防車が巡回の為か？林道を登って来たのには驚いた。私たちも林道を 2 回横切り、登山口からわずか 50 分でなだらかな草原の帯那山に着く。昔の警察無線中継所だったというコンクリートの休憩所が立っていた。街では桜は終わっていたがここでは桃色の蕾がとても可愛い。山行目的の１つであるツツジは全然咲いていない。

ここに山梨 100 名山の帯那山の標識があるのに気付かず先に進む。帯那山山頂と思って、記念撮影をした所が２等三角点のある奥帯那山（1422m）でした。
山での楽しみは食事、梅干にのりを巻いただけのおにぎりだがとてもおいしく感じる、差し入れもまた楽しみ、食後のコーヒーもこれまた一味違って特においしい。そして久しぶりに山行を共にした仲間との語らい。そんなささやかな楽しみに幸せを感じるのです。
奥帯那山はカラマツの林の中にひっそりと展望はないけれどそんなに狭くもなく何よりも静かでゆっくり休める。帯那山山頂で標識を見つけていたら奥帯那山まで来ただろうか？当然、奥帯那山に２等三角点があるので…納得。

帯那山（1381m）に戻るといつの間にか人もずい分と増え、先ほどまで蕾だった桜並木も少し開花したようで嬉しくなる。５月の連休頃は桜を見にたくさんのハイカー達が訪れるのでしょう。休憩舎の裏側にはアヤメの群生地があり６月頃にもまた楽しませてくれる様を思った。１時間足らずで登って来れるこの帯那山は甲府、山梨市市民憩いの山です。丘のような山頂からは甲府市内が望めるが、春霞みでまわりの山々を確認することは出来なかったけど空気が澄んでいれば南アルプスや富士山が望める。我孫子からの日帰りだと展望は期待できないのは仕方ないことですね。

帰りは展望台のように見えた無線中継所を目指して積翠寺方面に向かう。右側に岩肌の山が目に留まった。昇仙峡・羅漢寺山方面だろうか？行ってみたいと思う。また林道に出るがすぐ山道に入るので嫌な感じはしない。一箇所農道に迷わされたがここから古湯坊温泉までなが一く感じた。古湯坊温泉は１軒宿か、でも立派な建物である。苦手な林道歩き、ここからバス停まで先頭のがんばりで 13：43 発のバスに乗る事が出来た。日曜日はこれを逃すとバスがないので大変です。私には林道の早歩きはかなりきつい。いつも最後を歩くことになる。腰を痛めていたので心配でしたが迷惑をかけることもなく歩けて良かった。これからも無理をせずゆったりとした山歩きを楽しみたいと思いました。花のある山は楽しい。山はただ歩くだけでも無心になれて気持ちがいいものだが、花や林、小鳥が楽しさを倍増させてくれる。帯那山を計画して下さったリーダー有難うございました。

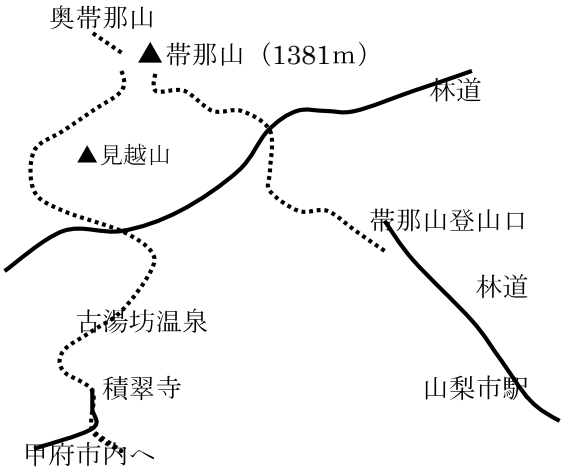
帯那の「帯」とは長いもののたとえ、「那」とは「野」のこと。地形が帯のように長い傾斜地である。この背後の山ゆえに、帯那山の名を得たと思われる。…とガイドブックに記載されていました。



概　　要

山名	帯那山		
月日	平成 18 年 4 月 30 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	甲州北部	地形図 1/2.5 万	切差
目的	甲府盆地の見晴台		
費用	約５５００円	交通機関	ＪＲ、タクシー、バス
日程コース	我孫子駅集合 5:30、発 5:33→新松戸→西国分寺 6:47/6:55→高尾 7:22/7:25 山梨市駅着 9:05/9:159 発→タクシー帯那山登山口着 9:37　　準備 登山開始 9:50⇒衣服調整後、林道に出る 10:20⇒二度目の林道（休憩）10:35/10:40⇒帯那山 10:50 通過⇒奥帯那山　H1422m（二等三角点あり）10:57/11:30（昼食）⇒帯那山Ｈ1381m 登頂⇒分岐 12:00⇒林道を横切る又、林道に出て 12:40 林道と分かれ、ルート選定、古湯坊温泉 13:20 通過⇒県道に出る⇒積翠寺バス停着 13:40 バス停発 13:43→甲府駅着 14:00 反省会、甲府駅 15:12 発→大月 16:20→立川→西国分寺 17:45→新松戸我孫子駅着 19:00 ＜行動時間 3 時間 50 分＞ ＜歩行時間 3 時間 05 分＞		
ルート状況	１、登りは初めから林道歩き、途中、登山道らしき道があったが全体的には林道歩きであった。 ２、下山道で古湯坊温泉手前ルート選択に手間取る		
参加者	高橋英（L）、原田和（SL）、柴田、日下、斉藤、原田君、小黒、中野、小川洋、松本、安田、箕輪完、山本、箕輪カ、田村 男６名、女９名　計１５名		

概念図







帯那山の山頂にて

＜４８２＞

上州武尊岳
（２１５８ｍ）

由布仁子
千葉有子

５月３日（水）晴れ

上越線の車内はザックと山スキーを持った人で混み合い、沼田駅では清算の為、ホームに机が用意されていたほどだった。さすが尾瀬の玄関口。天気に恵まれたゴールデンウィークは、どの山も陽気な山ヤで賑わっているだろう。

私たち７人の山ヤもさっそくタクシーに分乗し、白銀の武尊山へ春爛漫の田舎道を武尊牧場スキー場へ向かった。もちろん途中コンビニはアルコール御用達である。

スキー場のリフトは４月２９日で終了、まだとけ残った雪を踏んでゲレンデを直登する。２泊３日分の荷物はいきなりの直登でもう肩に食い込んでくる。ところがいくらも登らない内にトノさんが 100 円玉をひろった！つづいて 50 円！！「ウッソー」「ほんとー」縦列だった私たちは素早く横にひろがった。何とも金の力は大したものである。急斜面も肩の重みもどこへやら、スキーヤーが転んだはずみにポケットから滑り落ちた小銭は雪解けとともに姿を現し、私たちの馬ニンジンとなってかなりの距離を登らせてくれたのである。おまけに蕾も出たてのフキノトウまで手に入れて、ほくほくのゲレンデ登りだった。（ちなみにスキー場では春先の落し物拾いをゲレンデ乞食といって、ゴム長にビニール袋、片手にフキノトウやウドの芽などを持つ人を言います）

上州武尊山は火山性で、その大きな山容は四方にゆったりとした尾根を張り、森林限界をこえた 2000 メートルからは岩稜で展望は欲しいままである。私達、『蕗のとうパーティ』が登る東側山麓からのコースは、この冬の大雪がたっぷり残っておりアイゼンが良く効いて歩きやすかった。白樺からブナになるあたりでは木の枝に結ばれた赤テープだけが目印で、雪の詰まった広い林でガスられたら迷うところだ。しかも赤テープの間隔が遠く、どうしても次の目印が見当たらなくて地図とコンパスの出番もあった。時間に余裕があり晴天で遠見が効くから落ち着いていられるが、荒天だったら引き返すしかないだろう。その時自分たちの踏み跡が見えない状況だったら・・・。山は気象条件次第で易い山にもなり、難い山にもなる。あらゆる場面を想定する事が出来るよう経験と学習を積みたいものだ。



シラビソの針葉樹林になると尾根は狭まり高度が上がっているのを教えてくれる。しかし斜度はあまり変わらず、樹間から見通す景色を楽しみながら皆快調に登っていく。交通の便が悪いせいか他に登るパーティは無く、下山する単独者と夫婦らしきカップルに出会っただけだ。野鳥の春のさえずりが静かな林に響くばかり。さわやかな晴天に、心を合わせた山仲間と同じ足どりで歩く楽しさは、山を止められない理由のひとつでもある。

「そろそろ避難小屋がある場所のはずだけど」

高度計を持っている者がそれぞれの数値を言う。地図上では 1758 メートル、北側から尾根が合わさりしかも登山道があるはずなのだが特定できない。先程の登山者も小屋が分からないままだったそうで、あまりにも豊富な残雪にすっかり埋もれているらしい。リーダーの判断で展望の開けた場所に荷をおろす。日没まで時間はたっぷり、さっそくテントを設営して乾杯だぁ！

近くの雪壁から食事用の雪をとり、コッヘルから湯気が上がる頃、皆コップを片手に夕暮れの山を眺めどっぷりと山の大気に酔いました。

次第に増えていく星の数は明日の晴天をも約束しています。遠い下界の街の灯が薄闇の山影に包まれているのも胸にしみます。

あったかい団子汁を頂き、蕗のとうを蒸したお湯で焼酎を割り、まったく最高です。酔っ払ったついでに問答をひとつ。

うちのリーダーとかけて何と解く？

＜蕗のとう＞と解く！
その答えは？・・・アクがつよい。
雪の上のテントは久しぶりでした。エアーマットと冬用のシュラフを通して冷たさが腰を冷やします。何度も寝返りをうち、他の人が良く寝ているように感じるのは私だけではなかったでしょう。朝よ早く来い。
（由布仁子）

５月４日（木）快晴
翌日は、日の光が雪に反射してまばゆいほどの晴天。あらためて雪原を見渡す。小屋さえ隠してしまった大盤振る舞いの大雪に感心する。



さあ今日は山頂をめざして！

アイゼンをつけ、ピッケルを持ち、武尊岳に向かって出発。南東に大きく張り出した雪庇を踏み抜かないよう、注意しながら行くとしばらくして前方に雪壁が見えてきた。そしてだんだん近づいてくる。（えっ、あれを登るの?）確かに壁を登った踏み跡が見える。（巻き道を探してくれないかなあ）……そんな情けない思いと裏腹に、パーティはどんどん雪壁に向かっていく。一寸の迷いもなく。
幸いにも雪は程よく腐っていて、登るにはちょうどいい具合。ザクザクとアイゼンのつま先や膝を蹴り入れながら登って、緩やかな斜面に出る。
「ここは下りには使いたくないねえ」
「もちろん、下りは別のルートを取ろうよ」
などと話しながら、さらに登って稜線に出て、セビオス岳らしいピークに立った。振り返って見る白峰の連なりは、高山平で見た姿よりはるかに美しく輝いている。昨日　“ゲレンデ乞食”だった私達は“精神貴族”に見事変身して、目の前に広がる景色を堪能した。
ここからは武尊山頂に向かい、忠実に尾根をたどる。岩とハイマツの混じる稜線上は、所々で雪がまばらになっている。そして、私達の足元の左数メートル、川場谷に降下する斜面上部にクラックが大きく口を開けている。わずかな振動で、この割れ目から一気に雪崩れ落ちそうだ。夏の登山道は、クラック下の斜面をトラバースしている。
岩峰に祀られている中嶽武尊大神を後にして、武尊山に登頂。武尊神社方面から登ってきた数人が休んでいる。やがて、単独の男性が小さな犬を連れてやってきた。我々のたどった尾根よりさらに 1 本南側の尾根を登り、剣ヶ峰を越えてきたそうだ。

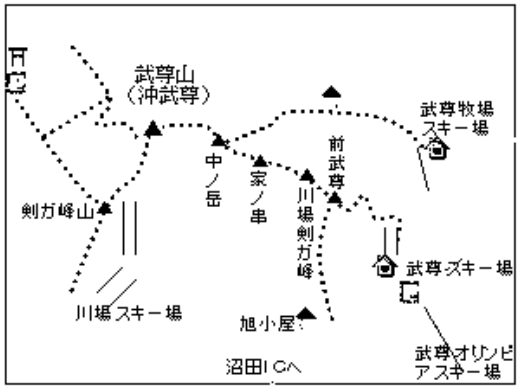


復路は往路を忠実に戻る計画だった。しかしかわいい小犬にすっかり惑わされてしまう。彼（彼女?）はハイマツと岩で歩きにくい尾根を避け、西側の斜面、つまり夏道を軽やかにステップを踏んでいった。そこで、「あっちでも大丈夫だろう」ということになった。ちっちゃな犬が大丈夫だから自分達も大丈夫だろうとは随分無茶な考えだが、小犬の後を追うように西側の斜面をたどる。木のない広い斜面に出て、この上は確かあの巨大なクラックのはず。尾根を行かなかったことをちょっぴり後悔する。大きな声を出さないよう注意して、２人ずつ組になって通過。危険な状況に変わりはないけれど、晴れ渡る青い空が、そんな状況を楽しむ余裕さえ持たせてくれる。
斜面を過ぎ、稜線に上がる。はるか前方にあの小犬が見える。つられるように歩いて、しばらく行った頃、どうもおかしい。前方左に落ちる尾根は我々の進むべき尾根ではない。中ノ岳を過ぎて、剣が峰に向かっているようだ。あわてて稜線を引き返した。
そして次に考えるのはあの雪壁のこと。何とか避けて壁の下に着きたいものだ。途中稜線を外れ、急斜面を木につかまりながら下っ

た。(よし、これであの雪壁はクリアしたな、このまま行けば、きっとあの壁の下に出る筈）と暢気にひとりごちたが、やがて見たような倒木にぶち当たり、愕然とする。
「さあ、壁の上に出たぞ」
……自分の甘さをせせら笑いながら、雪壁を見下ろした。
倒木にザイルをセットして、まずリーダーが下るが、壁の下までは到底届かない。途中で固定して確保してくれることになる。「このくらいの斜面ならザイルなんかなくても平気よ」と軽やかに足を踏み出したＡさんは、途中でスリップして「あっ、やばい！」という声を残して瞬く間に壁の下に姿を消した。上に残るメンバーはひどく心配したが、リーダーからはその様子が見えていて大丈夫なようだ。
スリムなＴさんは前向きに着実に下りていく。Ｔさんの真似をして続いたが、スリップして二度程尻餅をつき必死でザイルにしがみつく。起き上がるのにもたもたしていると「何のためにピッケル持ってるんだ！」とリーダーから叱咤の声が飛ぶ。どうも私の体重と脚力で、前向きに下りるのは無理だとやっと気付き、後ろ向きになって下る。リーダーのところに着くと、喉がカラカラだった。ちょっと下にある木におっかなびっくりたどり着き、そこからは腐った雪に足をズボズボ踏み込みながら下った。壁下に下りたら、Ａさんが元気そうにしていてほっとする。
雪壁を突破すると、あとは順調。テント場へ急ぎ、テント撤収。里へと駆け下る。途中後ろを振り返り、心を満腹にしてくれた武尊に向かい頭を下げる。「また、来ます。今度は夏に」。

（千葉有子）

概念図



山名	上州武尊山		
月日	平成 18 年 5 月 3 日(水)祝日～4 日(木)		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｄ
山域	谷川連峰	地形図 1/2.5 万	鎌田
目的	１、雪のテント生活を楽しむ ２、雪と氷の登山技術を習得する ３、美しくも厳しい雪山への挑戦		
費用	約 20,000 円	交通機関	ＪＲ・タクシー
日程コース 一日目	我孫子発 5:30→上野駅発 6:16→高崎駅 8:03/8:24→沼田駅 9:10/9:23(タクシー)→武尊牧場 10:15/10:30⇒リフト終点 12:20⇒三合平 12:55⇒高山平付近 15:00 BC 設営（テント泊）		
日程コース 二日目	BC6:30⇒セビオス岳壁下 7:13⇒セビオス岳壁上 7:48⇒中の岳 8:10⇒武尊山 8:43/9:17⇒セビオス岳の下降 10:30/11:15⇒BC 12:05/13:00⇒武尊牧場下駐車場 14:45/15:00(ジャンボタクシー）→沼田駅 18:53→高崎駅経由→我孫子駅 22:20		
ルート状況	*登山口にスキー場があるため車は登山口まで入れる。（料金は沼田駅～武尊牧場登山口迄約 10,000 円）人数がまとまればジャンボタクシーが割安になる。登山口からはスキーのリフトに沿って直答する。距離は稼げるが急登でその分苦しい。（平行して舗装された車道がロッジ前まで通っている） *ロッジからは深い雪の中、ひたすら高山平をめざす。但し尾根が非常に広く道標等は雪の中のため悪天候、霧等視界がきかないときは行動は中止した方が良い。 *図で方向を定め尚且つ赤エフを探しながら高山平付近につく。尾根が広いためテント場には困らない。避難小屋は深い雪のため何処にあるか解らない。 *高山平以後は南東側（山頂に向って左側）には大きな雪庇が続いているので踏み抜きに充分注意する。 *セビオス岳約 30m ほどの雪壁は充分注意して登下降すべき。我々は下降にはロープを使用して安全を計った。 *中の岳以降は忠実に尾根を辿る。但しはい松、雪のクラック等の場合は雪崩を注意して小さく巻いた。 *上州武尊山にはいくつかのルートがあるが雪山登攀をめざすなら、このルートが最も安全で尚かつ展望が素晴らしい。		
参加者	村松（L)、外崎（SL)、青山、千葉、佐藤健、吉川、由布 男３名　女４名　計７名		

＜４８３＞

悪四郎山　・　熊野古道
（７８２ｍ）

細野清子

昔の人々が熊野三山をお参りするのに通った道が熊野古道です。

熊野三山は、熊野大宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社・那智山青岸渡寺をいいます。主なルートとして

・高野山から本宮への道が小辺路
・京都を出発して淀川をくだり、逢坂の窪津尾王子から紀伊路に入り田辺に出て山を歩く中辺路
・海沿いに歩く大辺路
・大峰奥駆道・・・吉野から本宮

があります。

熊野に参れば夢がかなうと目の悪い人、足の悪い人、多くの大人も子供も歩いたといわれています。俗にいう蟻の熊野詣です。

古道の途中には九十九王子と呼ばれるほどの多くの王子社がありますが、この王子社は熊野の神様の子供の神様といわれていて、三山へ参詣の途中に歌を詠んだりお供えをしたりして、旅の安全を祈ったそうです。

今回は昔から一番よく歩かれている中辺路コースの一部の３２Ｋを歩くことにした。

＜５月１４日　１日目　　晴れ＞

前日、池袋を出るときは降っていた雨も、朝を迎えるころには小雨がぱらつく程度となり、歩き始めるころにはもう傘の必要はなくなった。世界遺産に登録された、大門坂の入り口はいきなり樹齢８００年といわれる夫婦杉がでむかえてくれた。大門坂は夫婦杉に負けるとも劣らぬ、樹齢何百年ものうっそうと茂る杉並木と石畳が６丁(やく６００M)続き那智大社へのアプローチになっている。

さすが青岸渡寺は西国３３ケ所の１番寺だけあって風格がある。

那智の滝は昨夜の雨で水量が多く迫力抜群で、魅了された。

那智大社・青岸渡寺は那智の滝の高さにあわせて作られていて、三社同格を現しているのとのことだった。富も地位も得た秀吉公だからこそできたこと。それにしても昔の人はエライ。こんな山の上に立派な神社仏閣を造ったのだから。

今日の歩きはここまで。



那智の滝を後ろにして

＜５月１５日　２日目　　晴れ＞

シテイホテルの窓から山容が富士山に似た山が、重なる山並みのその向こうにみえた。

その山を目指して歩くことが後でわかった。

滝尻王子付近はツアー客らで、にぎわっていたが、参拝後古道に一歩入るとそこはもう静寂の世界で大自然はわれわれ８人だけのもの。聞こえるのは川のせせらぎの音、鳥の声、苔むした古道を歩く８人の靴音、木々の風そよぐ音。静かなり。

１時間ほどで最初の山飯盛山に到着。古道から１分入ったところで眺めがよく展望台になっていた。展望台を過ぎ伐採されたところで一昨夜行バスで一緒だったご夫婦が昼ごはんを食べていた。

「今日の泊まりは？」

「迎えに来てもらって、昨夜と滝尻の同じ宿に泊まるんです」

私たちより３０分早いバスに乗ったそうだが、こんなにユックリしていて大丈夫？と思うほどのんびりタイプ。この後古道では人に会うことはなかった。

先を急ぐ私たちは次の山悪四郎山目指してレッツゴー。

石畳や階段を上り下りすること数回。はじめの村高原に到着。ヒノキをふんだんに使った建物を村の人が大勢出ていて建造中のところや、左右に長く伸びた御用松の上に、ま

た御用松の枝が（木）が五本伸びたかさね御用松（？）と、その根元にはしゃれこうべが置いてある変わった家を通過すると、霧の里休憩所。ここでも前日の雨で田んぼのあぜの土砂がくずれたため石を取り除くために、田んぼに入たり泥だらけだったり、大勢の人たちが共同作業をしていた。

１０枚の棚田のほとんどに苗がうえられていた。日本の原風景がそこには広がっていた。朝は雲海が出るので霧の里と呼ばれている所以だそうだ。

庚申さんからまた山道に変わり、古道は８人だけのものとなった。

１時間３０分ほどで悪四郎屋敷跡に到着。ここから少し入ったところに、踏み跡がありどうやら悪四郎山への登山道らしい。
３０分ほど上ったところに頂上があった。



中辺路で一番高い悪四郎山（７８２ｍ）

展望はなく、古道に戻るのに踏み跡が不鮮明だが地図とコンパスを片手に大串サブリーダーが健闘。もし道に迷ったら戻れるように、念のため大きな葉先に目印をしておくが、案ずることなく古道に下りた。

1.5K ほど先に下りたようだ。そこから２時間下ったり上ったりして牛馬童子像に到着。今夜の宿泊地の近露王子の村が眼下に広がっていた。

＜５月１６日　３日目　　霧雨＞

昨夜宿のご主人から熊の古道のいわれと、お参りの仕方を教わたが、念願の熊野詣を果たせず多くの人が亡くなっている話を聞き、なんだか物見遊山で古道を歩こうとしている自分が気恥ずかしい・・・気を引き締めて最後まで歩き通そうと心に念ずる。

古道歩きが目的なので舗装道路の小広王子まで車で送ってもらうことにする。男性４人は、狭い車内で長い足を縮みこませての乗り降りも一苦労だったが、１０人は優に入れる洞のある樹齢１００年の杉の巨木や、野中の清水、秀衡桜などの名所旧跡の案内に古に思いをはせることができた。少々時間が食い込んだが山里風情たっぷりの情緒も味わうことができた。

小広王子からは長い１日の始まりでした。霧雨も降り始めたが、傘もカッパも背の高い杉やヒノキの森林の中なので必要なし。九十九折の峠を上ったり下ったり、沢を渡ったりいけども森林の中・・・・の連続だった。

今日も大自然は８人だけのもの。山らしい山はないが峠越えがあり結構ハード。蛇形地蔵から三越峠まで土砂崩れの危険があるので古道は歩けず、林道歩きとなるが崖のあちらこちらに紅ヤピンクの山ツツジが咲き誇っていた。

本宮大社の入り口になる発心門王子で宿屋の主人に教わったように８人全員ザック帽子をとり「入らせていただきます」と、礼を尽くして入門する。休憩所には立派なトイレも完備されていて昼食をとる。

しばらくは林道や人家やバスなどが通り俗世界にもどった。NHK の朝連の《ほんまもん》の撮影場所でもあり、古に女性は月のさわりがあるとここで本宮を拝んで帰ったとされる伏拝王子で２００円のコーヒーをいただく。先客に外人さん（フランス人と榊原さんからの情報でわかった）のご夫婦がいた。本宮からきたようだった。

また地道に戻って２時間３０分歩くと、大きな鳥居のある祓所（はらいど）王子に到着。滝尻から５K ごとに立て札が立っていて、７５番が本宮大社。鳥居をくぐると大勢の人でにぎわっていた。

千年の祈りの道、熊野古道歩きは終わった。光・風・水・緑といった自然の癒しにふれているうちに、いつの間にかハツラツとしている自分に気がついた古道歩きでした。

《追記》

最初の鳥居や山門をくぐるときは入らせていただきますと頭をさげる。参拝後は最後の鳥居で頭を下げて感謝の気持ちを表すことが大切と月の屋の主人から教わった。

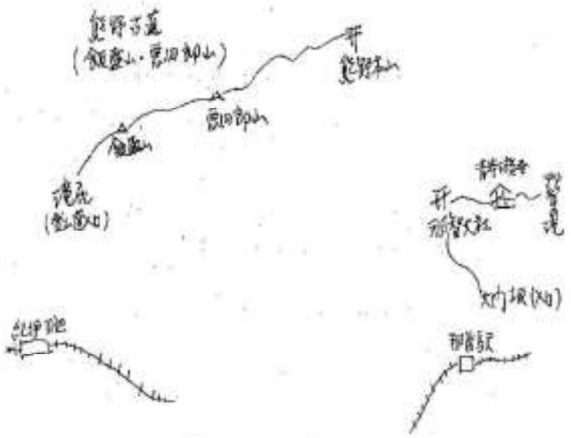
これからは忘れずにどこの神社仏閣をお

参りするときにも実行したいと思った。
　お参りができるも古の人が苦労して造ってくれたお陰なのだから。

概　　要

山名	熊野古道・悪四郎山			
月日	平成 18 年 5 月 14 日〔日〕～16 日〔火〕			
形式	ﾎﾃﾙ・旅館	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ	
山域	熊野･伊勢	地形図 1/2.5 万	栗栖川	
目的	世界で 2 つ目の世界遺産の道･歴史や自然を肌で感じる			
費用	交通費 31,160　円 宿代 16,6 00 円	交通機関	ＪＲ、夜行バス	
日程コース	一日目	我孫子駅前夜発 7:50→池袋駅 21:35 →紀伊勝浦 8:3５/8:53→那智駅 8:50→大門坂熊野那智大社 9:10⇒那智大社 10:10⇒青岸渡寺 10:15⇒那智の滝 10:50/12:20⇒勝浦温泉 12:40/13:17→紀伊田辺 14:43→ホテル 15:00〔泊〕 ＜歩行時間　　1 時間 30 分時間＞		
	二日目	ホテル 7:45/8:02（栗栖川行）→滝尻 8:50/9:05⇒飯盛山 10:05/10/10⇒高原池 11:55/12:15⇒悪四郎山 13:05/13:20⇒逢坂峠 14:15/14:25⇒箸折れ峠 15:05⇒近露王子月の家旅館 15:35（泊） 〈歩行時間５時間４０分 距離１４Ｋ　高低差６００M〉		
	三日目	月の屋 5:15→野中の清水 5:30→小広峠 6]:10/6:25⇒岩神峠 7:35/7:45⇒三越峠 9:06/9:15⇒発心門 10:55/11:20⇒伏拝王子 12:20/12:35⇒九鬼ケ口関所 12:50⇒熊野本宮大社 13:30/13:55→新宮権現 15:20/1545→新宮駅 16:30/17:28→名古屋 20:40/20:55→東京 22:50→我孫子 23:40 〈歩行時間６時間１０分　距離１８Ｋ 高低差６００M〉		
参加者	細野清(L)、大串秀（SL)、斉藤（SL)、柴、細野省、柴田、大串恵、榊原 男４名　女４名　計８名			

概念図





熊野那智大社へ続く古道

熊野那智大社の大杉



＜４８４＞

小川谷・悪谷

（七跳山　1651m）

佐藤明子

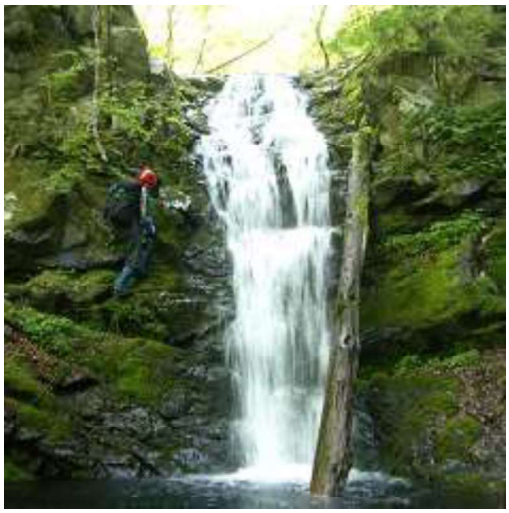
割山とも呼ばれている小川谷・悪谷沢行は前夜発の予定であったが 5 月 20 日の予報は雨のため 21 日早朝出発になった。柏公設市場から車で出発し奥多摩で由布さんと合流した。入渓地近くの広場で装備を整えて、苔むした岩の間から遡行開始する。



入渓前

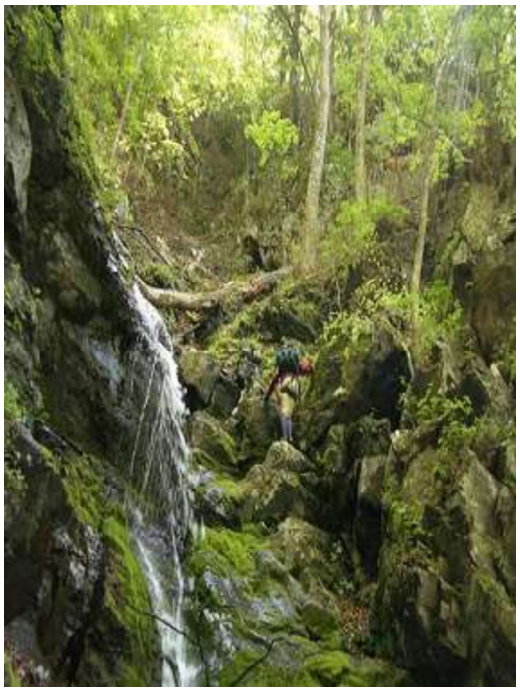
両サイドが切り立った大岩の中に多くの倒木があって行く手をはばみ、荒れた感じがする。

最初の 2m 程の小滝を水の左を何とか全員クリアし F1 の 10mのトイ状の滝に到着、ノーザイルで超えた後小さいながら深そうな釜を持った岩をへつった。十分なスタンスがとれずにドボンと淵に落ちた人にリーダーのうれしそうな声が投げられる「もう一回」。水位は腰の辺り迄もあるので、待っている人も怖気づいてしまう。Ｆ2 の 8mの滝は残置のハーケンを利用して登る。苔むした小滝、ナメ滝を快適に行く。最後の階段状の大滝は中程までは難しくなく登れたが、途中からのトラバースがいやらしくザイルで確保してもらっていても体が斜めに倒れてしまいヒヤヒヤしながら渡りきった。奥の二俣を右へ進んで源頭をつめていき、藪こぎもなくスムーズに登山道に出られて装備の解除になった。



いつものことだが、装備の解除は心も解放されて殊のほか喜びがこみ上げてくる。及び腰だった腰もシャンと伸びついさっきまでの不安が跡形もなく消えてゆく心地よさはたまらない。

沢を始めて 2 年目の現在でも怖い思いは少しも無くならないが上達する希望はもち続けたいと思います。危険な箇所ごとでザイルを出して確保してくれたリーダーに感謝いたします。



悪谷だなんて！よかったよ！

概　　要

山名	小川谷・悪谷（割谷）		
月日	平成 16 年 5 月 21 日(日)		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
山域	奥多摩・日原川流域	地形図 1/2.5 万	武蔵日原
目的	新緑の中にとけ込む		
費用	３，０００円	交通機関	レンタカー
日程コース	柏公設市場 4:00 発→奥多摩駅→5:40 着→小川谷林道分岐 6:30/6:50⇒三又・小川谷本流 7:10/7:30⇒悪谷 7:35⇒登山道 12:15/12:45⇒コンコバ尾根 13:00⇒駐車場 13:45→奥多摩駅→柏公設市場 19:00 ＜歩行時間：７時間１５分＞		
ルート状況	＊沢全体が苔に覆われて、踏みつけないように遡行するのに気をつかった。岩はヌメっていて安易に進むと滑る。 ＊初めての沢なので、安全のためにザイルを必要以上に使用した。 ＊最後の詰めは、遡行図に忠実に右に詰めれば間違いないが、現地では左に詰めたくなりそうになる。 ＊下山路も標識が明確でないが尾根道はしっかりついていた。		
参加者	堀口(L)、佐藤(健)(SL)、青山、千葉 佐藤明、田村、由布 男２名　女５名　計７名		



源頭付近まもなく終わり

概念図



＜４８５＞

霧降高原

榊原文子

東武日光駅の改札口から大勢の人がそれぞれ目的地に向かうが、ほとんどの人はバスで湯元方面に行く。反対方向、霧降高原には少人数しか向かわない。

つつじの花の季節に五～六年間訪れているのだがいつも、人気のない静かな山歩きを楽しんでいる。今回は１２名でお天気にも恵まれ楽しい花山行となった。

貸切バスで霧降高原に到着。準備体操の後霧降の滝をめざして大山に向かう。新緑がまぶしい中、山ツツジのあざやかな色が目に飛び込んでくる。そしてカッコウ、ウグイスの鳴き声がすがすがしい空気の中で気持ちよく響いている。大山の頂上から後ろを振り返れば赤薙山、女峰山を中心に日光連山が聳え立っている。全く素晴らしい眺めだ。５月～１１月の間牛が放牧されており要所にゲートが作られている。

大山から猫の平まで約一時間、山ツツジ、シロヤシオ、ズミの花をたっぷり楽しませてくれる。猫の平にはイスとテーブルが用意されており、昼ご飯と休憩の場には最適です。ここからはコースが「ツツジヶ丘」と「マックラ滝」の二つがある。どちらか選んでツツジヶ丘に向かう。新緑の中にツツジの鮮やかな花があちらこちらと咲いており、全く飽きる事がない。やがて霧降川の岸にたどり着き道標にしたがってジグザグ道を登っていくと色鮮やかに咲き競うツツジの群落の道に出てそこからさらに燃えるようなツツジを見ながら霧降茶屋へと向かう。

ここから、新緑に包まれて二段に分かれて流れ落ちる雄大な霧降の滝を眺め、近くにあるメルモンテ日光霧降にて、最上階にある、天然温泉露天風呂でゆっくり疲れを癒し素晴らしい一日となりました。楽しい仲間と一緒に歩けるこの幸せ、感謝です。これからもよろしくね。

概　　要

山名	霧降高原		
月日	平成 18 年 5 月 24 日（水）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	奥日光	地形図 1/2.5 万	日光北部 鬼怒川温泉
目的	日光北部、鬼怒川温泉		
費用	６，０００円	交通機関	貸切バス
日程コース	バス発 5:35→柏ＩＣ5:53→羽生ＰＡ 6:40/7:00→日光今市 7:50→霧降高原 8:50 登山開始 9;05⇒大山への分岐 9:40 ⇒大山 10:35/10:40⇒猫の平 11:25/12:00（昼食）⇒ツツジヶ丘 13:00 ⇒霧降の滝入り口 13:10/13:25⇒滝展望テラス 13:32/13:42⇒バス駐車場着 13:55→メルモンテ日光霧降 14:10 /15:25（入浴）→日光ＩＣ15:38→羽生ＰＡ16:40/16:50→柏ＩＣ17;43→我孫子駅北口 16:00 ＜行動時間４時間５０分＞ ＜歩行時間３時間４０分＞		
参加者	榊原(L)、斉藤(SL)，大串秀、大串恵、細野省、細野清、原田和、原田君、箕輪カ、高橋芳、柴田、今井 男４名　女８名　計 12 名		

新緑に染まる清流を渡る（右上流に玉簾滝、左下流に霧降滝）



概念図





女峰山・赤薙山をバックに（大山で）



＜４８６＞

旭岳（赤崩山）～大白森山
（１８３５m）（１６４２m）

岡田秀子

前泊予定場所甲子峠でしたが夜の峠道を走るのは止め、塩原渓谷歩道入口の脇にトイレ・屋根つきの休憩場とテントが張れる良い場所が有りここで一夜を明かした。

４時起床、５時３０分出発。霧雨の中一路甲子峠へ・・・・いつの間にか霧雨も上がり雲間より青空が見え始めてきた。車は、アスファルト道路から砂利道・道幅狭い山道となり奥・奥へ・・新緑が霧雨に濡れより一層美しい新緑だ。さらに進んで行くと通行止めのガードレールがあらわれた。上手く通り抜けて甲子峠へと進むが雪が道路を塞いでいた為ここへ駐車した。後から来た福島ナンバーの四駆自動車は難なく乗り越えて通過して行った。登山口まで数キロを胸ときめかしながら歩きだす。さすが山菜の宝庫、道路脇にはタンポポ、土筆、蕗などが山の斜面にもふきのとうがいっぱいでていた。「甲子山・赤崩山登山口」７時２５分出発。広葉樹林帯の中を登り始めた。すぐに登山道沿いにマイズルソウ・アカヤシオ・ショウジョウバカマ・オオカメノキ・スミレ（黄色・紫）ミツバオウレン・ウスユキソウ・カニコウモリ・春リンドウ・トリカブト…等が高度を上げていくと次々に見られた。今年は、雪が多かったとみえて芽吹きからようやく覚め掛けた処のようだった。山菜の行者ニンニクの多いのにはビックリ。地元の山菜取りのグループとすれ違ったりもした。８時２５分甲子山到着、比較的新しい山名標識があった。



雲はありながらも３６０度のパノラマ。眼前には一際目立つ赤崩山・その左側にはたおやかな三本槍岳・赤面山・その右側にはたおやかな大白森山・小白森山・二岐山その後遠方には雪を被った飯豊連峰が雲海に浮かんでとても美しい眺望だった。赤崩山を背景にカメラでパチリ>^_^<！・・・さらに赤崩山に向かって歩き出す。ブナ林を２０分程で分岐（新道=坊主沼⇔旭岳）そして５分ほどで水呑場の標識・９時１０分で旧道＝坊主沼（左）⇔旭岳（右）の分岐（1,658m）を二万五千分の一の地図で「現在地」を等高線と近くの山の高さから算出した。此処から地図上には点線なし（登山道）。不明瞭で藪漕ぎとなりその上益々急登でロープを頼りに登った。９時４０分（1,750m）これから先は急登で雪渓の為呼吸を整え休憩をとった。この辺りから山頂にかけて淡いピンク色した小桜が心和ませてくれた。そして微風が元気を与えてくれた。９時５５分赤崩山（1,835.2m）汗をかき、喘ぎ喘ぎ山頂に到着。我々を迎えてくれたのは石楠花の花と絶景。三等三角点に挨拶をし、そしてリーダーと厚き握手を交わした。大休止をとった。この時リーダーは水の確認を取り大白森山へ登るかどうか検討をした。



旭岳（赤崩山）頂上にて

早くも甲子山から下はガスで景色が隠れてしまった。１０時３０分山頂を後に下山。１１時３０分甲子山山頂から赤崩山を振り返ると皆が「良い山だ！」の連発、途中春ゼミ？の声を耳にした。１２時甲子山分岐通過。１２時３５分「甲子山・赤登山口」到着。１２時４５分大白森山登山口（地元の人曰く：おじろもりやま）暫く登っていくと目の

前には予想外の純白のシロヤシオ！を見て思わず驚嘆してしまった。さらにブナ林を心地よく登っていくと急変し風雨で削り抉られている急峻な岩溝となっていた。１３時１５分立ち休憩１３時２２分標識通過１３時２５分山頂到着（1,642m）。此処からの「赤崩山」雲海にうかび微笑む赤崩山のように私には見えた。石楠花がとても美しく咲いており会津の静かな落ち着きのある山々をしっかりと目に納めた。１３時４０分下山。１４時　１０分登山口に到着。「甲子山・赤崩山・大白森山有難う・・・」駐車場に１４時３０分到着。

帰路塩原温泉街で渋滞に巻き込まれ返却時間に間に合うかどうか非常に心配したが巧みな運転のお蔭で間に合った。

運転手：村松さん・武内さん大変お疲れのところどうも有り難う御座いました。

「訪れる登山者が少ない山」・「山菜・花々が多いお宝いっぱいの山」「地図を片手に歩く山」を村松さん・武内さん・外崎さん・清家さん・青山さん。皆さん山の楽しみ方を熟知してらっしゃる方々と共に行動が出来たことは私にとって大収穫でした。素晴らしい山行でした。

一首　登り行く赤崩山みどり濃く花・山菜の宝庫となりて

概念図



概　　要

山名	那須旭岳（赤崩山）・大白森山		
月日	平成18年5月27日（土）夜発～28日（日）		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３C
山域	那須連峰	地形図 1/2.5万	甲子山

目的	１.地図を頼りにかすかなふみ跡を探しながら展望の山へ ２．隠れた山菜と花の宝庫への誘い。		
費用	約5000円	交通機関	レンタカー
日程コース 前夜	我孫子駅発２７日20:30→柏インター、東北道那須塩原インター経由→塩原 K園地22:40着		
日程コース 二日目	K園地5:30→甲子峠手前6:50/7:10⇒甲子山・旭岳登山口7:25⇒甲子温泉分岐8:10⇒甲子山8;25/8:37⇒坊主沼分岐9:10⇒旭岳（赤崩山）山頂9:55/10:30⇒甲子山11:30/11:50⇒甲子峠12:35大白森山登山口12:45⇒大白森山13:25/13:40⇒甲子峠登山口14:10⇒駐車場着14:30→那須塩原・柏インター経由柏着20:05		
ルート状況	＊　会津下郷からの289号線の林道は狭く、荒れているので充分注意して走行の事。又、夜間は走行しない方が良い。 ＊　甲子峠手前１ｋｍ付近の道路上に雪のブロックが道路を塞いでいたため車での通行は不可能だった。RV車なら無理をすれば通行可能。 ＊　甲子峠には車７～８台ぐらいは駐車可。 ＊　甲子峠から旭岳への登山道は甲子山経由坊主沼分岐までは問題ない。坊主沼へ向う旧登山道は荒れていて現在は通行不可。通行禁止の看板が立っている。 ＊　旧登山道より旭岳に向うルートは（分岐には通行不可のロープが張られている。その中をくぐってはいる）南西の尾根を直登する。かすかなふみ跡が笹の中に続いている。 ＊　ガレた所、トラロープの張られたところ等充分注意して登る事 ＊　標高 1500m以降は急登とガレ場が続くので慎重に行動したい。 ＊　大白森山の登山口は甲子山登山口の反対側にある。 ＊　トク沢まではブナの木の中の笹の道を分けながらの登りとなる。（あまり人は入っていないのでは）トク沢を過ぎると一変して川の中を沢のぼりを思わせるような悪路になる。しかも急登でたっぷり汗をかく。		
参加者	村松（L）、清家、外崎、武内、青山、岡田 男２名　女４名　計６名		

＜４８７＞

笠取山～和名倉山～飛龍山～
(1953m)　(2036m)　(2069m)
雲取山～長沢山
(2017m)　(1738m)

大串秀雄

石楠花の縦走路

１日目

１週間前には行程後半が雨天予報だったため、一時、中止も覚悟していた。しかしながら、幸いにも徐々に好転し、出発前夜には４日間ともまずまずの登山日和予報が出るまでに回復していた。タクシーを下車した中島川口では薄日が射し、目に染みる新緑と爽やかな山風に思わず深呼吸。
九十九折れの単調な登り道。黒槐分岐で一休みし、快調に奥秩父縦走路との合流点、水干尾根分岐まで登り切る。一服後、登山道の傍らにザックをデポし、笠取山を往復。登り詰めたあたりから、ついに待望の石楠花が…。清らかな花々たちの出迎えに一同、先ずは満足。残念ながら大展望はなし。周辺の山々にはガスがかかり、うっすらと見えるだけだった。
水干尾根分岐まで戻り、再びザックを背負い込み、緩やかな勾配の縦走路に入った。黒槐尾根下降路から唐松尾山山頂にかけては、石楠花満開の花道。目の保養をしながら、疲れを癒してもらいながら、唐松尾山山頂に到着。やはり山々は薄いガスの中で、多分、写真では撮れないないだろう。そこから将監小屋までは一気の下り。途中、西御殿岩の分岐で立ち休憩。事前の計画では夕刻の到着を予想し、小屋にはその旨連絡しておいたが、４時前には到着できそうで一安心。余裕が出た分、新緑と花々を十分に楽しむことができた。
小屋には単独行の先客が２名。結局、その晩は我々４名を加え、大広間には６人のみ。ゆったりと休めた。

２日目

早朝の空は真っ青だったが、朝食の頃から急速に山霧が広がり始め、逆に今日の天気が心配になった。今日の行程は和名倉山往復。小屋主人からは「にわか雨があるかも…」との忠告を受け、人気のない早朝の小屋を日帰り装備で出発。将監峠までの急坂を登り返し、山の神土で立ち休憩。リンノ峰まき道までは、斜めに生えた笹藪路で歩き難い。石楠花の咲き誇る岩道を登り、西仙波で樹林帯から一旦抜け出る。空は明るく雨の心配はなさそうだ。しかし、目の前に聳えているはずの飛龍山は、僅かに山頂だけを確認できるものの、周囲はガスで真白。
東仙波の山頂に、初めて位置を確認できる標識があり、気分的に一安心の感。暫くの間は石楠花の群落を分け入り、広々とした尾根道を漫歩。透き通るような薄ピンクの大きな花、明るい真紅の蕾…。咲き始めて間もないのであろうか、咲き終えた(敢えて老醜とは言いません)花はなく、丁度、見頃のようだ(１週間前に確認した花情報では、今年は大分遅れていてやっと咲き始めた頃…とのことだった)。
単調な起伏が続く緩やかな登山道。樹林の中で展望はないが、新緑と花と、そしてふかふかの落ち葉の道に十分満足。奥秩父の道をじっくりと味わいながら進む。それにしても標識は皆無。地図で確認した吹上ノ頭あたりで一服。計画より相当早そうだ。暫時、このままのペースで進み、和名倉山山頂で大休止することにした。



途中、真夜中から歩き始めたという、和名倉山日帰り登山の５人パーティと行き交う。先頭と最後尾者(唯一の女性)との間は３０分以上。疲労困憊の様子の女性は無事下山できただろうか？　満開の石楠花や鮮やかな新緑を楽しんだのだろうか？
二瀬の分岐点に小さな標識を見つけた。将監小屋～和名倉山間は整備されているが、標識が少ない(位置を確認できるのは東仙波と和名倉山頂のみ)。ただ、一本道で、二瀬分岐点(地元山岳会の小さな標識「二瀬尾根」が、木に括りつけられていた)を注意すれば迷う事はない。前回の和名倉山山行の記憶とも合致。あと僅か、一気に和名倉山山頂に向かう。
山頂といっても、全く山頂らしくない。樹木に囲まれ、目では判別できないほどに土が若干盛り上がっただけの小広場といったところ。予定よりかなり早く到着したので、このペースで帰れば、小屋帰着は正午あたりか。時間調整を兼ね、森林欲を楽しみながら、和名倉山山頂で早めの昼食とした。
帰路は見る方向が逆になり太陽光線の具合が良くなったためか、あるいは時間的に余裕が出たためか、一段と石楠花の花が綺麗に思える。初夏の日差しで、蕾も開花したのかもしれない。イワカガミやミツバツツジがそこかしこに、たくさん咲いていた。思わず見惚れ、足が止まってしまうほどだった。
暖かな東仙波の山頂で３０分のティタイムをとる。上空は青空だが、周囲の山々は依然ガスの中で、見えるのは目の前の西仙波と仙波のコルだけ。明日の飛龍山方面は真白だった。さらに、将監峠近くの牛王院平の草原でも、再度、悠々とティタイム。座り込んだ場所の脇が蟻塚で、そこから現われた蟻の大群に追い立てられるように小屋に向かう。それでも小屋帰着は１４時だった。
小屋には２０数名のツアー客が先着。今夜は土曜日で満室状態。宿泊者は屋外で待機中だった。我々も早速、預けてあった荷物を整理後、今夜の寝床スペースを心配しながら、軒先でまたもティタイム。偶々ツアー１組のキャンセルのおかげで、布団一人１枚を確保できた。しかし、素朴な山小屋でも、宿泊者４０名程の大半が石楠花の和名倉山ツアー登山客だった。

３日目

空模様は昨日と同じよう。ただ、小屋主人から「この風は晴れ風」との激励を受け、今日こそは大展望…を楽しみにして出発。新緑のツツジの群落を抜け、縦走路に出る。ここからは東京都水道局の水源林管理用道を進む。将監峠～飛龍山～三条ダルミ間は、東アルプス(と呼ぶようになったらしい)連山の南側山腹をまく水平道。飛龍山山頂以外は稜線上の尾根道ではないため、和名倉山など北側を展望できないのが寂しい。前後の山々も確認し難く、期待していた展望は今ひとつの感。深く切れ込んだ沢には鉄製の橋が架り、整備状態は全く問題ない。快晴の青空、樹間からは甲州の山々がくっきり見える。富士山を見つけ歓声をあげる。
縦走路には満面の笑みを湛えて石楠花が待っていた。朝日に輝く、唐松などの新緑が眩しい。大常木山と飛龍山との鞍部、大ダルで一息入れてから、飛龍山を目指し一気に登る。飛龍権現手前の分岐からは石楠花の中を抜け、斎藤ＳＬを先頭にハゲ岩へ向かう。



かの岩頭からは大展望。眼下は大雲海。甲府盆地は全て雲海に覆われ、その向に、御坂山塊を従えて、雪化粧の富士山がでんと構えていた。右方に目を転じれば、白峰の南アルプス。赤石、塩見、農鳥、間ノ岳、北岳、千丈、甲斐駒…八ヶ岳まで同定できるほど。さらに、金峰、国師、甲武信から、昨日一昨日の笠取、唐松尾、和名倉を一望。今山行で初めて味わう醍醐味に、暫し酔いしれる。
計画よりペースが早い。全員で協議の結果、前飛竜まで往復１時間、石楠花のお花見と

洒落込む。やはり来て良かった。石楠花の並木道は、ここも見頃のようだった。
デポしていたザックを背負い、飛龍権現様に目礼してから、山頂までの長い緩やかな尾根道を登る。残念ながら、今年は、石楠花の大群落に花芽がない。昨年は見事だったようだが…。見覚えのある飛龍山で展望を楽しみながら昼食。山頂には想像以上に登山者が多い。聞いてみると、三条の湯下３０分の林道終点から、日帰りで来た日曜ハイカーのようだ。
縦走路合流から北天のコル間も石楠花が満開。強い日差しに、大きなピンクの花びらが輝いて、一段と美しい。三ツ山南面の石楠花を楽しみながら狼平に出る。広々とした草原で時間調整。三条ダルミでもベンチに座って、日帰りハイカー（三条の湯下の林道終点～雲取山往復）と花談義をしながら、のんびりティタイム。
三条ダルミから雲取山荘へのまき道は、全般に整備状態不芳。特に、三条ダルミから中間部までは急斜面をトラバースするガレたままの隘路で、あまりお奨めできるルートではなさそう。初めてのルートを興味半分に選択したが、やはり山頂経由にすれば良かったと反省した次第。
小屋到着はいの一番だった。誰もいない山荘のテラスで、山荘から差し入れのお茶を楽しんだ後、山頂まで往復。雲取山山頂は快晴無風。山頂避難小屋の寒暖計は１６℃を指している。目に前には幻想的な光景が広がっていた。標高１，０００㍍あたりまで、真白で分厚い雲海に覆われている。飛龍山が雲海の綿布団に座り込んでいるようだ。右方の和名倉山も白い布団の上に横たわっている。大菩薩嶺は頭部だけを雲海から覗かせていた。夕日を浴びた富士山が雲海の最奥に霞んでいた。
今夜の雲取山荘はガラガラ。火気の入った炬燵（寒くないので無用の長物だった）付の個室でゆっくり休めた。労山会員割引き１，０００円（７，５００円→６，５００円）がなんとも嬉しい。

４日目

東の空には雲がかかり、御来光は拝めなかったが、奥多摩の山々ははっきりと見渡せる。最奥が今日の長沢背稜。長沢山・酉谷山・三ツドッケから川乗山あたりを小屋の主人に教えて貰いながら同定。芋の木ドッケが、目の前に行く手を遮るように聳え立つ。
朝食のエネルギーで、芋の木ドッケの急坂を、山頂まで一気に登り切る。今日も全員、快調。芋の木ドッケからの長沢背稜縦走路は、桂谷の頭付近の岩稜帯を除き穏やかな起伏の稜線上の縦走路で、整備状況もまずまず。実は、今回の長沢背稜縦走路西部（芋の木ドッケ～長沢山～水松山間）は、東部（三つドッケ～酉谷山～水松山間）と同様に、水平道のまき道かと思い込んでいた。ところが、尾根道を歩くことができたため、展望を楽しむことができ大満足。
満開の石楠花に囲われている岩稜帯、桂谷の頭に出る。雲海の真中に、両神山が取り残されたように浮かんいる。緩やかに続く登りを一苦労すれば長沢山山頂。雲取山や酉谷山の眺望を楽しんでから下山。水松山分岐を経て梯子坂のクビレで一本。いよいよ、今山行最後の大登りに差し掛かる。意外に手強い急登で、山頂と思われた先に、更に２段目の山頂が…。大汗を掻きながら、見覚えある神社が鎮座する、天祖山山頂に辿りつく。コースタイムよりも１時間ほど早く到着。
ここで時間調整を兼ねてティタイムをとる。天祖山から八丁橋へは長い急下降路。最近は道普請もなされていないようで、ガレ場の隘路や崩れかけた石積み箇所では、特に慎重な対応が必要だった。この間、数回の休憩を入れ、ゆっくりと下降した。八丁橋下山口の間際まで緊張の連続で、林道に出た途端、急に空腹感を憶えた。橋の袂で、バス時刻までの時間調整を兼ねながら、ランチタイムと相成った次第。

今縦走路は、稜線を通らないまき道だったり、樹木が邪魔になったりで、意外と展望は芳しくなかった。しかし、数少ないビューポイント、飛竜山頂下のハゲ岩と雲取山頂では存分に大展望を楽しめた。石楠花は今が真っ盛り。花と新緑いっぱいの奥秩父＆奥多摩縦走路を存分に堪能。また、全員の脚力と気持ちが揃い、加えて天候にも恵まれたことから、４日間とも余裕を持って歩きとおせた。小屋やバス停への到着時刻が早すぎ、随所で時間調整を兼ねて、全員

で山談義する時間を共有できた。石楠花満開の前飛竜でのお花見は、これまた望外…。個人的なことながら、今回の奥秩父縦走路東端部と長沢背稜縦走路西部は、念願の縦走路だった。遥か瑞牆山・金峰山から飛龍山・雲取山、さらに長沢山・酉谷山から川乗山など奥多摩の山々が一本の縦走路で繋がり、一体化したかのような実感に浸っている昨今である。



新緑の奥秩父縦走路



概念図





雲取山山頂にて雲海の中の飛龍山

概　　要

山名	笠取山～和名倉山～飛龍山～雲取山～長沢山		
月日	平成 18 年 6 月 2 日(金)～5 日(月)		
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
山域	奥秩父・奥多摩	地形図 1/2.5 万	雁坂峠・柳沢峠・雲取山・武蔵日原
目的	新緑の縦走路と満開の石楠花と…		
費用	約２７千円	交通機関	ＪＲ・タクシー・バス

日程コース	一日目	我孫子駅 5:34→新松戸駅 5:46/5:51→西国分寺駅 6:48/6:57→高尾駅 7:22/7:25→塩山駅 8:47/9:00→(タクシー)→中島川橋 9:55/10:00⇒馬止 10:20⇒黒槻分岐 11:10/11:20⇒シラベ尾根分岐 11:30⇒水干尾根分岐 11:55/12:05⇒**笠取山** 12:20/12:25⇒黒槻尾根 13:10⇒唐松尾山 14:25/14:40⇒西御殿岩分岐 15:00⇒山ノ神土 15:10/15:15⇒将監峠 15:30⇒将監小屋 15:35（泊） ＜薄曇り　歩行時間:５時間３０分＞
	二日目	将監小屋(起床 4:10/朝食 4:45)5:30⇒将監峠 5:40⇒山ノ神土 6:00⇒西仙波 7:25⇒東仙波 7:30/7:35⇒吹上ノ頭 8:35/8:40⇒二瀬分岐 9:00⇒**和名倉山** 9:15/9:55(昼食)⇒二瀬分岐 10:10⇒吹上ノ頭 10:30⇒東仙波 11:30/12:00(時間調整)⇒西仙波 12:05⇒山ノ神土 12:50/12:5⇒牛王院平 13:00/13:40(時間調整)⇒将監峠 13:50⇒将監小屋 14:00（泊） ＜晴れ　歩行時間：７時間３０分＞
	三日目	将監小屋(起床 4:00/朝食 4:45)5:10⇒縦走路合流点 5:30⇒鉄製橋(竜喰谷支流)6:05⇒鉄製橋(大常木谷)6:40⇒大ダル(飛龍鞍部)7:00⇒ハゲ岩 7:40/8:15⇒飛龍権現 8:20⇒前飛龍 8:40/8:50⇒飛龍権現 9:10/9:25⇒**飛龍山** 9:45/10:10(昼食)⇒縦走路合流点 10:20⇒北天ノタル 10:40⇒狼平 11:45/12:00(時間調整)⇒三条ダルミ 12:30/13:00(時間調整)⇒雲取山荘 13:40/14:40(時間調整)⇒**雲取山** 15:00/15:20⇒雲取山荘 15:35（泊） ＜快晴　歩行時間:８時間２０分＞
	四日目	雲取山荘(起床 4:20/朝食 5:00)5:30⇒大ダワ 5:50⇒芋ノ木ドッケ 6:30/6:35⇒桂谷の頭 7:20/7:25⇒**長沢山** 7:55/　8:05⇒水松山分岐 8:30⇒梯子坂のクビレ 8:55/9:00⇒天祖山 9:30/10:00(時間調整)⇒大日大神 10:50/11:00⇒八丁橋 11:40/12:00(昼食)⇒東日原バス停 12:40/13:35→(バス)→奥多摩駅 14:05/16:13(入浴/反省会)→青梅駅 16:51/16:56→西国分寺駅 17:30/17:34→新松戸駅 18:31/18:37→我孫子駅 18:50 ＜晴れ　歩行時間：６時間３０分＞

ルート状況	登山道 ①奥秩父縦走路東端部(笠取山～雲取山) 将監峠～飛龍山～三条ダルミ間は、飛龍山山頂以外、東アルプス(と呼ぶようになったらしい)連山の南面山腹をまく水平道(東京都水道局の水源林管理用道)。深く切れ込んだ沢には鉄製橋が架り、整備は良好。ただ、尾根道ではないため、和名倉山など北側は見えず、前後の山々も確認し難く、展望は今ひとつ。この間のビューポイントは飛龍山直下のハゲ岩と雲取山山頂。飛龍山と雲取山山頂付近は、三条の湯下３０分の林道終点からの日帰り日曜ハイカーで賑わっていた。 ②将監小屋～和名倉山間 整備されているが、標識が少ない(位置を確認できるのは東仙波と和名倉山頂のみ)。一本道で、二瀬分岐点(地元山岳会の小さな標識「二瀬尾根」あり)を注意すれば迷う事はない。 ③雲取山まき道(三条ダルミ～雲取山荘) 全般に整備状態不芳。特に、三条ダルミ～中間部間は急斜面をトラバースするガレたままの隘路で、あまりお奨めできない。 ④長沢背稜縦走路西部(芋の木ドッケ～水松山～天祖山～八丁橋) 芋の木ドッケ～天祖山間は、桂谷の頭付近の岩稜帯を除き、穏やかな起伏の稜線縦走路で整備状況もまずまず。天祖山～八丁橋間は長い急下降路で、特に、ガレ場の隘路や崩れかけた石積みの箇所では、道普請も不十分なため慎重な対応要。
参加者	大串秀(L)、斎藤(SL)、大串恵、田村 男２名　女２名　計４名

＜４８８＞県連平日ハイキング

日光高山
（１６６８m）

柴田節子

久しぶりの国立公園

バスの出発を待つ間に、とうとう雨粒が落ち始めました。車中は空模様を気にしながらも、「高山のビデオ」を見たり花や山行、各会の話などで交流をあたため合い話は尽きません。幸いにもスタート地点の滝下では、日が差してきて安心しました。今年初めての山行計画は日光方面シリーズで今回は原生林の森林コースです。ミズナラ、シロヤシオ、シャクナゲ、ブナ、ズミ（桃色から白色に変わる時です。）ミツバツツジ、ダケカンバ、トチ等の若草色を設えたカーテンの中をとても気持ちよく歩きました。先を急ぐはもったいない、時間さえあればと後髪を引かれました。一帯に拡がるシロヤシオが真っ白に咲く頃、再来したいと強く思いました。何故なら山奥に人知れずとも咲く花たちを愛でたいからです。皆んな満足した様子です。しかし短い時間の昼食にブーイングがありました。「九輪草」を早く観たいと再出発をして一時間ほどで中禅寺湖へ、眼下に打ち寄せる波の音を聞き乍ら、湖畔を 30 分足らず下ると千手ヶ浜でした。「何処に咲いているのかしら」とキョロキョロと囲りを捜していると静かな林の奥を指して「向こうよ」と教えて頂くと早足で近くに行きました。清流の淵に沿って赤紫や真っ白な楚楚とした姿でした。その花たちが水面に写って何倍もかわいらしく、原生林の静けさと妙に新鮮味がありました。反対側には、シカに茎（好物）を食べられように緑色の網に守られて沢山咲き揃っていて満足しました。それでも昨年よりずっと花が少ないとの事でした。静けさとは対象的に林に入ってすぐにハルゼミの大音響に遭遇しました。午前中引きも切らず新しい春を満喫している様でした。午後になるとピタッと声はしなくなり不思議に思われた程でした。立ち休憩をしている時、列の前の人の肩にセミが止まりました。よく観ると透き通った羽根には黒色のドット模様があり姿はとてもスリムです。
アッという間に何処かへとんでいってしまいました。一日でも多く命がありますように・・・
皆旺盛な好奇心です。高木の幹に一直線に並んで残していったセミたちの抜け殻をも見つけたり、思わず見上げてしまう大木のトチの木にえらく感心したり、私には新しい発見が沢山ありました。帰りの車内は満足した笑顔、いい湯にも浸かり輝いていました。新緑が身体全体に染み込んだ山行でした。おしまいに「出没する熊にご注意あれ！」と山本紫津子からわざわざ電話を頂いた事を感謝しています。

概　　要

山名	日光高山（県連平日ﾊｲｸ）		
月日	平成 18 年 6 月 8 日（木）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
山域	奥日光	地形図 1/2.5 万	男体山
目的	自然環境と登山。県連の各会との交流。 クリンソウの観賞		
費用	５，０００円	交通機関	貸し切りバス
日程コース	我孫子 6:31→新松戸 6:50⇒流通大学前 7:30→蓮田ＳＡ8:18/8:20→清滝ＳＡ 9:30/940→竜頭の滝駐車場 10:20/10:30⇒高山登山口 10:45⇒高山山頂 11:55/12:20⇒熊窪 13:15⇒千手ｹ浜 13:35 ⇒クリンソウ園 13:45/14:00 ⇒竜頭の滝駐車場 15:40/15:50→レイクサイドホテル 16:00/17:00→羽生ＳＡ 18:40/19:00→流通大学前 20:00→新松戸 20:20)→我孫子 20:35		
ﾙｰﾄ状況	登山道は整備されていた。 湖畔沿いの路は昨年からの改修が完了していて危険な箇所は無くなった。		
参加者	柴田(L)、日下(SL)、大串秀、斉藤、榊原、箕輪カ 男３名　女３名　計６名		



高山山頂で

霧に浮かぶ男体山（千手が浜より）



概念図



＜４８９＞市民登山

日光男体山
（２４８４ｍ）

やまたんより転載

概　　要

山名	日光男体山（市民登山）		
月日	平成 19 年 6 月 11 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３A
山域	日光	地形図 1/2.5 万	中禅寺湖、男体山、日光北部
目的	第１２回 市民登山。日光連山のシンボル、修験道の山。		
費用	６，５００円	交通機関	貸し切りバス
コース	[全員共通]我孫子駅北口 5:50→羽生ＰＡ 7:18/7:3３→清滝 PA8:31/8:47→二荒山神社 9:23（A コース下車）→三本松→志津乗越 Ａコース：二荒山神社⇒男体山山頂⇒志津乗越→三本松 ＜歩行時間５時間１５分＞ Ｂコース：→三本松→志津乗越⇒男体山山頂⇒二荒山神社 ＜歩行時間５時間＞ [全員共通]：→懇親（休憩、軽食）→大谷ＰＡ20:30/21:18→佐野ＳＡ21:50/22:05→我孫子駅北口 23:00		
参加者	一般 8 7 6 7 ２８ 会員 7 8 9 9 ３３ 計 １５ １５ １５ １６ ６１ **市民登山実行委員** 中村隆(L)、高橋英(SL)、柴田、増田 小黒、原		

Ａ－１班

１．　行　程

二荒山神社 9:30/9:35⇒三合目 10:05/10:20⇒四合目 10:40⇒五合目 11:50⇒六合目 11:15⇒七合目 11:45⇒八合目 12:15/12:40（昼食）⇒頂上 13:25/13:35⇒三合目 15:20⇒志津小屋 15:50⇒駐車場 15:55

２．　参加者

村松敏（○本部）、Ｌ高橋英、ＳＬ石垣（○無線）、田村、瀬田、高橋重、府賀

一　般：戸田、吉田、石黒、大井、丹羽、石山、池田、武井　　計 15 名



３．　メ　モ

待ちに待った公開登山が日光男体山で行われ、小雨の中、二荒山神社登山口と志津小屋入り口の二箇所から実施、小生の班はＡ－１、神社の前で集合後登山開始、当初は石段、そのうち登山道に入り水を含んだ所を登る。４合目から林道に入り、５合目あたりからぬかるみに入りはしたが順調に進む。８合目手前で１人歩きがおかしくなり、すぐ会長が酸素を取り出して補給する。元気を取り戻す。八合目の避難小屋で昼食、後の登りは石の道が続く。ようやく頂上、360 度何も見えない。集合写真に納まって下山、いまだＢ班に逢わない。

頂上から 10 分後と 20 分後にＢ班に逢う、下山道もかなりぬかるんできつい、ようやく志津小屋に到着、バスに乗る関係で靴を洗う。着替えを済ませＡ－２班を待つ、合流後マイクロバスにて三本松駐車場へ、一路、二荒山神社へ、そこでいろいろありまして、帰路につく、我孫子駅北口に到着後解散、今日は有難うございました。今年も終わった。　（英）

Ａ－２班

１．　行　程

二荒山神社登山口9:40⇒4合目登山道入口10:40/47⇒6合目通過11:30⇒7合目通過12:03⇒8合目避難小屋（昼食）12:40/52⇒9合目通過13:13⇒男体山山頂（三角点）

13:40/55⇒4合目通過15:33⇒3合目通過15:50⇒志津乗越16:35

2. ルートの状況

二荒山神社～山頂への表登山道はよく整備されている。

男体山山頂より志津小屋への裏登山道は抉れている所が多く、雪解けと雨のせいでぬかるみ状になっており、大変歩きにくかった。

3. 参加者

清家(本部)、L 武内, SL 佐藤健、小黒(○)、増田（○)、吉川、桐生、本間

一般：小松、五十嵐、松本、波満、野口、三原、斉田　　計１５名



4. メ　モ

①原則として一般参加者と会員が交互になるよう隊列を整えた後、簡単に自己紹介を行い、前後の人達の名前と顔を確認して出発。階段がきってあるが歩幅を乱されるのでかえって歩きにくい。３合目から４合目までは林道歩き。４合目登山口にある小屋跡は一部屋根が落ちていたが気持ちだけ雨を避けながら休憩、これからの急な登りに備えた。

②5 合目付近で前を行くパーティ（１３名）に追いついた。我々もゆっくりだがこのパーティもそれ以上に鈍い。「パスさせてほしい」と頼みたかったが、追い越すために歩くペースを変えると足に負担がかかる惧れもあるので、我慢して後ろについた。前のパーティの最後尾にピッタリとついて、プレッシャーをかけたところ、先頭への「もっとペースをあげろ」との指示は飛ぶものの直ぐにペースが落ちる。７合目の小屋に着き、前のパーティが小屋に入った。「お腹がすいたヨー」の声が聞こえなかったわけではないが、再度、前のパーティの後ろにつくと予定が大幅に狂うことを惧れ休憩をとらずに前進した。でも、８合の小屋までのスタミナは無理との判断もあり、岩場の傾斜が多少ゆるくなったところで、一本入れることとし、軽くお腹に入れておくよう声を掛けた。

③８合目の小屋に着くのと入れ違いに先発のＡ－１班が出発していった。１班はここで昼食を採ったようで、その時間だけ我々が遅れた計算になる。先の休憩からまだ３０分程しか経ってなく、小屋は小さく全員が入れなかったが、この先雨を避ける場所がないのでここで昼食休憩とした。先ほど 7 合目で追い越したパーティが登って来るのが見えたので、慌しく店じまいをして出発したが、小屋より５分ほど登った所で 3 番目を歩いていた一般参加者のＮさんが体調不良を訴えた。高山病が疑われたが、低い所でも食べられなかったとのことで外に原因があるかもしれないので無理は出来ないと判断し、清家さんが付き添い 8 合目の小屋で志津小屋から上がってくるＢ班を待って下山するようお願いした。後から考えれば、結果はともあれ、酸素吸引を試しても良かったかなと悔やまれる。

④８合目より暫く登ると急に登山道が優しくなり、山頂へ続くお花畑の道となる。それにしても、なぜ、志津小屋からのＢ班と行き交わないのか訝しい。下ってくる登山者に大勢のパーティに会わなかったかと聞くと「頂上の小屋は人で溢れていましたよ」との回答。Ｂ班はここで食事中かと想像し先を急いだ。

⑤山頂には奥宮がありその後ろに小さな小屋があったが、人気は感じられず静まり返っている。三角点に出たが、ここにも人はいない。Ｂ班はいずこ？？？　無線係の吉川さんは、Ｂ班とはずっと交信不能という。サブリーダーの佐藤健さんに念のため、小屋の中を覗いて来て欲しいと依頼した。そうこうしているうちに、Ｂ－１班と無線が繋がり、その直後にＢ－１班が山頂到着。バスの到着が３０分ほど遅れたとの説明で納得。Ｂ－１班リーダーに８合目に残してきたＮさん等２人のことを頼み下山開始。Ｂ－２班とも行き交い、予定よりは遅れてはいるが何の懸念も抱かなかった。途中、

行方不明者の情報があり、程なく見つかったとの連絡で事情よくわからないままに一安心。

⑥下山路でぬかるみに足を取られ、悪戦苦闘しながら、志津小屋に降り立ったのは４時を大きく回っていた。ここでＡ－１班と共にマイクロバスに乗って大型バスの待つ三本松へと向かった。残してきた 2 人のことが気になり、Ｂ班との無線連絡を試みてもらったが、山の裏側に入ったとかで交信できず、ようやく三本松の駐車場で携帯が繋がり２人とも無事下山を確認して胸をなでおろした。　　（武内）

Ｂ－１班

１．行　程

三本松 9:43/950→裏男体林道 10:35→志津乗越 11:00（Ｂｺｰｽ下車）11:05⇒昼食 12:08/12:20⇒九合目 13:30⇒男体山山頂 13:50 下山開始予定（14:00）一人不明捜索・Ｂ－２班に合流と判明下山開始 14:50⇒登山迂回路標示 15:30/15:35⇒六合目 15:50⇒五合目 16:00⇒神社登山入口 16:20（Ａ－２班２名と合流）⇒三合目 16:40⇒一合目 17:00⇒二荒山神社下 17:10→（大型バス）18:18→旭屋（打上げ）19:57

行動時間　　6 時間 05 分

歩行時間　　4 時間 38 分

２．ルート状況

①登りコースはルートは明確であったが小雨の為粘土質の路はドロドロ状態

② 昼食は道端で食べざるを得なかった。

下りコースもルートは明確であったが雨と粘土質の岩石の路を長時間下り一般参加者に疲労が見えた。

3. 参加者

柴(本部)、L 斉藤、柴田(○)、外崎(○)、中野、中村美、品田、原、SL 松本

一般:岡田、深田、元川義、元川陽、吉田和、吉田智　　計 15 名

４．メ　モ

①食後８合目あたりで一般参加者１名がＢ－１班から無断離脱。足が上がらなくなったため　Ｂ－Ｉ班メンバーには声を掛けずに離脱。（本人談）



②下山時の人数確認で１名不明が判明（14:00）捜索開始・山頂まで戻り探す。（無線・携帯電話）14:45（Ｂ－２班に合流と判明）14:50　Ｂ―１班は待機時間が長く体が冷えたため離脱者を２班に預け下山開始。

③山頂でＡ－２班の武内Ｌより８合目避難小屋に清家さん（本部）と登頂断念者１名とで待機しているので確保依頼される。

④８合目避難小屋に 15:00 到着するが、清家さんより「14:10 寒さのため、ゆっくり下山開始」のﾒﾓがある。

⑤神社登山口でＡ－２班の清家さん他１名合流する。

下山後Ｂ－１班の離脱メンバーが下山するのに支障をきたしていると聞き驚く。Ｂ－２班の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。救助隊と参加された皆々様に厚く御礼申し上げます。　　（斉藤）

Ｂ－２班

１．行　程

三本松駐車場 9:45/9:54→バスが引き返した時 10:15→裏林道に入る 10:36→登山道駐車場Ｈ1785m 着 10:55(準備)登山開始 11:05⇒志津小屋 11:10⇒三合目(休憩)11:45/11:50⇒Ｂ－１Ｘさん(一般)ピックアップ 12:20 推定 2050m付近⇒昼食 12:25/12:40⇒尾根のガレ場に出る 13:05⇒A－1 班出会う 13:55⇒A－2 班出会う 14:05⇒日光男体山山頂 14:15/14:35(食事と写真)下山開始前にＸさん両足に痙攣をおこす。そのために３名（細野清、原田和、原田君）が残り治療。状況が悪くなって来たので岳人あびこの携帯電話に故障者発生を連絡(受信者村松会長 14:50)。４名が

介助歩行で出発 14:55(状況から最悪と判断して、細野清本班へ伝令出発)⇒細野・日下両名に後を託し、中村引返す。2350m付近⇒中村介助組に合流 15:23⇒治療 15:40⇒八合目滝尾神社 16:00（旭屋から確認の電話）⇒避難小屋 16:45⇒う回道路の表示板 17:05（他班への携帯、無線通信不能）⇒五合目避難小屋 17:45（16:11 武内Ｌと携帯通ず、状況説明、下の状況確認）⇒四合目小屋林道へ(治療)18:15/18:25⇒救助隊と出会う 18:30(Ｘさんを救助隊に引渡す)⇒再度登山道へ 18:50（暗くなる）⇒原田が神社前下山 19:30⇒救助隊下山 20:05
登り時間：3 時間 10 分（休憩時間を含む）
下り時間：救護のため別行動 B―2 班本体の時間不明。

2. 参加者

CL 中村隆、SL 細野清、細野省、日下、高橋寿、原田君、飯沼、原田和(○)、小川誠(○)、
一般：畑宏、畑文、大久保、矢崎、石井山重夫、大澤　　計１６名

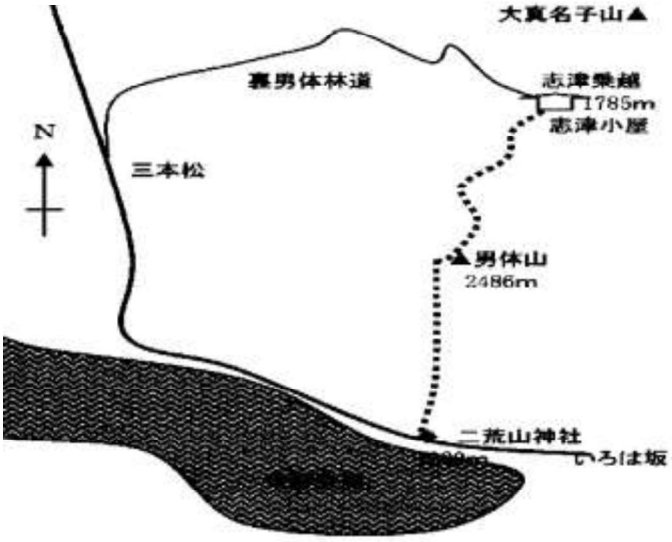


３．メ　モ

① 日光市「曇りのち晴れ」の天気予報を信じ、雨模様の中、この雨は上がると確信して予定通り決行した。
②三本松から登山口までの間で、バスがルートを間違ったため到着予定時間が大幅に遅れる。そのために一般参加者の顔と名前を充分に把握しないままの登山開始になる。
③登山道は雨で荒れていて、ドロ沼で滑り易く最悪の中を登って行く。一般参加者の中から遅れ気味の方が出始める。
④12:20 頃（2050m付近)、B－1 班のＸさんと偶然会う。道を譲るように脇に立っている人がいる。先頭の中村「こんにちは」と挨拶、何となく様子が変なのであびこの人ですかと聞く。「遅れまして」と返事、「一緒に登りましょう。列に入ってください」と誘う。　その人バテ状態でペースダウン、何とか頂上へつく。頂上付近までＢ―１とは交信不能だった。
⑤登りに要した時間は、休憩と食事時間を含めて 3 時間 10 分で登っている。標準時間は 2 時間 40 分であるので、結果としてゆっくり歩行だったが、ほぼ標準時間どおりである。
⑥下山もＸさんを引き受けることにしたが、状況は好転せず、大幅遅延の原因となった。

（原田和、中村隆）

概念図







アンケート回答

１．この山行はどこで知りましたか。
我孫子市広報　　13 名、
ポスター　　0
その他（友人）　　2

２.市民登山に今後も参加しますか。
回答者全員　　「参加したい」
「いつでも、どこへでも」
「日時があえば是非」
「できれば年２回お願いします。」
「1 年に１回楽しみにして待っています。」
「自分の体力とトレーニングの状況にて」
「体力が許すなら」

３.日光男体山の感想は?
「雨で残念でした」
「久しぶりの山なので修業の山へ修業させてもらいました。何度も見上げた山に登れ満足です。」
「雨で残念!!　何とか皆様のご迷惑にならないで済んだ事を是とする。」
「(チョロイ)」
「予想以上にきつかったです。天気の良い日に再挑戦したいです。」
「雨で大変でしたが、いい体験をさせていただきました」
「楽しく登山が出来、十分満足できました。切り立って急な岩山登山、火山系の岩、雨にぬれた白、紫等の花を見ることが出来ました。（いろいろな体験は宝です。）
（気になったこと）下山中に泥んこの中で、悪戦苦闘したこともあり、休憩が１回もなく、用足しもできなかったことです。５分位の休憩が１回は必要(集団行動を止めるのは気が引けるし危険)」「雨が降りわからなかった。」
「ちょっと厳しかったけど、無事下山できてまた一つ自信が出来ました。うれしいです。天気が良かったらもっとすばらしかったでしょうけど。」
「今回は天気に恵まれなかったが、とてもいい山だと思います。今年中に再度チャレンジします。」
「残念ながら一日雨の中の登山でしたが、登りの幽玄な景色とカラマツの芽吹いたばかりの美しさに感動しました。」
「過去の経験にて今回も可能だろうと考え参加させていただきましたが、今回の皆様におかけしたご迷惑、猛省しています。皆様によろしくお伝えください。」
「大変でしたが（特に登りで苦しいところがありました）無事登頂出来、無事下山出来たこと感激しています。」
「２度目ですが、久しぶりで天気が悪いが良かったです。」
「まだ登ったことがなかったので申し込みました。雨だったので回りを見る余裕がなかったのが残念。道がぬかっていて疲れました。でものぼりと下りとの道の様子が違っていて面白かった。」
「楽しかった。」

４.この山行の役員、会員の対応は?
「ご努力に頭が下がります。」
「少々気分が悪くなりました。親切にしていただきありがとうございました。」
「大変ご苦労様、皆様親切で感謝してます。」
「会員の方々、一般参加者に対する気配り大変です。参加出来てよかった。参加者に対するフォローが良い。」
「概ね良かったと思います。但し点呼など確実に願います。もう少し休憩を多く取ってください。」
「親切に対応いただき感謝しております。」
「厳しい気象条件下で親切にしていただき、楽しく過ごせました。ありがとうございました。」
「皆さん、良くしていただきました。」

「いつも至れり尽くせりで感謝しています。吉川さんにストックをお借りし、使い方もわかりとても幸せです。」
「毎回毎回ご準備等ご苦労に感謝します。」
「親切にサポートしていただきました。」
「今回の件にて直接お世話になりました方を含め山登りの原点を知りました。」
「皆さんに親しく話しかけていただき楽しく山行出来ました。ありがとうございます。」
「良くしていただきました。」
「とてもよく面倒見が良かった。」
「故障者がおきたときの対応が立派でした。」

5.参加したい山または行きたい山は？
「一泊程度の山でも参加したい。八ヶ岳（赤岳）」
「雲取山、谷川岳、尾瀬燧ヶ岳」
「安達太良山」
「南アルプス」
「是非お願いします。今回のように日帰りでは個人では行けない山がいいですネ。」
「行きたい山は山ほど、北アルプスは今までの中で美しい山で一番好きです。」
「小生のトレーニング実施後にお願いする所存です。」
「甲斐駒」

6．岳人あびこ」に対する要望、感想など
「一般参加のこの企画を続けてほしい。」
「会員として加入させて戴きたい!!」
「帰路はお酒より温泉入浴さっぱりと」
「市民参加を年２回にしてほしい。」
「大変でしょうけど、これからも市民登山を計画してください。」
「大変お世話になりました。」
「入会資格を緩和してもらいたい。年齢制限等」
「楽しい私語に笑ってばかりいました。」
「皆様のご健勝を祈念します。」
「できたら班の人員が少し多すぎると思います。」

以上

一般参加者の皆様へ

アンケートの回答ありがとうございました。いただきました建設的なご意見、ご提案は、反省すべき点も含めて、今後の運営に活かしてまいりたいと存じます。

当日は、日光市「曇りのち晴れ」の天気予報を信じ、雨の中の登山を決行致しましたが、救いの女神はついに微笑んでくれませんでした。

大変厳しい登山となってしまいました。日頃登山に親しんでいます岳人でも標高差1000m以上の、高さ2000m級の山は決して楽ではありません。

雨の悪路にもかかわらず見事に登頂を達成されました皆様に敬意を表します。
また当日はよんどころない状況とはいえ、帰宅が大変遅くなりご迷惑をかけましたが、心寛くご理解、ご協力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。これに懲りずまたの機会にもご参加いただきますようお待ちしております。

岳人あびこ市民登山実行委員長
中村隆泰



＜４９０＞

妙法ガ岳

（１３２２m）

箕輪完二

前日に参加を申し込んだ罰として、「やまなみ」指名となってしまった。

当初計画では電車バスを乗り継いでの予定であったが、参加者が多数となり貸し切りバスに変更になった様である。
秩父に入ってから少し雨が降ったが、登山口である三峰神社の駐車場についた時には、雨の心配は無くなっていた。

ここは雲取山への縦走路でもある。思い起こせばちょうど６年前、岳人あびこに入会した年の６月公開登山で雲取山に登山したときの下山ルート。あの時、奥多摩から登り、三峰神社に下って来た。はじめて、宿泊を伴なう山行で、登りでにわか雨に遇い、思うように雨具もつけられずリュックの中が水浸しになり、また途中から膝が痛み出し、二日目はこれをこらえながらとにかく早く三峰神社に到着したかったことを思い出し懐かしかった。

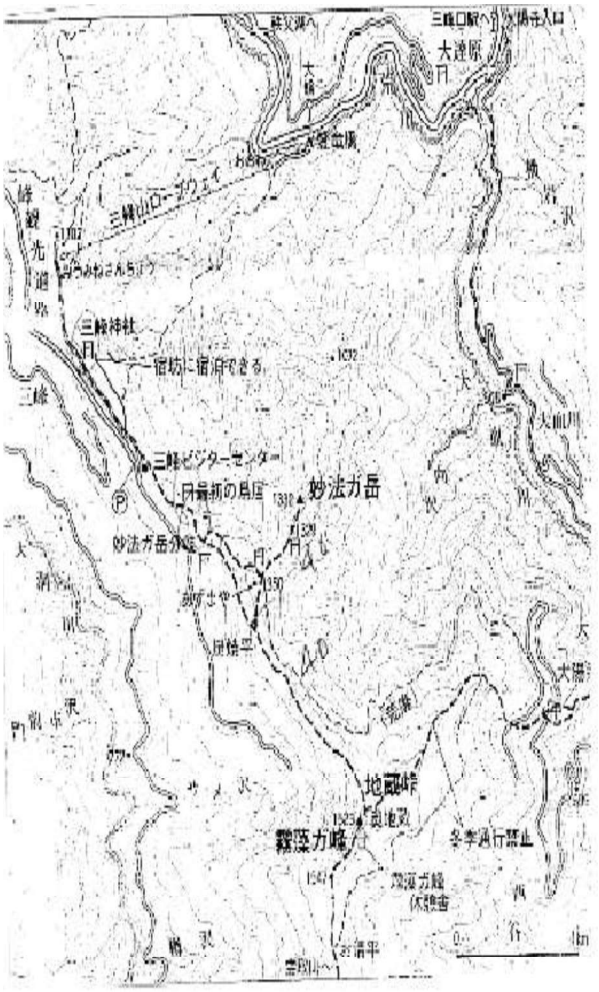
１時間ほど登ったろうか、一番二番三番四番の鳥居をくぐり、最後の石段を登ると妙法ヶ岳の山頂だった。犬の鳴き声に似た奇妙な音が聞こえてくると思ったら、石造りの奥宮の社殿では、修験者たちの修業がおこなわれていた。あまりにも熱が入っているようなので参拝も出来ず、社殿の脇で集合写真を撮って下山にむかった。天気が良ければ両神山や上州の山々がみえるはずだと言うが今日は何も見えない。

東屋から地蔵峠への道をとり、スズタケの多い道を登って尾根を越え雲取山の縦走路に出た。地蔵峠で昼食をとり、一息つくことが出来た。その後さらに進んで、霧藻ヶ峰休憩舎に到着。ここで、一休みし、集合写真を撮った。その後、地蔵峠に戻って今度は一路太陽寺に向かう。しばらく雑木林を下り、お清平からの道と出会い林道を横切るとバスの待つ太陽寺につく。

寺の境内で腰をおろして休んでいると蚊より小さいブヨらしき虫に刺されてしまった。これが、薬を塗っても治らず、痒みがなくなるまで１ヶ月もかかってしまった。虫に刺されない努力も必要だ。しかし、心配した雨にも逢わず、無事下山できたこと。久しぶりに山登りが出来たこと。帰りのちちぶやというソバ屋さんでの蕎麦とビールがおいしかったこと。感謝。



概念図



妙法ヶ岳頂上にて



概　　要

山名	妙法ヶ岳　霧藻ヶ峰		
月日	平成 18 年 6 月 25 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	奥秩父	地形図 1/2.5 万	三峰
目的	三峰山で親しまれる霊峰、散策する山旅		
費用	約４１００円	交通機関	貸し切りバス
日程コース	我孫子駅北口集合 5:30 バス発 5:35（貸し切りバス）→柏ＩＣ5:51→高坂ＳＡ 6:24/7:00→花園ＩＣ7:15→秩父湖 8:25→三峰神社駐車場着 8:45（準備）登山開始 9:00⇒登山口 9:07⇒奥の院鳥居 9:14⇒分岐（衣服調整）9:25/9:30⇒東屋 9:50⇒妙法ヶ岳 10:10/10:20⇒東屋 10:37/10:45⇒神社からの合流点 11:00⇒休憩 11:27/11:32⇒地蔵峠Ｈ1500m （昼食)11:40/12:00⇒霧藻ヶ峰 12:10/　12:20⇒地蔵峠 12:28⇒お清平からの合流点 12:58⇒一回目の林道（休憩）13:05/13:10⇒二回目の林道 13:18 三回目の林道 13:38⇒太陽寺着 13:45 ＜行動時間 4 時間 45 分　内：歩行時間 3 時間 45 分、休憩時間 1 時間＞ 太陽寺駐車場バス発 14:05→反省会（秩父や）15:00/15:50→花園ＩＣ16:23→三芳ＰＡ17:40/17:55→柏ＩＣ18:42→我孫子駅北口 19:00		

ルート状況	三峰神社駐車場から階段を登り舗道路を左に折れすぐ右に折れここから登山道になる、暫く行くと第一の鳥居をくぐり奥の宮へ、登山道は上り易いが所どころに小石がある。 道の両側は杉の木とヒバの木が多く天気のせいか何か暗い感がある。下山道は道幅が狭く小石が多く歩きにくい両サイドの林は雑木林が多く見られいくつかの林道を横切って太陽寺に着く。
参加者	**Ｂ班**　中村隆（L）、斉藤（SL）、原田和佐々木、箕輪完、大串恵、榊原、飯沼、箕輪カ、佐藤明、瀬田 **Ａ班**　高橋英（L）、日下（SL）、大串秀、松本、小川誠、原田君、中野、安田、原、桐生、本間 男 10 名　女 12 名　計２２名、



＜４９１＞

森吉山　・　姫神山

（１４５４m)・（１１２４m）

細野清子

＜６月２１日　月曜日　　曇りのち晴れ＞

ウサギと亀

その昔、姫神山の神様が岩手山と早池峰山の山の神様を両天秤にかけて付き合っていたところ、岩手山がそれを知ることになり怒って噴火したと、この地方で語り継がれている。晴れれば頂上から岩手山・早池峰山が見えるはず、しかし、今日はそれは望めそうにない。

それにしても《姫神山》てナント響きのよい言葉なのだろうか？

タクシーを降りるとがやがやキャンプ場ではこどもたちの賑やかな声。すぐそばにキャンプ場がありそこには大型バスが３台停まっていた。

私たちがタクシーを降りたのはそこから少し離れた清水のすぐそば。冷たい水で手やのどをうるおす。

歩き始めてまもなくフタリシズカの花の群落。背丈も葉も花も大きい。

「４人シズカもあるね」

「５人シズカもいるけど静かだね」

などはなしていると杉林に入る。ひときわ太い杉がどうやら１本杉らしい。右手には一本杉清水へ５分とあった。

杉林を右手に見ながらしばらく行くと階段の始まり。普段ならユックリと上りたいところだが後ろからガヤガと中学生がせまってくる。だんだんその声が大きくなってくるから追い立てられているようだ。追い越してもらうには登山道は狭いし大勢だし。

しかしとうとうすぐ後ろについてきたので追い越してもらうことにする。男女合わせて３０人くらい。中２だそうだ。追い越されても無理はない。みなパワーあふれ疲れしらずなのだから。しかし、中にはユックリペースの学生もいて２－３人がなかなか上がってこない。

男性教師もふうふう言いながらやっとついている感じだった。

５合目で休憩中の学生をまた追い返した。その後はがやがや声も聞こえず順調に８合目にはいる。それまではブナや杉やコナラの木が、ここから急にダケカンバや白樺の木に変わった。９合目近くになると今度は下山の小学生と出くわす。これまたがんがん降りる子やそろりと降りていく子。みな運動靴で、降りにくいところには先生が立っていて介助している。ところが大きな岩のところでピッタととまって動かない。

のぼり優先といいたいところだが相手は小学生だから仕方がないかと思いつつも、お迎えのタクシーとの時間もある。そうそうユックリできない。お弁当の時間の関係もあるしとおもっていると、「あとどのくらいの子供たちがいますか」とＳＬの斉藤さんがすぐそばで介助している先生方に聞いてくれた。

「もう５－６人だと思います」

待っていることにしたがなかなか切れないでとろとろ降りてくる。

しびれを切らしてチョットの間を見て通らしてもらう。その間も「寒かったネ」「頑張ってください」等いいながらとぎれとぎれに子供たちがおりていった。

ようやく頂上に着いた。やはり雲があり展望はない。

はじめは静かだった山頂も、徐々に今度は最初に追いつ抜かれつの中学生が上がってきてにぎやかになる。時々雲が切れ下界が垣間見える。そのたびに「見えた～」「ヤッホー」と声がかかる。

下山口の城内コースはひっそりとしていて、誰とも出会わなかった。



姫神山をバックに城内下山口付近

途中笠岩や水岩、そして小姫神山を見ながら機を織ったと言い伝えられている機場跡がみられた。
　予定より早い目に降りることができ、水場でおいしくて、冷たい水を飲んでいるとお迎えのタクシーが来た。
そして上ってきた山を振り返ると雲が切れ頂上まで見えた。三角錐のきれいな山だった。田沢湖からは始めて乗る線、秋田縦貫鉄道でのどかな田園風景や懐かしい感じのする駅舎や鉄橋を超えて杣(そま)温泉へ向かう。

《６月２７日　火曜日　小雨のち晴れ》

さすが『花の百名山』

　昨夜は主人ご自慢の温泉がハプニングで熱湯だったり水だったりで満足に入れていないので朝、さっと入る。ご自慢だけあってなかなかよい風呂だった。見上げるとあいにく今にも泣き出しそうな空模様。予報では、雨のち曇りで雷注意報が解除されたようで一安心。他のグループも山行を決行することになったようだ。
　ヒバクラ登山口に着くころには小雨が降り出した。マイクロの中でカッパを身につける。他のご一行は雨が降ってきたので「明日登ります」と、宿にもどって行った。
登山道に一歩足を踏み入れると、なんと登山道の両端１．５m幅でマイズルソウが咲き乱れている。山頂までこのマイズルソウは切れずに咲いていた。今まさに雪解けが終わったところなのだろうかショジョバカマやイワカガミがみずみずしい色であちこちに咲いている。湿原にはミズバショウが草を持ち上げ首を出そうとしている。葉は小さくて花のほうが大きいミズバショウを見たのは久しぶりだ。それにこんなにたくさんの。とにかく高山植物のオンパレード。リュウキンカ・ザゼンソウ・シラネアオイ・サンカヨウと登山道を切れ目なくこれらの花々が咲き乱れている。恵子さんのカメラが休みなくうごいている。私も我慢し切れなくてカメラを取り出したのはあまりにも可憐に咲いているザゼンソウやミズバショウを見たからだ。小雨は降ったりやんだりしているがまったくといってよいほど気にならないのは花々に魅せられてのこと。

花のじゅうたん

　突然目の前にかなり大きい雪渓が広がる。方角を定め、ふみ跡やマークを慎重に探しながら雪渓を越えると、ヒバクラ山頂付近。お花畑が広がっている。ここはまだつぼみで今までのような華やかさはなかった。また大きな雪渓を越えると山人平。
　なんとすばらしいこと。
　まるでピンクと白のじゅうたんを敷き詰めたかのようにチングルマとイワカガミが咲き乱れている。



ｵｵｲﾜｶｶﾞﾐ



ﾐｽﾞﾊﾞｼｮｳ

　かつて見たことがないくらい広いスペースでひろがっていた。よく見るとキンコウカのつぼみが膨らみかけている。後４～５日すればここは白とピンクと黄色のジュウタンになるのだろうか。想像するだけでうれしくなってしまう。霧で幻想的な雰囲気もかもし出されている。しばし、花に酔いカメラから手がはなせなかった。
　３つ目の雪渓の途中で、上から２人降りてきた。話を聞いてみるとこの山の管理を任せられている方だった。『中村コース』のことを聞いてみる。
　「今年は滝のほうに雪渓が残っていて忙しいため、まだ点検に行ってはいないが登山道は問題ないと思います。しかし、なだれのところが道がわかりにくくなっているので注意してください。（装備と登ってくる様子を見て）あなたたちなら大丈夫です。」との

こと。そして「ただし雷が午後にはなるかもしれませんのでなるべく早く下山してください。」

雷と聞いてはユックリしているわけには行かないと、チョットだけスピードをはやめる。頂上だと握手を交わしたところが、早とちりでそのほんの目の先が頂上だった。

小雨がまた降り出したので記念撮影もそこそこで下山する。ゴンドラの方向から夫婦が登ってきた。つられてそちらのほうに行こうとすると、「中村コースはこっちです。」と大串さん。そして先の管理人さんの２人に出会う。少しだけお供しましょうと、先頭をしばらくあるいてくれた。尾根筋で、温泉に入るのなら「ここで連絡をとっておいたほうがよい」とのこと。早速連絡が取れ、「なだれのところは判りにくいので気をつけてください。」とのことだった。「ずっとこんな道です。」とのことで、大丈夫ですと管理人さんとここでさようならする。「何かありましたら連絡ください」とＴＥＬ番号を教えてくれた。田舎の人はナント親切なのだろうか、これで安心。とても歩き安い道とそばに咲くシラネアオイやマイズルソウなどめでながらルンルン気分で歩いていると、突然ガレ場が現れる。いったん下って上り返せば通れた。次のガレ場は少し足を広げて３点確保で通過。

アレ？道がない

「ここがなだれのとこかね。それにしては変だね」と言っていると、その次に現れたのは雪渓につかまらないと越せないところ。やっとの思いで越したところ突然道が消えている。一度降りかけたが、足場が悪くその先は雪渓でしかも崖。ここはあまりにも危険で降りられない。と思案していると秀雄さんが来てくれ一緒に探してくれたが、なかなか見つからない。内心戻らないといけないかな、それにしても１時間は降りてきているし、もと来た道を引き返すとなると倍近く時間がかかるかもしれないことと、雷のことも心配なので腰を下ろしてじっくりかんがえてみる。「そうだ、下ばかり見ていたが上に行けば見つかるかも」と、ほんの少し上ってみると「あった」登山道が見つかった。ここなら雪渓にも危げなく降りられる。雪渓に下りその先の登山道も見つかり、後ろで待機している４人に「ＯＫ見つかったよー」と大声で叫ぶ。

雪渓につかまって越すところで、省二さんが悪戦苦闘している。右足はこっち、左手はここと恵子さんと斉藤さんがついて指導してくれた。

全員がわたり終えたときは手もカッパも泥だらけだった。一息つこうと食べた大福のおいしかったこと・・・・その後はまた歩きやすい道になり、雪で落ちている折れ枝をよけたりしながら下山する。

くだりがなくなり、道端のワラビを摘んだりしながらいい気になって歩いているとバサッと右足が付け根あたりまでへっこんだ。草に隠れていて分からなかったが、小さな溝にスッポト足がはまってしまったのだ。

ビックリしたものの怪我なしでよかった。

雪渓でもクサレ雪に落っこち、溝に落っこちで靴の中はびっしょりだった。電話の通じるおうちの伊藤さん宅についたころにはすっかり雨も上がって晴れ間が出ていた。伊藤さんも親切な方で靴もカッパもどろどろの私たちを、温泉まで車で送ってくれた。

本当に田舎の人は親切でやさしい。

概　　要

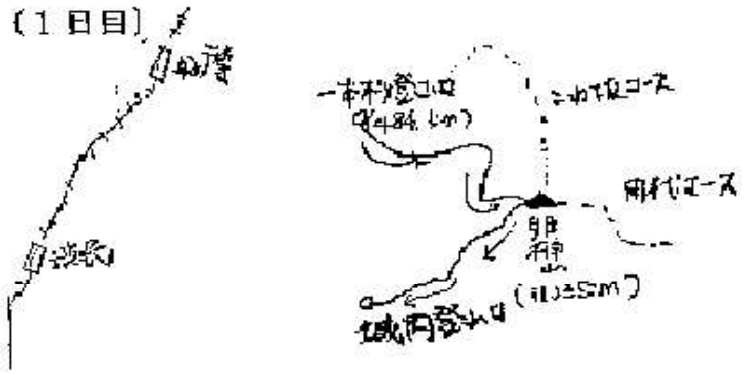
山名	森吉山・姫神山			
月日	平成 18 年 6 月 26 日（月）～27 日（火）			
山域	北東北	地形図 1/2.5 万	太平湖・森吉山、陸中南山形、渋民、鷹高、外山	
目的	阿仁マタギの故郷、花の百名山 石川啄木のふるさとの山を訪れる			
費用	１６，２００円（大人の休日倶楽部利用）	交通機関	電車・タクシー	
日程コース	一日目	我孫子駅 5:58→上野発 7:02→盛岡 9:22 /9:46 好摩 10:11/10:20→１本杉キャンプ場 10:35⇒一本杉 10:45⇒ざんげ坂 10:55⇒**姫神山** 12:10/12:30⇒笠石 12:45⇒城内下山口 13:38→好摩 14:10/14:28→盛岡 14:56/1524→角館 16:16/16:25→阿仁合 17:43/18:01→阿仁前田 18:15→杣温泉 18:35（泊） 〈歩行時間２時間１０分〉		

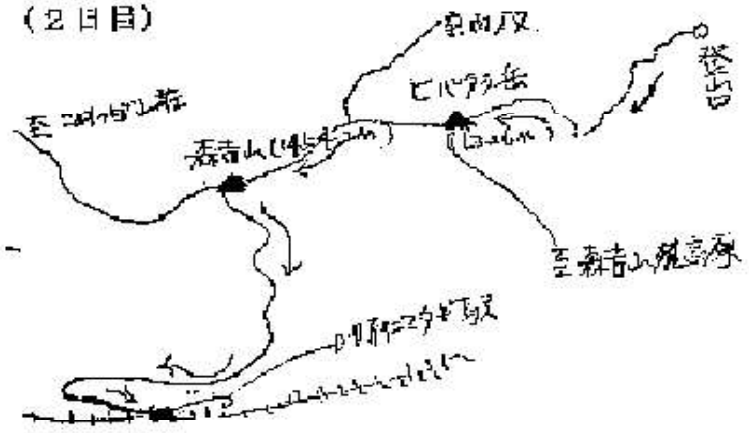
	二日目	杣温泉 6:35→ヒバクラ登山口 7:05/ 7:15⇒立川原流 7:45⇒ヒバクラ分岐 9:15⇒山人平 9:55⇒**森吉山** 10:45/ 10:50⇒打当下山口 13:55/14:20⇒マタギの湯 14:25/ 15:15⇒阿仁マタギ 15:25→角館 16:05/ 16:42→ 17:37/18:40 上野 21:02/21:25→我孫子 22:02 〈歩行時間６時間１０分〉
ルート状況		☆　姫神山 好摩登山口は階段多い。 ☆　森吉山 登山道は雪渓が残っていてトラバース４箇所あった。 中村コースはなだれが起きたため登山道不明瞭なところあり。要注意
参加者		細野清(L)、斉藤(SL)、細野省、大串秀、大串恵 男３名　女２名　計５名



森吉山山頂直下の雪渓を登る

概念図





＜４９２＞

会津朝日岳

（１６２４ｍ）

外崎　蓮

岳人あびこ創立 10 周年を迎え、当会発祥の地を訪ねる

7 月 1 日（土）　曇りのち雨

会津朝日岳は、豊かなブナの原生林と深い渓谷を持つ南会津を代表する山である。原始のままで残された貴重な山域ということで、一度は訪れてみたい山であった。折りしも当会創立 10 年目の今年、旗揚げの地である会津朝日岳を訪ねる幸運に恵まれた。当時の創立メンバーの意気込みが、ストレートに伝わってくるようなすばらしい山であった。

朝の 3 時、目覚まし時計が鳴る前に目を覚ます。ザーという雨音。昨夜は降っていなかった。中止すべきか迷ったが、レンタカーを手配しているし、食料も買ってあるので家を出る。ありがたいことに他のメンバーは、こんな時でも何のためらいもなく我孫子駅に集合し、2 台のレンタカーに分乗して出発。柏インターから高速に乗り、東北自動車道をとばしていたとき、それまで小康状態だった空模様が俄かにかき曇り、猛烈な雨としぶきがフロントガラスをたたいて前方が見えなくなった。スピードを落として走ったが、ドライバーも乗っている方もヒヤヒヤ。山行が梅雨シーズンのため、晴れれば儲けものという気はあったが、まさかこれほどまでとは。2 台の車は相前後しながら西那須野インターを下り、黒谷の部落へと入っていく。

駐車場は「いわなの里」という養殖場の奥にある。天気も持ち直し、早めの昼食のあと赤倉沢に沿ってゆるやかに登っていく。沢の右岸にはまだかなりの量の残雪がある。

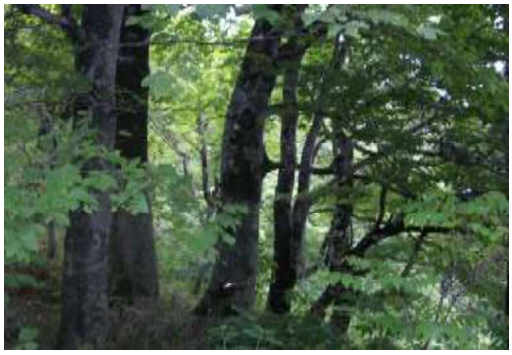
今日は私がトップ。道端の草の雫でズボンの裾はびっしょり。荒禿沢の分岐を過ぎ、赤倉沢と別れてよく踏まれた登山道を登る。それもその筈、6 月の山開きには大勢の登山者で賑わうらしい。

のどが渇いたころ、三吉ミチギという水場に着く。水量があり程よい冷たさ。甘露とはこのようなことを言うのかも知れないと思った。

叶ノ高手直下の岩場に来たところで、ヒメサユリが出迎えてくれた。ピンク色をしたその名にぴったりの愛らしい百合の花だ。叶ノ高手はちょっとしたピークだが、この付近には「クロベ」と呼ばれる檜の大木が何本もあって、その樹肌はつるんと黒光りのする不思議な木だ。

泥んこ道を下った辺りで、そこだけがポッカリと開けた場所から会津朝日岳が初めて姿を見せた。あとはゆるく下って一面雪に覆われた熊ノ平に着く。右手の林の中に避難小屋が見えてきた。

悪路のため靴も雨具のズボンもぐっしょり。幸いなことに小屋の中には薪が置かれてあり、ありがたく使わせていただく。小屋を使った人が拾い集めておいたのだろう。いつの間にか外は嵐だ。雨と風が激しく小屋を揺すっている。パーティは私たちだけなので誰にも気兼ねがいらない。夕食後は一人ずつ、自分の思っていることや抱負など熱く語り合った。



避難小屋近くのブナの原生林

7 月 2 日（日）　小雨のち曇り

4 時に起きると、雨はしだいにあがる気配。めいめいに朝食をすませ、雨具を着てサブザックで出発。そうこうしているうちに雨があがってきた。小屋を出て右手へいきなりの急登。林を抜けると、眼前にいよいよのご登場だ。しかし、そう簡単には登らせてくれない。登山道は雪渓の下と思われる。雪渓はスプーンカッ

ト状だが、浅い上に傾斜がきつくて足を乗せることが出来ない。直登をあきらめて、カニの横歩きの如く雪渓をトラバースし、左手へ回って潅木につかまって岩場へ移る。北壁の斜面一帯が黒っぽい岩だが、雪渓よりははるかに登りやすい。頂上に近い草付きの場所には、たくさんのヒメサユリが咲いていた。なかなか目にすることのできない花。この山にふさわしい花。



山頂近くのヒメサユリ

三等三角点は、やせた頂稜を左手に行った猫の額ほどの一番高いピークにあると思われたが、西側の展望のきく小広い場所にあった。会津朝日岳は、私のなかでははるかに遠い存在であった。今ではこれがいいのか悪いのか、登山道や避難小屋が整備されたお陰で、こうして山頂に立つことが出来たのだ。眼下には雲海が広がり、遠くの名峰たちがその上に顔を出している。皆は山座同定に忙しい。

下りも気が抜けない。雪渓を避けてヤブの中を迂回したが、泥んこの深みにはまったり、倒木に足をとられたりで思うように歩けない。ようやく登山道に出て小屋に戻る。

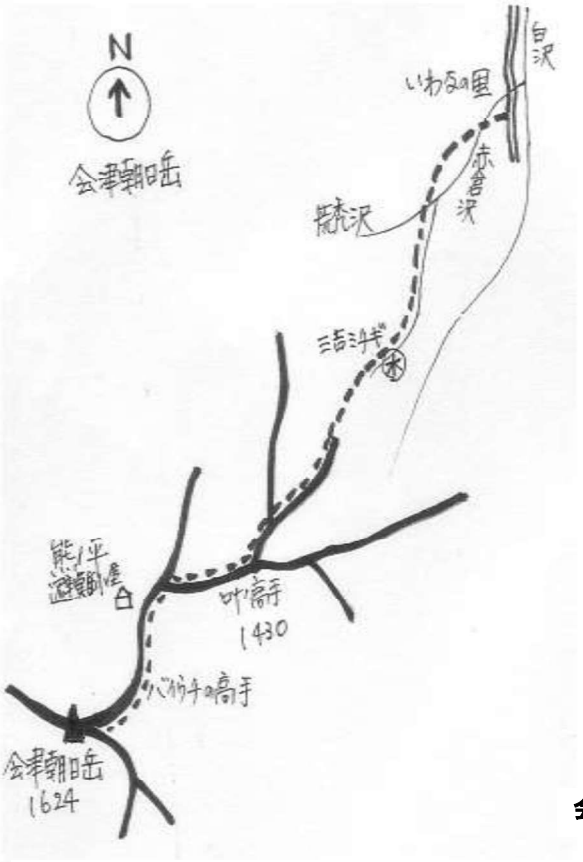
30 分ほどでザックを整理し、小屋を片付けて外へ出る。この小屋は、那須連峰甲子山の坊主沼避難小屋の造りと全く同じだ。小屋の前で記念写真を撮って下山にかかる。途中、これから登っていく二つのパーティとすれ違った。

三吉ミチギでまた一服。赤倉沢の残雪が、昨夜の雨でかなり消えたように感じた。11 時過ぎ、静まり返った「いわなの里」をあとにする。

概　　要

山名	会津朝日岳		
月日	平成 18 年 7 月 1 日（土）～2 日（日）		
形式	避難小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
山域	南会津	地形図 1/2.5 万	会津朝日岳・ 会津小林・城 郭朝日山
目的	① 創立 10 周年を迎え、当会発祥の地を訪ねる。 ② 広大なブナの原生林に浸る。 ③ ひめさゆりに遭うこと。		
費用	11，000 円	交通機関	レンタカー 5 人乗り 2 台
日程コース 一日目	我孫子駅北口 5:40→柏ＩＣ→佐野ＳＡ 7:00/7:20→西那須野・塩原ＩＣ→会津田島→289 号線黒谷川萬歳橋 10:20→いわなの里駐車場 10:40/11:00⇒三吉ミチギ 12:07/12:15⇒人見の松 13:15⇒叶の高手 14:15⇒朝日岳避難小屋着 14:30 (曇のち雨)＜行動時間：3 時間 30 分＞		
日程コース 二日目	朝日岳避難小屋 5:10⇒バイウチの高手⇒小幽沢カッチ⇒会津朝日岳 6:15/6:35⇒朝日岳避難小屋 7:15/7:55⇒叶の高手 8:35/8:40⇒人見の松 8:55⇒三吉ミチギ 9:30/9:35⇒駐車場 10:30/11：08→深沢温泉湯ら里 11:25/12:45→今市ＩＣ→宇都宮ＩＣ→佐野ＳＡ15:55/16:08→柏ＩＣ17:00 柏レンタカー会社着 17:35 (小雨のち曇)＜行動時間:5 時間 20 分＞		
ルート状況	・ 赤倉沢対岸には、まだ広大な雪が残っている。 ・ 橋のない沢を石を伝って 2～3 回渡り返すが、水量が多いときは靴を脱いで渡ることになるかも。 ・ 三吉ミチギの水場で山行に必要な水を確保するとよい。冷たくて最高に美味いし、水量も多い。 ・ 会津朝日岳山頂直下の登山道は、まだ雪の下。浅いスプーンカット状の勾配のきつい直登はかなり危険。トラバースに時間がかかる。		
参加者	外崎(L)、村松(SL)、柴、武内、原田和佐藤明、岡田、田村 男４名　女４名　計８名		

概念図





山頂に続く雪渓を登る

会津朝日岳山頂にて



＜４９３＞

樽前山　・　恵庭岳　・
（１０４１m）　（１３２０m）
羊蹄山　・　ニセコアンヌプリ
（１８９３m）　（１３０８m）

大串秀雄

道央の名山は花の名山だった

１日目

曇り空の羽田空港を飛び立つ。津軽海峡を越えたあたりから雲が切れ始め、真下には函館の恵山が噴煙を揚げていた。千歳空港着陸直前には、樽前山、恵庭岳、羊蹄山をはっきりと確認できた。

われわれ一行を乗せた２台のタクシーは、新緑の千歳川沿いを遡る。木漏れ日が眩しかった。７合目ヒュッテ登山口の駐車場で下車し、１０分ほど登った展望台で準備体操。眼下に支笏湖、眼前に新緑の風不死岳、その右に恵庭岳が僅かに顔を覗かせている。稜線上の分岐までは、イソツツジの群落、固有種のタルマエソウを楽しみながら、緩やかな傾斜の登山道を一登り。

大草原状の稜線に出ると、一気に視界が広がる。東山から西山にかけての全登山ルートを一望できる。真ん前には巨大な溶岩ドームが横たわる。１２０年ほど前の噴火時に、せり上がってできたらしい。遥かに、苫小牧の街並みが点在し、太平洋の大海原が光っていた。３６０度の展望に満足しながら、先ずは腹ごしらえ。

東山山頂からは、支笏湖畔に聳え立つ恵庭岳、その奥に、沢筋の残雪が光る蝦夷富士、羊蹄山…道央全山を一望。手賀沼の１０数倍も広い支笏湖が、風不死岳･恵庭岳･紋別岳など１０００m級の山々に囲まれ、小さな湖沼のように見えた。

溶岩ドームの真白な噴煙を横目に、西山まで往復。硫黄臭の漂う、火山礫の稜線に、なぜか白花のコマクサが数株。

昼食を摂った分岐を右折し、正面に支笏湖を見下ろしながら軽快に下る。７合目ヒュッテ駐車場で、タクシーと旅館車に分乗し、今夜の宿、いとう温泉旅館へ向かう。

文字どおりの湖畔の一軒宿。宿の直ぐ脇から源泉が湧き出している。先ずは露天風呂に飛び込む(本当に頭から飛び込んだ仲間も…)。支笏湖の水位に合わせて、温泉の水位もあがるので、湯船の深さは１mほど。立ったままで入浴したり、童心に戻って泳ぎまわったり…。露天風呂脇の岩を跨げば、支笏湖の水辺。温まり過ぎた足先にも、雪融けの水は冷たすぎた。湖畔の秘湯から、暮れ行く支笏湖と風不死岳を眺めながら、明日に備える。

２日目

キャンプ場のあるポロピナイ登山口まで、旅館車で送ってもらう。誰もいない。熊除けの鈴を付けて出発。樹林の中の登山道では、一昨年の台風直撃による倒木がやけに目に付く。一方、札幌オリンピックの滑降コースは樹林が復原し跡形もないとのこと。当時、この自然破壊は社会問題化したが、今では、全て自然の力で問題が解消されていて、嬉しい限り。３合目で朝食。上空は青空ながら、樹林に漂うのは朝霧か山霧か。山頂での展望が気になる。花の散り終えたツバメオモトの大群落が恨めしい。

樹林の中の登山道。厳しい上り道が続く。６合目を過ぎると一段と傾斜がきつくなる。上りルートと下りルートの分岐点に出る。相当に急な傾斜で、両手両足だけではとても無理。固定ロープを慎重に手繰りながら、間隔をあけて一人一人慎重に登る。踊り場のない急坂を１０数分、漸く合流点まで登り切る。下りルートの方は緩やかかなあと期待と願望を篭めて視察したところ、垂直に下降するかのようなルートを目の当りにし、一段と気が引き締まる思い。

快調なペースで７合目見晴台に出る。縦に裂けたような火口からは噴煙が立ち昇る。溶岩流跡の下方には支笏湖。冷風が強いため、慎重に岩稜を通過した岩陰で一本とした。脇には、「この先は一段と厳しいので要注意」との看板が掲示されていた。しかし、大した事はなく、一気に第２見晴台に到着。この先は登山道崩落(跡形もなかった)で立入禁止。溶岩塔の山頂が目の前に屹立していたが、登山道があっても登ることは無理なように思えた。順調な足並みで早すぎる。見晴台は風道に外れ、寒さも然程ではないので、ゆっくりと時間をとり展望を楽しむことにした。



恵庭岳山頂（第２見晴台で）

第２見晴台から７合目まで下る。風も収まり、展望を楽しみながら、急なロープ場下りに備える。見た目よりは楽に感じたが、やはり急下降路には間違いない。お互いに声を掛け合いながら、一人一人慎重に下り切り、合流点で一呼吸。長いロープと固定した木の根や岩角に支点を置き、１０数分を要しての下降。二の腕が疲労で痛いように感じられた。

予定より１時間以上早い。幸い、携帯電話が通じたので旅館車の迎えを繰上げ、支笏湖温泉駐車場まで送ってもらう。予約タクシーを待ちながら適宜、支笏湖湖畔を散策。対岸に聳える恵庭岳には薄霧がかかり、その雄姿を仰ぎ見ることはできなかった。

北湯沢温泉までタクシーで移動。道すがら、苔の洞門に立寄る。マタタビの白花・ツルアジサイが新緑に絡んで美しい。洞門から先は水害で立入禁止となっているため、ここからの樽前山への登山道は閉鎖中。観光客であれば約１時間ほどかかるところを、われわれは３０分で戻ったため、タクシーのドライバーが吃驚していた。

「北海道の安宿」の看板が目立つ温泉民宿たかはしは、１００％天然温泉にゲルマニュウム効果を加えた秘湯の宿。換気が今ひとつだったこともあり、発汗の効用は抜群。温まり過ぎて、長時間、夜風で涼んでも火照りが抜けないほどだった。口数の多い仲間の一人も閉口するほどに、おしゃべり好きの主人と女将。人情味豊かで温かな人柄を感じさせる、素朴な宿だった。

３日目

予定時刻に旅館車が遠路はるばる迎えに来てくれた。今夜の宿、蘭越町直営国民宿舎の車両は同町所有の大型バスで、ドライバーも町役場の職員とか。あたり一面が霧に覆われ、山々は見えない。昭和新山下の駐車場でいったん下車。昭和新山の荒々しい山肌も霧に覆われ迫力がない。有珠山は陰も形もない。洞爺湖湖畔に出る。目の前に大きく聳えているはずの羊蹄山は、真白な霧の彼方だ。真狩あたりまで来ると、漸く羊蹄山の山麓が見えだした。ここで、細川たかし像と演歌の二重唱を楽しんでから、反時計周りに羊蹄山山麓を一周。東側山麓の京極では、湧き出た羊蹄山の伏流水で乾杯。時折顔を出し始めた羊蹄山に、一同、歓声をあげる。北側山麓からは、遂に、羊蹄山の雄姿を仰ぎ見ることができた。正面に構えるニセコアンヌプリも見事な山容だった。

今夜の湯宿、湯元温泉国民宿舎雪秩父で一旦下車し、昼食。再び旅館車に乗り、玄関前の秩父宮記念碑脇を通って、神仙沼に向かう。山の静かな湿原は、偶々、修学旅行中の札幌の小学生で賑わっていた。子供達の挨拶が実に清々しい。しかし、木道を下り、ミツガシワの咲く湿原に足を踏み入れている教師（か、お抱えの写真屋か）が一人。足跡から湿原が荒廃し始めることを、子供達にどう教えるのだろうか。

旅館駐車場に帰着。直ぐ脇の大湯沼からは、硫黄臭を発散しながら、源泉の湯気がモウモウと立ち昇っていた。早速、露天風呂へ。豊富な温泉で、内風呂２つ、露天風呂５つを湯巡りするだけでも１時間。女性風呂からは、賑やかにドロパックを楽しむ仲間の嬌声？が…。今日もまた、心地良い湯疲れで、快食快眠。

４日目

山宿の周辺は霧。濃霧注意報が出、夕刻からは雨予報。雨だけは御免蒙りたい。全員で協議し、歩行時間は若干長くなるが、整備状況が良く、花畑もある真狩ルートに変更。今朝もまた、旅館車で真狩登山口に向かう。昨朝と同様、中腹から上はガスがかかり、登山口からは何も見えない。登山者名簿に記帳してから出発。暫くは雨の心配はなさそうだ。標高差１５００ｍ、展望のない登山道をひたすら登る。ただ、恵庭岳よりはずっと整備され歩きやすい。標識も完備され、現在、どの位置にいるかが直ぐ分かる。５合目を過ぎたあたりから、ガスが切れ始めた。下界は雲海で何も見えないが、山頂に向かって広がる新緑の樹林と、白雲の間に間に、真っ青な夏空が

見え始めた。取敢えず雨の心配は遠退き一安心。
７合目付近では絶好の登山日和を確信でき、気分昂揚。ニセコアンヌプリが大きい。下界の真狩村の田園風景も徐々に見えてきた。
９合目付近の花畑を横切り、立派な有人避難小屋を横目に、山頂方面へ直進。火口壁のコルに出たところで一服。望外の大展望に、一同大感激。正面に聳えるニセコアンヌプリ全容をバックに、先ずは記念撮影。
底部に雪を残した巨大なお釜（父釜）を左下に臨みながら、大火口壁を巡る。南東部の痩せた岩稜の火口壁ピークで小休止。眼下に洞爺湖が広がり、雲海の向こうに、樽前山の溶岩ドームが見える。更に岩場を東に回り込み、喜茂別コース分岐を過ぎれば、直上が山頂（１８９８ｍの最高峰とその先５分ほどで三角点のある山頂）。大休止しながら、恵庭岳の２つに割れた溶岩塔を確認。その左方には札幌近郊の山々が連なっていた。京極コース分岐を通過。北側火口壁の稜線ルートは火山礫の草原のようで心地良い。真正面にニセコ連峰、その右方には雷電海岸から積丹半島、更に明るいグレーの日本海が…。泊原発の白い建物も小さく見える。独立峰ならではの大展望を、ゆっくり時間をとって満喫した。
大火口壁をほぼ一周し、避難小屋との分岐を右折。大小３つのクレーター（お釜）に別れを告げ、倶知安コースに入る。ここから暫くは、天然記念物、後方（シリベシ）高山植物帯の花畑真っ只中。見事なお花畑には、満開のシラネアオイ、エゾノツガザクラ…しばしば仲間の歩みが止まる。雨の心配は全くない。再び訪れることがないであろう、北海道の花の名山を悠々と楽しむことにした。
ハイマツのトンネルを抜けてから、ダケカンバやエゾマツ・トドマツの樹林の中を、辟易するほど下る。それにしても、標高差１５００ｍを超える下りは長すぎる。数回の休憩をとって、漸く駐車場に到着…と思いきや、大型バスは下の駐車場とか。更に１５分ほどの車道下りが、思いのほかきつかった。
半月湖下山口から旅館車に乗り、無事帰館。湯宿周辺の山々には薄霧が立ち込めていたが、上空は青空。明日のニセコアンヌプリを楽しみに、かけ流し温泉の露天風呂で、１０時間山行の汗を流した。夕闇の空を仰ぎながら、木枕付の仰向けに浸れる泥湯でリラックス、リラックス…。
心身を癒した後、部屋に戻りテレビで天気予報を確認したところ、なんと全道傘マーク。最悪の予報に愕然。夕食後に全員で協議し、ニセコアンヌプリ縦走を断念する。直ちに明日の計画を練り直した。

５日目
早朝４時半、露天風呂で朝湯を楽しむ。空は明るく、南の空は薄雲の間に青いものが見えている。急遽、昨夜の決定事項を“暮令朝改”。５時、各部屋に、ニセコアンヌプリ縦走を予定どおり行うことを触れ回った。７時朝食。窓辺に座った仲間が「あれ雨だ」という。少し前から降り始めたようだ。明るかった空も徐々に雨雲が広がり、雨脚も強くなってきた。ここで再度“朝令朝改”。ニセコアンヌプリ山行は日を改めることにし、余儀なく正式に断念した。
暫し朝寝を楽しんだ後、旅館車を乗り継ぎ、羊蹄山山頂から見下ろした岩内雷電海岸方面へ観光に出かける。迎えの旅館車に乗り込み、小雨煙る中、岩内漁港から泊原発とまりん館、共和町立かかし古里館を観光。最先端の原子力発電所や昔懐かしい校舎などを見学してから、今山行最後の宿、ワイス温泉ワイス荘に到着。昼食は亭主推奨のラーメンに舌鼓。庭先に涌き出す、澄み切った清流のような源泉で、先ず一風呂。ここもまた、世間には無名の名湯だった。

最終日
最後の朝湯を楽しんでから朝食。旅館車で余市まで送ってもらう。ニッカ蒸留所では飲み放題のモルトで喉を潤し、小樽祝津港では豪快な浜料理で腹を満たしてから、山旅の締めくくりの小樽観光に出かけた次第。
樽前山・恵庭岳・羊蹄山では、絶好の登山日和に恵まれ、また全員の足が揃ったことから、時間をたっぷりとって、北海道の大展望を堪能した。ニセコアンヌプリは雨天のため断念したが、比較的容易に登れる山なので、紅葉の時期にでも訪れてみたいもの。
～後日談ながら、この山行の２ヶ月後の９月２５日～２７日、ジパング年齢に達した仲間１５名とともにニセコを再訪した。初秋のニセコアンヌプリはまずまずの登山日和。紅葉の始まった縦走路からは、雄大に聳え立つ羊蹄山や大きく広がるニセコ連山を眺望。２ヶ

月前と同じ湯宿“雪秩父”に宿泊。ジパング会員限定の格安ＪＲ切符で函館まで、さらにニセコまでは湯宿の遠距離送迎サービスを利用。往復のバス車窓からも、噴火湾の大海原越しに聳える羊蹄山・ニセコ連峰の大展望を満喫。一応願いは叶ったものの、都合により２回目のニセコアンヌプリ山行に参加されなかった数名の仲間には、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。さて、脇道から本道に戻そう。～

花々は今が最盛期。特に、羊蹄山の後志（シリベシ）高山植物帯では、真っ盛りの花畑を悠々と楽しめた。道央の山々の花畑は、雪のなくなるこの時期が最適のようだ。

今回の山旅はまた、秘湯巡りの旅でもあった。一軒宿の温泉宿は、４軒とも宿脇の源泉井から直接流れ込む１００％天然温泉の湯宿。北アルプスの山小屋より若干割高ないとう温泉旅館を除けば、その他の３軒は２食付６千円前後の格安宿。北海道の大地大自然と、そこに住む人情豊かな人々、そこに涌く名湯のおかげか、１１人の気持ちが揃い、思い出に残る５泊６日の山旅になった。と同時に、加齢には逆らえず、今回をもって５泊６日の北海道花山行も一段落…と感じているのは、小生だけではなさそうだった。

恵庭岳



概　　要

山名	樽前山・恵庭岳・羊蹄山・ニセコアンヌプリ		
月日	平成１８年７月２日（日）～７日（金）		
形式	山麓旅館泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｂ
山域	北海道	地形図 1/2.5 万	樽前山・風不死岳・恵庭岳・羊蹄山・倶知安・ニセコアンヌプリ
目的	①北海道へ花山行（４回目）…春夏の花々が一斉に咲き競うお花畑。 ②道央の高峰に登る…３６０度の大展望。		
費用	約６４千円	交通機関	航空機・タクシー・旅館車・バス・ＪＲ・モノレール

日程コース	一日目	我孫子駅 5:30→上野駅 6:04/6:11→浜松町駅 6:24/6:30→羽田空港 6:47/7:55→（ＳＫＹ７０５便）→千歳空港 9:30/9:50→（タクシー）→７合目ヒュッテ登山口 10:40/10:55⇒展望台 11:05/11:15⇒東山西山分岐 11:45/12:05（昼食）⇒樽前山東山 12:10/12:15⇒奥宮 12:30⇒樽前山西山 13:00/13:05⇒奥宮 13:25/13:30⇒東山西山分岐 13:50⇒７合目ヒュッテ登山口 14:15/14:20→（タクシー＋旅館車）→いとう温泉 いとう温泉旅館 15:00（泊） ＜晴れ歩行時間（休憩を含む）：３時間２０分＞
	二日目	宿舎 5:30→（旅館車）→ポロピナイ登山口 5:40/5:45⇒３合目（朝食）6:20/6:40⇒上り道下り道分岐点 7:50⇒同合流点 8:00⇒７合目見晴台 8:10⇒８合目 8:25⇒恵庭岳（第２見晴台）8:50/9:00⇒７合目見晴台 9:35/9:40⇒上り道下り道分岐点 9:50⇒同合流点 10:00/10:10⇒５合目 10:40⇒３合目（昼食）11:15/11:35⇒ポロピナイ登山口 12:05/12:30→（旅館車）→支笏湖温泉駐車場（湖畔散策）12:45/14:55→（タクシー）→苔の洞門（散策）15:05/15:35→（タクシー）→北湯沢温泉　温泉民宿たかはし 16:45（泊） ＜うす曇りのち晴れ　歩行時間（休憩を含む）：６時間５０分＞
	三日目	宿舎 8:50→（旅館車）→昭和新山・洞爺湖・真狩・京極（観光）／国民宿舎雪秩父（昼食）→（旅館車）→神仙沼駐車場 14:00⇒神仙沼 14:20/14:30⇒同駐車場 14:50→（旅館車）→湯元温泉 国民宿舎雪秩父 15:05（泊）　＜うす曇りのち晴れ　歩行時間：５０分＞
	四日目	宿舎 5:25→（旅館車）→真狩キャンプ場 5:55/6:05⇒登山口 6:10⇒２合目 6:50/6:55⇒４合目 7:35⇒６合目 8:35/8:45⇒７合目 9:10/9:15⇒避難小屋分岐（真狩コース９合目）10:00⇒９合目コル 10:05/10:15⇒お鉢巡りルート分岐 10:35/10:45⇒小岩峰（昼食）11:15/11:30⇒喜茂別コース分岐 11:45⇒羊蹄山（最高地点）11:50/12:00⇒羊蹄山（三角点）12:10⇒京極コース分岐 12:25⇒北山 12:50⇒避難小屋分岐（倶知安コース９合目）12:55⇒６合目 14:00/14:05⇒４合目 14:45/14:50⇒２合目 15:25⇒登山口 16:05⇒半月湖駐車場 16:20→（旅館車）→湯元温泉 国民宿舎雪秩父 17:00（泊） ＜うす曇りのち晴れ　歩行時間（休憩を含む）：１０時間１５分＞

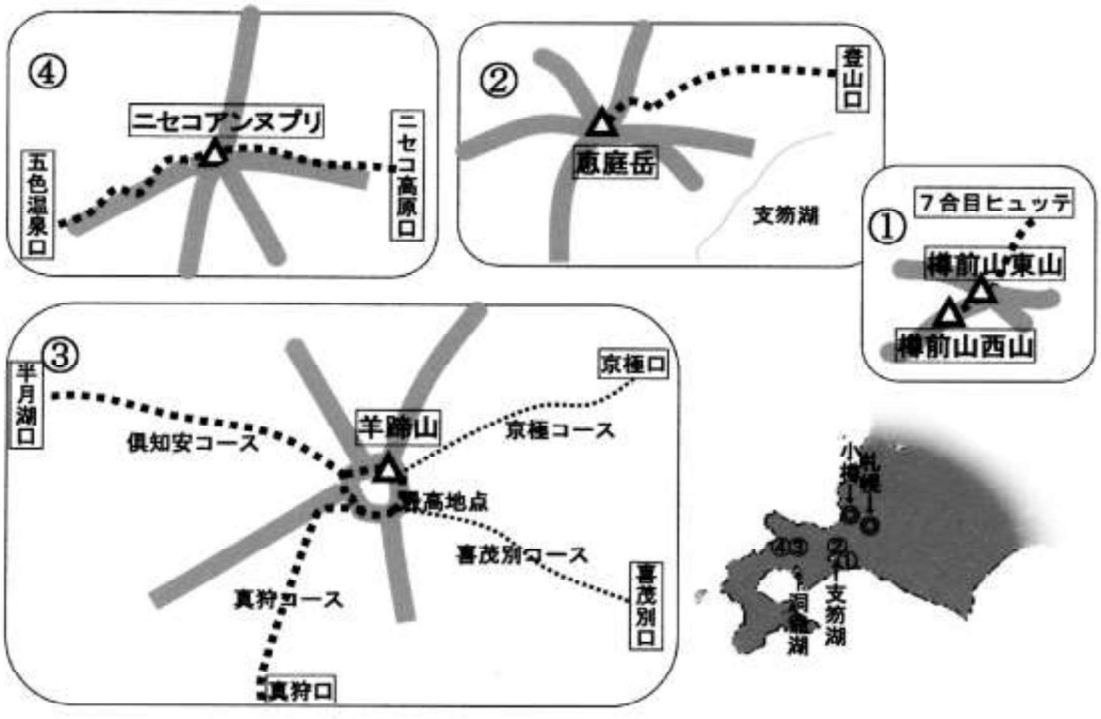
	5日目	宿舎 9:55→(旅館車)→比羅夫温泉駐車場 10:10/10:20→(旅館車)→岩内漁港・泊原子力発電所とまりん館・共和町立かかし古里館(観光)→(旅館車)→ワイス温泉 ワイス荘 13:30(昼食　泊) ＜小雨のち曇り　歩行時間なし＞
	6日目	宿舎 8:30→(旅館車)→余市駅前バス停(ニッカ蒸留所見学)9:20/10:48→(中央バス)→小樽駅 11:28/11:40→(中央バス)→祝津(昼食／ニシン御殿観光)12:05/13:50→(中央バス)→小樽駅(運河ほか市内観光)14:15/16:34→(ＪR)→千歳空港(夕食)17:46/19:50→(ＳKＹ７２６便→羽田空港 21:40→我孫子駅 23:30 ＜うす曇り　歩行時間なし＞
ルート状況		①樽前山(東山・西山)…整備状況は問題ない。標識設置状況も良好。 ②恵庭岳… 第２展望台から先は、登山道崩落のため立入禁止(当面、再開は不可能か)。７合目展望台近くの長い急坂は、上り道と下り道に分かれ、夫々ロープが備付けられているものの、通過に１０分以上を要するほどの難路。

ルート状況	③羊蹄山(真狩コース・倶知安コース)…整備状況良好。標識も確りと設置されている。 沢や山腹の吹溜りには雪が残っていたが、登山道には皆無だった。 お鉢巡りルート東側部分は岩稜帯ながら、慎重に対応すれば特に危険はない。
参加者	大串秀(全般Ｌ)、 斎藤(全般 SL)、日下(山行Ｌ)、細野清(山行 SL)、細野省、柴田、大串恵、小黒、榊原、原田君、増田 男４名　女７名　計１１名



噴煙の上がる溶岩ドーム
（樽前山西山より）

概念図



＜ ４ ９ ４ ＞

北　岳

（３１９２ｍ）

原田和昭

第一日目　広河原から白根御池小屋へ

予定時間より 30 分遅れで広河原に到着。昼食を済ませて登山開始。野呂川に架かる吊橋を渡り、広河原山荘の横から登山道に入る。ゆっくりと登って行くと二俣への分岐に着く。ここから右側の急登を登る。樹林帯の中なので暑さは凌げる。平日なので他の登山者は少なく静かな登山である。

第一ベンチ付近になると木製のハシゴが出て来る。３～４段のハシゴから 10 数段のハシゴ迄が連続してある。第二ベンチで休憩していた登山者が、重い荷物を背負っていたので話し掛けると、今夜泊まる小屋の従業員達でした。私達が食べる食材等をポッカしていた。ご苦労様ですとお礼を述べて先に登る。

急登が終って大きく円弧を描きながら登ると右前方から落ちて来る沢を渡る。この沢を越えると今日の目的地の小屋は近い。前回、宿泊した白根御池小屋は豪雪で倒壊し、仮設小屋で営業をしていた。今回、小屋に到着して驚いた。昔の面影は無く、小屋全体の敷地は広く整地され、新しく大きな小屋が建てられていた。新しい小屋は昨年 10 月に完成したが、本格的に使用するのは、今年 6 月からである。実質的に登山者が来るようになったのは 7 月からで、多くの登山者が一度に宿泊するのは我がパーティが始めてである。

新しい小屋は木の香りが芳しく、窓は大きくて部屋は明るい。設備も完備している。特に、トイレは都心のホテル並みで気分爽快である。平日のため登山者が少なく、10 畳の部屋２間を連続して利用出来たので、ゆっくりと利用出来た。寝具も新品で、偶然にこんな幸運に恵まれたことに感謝しながら気持ち良く寝た。

第二日目　白根御池小屋から北岳へ

4 時起床。天候は曇りで雨の心配はなさそうだ。頂上付近はガスに覆われて前途は暗い。一番に朝食を済ませて登山開始。白根御池を左に見ながら直進すると草すべりの急坂に入る。今回のコースで最大の急登が連続する難所である。途中、草原状の草すべりに咲いた満開の花達に慰められ、休憩を繰り返し急登に挑戦する。小屋を出てから約３時間で小太郎尾根まで登る。ここまで来ると甲斐駒ケ岳や仙丈ケ岳の山が間近に望めるはずが、3000ｍ級の山々の頂上付近はガスに覆われて、その雄姿は見ることが出来ないのが残念である。

ここからは、ガレ状の尾根と岩稜の道が続く。約 40 分程で北ノ肩小屋に着く。小屋の主人が丹精こめて育てているキタダケソウが、小屋から少し下がった場所に咲いていた。自然の状態で幻の花キタダケソウを見ることが出来て感動する。花の形はハクサンイチゲの花に良く似ているが、葉の状態が異なっている。今回の日程が遅れていたらこの花に会うことが出来ないと思う。目的の花に出会えた喜びは最高である。



幻の名花キタダケソウ

肩ノ小屋からは岩場の連続である。足元には可憐な小さな花達が咲いている。3000ｍを越えた頃に、仲間の一人が息苦しくなったので酸素吸入をしながらゆっくりと登る。北岳の頂上には他の登山者はいない、私達のメンバーだけで展望を楽しむが、残念ながら山の頂上付近はガスが掛かっていた。

今夜泊まる北岳山荘に向かって下山する。北岳南東斜面一帯は花の宝庫である。赤、白、黄色の花達が百花繚乱で楽しませて呉れる。谷底から冷たい風が吹き上げて来る。慎重の上に慎重を重ねながらゆっくりと下り、昼前に北岳山荘に到着する。小屋の部屋を借りて

昼食をする。午後は自由時間にしたので小屋で休む人と中白根山まで散策する人に分かれた。中白根山までは片道約１時間のコースで、頂上付近ではお花畑が楽しませてくれた。

第三日目　**快晴のパノラマ**

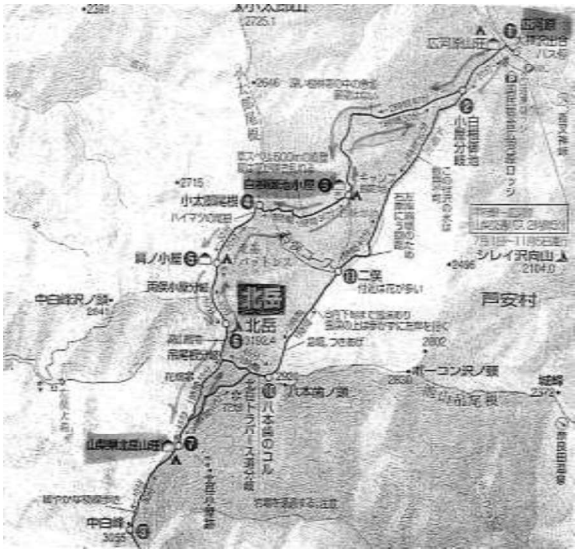
夜明けと共に起床して外に出る。真青な空の中に東の方向に富士山や間ノ岳の雄大な姿が映し出されている。甲斐駒ケ岳頂上付近から登って来る太陽の光に照らされて山並みが赤く染まって行く、感動の一瞬である。昨日までの天候とは一変して快晴の空、日の出の美しさを心行くまで楽しむことが出来た。

朝食後は、風景やお花を楽しみながら慎重に登ること１時間で北岳頂上に到着する。富士山に次いで二番目に高い北岳頂上から360度のパノラマを楽しむ。

頂上展望を満喫してから高度差 1700ｍを下り始める。連続する岩稜帯を慎重に下り肩ノ小屋で小休止をする。再度、キタダケソウと黒ユリの花を見る。その後は、小太郎尾根から草すべりの花畑をとおり白根御池小屋でコーヒータイムを楽しむ。広河原までの高度1700ｍを全員無事に予定時間で下山する。

バスで芦安温泉まで来て三日間の汗を流す、全員が無事に下山出来た喜びを感じながら帰路に着く。参加した会員の協力に感謝します。

概念図



概　　要

山名	北岳		
月日	平成 18 年 7 月 13 日(木)～15 日(土)		
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
山域	南アルプス	地形図 1/2.5 万	仙丈ケ岳、鳳凰山
目的	北岳の花達との出会いを楽しむ。 特に、キタダケソウの花を見る。		
費用	27,000　円 (懇親会費用含)	交通機関	ＪＲ・バス、タクシー

日程コース		
	一日目	我孫子駅集合 5:30 発→日暮里駅→新宿駅 7:00（スーパーあずさ１号)→甲府駅 8:30/9:30→(快速バス)→広河原バス駐車場着 11:40　(昼食と登山準備)登山開始 12:10⇒二俣への分岐 12:37⇒休憩 12:48/12:53⇒休憩(あと半分のベンチ有り)13:15/13:20⇒休憩(二番目のベンチ有り)13:50/13:55⇒休憩(地すべり箇所)14:25/14:30⇒沢を渡る 14:35⇒白根御池小屋着 14:50　(宿泊手続き後、お茶パーテイ) 行動時間２時間 40 分　内、歩行時間２時間 20 分、休憩時間 20 分
	二日目	白根御池小屋発 5:35⇒休憩(１回目)6:05/6:10⇒休憩(２回目)6:35/6:40⇒休憩(３回目)7:15/7:25⇒二俣への分岐 7:30⇒小太郎尾根に出る 7:55/8:05⇒北ノ肩小屋 8:45/9:05⇒両俣小屋への分岐 9:25⇒北岳頂上 10:00/10:30⇒八本歯のコルへの分岐 10:55⇒八本歯コルへの分岐 11:20⇒北岳山荘着 11:45(宿泊手続きと昼食)山荘発 13:10⇒中白根山 13:53/14:00⇒北岳山荘着 14:30 行動時間７時間 30 分　内、歩行時間 6 時間 05 分、休憩時間１時間 25 分
	三日目	北岳山荘発 5:40⇒八本歯コルへの分岐 6:10⇒休憩 6:17/6:22⇒八本歯コルへの分岐 6:42⇒北岳頂上 7:10/7:25⇒両俣小屋への分岐 7:48⇒肩ノ小屋 8:00/8:10⇒小太郎尾根 8:33/8:38⇒二俣への分岐 8:50⇒休憩 9:10/9:15⇒白根御池小屋 10:05/10:45(コーヒータイム)⇒休憩(ベンチ有り)11:23/11:28⇒あと半分のベンチ 11:53⇒休憩 12:15/12:25⇒広河原バス停着 13:00 行動時間 7 時間 20 分　内、歩行時間 5 時間 45 分、休憩時間１時間 35 分

ルート状況	＊広河原から白根御池小屋までの高低さ約 700m、第一ベンチから第二ベンチの上までに十数か所のハシゴが集中している。大木の根が張り出していて歩きにくい。 ＊白根御池小屋から小太郎尾根までは最大の急勾配である。粘土質のすべり易い場所とガレ場の場所も有って歩き難い。 ＊小太郎尾根に出ると前面が大きく開けて、3000m 級の山並みが望まれる。ここからはガレ場と岩場に変わる。肩ノ小屋から北岳頂上までは岩稜地帯になり最後の急登になる。岩場にはペンキマークは少なく注意が必要。 ＊北岳山頂から北岳山荘までは岩稜帯とガレ場の急坂ですべり易い。
参加者	原田和（L）、榊原(SL)、柴田、大串恵、大串秀、中野、山本、桐生、原田君、本間、 男 2 名　女 8 名　計 10 名



間ノ岳と北岳山荘（〇内）



千丈ヶ岳をバックにして北岳山頂にて

＜４９５＞

大　岳　山

（１２６６ｍ）

千葉有子

７月中旬の日曜日、急に体が空いて、「さあ山に行きたいなあ」。一人で行くのは心細いし、と『やまたん』を見るとあった！　中村さんの大岳山の計画が。早速電話して、ドタサン（土壇場参加）を申し込むと、「いいけど､雨で中止かもしれないよ」と言われた。

案の定、当日は朝から曇り時々小雨、とあまり好ましくない空模様。「そのうち晴れるよ」と、あくまで楽天的なメンバーがうち揃って鳩ノ巣の駅に降り立った。河原のキャンプ場を下に見て橋を渡り、目標の城山へのヤブ道の口を探していたところ､「熊が出るよ」と地元の人。計画を急遽変更して一般ルートをとり、大楢峠へ向かった。

雨具をつけるほどでもなく､しっとりとした平坦な道を、少しずつ高度を上げていく。左のはるか下の越沢（こいざわと読むけど、恋沢じゃなくてちょっと残念）沿いにもキャンプ場がある様子だ。大楢峠に着きコナラの巨木に感心していると､高校生のパーティーが上がってくる。山で若者の一団に会うのは結構稀だ。熊に遭うより珍しいかも。彼らは大楢峠から直接御岳山への道をとった。

一方我々は峠から一旦林道を下り､東屋と駐車場のある梅沢園地に。ここで雨具とスパッツを着けた。海沢探勝路は三つ釜の滝、ネジレの滝､大滝を見るために訪れる人も多い。しかし先の行程の長さを考え､案内札を横目に見ながら上を目指した。（山なのになんで海沢なんだろう）なんてどうでもいい事を考えながら、一歩一歩を踏みしめる。沢沿いの道は結構な急勾配で､大楢峠までに体力を使った体にはつらい。やっと尾根に出たけれど、ここはまだ天地山から大岳山に続く鋸尾根ではない。枝尾根を右方向にとって 15 分ほどで縦走路に出た。さらに大岳山頂まで 10 分。静かな海沢探勝路と違い、山頂では数パーティーが休憩していた。風が涼しく、雨具の中で蒸された体に心地よい。雨もあがって、雲の切れ間から富士山が顔を見せてくれた。

さあ、下りは長い長い鋸尾根だ。尾根のほぼ半分、鋸山を越えたあたりの休憩時には、怪我の来歴の話で盛り上がる。話が新たな怪我を呼んだわけではないだろうけれど･････。

休憩を終え､歩き始めてすぐに事故は起こった。いや、事故とは思えないほどの軽い転倒。でも手のつき方が悪かったようだ。瞬間、「痛い！　折れた!」とＭさんが声を上げる。本人には､手首の症状ははっきりしていたのかもしれない。でも、外傷もなく、指も支障なく動くのでみんないい方に考え､「大丈夫、捻挫だよ」とＭさんを慰める。薬を塗り、水で濡らしたタオルで患部を冷やし､三角巾で腕を吊り､とにかくゆっくりと下山することに。Ｏさんがかばうように先導して、長い尾根の残りを慎重に下り遂げた。

下山しての受診結果は､やはり骨折していたとのこと。しかも２箇所を折りその後の通院に１ヶ月も要したそうな。事故は下りに、休憩の後に起こりやすい。まさにその通りだった。途中稜線から下方に見えた愛宕神社は、実際よりはるかはるか遠くに感じられた。

概　　要

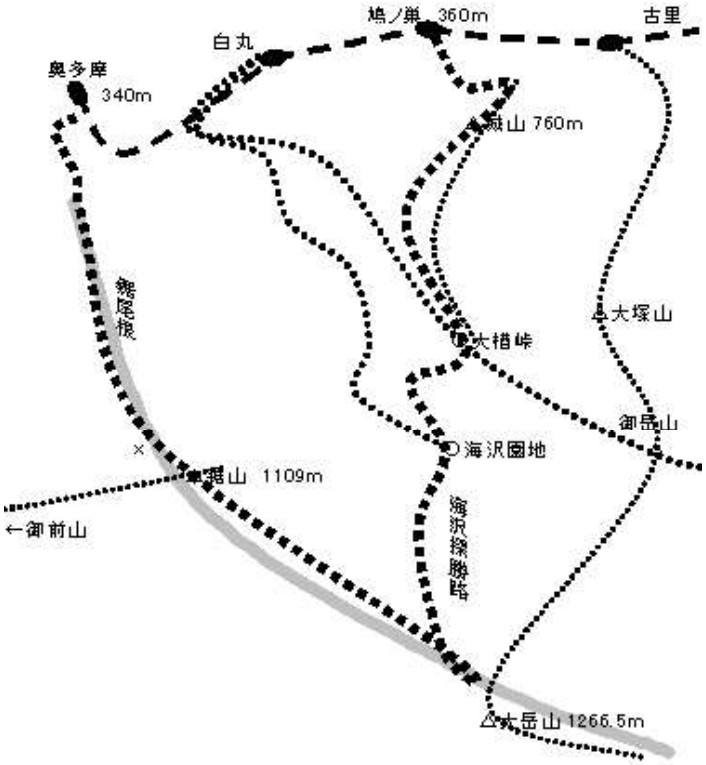
山名	大 岳 山		
月日	平成 18 年 7 月 16 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	武蔵御岳、奥多摩湖
目的	夏山訓練、暑さにめげず		
費用	２３００円 （交通費）	交通機関	ＪＲ
日程コース	我孫子駅千代田線 5:33→新松戸→西国分寺→立川→鳩ノ巣駅 8:18/45⇒バットレスキャンプ場 9:30/35⇒大楢峠 10:00/05⇒海沢園地 10:30⇒海沢探勝路（昼食）11:30/45⇒鋸尾根出合 13:00⇒**大岳山** 13:35/50⇒海沢分岐 14:05⇒鋸山 15:10/20⇒愛宕神社 17:45⇒奥多摩駅 17:50/18:55→立川→西国分寺→新松戸→我孫子 21:40　曇り時々雨		
参加者	中村隆(L)、増田(SL)、小黒、高橋英、中村八、千葉、瀬田 男子 ２名、女子５名、 計７名		



大岳山山頂にて



概念図


鳩ノ巣 360m
古里
白丸
奥多摩
340m
城山 760m
鷹尾根
大塚山
大栃峠
御岳山
海沢園地
鷹山 1109m
←御前山
海沢綜脈路
大岳山 1266.5m

＜４９６＞

草津白根山
（２１７１ｍ）

斉藤清一

こまくさを眺めながら名山を登り
草津の名湯でリラックス！

一昨年の冬のロープウエイ頂上駅付近は強風でロープウエイは運行されず、山麓駅でルート変更を余儀なくされ再挑戦の草津白根山の山行である。

今回も次回と同じく登頂後、麓の温泉街に一泊して名湯に浸り体力回復図る事を計画しての割安山行である。（我孫子駅まで送り迎えで１泊２食付４７００円の宿である）。

一日目（７月３１日）

予定通り１８名の参加者を乗せて我孫子駅北口を６時３０分出発が出来たが草津までは遠距離なので到着時間が気に掛かる。車の渋滞に遭遇しないことを念願しながら！ホテル系列のレストランでトイレ休憩を兼ねてサービスの草津饅頭をほおばる。！

梅雨明けで空模様は心配されたが雨は落ちそうもないむしろ雲が切れて明るくなってきた。バスは交通渋滞に巻き込まれることも無く順調に進んでいる。

運転手はホテルまでは行っているがその先は未だ知らないと言うがはなはだ心もとない。

ホテルの横を登って行くと殺生河原方面である。ここまで来ると予定通りのルートの山行が出来る時間帯である。草津の温泉街を通り抜けロープウエイ山麓駅に予定通りの時刻に到着できた。さすがに風が強いがロープウエイは営業中である。

山麓駅からの白砂山、日光連山が眺望できた。長時間バスに乗っていたので気分的に多少とも高度のゆるやかな登りのコースに計画していたのが良かった！

緩やかな傾斜を１８名が足並みをそろえて登り始めてから約３０分本白根分岐を過ぎて噴火口跡のすり鉢の底を目指して折り始めた。赤茶色のこげた壁には不気味沢あったが「こまくさ」「ヒメシャジン」の赤色と青色の群生に心を奪われる！

一旦最低部へ下って火口跡から這い上がるように登り始めるが「深田久弥」の本に「ローマのコロシアムの城壁を巡り登っているような感じがした。」と書かれていたが、本当のような気がした。

今にも噴火してガスが沸きあがってくるような硫黄の臭いが気に掛かる。そう言えば亜硫酸ガスが今でも噴出している危険な山でもある。

一方花々に導かれ木段を上り詰めた白根山展望台は眺望も良く草津白根山や谷川連山が目に入る。眼下には今登ってきた火口跡が不気味に見える。

本白根山はガスが噴出しているので１８名の人間が通過するのは危険であるのでここで昼食にする。下山は鏡池へ下りて亀甲模様の湖低を眺めることにする。鏡池の下方にある富貴原池まで冬場に登った記憶が蘇った。

鏡池からロープウエイ山頂駅に戻り草津白根山に向かう予定がロープウエイに乗った人は無料シャトルバスが乗車できるとのこと。１５分の短縮である。シャトルバスは夏の間運行中とのこと。白根火山バス停で下車、本白根山は樹林帯であるが、草津白根山活火山なので草木は無く山全体が褐色の肌であちこちでもくもくと煙が上がっている。

湯釜にたどり着くが褐色の山肌の中にエメラルドの湖面が奇妙に美しい！

湯釜の縁で人影が動く調査隊の人らしい火山活動の調査らしい仕事とは言え大変だ！

草津白根山へは登山禁止となっており途中で引き返す。シャトルバスに乗り込みロープウエイで山麓駅に戻る。



湯釜をバックに白根山にて

殺生河原はガスが噴出しているが反対側の山麓駅の付近にヤナギランの群生があるので寄り道をする。一面が赤く群れていた。下山道は石楠花道を下るが残念ながら石楠花の姿は見えずじまいであった。

１６時にホテルに着くが夫々夕飯までに内風呂、ヒノキ風呂、露天風呂で湯に浸かり疲れを取る。夕飯時に一人一合の酒のサービスがあり、夜の草津の「西の河原露天風呂」の入浴割引券がサービスされた。夜の台露天風呂に浸かる。満足　満足！

二日目（８月１日）

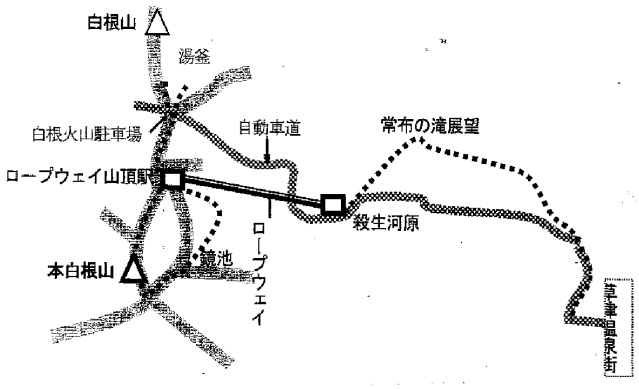
バス出発時間の１２：３０分まで自由時間とする。

朝食後昨夜入浴した「西の河原露天風呂」もう一度行った。千人風呂と言われるだけあって、大きな露天風呂に驚いた。夜は暗闇の中の電灯の明かりによる周囲の様子。手探りの入浴に対し今朝は一転明るさの露天風呂の様子。こんなに大きな露天風呂なのにお湯の温度は快適で、相当なお湯の量と感心する。

街には時間湯が２軒維持されているようだ。時間湯で健康改善された方々は多いとのこと。いつの日にか体験をしてみたい。湯もみの体験をさせてもらったが、草津の文化と思われる。

再度草津へ来て未だ未踏の山々を登りたい。山々に囲まれた湯の町草津である！
予定より１０分ほど早くバスはホテルを後にすることが出来た！

概念図





コマクサ

概　　要

山名	草津白根山			
月日	平成 18 年 7 月 31 日(月)~8 月 1 日（火）			
形式	山麓ﾎﾃﾙ泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A	
山域	上州草津	地形図 1/2.5 千	上野草津	
目的	①　こまくさを眺めながら名山を登る。 ②　草津の名湯でリラックス			
費用	約７４００円	交通機関	ﾎﾃﾙ専用送迎ﾊﾞｽ	
日程コース	一日目	我孫子駅北口 6:30→三芳ＰＡ7:25/7:45→草津レストラン 8:55/9:05→殺生河原 10:20/10:30→ロープウエィ山麓駅 10:40→ロープウエィ山頂駅 10:50/11:00⇒本白根山分岐 11:30⇒本白根展望所 11:45/12:30⇒鏡池 12:50/12:55⇒ロープウエィ山頂駅 13:45/13:55→シャトルバス→白根火山バス停 14:02⇒湯釜 14:17/14:08⇒白根火山バス停 14:18→シャトルバス→ロープウエィ山頂駅 14:25/14:35→ロープウエィ山麓駅 14:45→殺生河原 14:55/15:00⇒石楠花登山道⇒ホテル 16:00（泊） ＜歩行時間：６時間＞		
	二日目	ホテル⇒街散策⇒ホテル 12:20→レストラン 13:10/14:10→三芳ＰＡ15:20/30→我孫子駅北口 16:40 ＜自由時間　３時間＞		
ルート状況	ハイキングコースは整備されているが硫化水素ガスに注意すること。 登山コースは道標がないが笹狩りされ整備されていた。			
参加者	斉藤（L)、大串秀（SL)、 柴田、村松峯、小川洋、 日下、 榊原, 高橋寿、中野、安田、品田、箕輪カ、藤倉、大桃、蜂谷、長木、渡辺、深田 男性３名、女性１５名　計１８名			

＜４９７＞

荒川三山～赤石岳

東岳（3141m）　中岳（3083m）
前岳（3068m）　赤石岳（3120m）

外崎　蓮

なかなか登れない荒川三山だけど、いつの日か、きっと…

8月4日（金）　晴

荒川三山を計画して4度目になる。3回とも台風で流れたので、今回は最も天気が安定すると言われる8月初旬を選んだ。

我孫子駅で5人が集合し、東京駅から新幹線で静岡へ行く。静鉄バス発着所へ移動し、割引の効くカードを買い求めた。車掌が来て、ザックの重さを量るが、全員10キロ以下だ。それ以上だと運賃の半額がかかるらしい。終点の畑薙ダムまで3時間30分もかかるため、途中2ヶ所でトイレ休憩がある。私はこのバスに何回か乗ったことがあって、一つ目の停留所である横沢のおばあちゃんの店で、トマトをまるかじりするのが楽しみであったが、この日は何故か閉まっていた。

畑薙ダムでバスを下りると、大勢の登山者が道にあふれている。これから椹島へ行く人、静岡へ帰る人たちだ。椹島行きのリムジンバスはぎっしりとお客さんを乗せ、乾いた夏道を走る。途中、畑薙ダムに架かる長いつり橋が見えると、車内が急にざわめき出した。私は何年か前にあの橋を渡ったとき、目がくらみそうで湖面を見ないようにした。発電所の手前には聖沢登山口がある。聖岳の帰り、ここへ下山してきて、椹島ロッジまでテクテク歩いたことを思い出す。ロッジ入口のすぐそばから、鉄バシゴを登って行くのが赤石岳コースだ。

椹島ロッジは、広い敷地の中に宿舎が幾棟もある。赤石ダムを建設する際、事務所にしていた建物を宿泊用に改造したものらしい。
広い玄関の中で受付を済ませ、指定された部屋へいく。

椹島は南アルプスの主要な出発地点で、この日も多くの登山者でにぎわっていた。

8月5日（土）　晴

4時半に起きて食堂の前に並び、5時に朝食。その30分後には出発する。ロッジから林道に上がり、滝見橋のたもとから沢のへりに沿って登山道に入る。しばらく急登にあえいで一つ目の林道に出る。この道は、千枚小屋へ荷揚げ用に使われているらしい。林道を右手に少し行き、鉄バシゴを上ってまた登山道に入る。針葉樹が多いせいか林の中が薄暗い。

二つ目の林道を横断してまた黙々と歩を進める。やっと水場の清水平に着き、まずは飲んで、ペットボトルにも詰める。ところが、この水はこの上の通路を流れて、下の水場へ落ちていくことが判明。おいしさがいっぺんに半減した。蕨段を過ぎ、見晴岩と言われるところを通過したが、登山道のまわりにはそれらしきものが見当たらない。

ようやく駒鳥池に到着。広場で休んでいた夫婦が、「きれいな池だから、見てきてごらん」という。樹林に囲まれた小さな池にはほとんど水がなく、そのかわり緑色の藻でビッシリと覆われている。倒木も池の周りも。これを美しいという人がいても不思議はないが、私には……。

千枚小屋の発電機の音がしてきた。息苦しそうにしていた佐々木さんも元気になる。今朝椹島ロッジを出てから7時間、ついに千枚小屋に到着。木の香りが残る二階建ての新しい小屋だ。周囲にはお花畑が広がり、庭先のベンチで大勢の人がくつろいでいる。ヒゲ面の小屋主は、受付の窓口で同じ事を何べんも繰り返すせいか、こちらをバカにしたような言葉づかいが気になった。部屋に荷物を置いて私達も外へ出る。待ってましたとばかり、ビールで乾杯。グリーンのカードをもらった私達は、2回目の夕食のテーブルにつく。

ベランダから正面に、富士山と暮れ行く夕日をながめた。小屋の横から坂道を下った林の中には、7張りほどのテントが張られてあったし、小屋の裏手には別館

が二棟あって、そこにもお客さんが泊まっていた。トイレはバイオで快適である。寝場所は蚕棚の下の段だが、手足を延ばしてゆっくりと寝られた。

8月6日（日）　晴

あたりが騒がしくなり、出発していくグループも多くなって、つられて私も起きだす。このあと、ハプニングが起ころうとは誰も予想していなかった。

それまで気がつかなかったが、まだ薄暗い中で村松さんが腰をかがめて、左側の腰をさすっているのが見えた。「この姿勢が一番楽だ」という。持っていたバンテリンを塗り、シップを貼るが何の効果もない。仕方なく鎮痛剤をあげた。このとき「荷揚げ用の林道を車に乗せてもらって、椹島へ降ろしてもらうように小屋の人に頼んでみる」と村松さんが言い出した。それを聞いていた佐々木さんがいつの間に交渉してきたのか、早速に頼んできてしまったから、サー大変。しかも小屋の車ではなくて消防車だという。びっくりした私は、すぐさま断りに行った。様子をみないうちに、頼むのがあまりにも早過ぎる。「もう消防署に連絡を入れてしまったよ」とのこと。その上、「グループでよく話し合ったのか」とか、「あんたはリーダー失格だ」とまで言われる始末。すっかりしょげ返って、小さな声で「すみません」。そして佐々木さんに向かって、「リーダーは私なのだから、勝手に交渉しないで」と、小屋主と同じ乗りで吐いてしまった。

すったもんだしているうちに、鎮痛剤が効いてきたのか、村松さんは少しずつ歩けるようになってきた。佐々木さんがどのようにして断ったのか、消防車を断ってきたという。そこで、千枚岳まで行かせてもらうことにし、村松さんには小屋で待っていてもらった。

小屋の裏手からお花畑の中を上がっていく。青空が広がり、花も木も夏を謳歌している。千枚岳からは荒川三山や赤石岳が手に取るように見える。荒川小屋、中岳避難小屋はもちろん、赤石小屋も。とりわけ、丸山から悪沢岳（東岳）へ登っていく登山者の姿が誇らしく、まぶしく見えた。

目的の一つ、タカネビランジに出会えた。どうしてこんなガレ場に咲くのだろうか。白いのと、薄いピンクと二種類の株が何箇所かにあるが、私達のように写真を撮るためにガレ場を荒らしてしまっている。

村松さんの荷物を振り分け、ゆっくり下山開始。登山道を下っていくと左手にロープが張られてあって、ここが林道駐車場との出入り口のようだ。林道の方が歩きやすいという。すぐにその心配は吹き飛んだ。今朝の一件は何だったのか疑いたくなるほど村松さんは元気になり、スタスタと先を急ぐ。

見晴台に来ると、千枚岳と荒川三山がよく見えた。私はあきらめるのも早い。4度目がダメなら、5度目だってあるもの。

もし間に合うなら 1 時のバスに乗ろうということになり、砂利道を急ぐ。この長い下りで、藤倉さんが両足のつま先を痛めた。私は「痛〜い」と騒いでしまうタイプだが、もの静かな彼女はどんなにつらかったことだろう。

林道から再び登山道に入り、樹林を抜け出して滝見橋に戻ってくる。車道に出るとカンカンと日が照りつけ、汗だくで椹島ロッジへ戻ってきた。1時のバスに間に合ったが、べたついて気持ちが悪いので、大わらわで入浴し着替えをする。

畑薙ダムの手前でリムジンバスを降り、静鉄バスの発車時間を待つ。

嬉しいことに横沢の茶店が開いていた。トマトは見る間に売れてしまった。

偶然、バスで隣に座った若い男性が、「千枚小屋で 1 ヶ月働きましたが、荻野さんは面倒見が良くて、とてもいい人ですよ」と教えてくれた。私は「そうですか」としか言わなかった。

リーダー失格の私はすっかり自信を無くしてしまったが、今回、南アルプスのあの展望とタカネビランジに出会うことができて、今はとても満足している。「同行して下さった方々、ありがとう。またいつの日か」。



岩場に咲くシロバナタカネビランジ

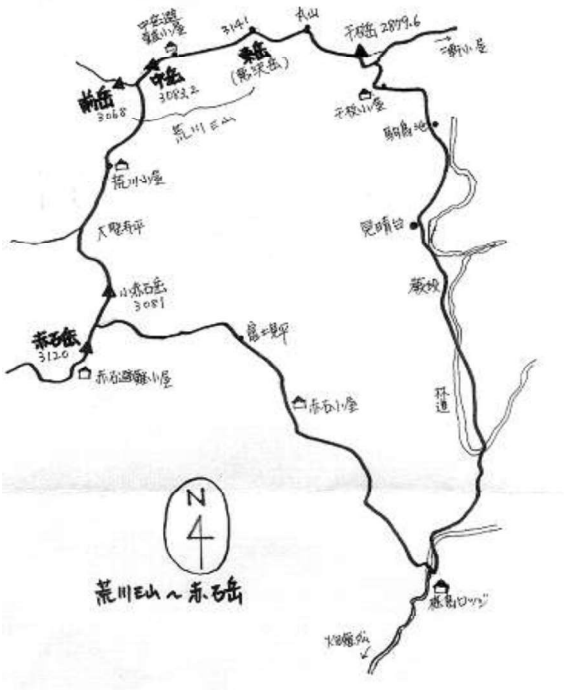
概　　要

山名	荒川三山～赤石岳		
月日	平成 18 年 8 月 4 日（金）～6 日（日）		
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
山域	南アルプス南部	地形図 1/2.5 万	**赤石岳**
目的	高山植物と展望を楽しみながら、3000ｍ級の山々を縦走する。		
費用	約 15000 円	交通機関	東海道新幹線・静鉄バス・リムジンバス
日程コース 一日目	我孫子駅 6:51→東京駅（こだま 533 号）7:56→静岡駅着 9:22→新静岡（静鉄バス）9:51→畑薙第一ダム 13:20/30（東海フォレストのリムジンバス）→椹島ロッジ 14:40 着（泊）		
日程コース 二日目	椹島ロッジ 5:30⇒滝見橋⇒奥西河内吊橋⇒清水平 8:50/55⇒蕨段 9:40⇒駒鳥池 11:35/40⇒千枚小屋 12:20 着（泊） ＜行動時間：6 時間 50 分＞		
日程コース 三日目	千枚小屋 5:10⇒千枚岳 5:55/6:30⇒千枚小屋 7:00/7:20⇒椹島ロッジ 12:20/13:00（東海フォレストのリムジンバス）→畑薙第一ダム 13:55/14:25（静鉄バス）→横沢 16:43/16:53→静岡駅 17:45/19:21→東京→上野→我孫子駅 21:50 ＜行動時間：7 時間 10 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・静岡から畑薙第一ダムまで、静鉄バス乗車時間は約 3 時間半。途中トイレタイムとして横沢と井川駅の 2 ヶ所に止まる。 ・バス乗車の際、10 キロ以上のザックは片道運賃の半額を徴収される。		
ﾙｰﾄ状況	・畑薙第一ダムから椹島ロッジまでは、東海フォレストのリムジンバスに乗せてもらう。但し、利用できるのは、椹島ロッジ、二軒小屋ロッジ、千枚小屋、赤石小屋、荒川小屋、百間洞山の家、熊ノ平小屋を 1 泊 2 食付で利用する人に限られているので、注意が必要。 ・テント場はトイレの横から 1～2 分下ったところにある。		
参加者	外崎(L)、 村松(SL)、松本、藤倉、佐々木 男 3 名　女 2 名　計 5 名		

千枚岳山頂にて



概念図



＜４９８＞

万太郎谷

堀口昭二

事前の天気予報では、２日（土）は雨の予報でしたが、一日早まって当日は天気に恵まれた。土合駅前の広場に車を置いて、八王子から電車で来る由布さんと土合駅にて合流し土樽駅に向かう。

本日は沢日和のようで、逸る気持ちの一方で未知の沢遡行と言う事で不安感を抱きながら、照り返し強いアスファルトの車道を汗を噴出しながら水を求めて快調にとばす。他、２パーテーも我々と同じ沢を目指しているようである。

暑さから早く逃れたい一心で堰堤工事の手前に入渓点らしき所を見つけて沢装備を装着してゴーロを遡行する。工事現場を過ぎた先から石畳などのナメ滝の美しさに心踊らされる。

釜を泳いで眼鏡を紛失、足を滑らして全身水浴、トロをザイルにカラビナ確保にて水平移動、水際をへつりきれずに釜に墜落。これからの行程の長さを考慮しながらも、水と戯れる時を費やし過ぎて体力温存を忘れてしまい後で苦労する羽目になる。清流の中に異様なうなり音と共に場違いな関越トンネルの換気煙突が出現する。しかし、この煙突も二日目に上部から自分の辿った沢を見つめてみると懐かしく親しみを感じた。

やはり最近は水が少なくなっているようで写真で見たオキドウキヨ沢の出合いのすだれ状の水の流れが少なく、トロ場も穏やかにて右岸をリックを浮き輪代わりにして腕によるへつりで挑戦してみたが敗退、右側を高巻いた。泳ぎ、へつりとしているうちに２０ｍの一ノ滝、先行Ａパーテーが水際右を直登していて時間がかかりそうなので、テン場設営の時間に迫られて、我々は右から高巻くことにした。トライしてみたが、これが中々手強く滝の落ち口に出るのに時間と体力を費やした。先行パーテーはまだ登りきっておらず、申し訳ないが我々が先行して、先にテン場を確保してしまった。

タープを張り、ビールを冷やし、食担・薪集めと分担作業に取り掛かる。

一ノ滝で抜いたＡパーテーは、我々より５０ｍ程先にテン場を設営したもよう。タープに慣れないもようでツエルトを持ち出し開口部をふさぐ、これも有りとする。
その後のビールでの乾杯は、これが遣りたくて沢に来ているような気がしてならない。



食事もひと段落して、眠りにつく人、酒宴を続ける人、各自めいめい好きにする。
翌朝、今にも泣き出しそうな空模様、テン場を整理して身支度、何度遣っても沢泊での濡れた物を又身につける不快感、言い聞かせる「又濡れるんだから」と、いざ出発。
Ａパーテーはテン場でまだくつろいでいた。さあ二ノ滝、左壁から直登するがまだ身体が硬い、空も気になる。
三ノ滝、Ｂパーテー上段のテラスに見える。資料には水際右を登るとあるが、我々はそれより右へ１０ｍ寄った所から取り付く。ザイルにてブルージックでメンバー難なくクリアー。二段目、資料には水際左を登りバンドから水の中、右へトラバースとあるが、我々は右の滑りそうな支流を登り途中から左へ３５ｍ程の藪こぎにて滝の落ち口に出た。
今回の沢のハイライトも終わり、後は稜線に登りつめるだけと安堵する。

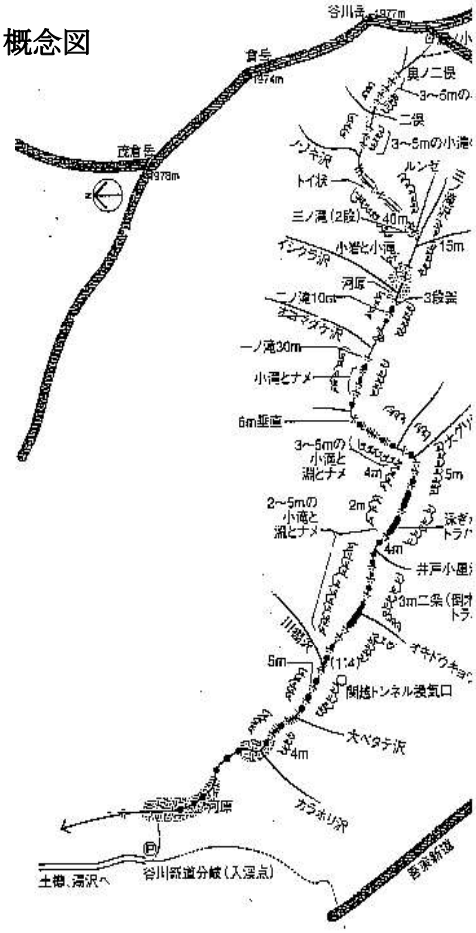
沢水の切れる所にて水分補給。岩と草原をつめ天気も回復して、後半は暑さとの戦いとなった。

全員無事に肩の小屋下の登山道にたどり着く。

肩の小屋前広場にて装備解除し、一部のメンバーはトマの耳に行く。その後、計画書にしたがって西黒尾根を下ったが、歳を考えて天神平に下れば良かったとぼやく。しかし、下山してみればメンバーの疲れた顔のなかにも、遣りとげた満足感あふれる顔にホッと

する。
　今回計画してくれたリーダー及びメンバーに恵まれて、無事に充実した山行が出来たことに感謝します。又このような沢を遣ってみたいと思っている今です。

概念図



万太郎谷挑戦者たち



概　　要

山名	万太郎本谷		
月日	平成 18 年 9 月 2 日(土)～3 日(日)		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	4D
山域	谷川連峰	地形図 1/2.5 万	茂倉岳　水上
目的	ゆったり、まったり、本格沢登り		
費用	8,800 円（除風呂・反省会費）	交通機関	レンタカー JR
日程コース 一日目	柏公設市場 5;10 出発→土合駐車場 7;05/土合駅 8:28→土樽駅出発 8;50～吾作新道～入渓地点 9;28/10:00～カラホリ沢出合 10;45～オキドウキョウのトロ場 11;58/12;15～井戸小屋沢出合 12;30～一ノ滝 15;21/15;50～ビバーク地点 16;10 ＜歩行時間：6 時間＞		
日程コース 二日目	起床 4;40 テント場出発 6;20～二ノ滝 6;39～イシクラ沢出合 6;52～三ノ滝 7;19～三ノ滝一段目滝上 8;10～三ノ滝二段目滝上 9;30～二俣 10;05～奥ノ二俣 10;50～登山道 12;20～肩ノ小屋 12;30/12;45～谷川岳トマノ耳 12;56/13;05～肩ノ小屋 13;05/13;20～西黒尾根～西黒尾根登山口 16;25→水上駅 18;00→柏公設市場 21;00→我孫子 21;15 ＜歩行時間：8 時間＞		
ルート状況	１．入渓地点が多少判りづらい。土樽駅から徒歩４０分、吾作新道の標識を見て直ぐ左の工事中の道路を下った。これ以外にも入渓地点は有るようだ。 ２．水量は意外と少なく、勢いは余り感じられなかったが、殆どの滝で（ナメや小滝でも）釜を持っており、水に濡れる機会が多かった。 ３．名の知れているトロ場、廊下は背丈以上の高さがあり、泳ぎが必要。 ４．一ノ滝、三ノ滝、幾つかの廊下で順番待ちとなる。（時間ロスの原因） ５．テント設営適地は一から三の滝の間に幾つかある。流木も多く、焚火にはこと欠かない。飲料水も無名の枝沢があって問題無い。ビールもよく冷えた。 ６．源頭から肩の小屋直下の登山道までは体力勝負となった。		
参加者	佐藤（L）堀口（SL）、青山、吉川、由布、 男３名　女２名　計５名		

＜４９９＞

錫ヶ岳　～　前白根山

（２３８８ｍ）（２３７３ｍ）

武内勇二

西の湖（さいのこ）行の低公害バス乗り場は、湯元行バスの赤沼バス停より１００ｍ程離れているが、発車まで１５分ほどの余裕があった。「希望する場所で乗り降り自由」との張り紙があったので、乗り込むにあたって、運転手に「柳沢林道の入り口で降ろして欲しい」と頼んでおいたので、「ここですよ」と運転手から声をかけられ、迷うことなくバスを降りた。身支度を整えていよいよ錫ヶ岳への登山開始である。途中、西の湖～御田代間の遊歩道を横切り、堰堤手前で沢を横切り右岸に出た。沢の中を歩くことも出来ると思われるが、踏み跡を辿りながら右岸の斜面を行った。所々で踏み跡は枝分かれして不明瞭になるが、直ぐに踏み跡が見つかり、ひたすら上流に向かって歩く。休憩を挟み１時間程で沢が２股に分かれ、１本は北西方面より１本は北東方面より流れ込んでいる所に出た。本流は左側であるが、「折角だから赤岩滝を覗いて行こう」ということになり、岸に荷物をデポして右側の沢に入った。凡そ、１５分で着くはずの赤岩滝は見当たらず、とうとうと流れていた水も伏流水となって岩石の下に潜り込んで涸れ沢となってしまった。赤岩滝は断念せざるを得ない状況となり、首を傾げながら先ほどの沢の合流点に戻った。

軽い昼食をとって、北西方向に沢の遡行を再開した。４０分ほどで再度２股に出た。１本は北側から水流を伴って、もう１本は大きな川幅を持って西から合流している。地形図では錫ヶ岳はこの地点から西北の方向にあり、今夜の宿泊予定地は錫ヶ岳の更に南にあるので、右側（西方向の沢）をとる。西方向からの沢には水流がないので、ここで北側から流れ込む沢の水で今夜の水を補給した。夏の日差しが容赦なく照りつけ、岩石の積み重なったガラガラの沢をあえぎながら登る。途中の休憩時には、沢の開口部である真東の方向に男体山がどっしりと聳えているのが望まれた。沢は一段と傾斜を増し、３歩歩んで２歩下がる状況に耐えかねて、左岸の笹藪の獣道を登ることとした。笹の丈は膝くらいでそれほど高くはないが、やたらと倒木に道を塞がれる。笹藪歩きを諦めて沢のガレ場に戻ったりしながら高度を稼ぎ、沢のどん詰まりに到達した。ここからは、かなりの傾斜をもった笹藪の直登を強いられた。両手で笹をつかみ、腕力と脚力を駆使しながらひたすらに上を目指す。やがて、やや緩やかな斜面となり、笹はあるもののテントを張ることも出来る平らな場所に出た。時刻は５時近くとなり日没まであと１時間足らず。ここで幕営も可能であったが、パーティ全員の総意のもとで、更に稜線目指してひたすらに前進した。もし、ここで幕営していたら、恐らく翌日の錫ヶ岳登頂はなかっただろう・・・

幸いにも、まだ明るさの残るうちに稜線にでた。ガスの合間を縫って眼前に大きな山が聳えていた。「奥白根山？」と外崎さんが呟いたが、奥白根がこんな近くに見えるはずはない。村松リーダーは「当初予定よりはかなり北側に寄りすぎている」というが、尾根の縦走路に出た安堵感とガスが巻いてきて見通しも悪いこともあり、「恐らくは錫ヶ岳だろう」として正確な現在地確認は諦めた。ガスが通り過ぎてゆくが、天気が大きく崩れることはなさそうだ。テントを張り、食事を済ませて早々に寝袋に潜り込んだ。

４時半に自然と目が覚めた。まだ薄暗いが、快晴の空に丸い月がこうこうと辺りを照らしていた。女峰山の方角がうっすらと赤く染まっている。久しぶりにくっきりとした日の出を拝めそうだ。

テントを撤収し出発準備がほぼ整ったころ、これから向かおうとする山から４人のパーティが降りてくるのが見えた。途中にあるはずの「錫の水場」の状況も聞きたいので出発を延ばし、パーティの到着を待った。東大のワンゲル同好会“雷鳥”のパーティとのことであった。「どこで泊ったの？」「五色沼避難小屋」「それにしてはずいぶん早いね？」「4 時半にでましたから」「錫の水場はどんな状況？」「錫はこれから行きます」何かおかしい　？？？？　現在地が錫ヶ岳の南の稜線上ならば、五色沼から１時間ちょっとで来られる筈はないし、錫ヶ岳はこれから行くということなので、現在地は奥白根山と錫ヶ岳を繋ぐ白錫尾根上、即ち、錫ヶ岳を挟んで全く逆の位置にいることになる。何故？？？

疑問が解けないままに、とにかく錫ヶ岳を往復しようと、荷物を置いて出発。水と簡単な食べ物は青山さんが背負ってくれた。昨日と違って、ルート上にはテープが頻繁に見られる。ところどころ、踏み跡がかすかになる箇所はあるものの、あたりを見渡せば必ずテープが見つかる。尾根の起伏に従い、原生林を行く。所々で林が切れ、奥白根山や女峰山、男体山といった日光の山々や尾瀬の燧ヶ岳が見え隠れする。樹木の間から錫ヶ岳も垣間見える。どっしりとした山容で、頂上付近は樹木に覆われ展望はなさそうだ。やがて水場の表示がある小さな広場に出た。先行していた東大生４人パーティの１人が休んでいた。あとの３人は水汲みに行ったのだろう。水の補給は帰りにすることにして、錫ヶ岳を目指す。笹の斜面に続いて樹林帯を登るとやがて頂上に出た。



白錫尾根白桧岳直下の笹原

幕営地からおおよそ２時間の行程だった。３等三角点近くの樹木に錫ヶ岳の標識がかけられていた。何故かルートは当初予定と違ったものの、目的の山に到達し気が晴れた。追いついてきた東大生も一緒に入り記念撮影をした。写真送付用に聞いたメールアドレスは“ＪＣＯＭ”だった。柏の葉に住んでいるという。偶然の出会いに話が弾んだ。
彼らはこれから宿堂坊山を目指すので、山頂で右左に分かれた。１時間弱で水場に戻り、水を補給がてら思い切り飲んだ。
１０時に幕営地に戻り昼食をすませて笹の中の道を辿り、白桧山の登り開始。笹原なので実に展望は良く、中禅寺湖から錫ヶ岳にかけての山のせり上がり状態も良く見える。昨日の登った沢はどれだったのだろう？　麓から尾根に向かって２本の沢がほぼ平行して延びている。ひょっとすると沢の取り付き点が違った？　運転手に促されてバスを降ろされたところは、奥の柳沢ではなく手前のツメタ沢だった？　だから赤岩滝もなかったのだ。地形図で確認し、全ての疑問が氷解した。山頂には白桧山の標識が架けられているが、２．５万地形図には山名の記載なく単に２３８８ｍと標高のみ書かれている。昨日からの疑問も解けたので、ゆったり、すっきりした気分で山頂の感激を味わった。

白桧山から白根隠山へのルートはまったく素晴らしい。笹原に日の光が眩いばかりに降り注ぎ、奥白根や男体山、太郎、大真名子、小真名子、女峰等日光連山が雄大に連なっている。振り返れば、先ほど登った錫ヶ岳、その奥は皇海山、更に奥は赤城だろうか。山岳パノラマを満喫しながらの散歩道である。白根隠山を一気に登り、頂上の大展望を楽しんだ後、一般ルートに合流して前白根山を越えて湯元に降りた。

奥白根山は登山客が行列をなしているに引き換え、一つ谷を隔てたこの山域には人影は殆どなく静寂そのもの、存分に山の雰囲気が味わえた。まさに今回は、沢、ガレ場、藪漕ぎに難渋する一方、原生林、開けた尾根の大展望、そしてルート間違いまで経験し、とても楽しい変化に富んだ山旅だった。山って素晴らしい。この楽しみを可能にしてくれる、健康、家族、仲間そしてちょっぴりのお金に感謝！



錫ヶ岳山頂

概　　要

山名	錫ヶ岳・前白根山		
月日	平成 18 年 9 月 9 日（土）～10 日（日）		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４C
山域	奥日光	地形図 1/2.5 万	丸沼、中禅寺湖、男体山
目的	１､静寂なルートを辿りながら展望の山へ。 ２、谷を詰めて奥深い県境の秘峰へ。		
費用	約5，５００円	交通機関	東武電車、バス
日程コース 一日目	我孫子駅 5：50→北千住 6：31→日光駅 8：24/8:31→赤沼茶屋 9:40/9:55→ツメタ沢林道入口（柳沢）10:30⇒ツメタ林道（柳沢）⇒赤岩滝を探してゴーロ歩き 11:50/12:50）二股 14:15⇒源頭をつめて稜線テント設営 17:15（泊）		
日程コース 二日目	テント場 6:20⇒錫ノ水場 7:05⇒錫ヶ岳 8:00/8:23⇒テント場に戻る 10:25/10:40⇒白桧岳 11:00⇒白根隠山 11:50⇒前白根山 13:00⇒湯元 15:10/16:11→東武日光駅 17:25/18:55→春日部駅→柏駅→我孫子駅 22:00		
ルート状況	＊　運転手に柳沢林道入口で下ろしてくださいと依頼する。（停留場以外も乗降自由） ＊　徒渉して沢の右岸を縦横無尽に走るケモノ道を拾いながら赤岩滝のある分流点に着き赤岩滝を見物に行く。但し、いくら探しても滝は見付からなかった。 ＊　最後の水場で2日分の水を補給してガレ場の谷を稜線に向って進む。しかしこれが大変なアルバイトを強いられた。荒れたガレと同時に急登、それに真夏を思われる暑さとヤブ歩きが加わり（個人的にはその他に腰痛のコルセットもプラスされた）やっとの思いで稜線にでた。 ＊　錫ヶ岳の山頂は展望はない。わずか南西の方向が見渡せる程度で、そこには皇海山と庚申山がどっしりとその山容を見せてくれた。 ＊　ここで始めて我々の辿ったルートが判明した。登山口の林道が柳沢林道でなく、平行しているツメタ沢林道だった。 ＊　白檜岳から白根隠山、前白根山と続く稜線はまさに天上の楽園。		
参加者	村松（L）、外崎、武内、青山 男２名　女２名　計４名		

概念図





白錫尾根から見た錫ヶ岳



白根隠山からの男体山･中禅寺湖

＜５００＞
朝日連峰主稜縦走

以東岳　～　大朝日岳
（１７７１m）（１８７０m）

高橋英雄

朝日、と名のつく山に参加して 500 回記念山行となりました。

夜行バスで地方の山に行く場合、たいてい新宿から出発しますが、今回は大宮駅前から出発、一路鶴岡へ 6 時 30 分に到着し、予約してあったタクシーで泡滝登山口へ　途中から道幅や道が悪く運転手が苦労したと思います。１日目は、以東小屋まで５時間３０分の道程、出足は緩やかな登りで沢沿いを行く東北の山らしく木々も大きくなんとなくゆったりとしている。途中釣り人に会う、急な七曲がりを登って行くと大鳥池の畔に立つキタロウ小屋に着く、ここで昼食をしていたら小屋の管理人が出てきて「今夜は何処に泊るんですか」と聞いてきたので以東小屋ですと答える。食事を済ませ出発する頃小雨が降り出した為雨装備を着ける、大鳥池から雨が降ったりやんだりする中、オツボコースで以東小屋へ。

この登りはきつく途中何回か足がつりそうになりながら上がったところ、大鳥池の「熊の毛皮を広げたような」形が見えてくる。尾根の遥か上の方に以東小屋が見え隠れするが・・・・。あんな所まで登るのか。途中の水場が見つからず確認できない。道の下にニッコウキスゲゲの群落があり見事な咲きようだ。オツボ峠を通過、ここから以東小屋までが長い、途中二人のパーテーと同行、同じ小屋に泊るとのこと。以東岳の何処が頂上なのかわかりにくい山頂上で記念写真を撮って小屋まで下る。ガスの中にようやく以東小屋が姿を現す。小屋の泊り客は我々５人、先ほどの２人、今日朝竜門小屋から来た１人の男性とビールで乾杯（500 リットル、1000 円）。武内さんが用意してくれたお赤飯と焼肉で今回の５００回記念山行を祝う。

雑談を交わした後、明日のこともあり寝袋に入る。夜中雨風が強くなかなか眠れない明日は一日中雨かなあ。１日が終わる。

２日目の朝食を済ませ雨具を着けて外に出て見ると、夜の雨風がうその様に止んでいる。内心ほっとするがいつ又雨になるかわからない。小屋の前で写真を撮って以東岳 1771ｍから鞍部の 1500ｍまでひたすら下る。「もったいないなー」　時々ガスの切れ目から雲海の上に勇壮な山並みが姿を現す。

花の時期が過ぎているのに青色の花が沢山咲いていた。狐穴小屋で一服して水を貰い小屋の管理人と花談議で花が咲いていた。寒河江山を過ぎて竜門小屋で武内さんのお汁粉をご馳走になり疲れた体においしい。竜門小屋、狐穴小屋は、共同水場が近くにあり登山客で混雑する大朝日小屋よりこちらを選ぶほうが賢明かも知れない、但し時間さえあればのこと。

中岳を回り込むとピラミダルな大朝日岳とその真下の大朝日小屋が間近に姿を現す。あともう少し、金玉水で水を調達し、小屋にザックを置いて大朝日岳山頂へ。頂上は多くの登山客で賑わっていた。



大朝日岳山頂にて

記念写真を撮る事も出来ず団体さんが下山してからようやく写すことが出来た。頂上は３６０度展望がよく、北は月山、鳥海山。南に飯豊連峰、吾妻連峰、磐梯山。西には日本海、佐渡島が見えた。

我々も足早に下山して場所取りと夕食の支度をと思いきや小屋に着いたら先ほどの団体さんでフロアがいっぱい、２階は寝る所は在るも下で夕食の作る場所がなく困っていると、周りの人たちがきりつめて場所を提供してくれたお陰で夕食を作ることが出来たがビールが小屋に無く持参したウィスキ

ーで明子さんの誕生日と 500 回記念の山行を祝う。

台風の影響で明日は雨風が強くなるだろう、と思いながら寝袋に入る。朝になって朝食も摂らず薄暗い中を出発。稜線は北西からの風が強く、飛ばされそうだ。樹林帯に入ると少し風も弱まり、雨も小止みになりほっとする。この天気の中、古寺から登って来る登山者何人かに出会った。展望は望め無く、小朝日岳をまいて行く道は登りで余りよくない。

あとは下るだけ、９時前に古寺鉱泉に到着。早過ぎた為風呂はまだとのこと、シャワーで３日間の汗を流したあと軽くビールで乾杯。大朝日小屋でビールを飲めなかった分非常に美味い。タクシーーを呼んで貰い寒河江駅まで行く。古寺鉱泉で１次会、寒河江駅前で２次会、新幹線で３次会と３回も反省会やる。

今回、山行のポイントは　①５００回記念山行であったこと、②明子さんの３５歳（？）の誕生日であったこと、③小松さんの新人歓迎山行とお祝い事の山行であった。

又、出発前夜、リーダーより、台風が接近しているので山行をどうしようかの相談、小生は決行しましょうと返事、結果的には大変有意義な記念山行でありました。

概　　要

山名	以東岳・大朝日岳			
月日	平成１８年９月１６日(土)～１８日(月)			
形式	避難小屋２泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｃ	
山域	南東北	地形図 1/2.5 万	朝日岳　相模山　大鳥池	
目的	“あさひ”と名のつく山 10 周年を記念して			
費用	３３，０００円 （反省会費用含）	交通機関	夜行バス、タクシー、ＪＲ	
日程コース	一日目	前夜 大宮 23:50→(高速バス) →鶴岡市 6:30/6:45→(タクシー)→泡滝登山口 8:10/8:30⇒冷水沢吊橋 9:35/9:40⇒七つ滝沢 10:05 ⇒七曲り 10:50～11:15⇒大鳥小屋 11:25/11:50（昼食）⇒オツボ峰 14:40/14:50⇒以東岳 15:40/15:50⇒以東小屋 16:00(泊) ＜歩行時間：6 時間 30 分＞		
	二日目	以東小屋 5:50⇒中先峰 7:15⇒狐穴小屋 8:05/8:20⇒三方境 8:35⇒北寒江山 8:50⇒ 寒江山 9:25⇒竜門小屋 10:40/11:25(昼食)⇒西朝日岳 12:45/12:55⇒金玉水 14:10/14:30⇒大朝日小屋 14:40/14:45⇒大朝日岳 15:00/15:30⇒大朝日小屋 15:35(泊) ＜歩行時間：7 時間 10 分＞		
	三日目	朝日小屋 5:05⇒銀玉水 5:25⇒古寺山 6:50⇒ハナヌキ峰分岐 7:30⇒古寺鉱泉 8:40/9:55→(ジャンボタクシー)→寒河江 11:00/12:10→(JR)→山形駅 12:48→(新幹線)→上野 15:40→我孫子 16:20 ＜歩行時間:3 時間10 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・全ルート明瞭　問題なし。 ・コースタイム　山と高原地図(昭文社)によるオツボ峰～以東岳４０分は無理。１時間かかった。			
参加者	千葉（L）、高橋英（SL）、武内、佐藤明、小松 男３名　女２名　計５名			



大朝日岳より縦走路遠望

概念図



＜５０１＞ウイズハイク

富士山～佐白山

（１４４ｍ）（２０９ｍ）

やまたんより転載

５回目のウイズハイク

Ａ－１班　　飯沼トミ子

富士山（ふじやま）・佐白山（さしろさん）へのウイズハイク、少々気になる天気にもめげずに予定通り我孫子駅を出発。５回目となり、「みずき」関係の参加者も増え、大変嬉しいことだと思います。

笠間稲荷駐車場から佐白山に向けてスタートし、城址公園に着く。小さい岩山を通り、いよいよ今回の難関である鎖場に到着。「みずき」の方々の元気な足並み、鎖場を見上げては竦む私。しかしながら、「さあ、ゆっくり一歩一歩登りましょう」という掛け声をかけ、約 50m余りの岩場、元気に登れる方、途中不安を訴えられる方もおられましたが、全員が制覇されましたことは素晴らしい。

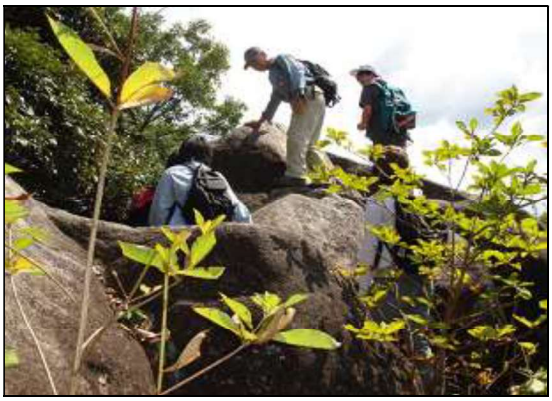
吾孫子さんは（けやき作業所）、「このくらいは平気だよ。今度、日本一の富士山に登りたい。」と自信満々でした。

佐白山から富士山を経由して、山麓公園での昼食には、全員集合までには３０分余りの誤差がありましたが、皆さん疲れを見せず元気そのものでした。食後、石垣さんのアトラクションに拍手喝采、小道具を借りて体験する方が出るほどの人気でした。

帰路途中で、豆乳アイスクリームのご馳走、滑らかで美味しかった。この豆腐屋さんを紹介して下さった会員の中村（八）さん、ありがとうございました。天気に恵まれ、故障者もなく無事に終了できました。ウイズハイク担当者の一人として「本当にありがとうございました。」と申し上げたく思います。



Ａ－１班　↑↓



Ａ－２班　　坂口よし江

見事な秋晴れの中、緑豊かな山麓公園に到着する。身支度を整えて出発。一歩一歩と着実に歩を進めて汗をかきかき長い丸太の階段を一生懸命に登っていく。

爽やかな風が吹く城址公園に出る。大きなもみじの木の所で、リーダーの手に止まったトンボを皆で興味深く観察する。天守閣跡の高台に登り、眼下の町並みを見下ろし、全員で記念撮影。階段が急で古びていて危険なので、作業所の２名の方には、それぞれ２名のサポートを付けて降りて頂く。

佐白山（神社）頂上へ続く石段に出る。やはり、この石段も急で古びて傷んでいて危険なので、作業所のお二人と職員の方は下で待つことになった。Ｍさんがサポートして下さっていたＳさんは疲れてしまったようで、石段の途中で登頂組の帰りを待つことになり、作業所のお二人と岳人あびこのメンバー５人が頂上へ。頂上は木々に囲まれていて展望がないので、お参りして、早々に下山。階段の下りは、お一人につき複数のサポートで慎重に降りていただく。

佐白山から富士山までは、ほとんど舗装されていて安心して歩くことができる。所々、季節はずれのつつじの花が咲いていて目を楽しませてくれた。

作業所の方々の一生懸命に登られる姿はとても美しく感動的でした。いつも思うことですが、ウイズハイクを通して色々なことを学ばせて頂いているなあと思います。このような機会を作って下さったすべての皆さんに感謝。



Ａ－２班↑↓



お手てつないで階段気をつけて

Ｂ－１班　　千葉有子

Ｂ－１班のみずきのメンバーは三宅幸子さん、牛尾智子さん、根本浩二さん。他の作業所からの参加者が斎藤和義さん、江尻昭博さん。出発前にそれぞれ担当会員を決める。斎藤さん、江尻さんは「本当に障害があるのかな」と思えるほどで、何の介助もいらない。むしろ若いだけに私達より足取りがしっかりしている。

私の担当は牛尾さん。あまりしゃべらないが、他の人の言葉にいつもニコニコして笑っている。富士山までの登りは全く問題なく心強い。しかし、鎖場へと回り込む道、鎖場の登りでは足が突っ張ったようになる。片手で、時には両手で、一歩一歩足場を教えながら歩く。私の手を握る強さからも、怖さを感じているのが分かる。三宅さん、根本さんには二人がかり、三人がかり。鎖場を登り終えた時にはほっとした。みんなでとてもいい顔で写真に納まった。



Ｂ－１班↑↓



足元注意してね、ゆっくりと。

牛尾さんの手を引き、歩きながら感じた事。「何の技術も持たないが、山歩きだけ慣れている。そんな私にできる、これは最良のボランティア。」そして楽しかった！充実した一日を過ごさせてくれたウイズハイク、これからも長く続いて欲しい。

Ｂ－２班　　外崎　蓮

心配をよそに、秋晴れの爽やかな一日となった。バス内は、見慣れた顔、新顔で明るい雰囲気が流れる。我孫子駅北口で一旦下車し、班毎にミーティングを行う。

道の駅でのトイレ休憩も問題なく、予定通りに笠間稲荷駐車場へ。全員山麓公園へ上がり、トイレをすませてからＡ班、Ｂ班に分かれて登山開始。

富士山（つつじ山）の眺めのよい山と、樹林に囲まれた山とのとりあわせがよく、中でも鎖場はかなりの緊張感を強いられた人もいて、登り切ったという達成感を味わってもらった。

作業所の方々は、こんな機会でもなければ山へ来れない人がほとんどとのこと。ちょっとした段差でも足取りが不安定。それを当会の会員が、ごく自然なかたちでサポートしている姿に感激する。

ずば抜けて早い班もあったが、大体足並みがそろい、山麓公園に全員が揃って昼食。

石垣さんの芸は未熟なところが楽しく、何故かホットさせてくれる。時間があれば、みんなでやってみたかった。



石垣さんの妙技を楽しむ。



今年は汁物がない分、名物の豆乳屋に寄り、アイスクリームを食べていただく。豆にこだわっているとのこと。美味しかった。

少しずつ時間がずれ、予定より帰宅時間が遅れる。大久保さんが作業所の方々の各家庭にその旨連絡を入れてくれる。高速を利用するなど臨機応変に対応すべきだったと思う。爽やかな一日をありがとうと、皆様に大声で言いたい。



Ｂ－２班↑↓







全員集合（山麓公園で）

概　要

山名	富士山～佐白山（ウイズハイク）		
月日	平成 18 年 9 月 23 日（土）祝日		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	茨城県 笠間市	地形図 1/2.5 万	笠間
目的	①　福祉作業所に通所する人たちとの交流を図る。 ②　鎌倉時代に築かれた笠間城址に分け入ってみる。		
費用	８１０円	交通機関	市の福祉バスとワゴン車

行程（全員）

布佐 7:00→(バス)→我孫子駅北口 7:35/7:55→下妻道の駅 9:08/9:30→笠間稲荷駐車場 10:50⇒山麓公園⇒Ａ班とＢ班に分かれて登山開始⇒山麓公園 14:15⇒稲荷駐車場 14:22→(バス)→豆腐屋 14:30/14:52→下妻道の駅 16:00/　16:30→我孫子駅北口着 18:40

Ａ－１班（佐白山→富士山）

山麓公園 11:00⇒城址公園⇒石倉･鎖場⇒佐白山⇒城址公園⇒千人溜まり⇒鞍部の十字路⇒富士山（つつじ山）⇒稲荷駐車場⇒山麓公園着 12:45（昼食）

Ａ－２班（佐白山→富士山）

山麓公園 11:05⇒城址公園 11:40⇒佐白山（佐志能神社）12:05⇒大黒石 12:33⇒鞍部の十字路⇒富士山 12:45⇒稲荷駐車場⇒山麓公園 13:20（昼食）

Ｂ－１班（富士山→佐白山）

山麓公園 11:00⇒稲荷駐車場 11:05⇒富士山 11:25/11:35⇒鞍部の十字路 12:01⇒佐白山山頂 12:35⇒山麓公園 13:15（昼食）

Ｂ－２班（富士山→佐白山）

山麓公園 11:00⇒稲荷駐車場 11:05⇒富士山 11:26/11:35⇒鞍部の十字路 12:03⇒佐白山山頂 12:40⇒山麓公園 13:30（昼食）

参加者

Ａ－１班

中村八(L)、村松敏、飯沼、原田君、箕輪カ、大平、（作業所）徳本、吾孫子、山本、福井、中島圭、伊東　（１２名）

Ａ－２班

松本(L)、村松峯、原田和、高橋英、坂口、桐生（作業所）武田、内藤、及川、豊島、斎藤千、井上　（１２名）

Ｂ－１班

小川誠(L)、柴、斎藤、武内、千葉、藤倉、瀬田（作業所）根本、斎藤和、牛尾、三宅、江尻、菅　（１３名）

Ｂ－２班

外崎(L)、日下、品田、石垣、高橋重、本間（作業所）中台、佐藤、中島燈、秋谷、大久保、志賀　（１２名）

岳人あびこ　計２５名
作業所　　計２４名　　合計４９名

＜５０２＞

蓼　科　山

（２３５４ｍ）

藤倉貞江

新宿から高速バスを利用して茅野で、蓼科ラウンドバス（高原周遊）で登山口へ。
バスが予定より時間がかかり１３：００過ぎ登り始める。

登山道は緩い登り、岩とジャリでとても登りづらい急登、緩い登り、急登の繰り返しで頂上を目指す。長い急登を休み、休み進んでいると目前に大きな岩がゴロゴロと横たわり、南斜面を大きくトラバースしており、足場に注意し、周りの景色を見る余裕もなく頂上に向かう。１６：４５分登頂。　頂上はガレ場で、記念写真を撮って今日の宿、蓼科山荘へ急ぐ。

山荘の管理人さんが待っていてくれた。
ストーブと暖かい飲み物でホット一息。
山荘は私達パーテイのみで貸し切り…嬉しい。夕食もおいしくいただき早々に就寝。
グッスリ眠れた。



蓼科山荘の管理人さんと一緒に

翌朝ご来光を眺められた。とろろ芋の朝食もおいしく、デザートに、食べられるほうずきを食べましたがマンゴーの味に似ていました。

６：４５分蓼科山荘を出発。急坂を下り、大河原峠から紅葉が始まっている山道を歩く。亀甲池の分岐を過ぎ、谷幅がせまくなり、今までの景色が変わり、両脇の倒木や岩にびっしり苔がついている。「緑色の世界」に迷い込み神秘的で見とれてしまった。

バス道路をまたぎ、竜源橋から水の音に導かれながら蓼科温泉に向かい歩く道々山栗を拾いながら実りの秋を感じ、バスの時間を気にしながらバス停に急ぐ。
バスの本数が少ないので温泉には入らなかった。
岩と急登に悪戦苦闘しましたが、秋を満喫できリーダーに感謝。



蓼科山頂上にて





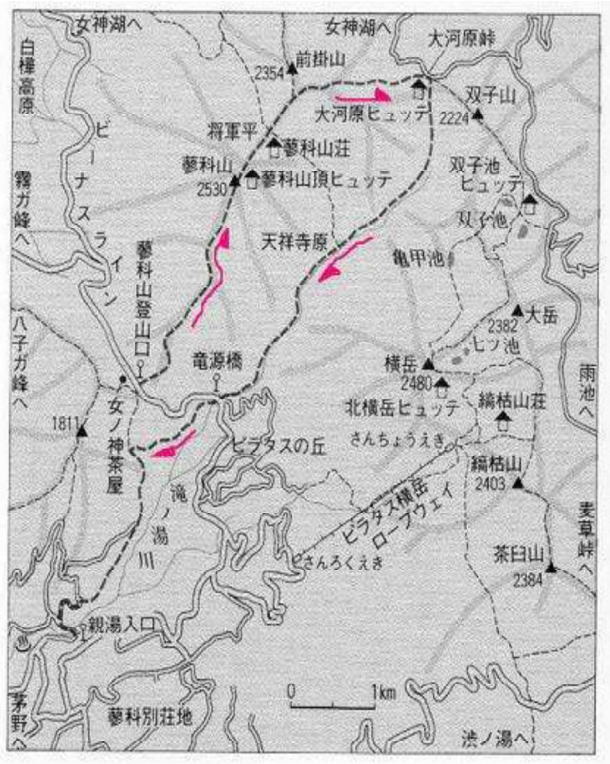
苔むした神秘的な世界！

概　　要

山名	蓼科山		
月日	平成１８年９月３０日～１０月１日		
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	北八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	蓼科山・蓼科
目的	早秋の北八ヶ岳の独立峰を登る		
費用	約 19,000 円	交通機関	高速バス・ＪＲ
日程コース 一日目	我孫子駅 5:54→新宿駅 6:54/7:20→茅野ＢＴ10:06⇒茅野駅 10:30/11:15→（バス）→登山口 12:50/13:05⇒16:45 蓼科山山頂⇒蓼科山荘 17:00（泊）		
日程コース 二日目	蓼科山荘 6:45⇒大河原峠 7:50/7:55⇒横岳分岐 8:30⇒竜源橋 10:10/10:20⇒蓼科温泉 11:30/12:00→（バス）→茅野駅 12:53/13:27→新宿駅 15:37→我孫子駅		
参加者	石垣（L）、原田君（SL）、高橋寿、藤倉、小松 男２名　女３名　計５名		

ルート状況	①往路の高速バス…中央高速バス茅野バス停からＪＲ茅野駅まで徒歩で 15 分。ＪＲ運賃の半額以下でお得。 ② 蓼科ラウンドバス…登山口までラウンドバスを利用した。ラウンドバスとは蓼科高原周遊バスで登山口まで１時間３０分もかかる。出来ればタクシー利用がよい。 ③登山道…登山口から頂上まで大きな岩が転がっている山道。雨の下りは要注意。 ④分岐から急な岩道を 150m（30 分）下り急に平になった所が蓼科山荘。

概念図



＜５０３＞

八海山　・　平ヶ岳

（１７７８m）（２１４１m）

大串秀雄

紅葉の二名山

１日目

１週間前から、秋雨前線の動向に注目。予断を許さない状況で、一時、中止も覚悟した。事実、山行前日までは秋の長雨、山行翌日からは台風の余波で大雨だったが、幸いにも、その中間の３日間だけは登山日和に恵まれ、紅葉山行を楽しむことができた。

大倉登山口でタクシーを下車。丸山食堂の女将にルート状況を確認し、八海山神社で安全を祈願してから出発。最初から急坂の連続。古くからの参詣道で、土留めの石が階段状に敷詰められているが、苔むした石は前日までの雨に濡れ滑りやすく難儀した。

大倉登山口から４合半大崎口分岐間のルートは通過者が少ない。多くのハイカーはロープウェイを利用するためだ。そのため、登山道の整備状況を心配していたが、意外と確りしていた。山腹の登山道は樹林の中。展望不芳で、ひたすら登りに専念。

４合半大崎口分岐からは尾根道。ロープウェイ利用の日帰りハイカーも通過するルートで全く問題ない。右手南方に巻機山が大きく聳えている。その奥の谷川連峰や苗場山方面は薄っすらと霞んで特定できない。池の峰を巻いた辺りから紅葉の登山道が始まる。正面の薬師岳中腹の頂きに、女人堂の三角形の屋根が見え隠れする。

女人堂で昼食。赤や黄色で山腹を装った薬師岳を一気に登り切る。広々とした山頂に出ると千本桧小屋は指呼の間。目の前には、豪快な八海山八ツ峰の岩峰群、その左肩奥に、越後駒ヶ岳、中ノ岳…越後三山の揃い踏み。更にその左方には、守門、浅草あたりか…、山々が過多で同定が難しい。八ツ峰の右奥には明日の平ヶ岳や日光尾瀬の連山が望めるはず…しかし残念ながら、此方は白雲がかかり山容を確認できなかった。その右の巻機山だけが、雲の中から大きく顔を覗かせていた。



千本桧小屋と紅葉の地蔵岳（薬師岳山頂より）

質素な千本桧小屋には素朴な老管理人が一人。ひとまず部屋で落ち着いてから、無風の前庭で暫しティタイム。目の前には大きな越後駒が聳えている。山頂にかかった薄雲が微動だにしない。小屋管理人の話では、薬師岳の右方に新潟市、左方には弥彦山や米山、さらに佐渡島の花火や日本海の大型船も見えるそうな。

ランプの下で一汁二菜の夕食。これまた絶品。薪炊きの南魚沼産こしひかりに、丼いっぱいの味噌汁と小皿に盛られた野菜煮付と田舎漬け。実に美味い。月明かりの中に聳える、真っ黒で巨大な駒ヶ岳全容に目を凝らしているうちに、全員がご飯のお代わりをしていたようだった。大展望と素朴な味わいに満足…お奨めしたい宿だった。

２日目

４時半前には全員起床。満天の星に気分昂揚。５時前に朝食を済ませ、早々に小屋を出発。八海山迂回路（千本桧小屋⇒大日岳分岐）は、八ツ峰岩峰直下の急斜面を横切る隘路で、鎖が途切れることなく設置されていた。真っ盛りの紅葉を楽しむ余裕もないほどの難路で、鎖を手繰りながら慎重に通過。

特に、大日岳分岐直下は小屋管理人からも再三にわたり忠告のあった箇所。地図上でも点線表示となっている所で、長い鎖場が幾度となく続く急下降路。声を掛け合いながら３０分以上を要して、慎重に下降した。

緊張していたのかもしれないが、分岐地点で

のルート確認疎漏で、(八海山)大日岳分岐～入道岳往復を、心ならずも結果的に割愛してしまった。



八ッ峰の岩峰は秋色・右端は大日岳。
（急降下の鎖場直下で）

分岐地点で一旦立ち止まり、地図上で一応確認したものの、視野に入る山容から判断し、目指す大日岳分岐点は、更に左方の岩峰を回り込んだ辺りと思い込み、下山口方面を選択。この分岐直下の急下降する長い鎖場の難所を、３０分以上かけて降り切った辺りで間違いに気付いたが、残念ながら再度の登り返しを断念した。快晴の山頂からは大展望だったはず。屹立する大日岳、入道岳の岩峰を仰ぎ見ながら、取り返しのつかないケアレスミスをしてしまったことを、同行者に平謝りした次第。

この鎖場を過ぎれば、確りしたルートで特に問題ない。鎖場直下の小広場やカッパ倉では、八ツ峰の鋭鋒を称えながら、ゆっくりと残念(懺悔)会兼撮影会。それでも早立ちとルート割愛から、下山時刻が大幅に繰り上がった。五日町駅では長時間の列車待ちとなったが、小出駅ではバス連絡が順調で、予定より２時間早く小屋に着いた。

時間があるので、小屋の車両で万年雪が残る西本城沢雪渓まで出かける。春花が咲いているとのことで楽しみにしていたが、カラマツソウなどの白花が少し残っていただけだった。荒沢岳前嵓を見上げながら、１時間ほどの心地良い汗をかいて帰館。直ちに露天風呂で汗を流してから夕食となった。

３日目

３時半起床。曇り空なのか月明かりもなく、辺りは真っ暗闇。４時に小屋前のバスに乗り込み出発。中ノ岐林道終点までは、銀山湖畔の急カーブが連続する１車線の国道を３０分、更に、ガタガタ道でのろのろ運転を余儀なくされる林道を１時間。このルートはこの往復３時間が難点。

林道終点でバスを降りる。日の出前だが周囲は明るい。曇っているがガスはかかっていないので、山並は良く見える。五葉尾根まで一気に登り、紅葉する平ヶ岳山頂を眺めながら朝食。魚沼産のおにぎりが実に美味しい。

高度を増す毎に、ナナカマドやドウダンツツジの赤が濃くなる。真っ黄色に染まった登山道は、周囲より一段と明るく輝く。秋山の醍醐味に大満足。幾度となく目の前に現われる平ヶ岳に励まされて、紅葉真っ盛りの中を登る。急登路を登り終え、木道を数１０ｍほど進むと、そこは一面草紅葉が広がる稜線上の草原。目の前には平ヶ岳のなだらかな全容が広がる。雄大な山腹は、点在する常緑樹と赤や黄色の紅葉とが縞模様になって染まっていた。玉子石のピークに出た途端、薄霧が広がり始めた。瞬く間に、平ヶ岳山頂や玉子石下方の池塘も霧に隠れてしまった。写真も一応撮れたし、平ヶ岳山頂も見ることができたしと、一旦は展望を諦めたが…。ところが幸運にも暫くすると、霧が晴れ上がり、大展望状態が復元。左方に、越後駒ヶ岳や荒沢岳が連なり、真正面には尾瀬の燧岳がその全容を現した。



錦秋の稜線の先に雄大な燧ケ岳が…

会津や日光の山々には薄霧がかかり、同定できなかったが、会津駒ヶ岳らしき山容も望めた。残念ながら、男体山や白根山、至仏山や皇海山は雲に隠れ、昨日の八海山も霧の彼方だった。



草紅葉の平ヶ岳山頂で昼食・右方は会津の山並

山頂で早めの昼食を摂ったあと、紅葉を楽しみながら下山。朝方よりも一段と色合が増しているようだ。五葉尾根で平ヶ岳に別れを告げ、予定時刻よりも１時間以上早く下山。１時間３０分のバスに揺られて伝之助小屋に帰着。銀山平キャンプ場かもしかの湯の露天風呂は我々だけで独占。ゆっくりと汗を流してから、旅館車で浦佐駅まで送ってもらう。駅前で腹ごしらえをしてから、計画より１時間前の新幹線に乗って帰途についた。

概　要

山名	八海山・平ヶ岳		
月日	平成１８　年１０月３日(火)～５日(木)		
形式	山小屋１泊 山麓小屋１泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ
山域	新潟・群馬 県境	地形図 1/2.5 万	八海山・五日町・平ヶ岳
目的	紅葉真っ盛りの２名峰を登る 越後三山の八海山と利根川源流域最高峰の平ヶ岳		
費用	約 35,000 円	交通機関	新幹線、 タクシー、 バス、小屋車

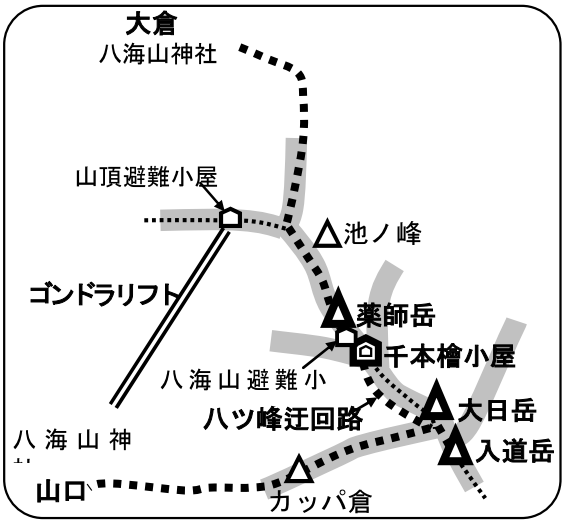
日程コース	１日目	我孫子駅 5:30→上野駅 6:04/14→（新幹線）→浦佐駅 7:38/44→（タクシー）→大倉八海山大神登山口 7:55/8:10⇒宮里 8:25⇒三合目風穴 9:50⇒四合目雨池 10:55/11:05⇒四合目半大崎口分岐（ロープウエイからのルートと合流）11:25⇒五合目 11:40⇒漕池 11:47⇒六合目女人堂（昼食）12:10/55⇒九合目薬師岳 13:45/50⇒千本桧小屋 14:00（泊） ＜薄曇りのち晴れ 歩行時間　4 時間 25 分＞
	２日目	千ホ桧小屋 5:25⇒大日岳新開道分岐 6:10⇒鎖場下 6:45/50⇒七合目カッパ倉 8:15/35⇒五合目 8:53⇒四合目稲荷清水 9:15/20⇒林道終点 10:10⇒二合目新開道登山口（昼食）10:25/55→（タクシー）→五日町駅 11:10/12:50→（ＪＲ）→小出駅 13:05/15→<バス>→折立温泉 13:35/38→（タクシー）→伝之助小屋 14:03/10→（小屋車）→雪見橋 14:20⇒西本城沢雪渓下 14:50/15:05⇒雪見橋 15:30/40→（小屋車）→銀山平伝之助小屋 15:50（泊） ＜快晴　歩行時間　5 時間 20 分＞
	３日目	伝之助小屋 4:00→（小屋車）→中ノ岐林道終点 5:35/45⇒五葉尾根（朝食）6:17/35⇒森林限界 7:50⇒玉子石への分岐 7:58⇒玉子石 8:03/08⇒玉子石への分岐 8:13⇒鷹ノ巣ルート合流点 8:30⇒姫池 8:37⇒木道分岐 8:47⇒平ヶ岳（食事）9:07/30⇒木道分岐 9:48⇒水場⇒池ノ岳下の分岐 9:55⇒玉子石への分岐 10:10/15⇒五葉尾根 11:15⇒中ノ岐林道終点 11:50/12:00→（小屋車）→林道ゲート 13:00→伝之助小屋 13:35/50→銀山平かもしかの湯（入浴）13:55/14:55→（小屋車）→浦佐駅（反省会）15:40/16:22→（新幹線）→上野駅 17:54/18:07→我孫子駅 18:45 ＜曇り　歩行時間　5 時間 5 分＞

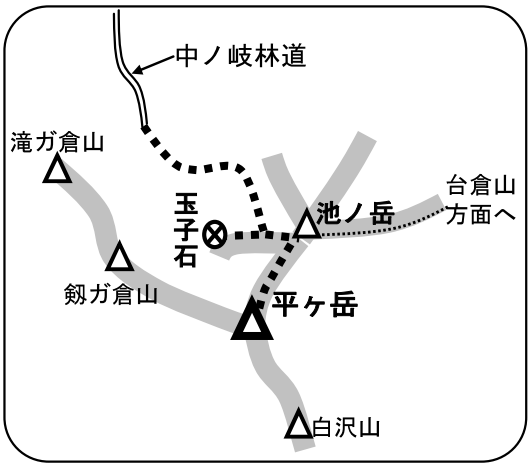
ルート状況	登山道 ① 大倉登山口⇒四合半大崎口分岐⇒千ホ桧小屋大倉登山口～四合半大崎口分岐間は急登路ながら古くからの参詣道でもあり確りしている。四合半大崎口分岐～千本桧小屋間はロープウエイ利用の日帰りハイカーも通過するルートで全く問題ない。 ② 八海山迂回路（千本桧小屋⇒大日岳分岐）⇒新開道⇒二合目登山口 八ッ峰岩峰直下の急斜面を横切る迂回路は鎖が途切れることなく設置された隘路。特に大日岳入道岳中ノ岳縦走路と新開道下山路との分岐地点直下は急下降の鎖場が連続する難路（地図上も点線表示）で、通過に 30 分以上を要した。この箇所を除けば新開道は一本道で特に問題ない。なお、屏風道（千本桧小屋～二合目登山口）は下山禁止（上りは禁止ではない？）の表示板あり。 ③ 中ノ岐林道終点～平ヶ岳 地形図には記載のないルートにもかかわらず、鷹ノ巣ルートに比較し極端に短く容易に登れるため利用するハイカーが多い。このためか整備状況は良好。なお、稜線の木道は一部腐食しているが来年には全面設置替えの予定（小屋情報）。

ルート状況	このルートは国道 30 分、林道 1 時間、この往復 3 時間が難点。この間の送迎は伝之助小屋ほか地元の宿数軒が宿泊者に限定して対応中。 千本桧小屋 山小屋らしい質素な小屋。外観はふるぼけているが、鉄骨造りの大きな小屋で、参詣客で賑わっていた往時を彷彿させる。母屋の 1 階最奥に八海山神社の奥宮が祀られている。八海山九合目に在り展望良好。夏山～秋山シーズンには管理人常駐（宿泊予約要）。薪炊きの南魚沼産コシヒカリは絶品。 紅葉 八海山の稜線や平ヶ岳の中腹～稜線は真っ盛り。平ヶ岳稜線の草紅葉は 9 月下旬が最盛期。
参加者	大串秀（L）、原田和（SL）、斎藤、大串恵、安田、大畠、田村 男３名　女４名　計７名



平ヶ岳をバックに（姫池にて）





＜５０４＞

甲斐駒ケ岳

（２９６７ｍ）

佐藤健一、他

“甲斐駒ケ岳を昔からの山道で登ってみようという気になって仲間を募ったところ、頃合もよく５名の紳士淑女が手を上げた。以下にその山行のあらすじを “やまなみ”として分担して記事する事にしたが、後で思うに余り良い試みでは無かったかもしれない。（リーダーの独り言、ブツブツ・・・）“

（第一走者　Ho さん夫妻）

黒戸尾根ということでテントにするか小屋泊にするかを決めかねていたが最終的に小屋泊に決定し実施した。

１日目は風は強いが、刀利天狗までは樹林帯の中を緩やかに歩いて行くので、木立にさえぎられて風の強さも感じず、木漏れ日の気持ちよさを感じながら、これが噂の黒戸尾根なのかと疑いたくなるような前半でした。

しかし、刀利天狗からの森林限界に出ると梯子などによるアップダンの連続で、五合目小屋から、その先に眼をやると、木々には霧氷に覆われて、この先の困難を感じられる。



刃渡り



刀利天狗にて

（第三走者　佐藤健）

コルにある屏風小屋跡から急な梯子の連続する難場を乗り越え、２時過ぎに七合目にある七丈小屋へ到着した。次第に天気は変わりはじめていたが、到着した頃には、風は冷たく強くなっていた。

飯が美味いと評判を聞いていたし、適当に空いているとの情報で、今回はこの小屋泊まりを予定していた。だが、第一小屋は既に満員らしく、僕らは第二小屋に廻された。しかしここも既に一杯。私達のパーティは先着グループの隙間に二分して漸く寝場所を獲得出来た。（堀口さんの勇気有る濁声のお陰）

普段よりかなり多い登山客に対し、小屋側は臨時のサポートは付いたものの責任者の小屋番は一人だけ。豪華なメニューに驚きながらの夕食中に、この変な管理人さん、明日の朝食は『カンベーン！』ときた。忙し過ぎを嫌ってか、食材が切れた為か定かでないが、14～15 人分が朝食を辞退して欲しいと言う。私達パーティも自主的に辞退を申し出たら一人当り 1000 円返金してくれた。『忙しい時は来て欲しくな～い』とか『迷惑だ一』とか、言いたい放題。それでも可笑しくて皆、爆笑する。お詫びの印と言って、全員に野菜ジュースをプレゼントした事からも、本当に困っていた事の証なのかも知れない。

翌朝、山小屋の上のテントサイトの脇を抜けて、再び頂上をめざす。このテン場は綺麗に整地されていて水捌けも良さそう。何時か必ずペグを打ち込みたいと思った。



八合目御来迎場・片方の石柱

八合目の石鳥居跡に着く。ここは御来迎場と言って信仰にゆかりの場所。鳥居の石柱一本だけが残っていた。2 本の剣が並んで立つ大岩は 9 合目。程なく甲斐駒ケ岳頂上に到着した。快晴の天候で、頂上からの眺めは欠けるところが一つも無い。雪をすっかり被った後立山から北アルプスの連嶺が見渡す限り続く。槍、穂高の峰峰。乗鞍、御嶽、中央、隣の仙丈、北に続く南アルプスのやまなみと富士。　しかし、前日からの突然の降雪で北アルプスだけでも 6 人の方が亡くなった事はこの時は知らず、下山してから知らされた。ご冥福を祈る。

前夜の事情から朝飯は軽い残飯、残パンのため腹がすく。その為か、全員猛スピードで七丈小屋めがけて駆け下りた。

（第四走者　佐藤明）

七丈小屋でインスタントラーメンを買い、作ってたべる。朝早く急いで食べたのでお腹もすいていたから暖かい食べ物は元気が出てくる。たっぷりの休憩のおかげで元気一杯に下り始めた。昨日登った急な梯子やクサリ場が続く。登り以上に気が抜けないので慎重に下る。　昨日五合目小屋で見た霧氷は今日の晴天できえてしまって、肌を刺すような風も収まっている。樹林帯に入ると日差しも和らぎ快適な下山道である。　落ち葉の上に無数に落ちてある山栗を拾いながらも、腐葉土の堆積した優しい登山道は長い距離を忘れさせてくれ、全員が飛ぶように駆け下りて竹宇駒ケ岳神社に着いてしまった。



豪華な山小屋夕食

（アンカー　外崎　蓮・下山後のこと）

吊り橋のたもとにある竹宇駒ケ岳神社に、下山のお礼参りをして駐車場へ戻る。少々汗臭いので、お風呂を探して「尾白の湯」へ行ったところ、入園料 200 円を払わないと 500 円の湯に入れてくれないという。目的は湯だけなので入園料がもったいない。そこで私達は、勇敢にも受付の女性から「武川の湯」があることを聞きだす。国道 20 号線を走って最寄りで右折すると、その温泉はあった。笑ってしまうが、700 円とのこと。妙に納得して泡風呂にゆっくりと浸かる。次はソバ屋探し。奥藤のソバ屋は 4 時半の開店なのに、女性陣は店の戸をたたいて早めに開けさせる。それからのソバの支度の長いこと。ソバ屋を出たのが夕方の 5 時を過ぎていたので 20 号

線が混みだし、甲府インターから中央高速にのっても激しい渋滞が続いた。

私は、一度は黒戸尾根から甲斐駒ケ岳に登ってみたいと思っていた。今回、思いがけずに参加させていただいて本当に良かった。佐藤健一さんと堀口さんには車の提供と運転などで大変お世話になり、心から感謝している。

概念図



概　　要

山名	甲斐駒ケ岳		
月日	平成 18 年 10 月 8 日～9 日（祝）		
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｃ
山域	南アルプス	地形図 1/2.5 万	長坂上条・甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳
目的	甲斐駒信仰の表登山道を探る		
費用	10,000 円	交通機関	マイカー利用

日程コース	一日目	柏公設市場集合 4:30/4:40→尾白川渓谷駐車場 7:30/7:50⇒笹ノ平 10:05/10:15⇒刃渡り 11:30⇒刀利天狗 11:50/12:20⇒五合目小屋 13:00/13:10⇒七丈小屋 14:10（泊） ＜歩行時間　5 時間 30 分＞
	二日目	七丈小屋 5:40⇒八合目ご来迎場 6:30⇒甲斐駒ヶ岳山頂 7:50/8:10⇒七丈小屋 9:20/10:00⇒五合目小屋 10:45/10:55⇒笹ノ平 12:25/12:30⇒竹宇駒ヶ岳神社 13:45/13:55 ⇒ 尾白川渓谷駐車場 14:00/14:15→武川の湯→奥藤（蕎麦屋）→柏公設市場 22:00 ＜歩行時間　6 時間 55 分＞
ルート状況		① 登山口付近に届出提出の受取施設（投函ポスト）は無かった。要注意！ ② 皇太子殿下が登山した為かルートは整備され、梯子も手摺もしっかりしていて不安は無い。鎖も必要ない所にまで設置されていて、ただの体力勝負の感じ。 ③ 初日の山小屋から見上げた８合目、９合目は霧氷が凍結したのか、白くなって見えた。天候の突然の変化には要注意！ ④ 登山道は堆積した腐葉土状態が多く、足に優しかった。にも拘らず、スピード下山の後遺症で翌日から３日間は下半身ストライキ。
参加者		佐藤健（L)、堀口昭（SL)、外崎、佐藤明、堀口幸（ゲスト） 男２名　女３名　計５名

＜５０５＞１０周年記念山行

東八ヶ岳縦走
（阿弥陀岳～赤岳～権現岳～
（2804m）（2899m）（2715m）
網笠山～天女山）
（2524m）（1529m）

柴　勇

天女山の天女はまぼろしか

１日目

八ヶ岳山荘の主人から赤岳から権現岳のコースは、風の強いときは、注意するようにとの有りがたい忠告をいただく。おにぎりを買ってお茶を飲みながら早めの昼食をとる。

美濃戸口から美濃戸山荘までは、一般の自動車の乗り入れ可能なので時々車の排気ガスを吸わされた。小屋関係者以外は、乗り入れ禁止にしてもらいたい。

美濃戸口を歩き出すとツタの黄葉とモミジカエデの紅葉が眼に映える。横岳・硫黄岳中腹の紅葉が見ごろで遠くに輝く。

南沢のコースは、歩きやすく渓流に沿って登る。特に林床や岩に生えた苔の色が緑にまたは金色に目に優しく映り、ところどころにあるモミジの紅葉と木漏れ日が秋のひんやりした空気とともに山歩きを楽しくしてくれた。途中、安田さんが淹れてくれたコーヒータイムの語らいは、3 日間の 3 人の楽しい大きな節目の山行の目的を 1 つに束ねてくれた。

行者小屋に着くと目の前に赤岳展望荘・赤岳・阿弥陀岳が展望できる広場のテーブルに落ち着きビールで乾杯をしながらしばらくおしゃべりを楽しんだ。

２日目

朝食の時間が 6 時と遅いので前日にお弁当を注文し、5 時に 1 階の食堂で、ストーブで暖をとりながら頂く。5 時 40 分すでに辺りは明るく軽くストレッチをして出発する。途中キーンという鹿のなき声がして、見渡すと 2 匹の小鹿が遊んでいた。阿弥陀岳の中腹で雲間から御来光が顔を出した。山頂に立つと広く晴れ渡り、雲海の中に、遠く北アルプス、南アルプス、富士山が、間近に、赤岳、横岳、硫黄岳、そして今日の目的の網笠山・権現岳が心なしか遠くに感じられた。

さすが赤岳は、八ヶ岳の名峰だけあって急な岩場の登りは簡単ではなかった。多くの登山客で山頂は、にぎやかだ。休憩を十分とって眺望を楽しんだ。数年前の 12 月の寒風の時とは大違い、秋の山の良さを味わった。

3 日間の行程の中で体力と気力を必要としたのは赤岳からの今日の終点の青年小屋までのコースでした。岩場・ガレ場の連続で天気の良い風の無い日でなければ、私たちのような熟年には無理なコースです。特にガレ場の下りは、慎重に歩いた。旭岳登りの長い梯子は、特に、久しぶりに緊張を体験した。

網笠山の山頂からは、今日登ってきた阿弥陀岳・赤岳が秋の青空に稜線をくっきりと見せていた。私たち 3 人は、10 周年記念山行に相応しい、いつまでも思い出に残る山行コースであることを実感して山小屋に戻った。私たちがこの年で「青年」小屋に泊まれたのもうれしかった。

３日目

今日は、2 時にたかね荘に全員集合して懇親会を開くことになっているので到着時間を気にしながら行動した。権現岳山頂では、数人の青年と出会った。昨日の赤岳から今日の三ツ頭山までに出会った人は少なく、しかも殆どが青年であった。このコースは、若者向きか？



三ツ頭より権現岳・阿弥陀岳・中岳・赤岳



マツムシソウに出会えた。

三ツ頭山では、マツムシソウの花に出会った。中腹ではカラマツの黄葉とゴヨウツツジやヤマモミジ、カエデの紅葉が美しかった。本式のカメラを三脚で構えている人にも出会った。

天女山で日帰りのグループと会えるかもしれないと期待していたが時間がずれて会うことが出来なかった。（天女はまぼろしか？）。天女山からたかね荘までが平坦な道なのに嫌に長く感じられたが、終点に到着したときの皆さんの歓迎の拍手で今までの疲れも消えてしまった。

≪柴　勇≫

東八ヶ岳　　小さい秋見つけた！

一週間前に八ヶ岳にも雪が降ったんだよ！と美濃戸口の山荘の主人が語ってくれた。３０００メーター級の山々には冬が近づいてきているのだ。

南沢コースを登り始めた私達３人は河を渡ることを繰り返しているうちに小川のせせらぎの心地よさに歩みを進めていると苔むした緑の地面とカラマツの黄色に映えたﾄﾝﾈﾙの中にいた。広葉樹の黄緑の葉が光で輝いている、思わず足を止めて感動に慕った。

朝日に浴びて赤褐色に輝いている赤岳、阿弥陀岳、キレットの酸化鉄のスラブ石を通過し権現岳にたどり着いた時の緊張感の中、北アルプス、南アルプス、中央アルプス、富士山を展望することが出来た中に「小さな秋を見つけた！」ようなきがした。１０周年山行感動の山行でした。

≪斉藤清一≫

８年前の八ヶ岳は岳人あびこの公開登山そして創立記念山行でもあった。今回は岳人あびこの１０周年記念山行の八ヶ岳である。阿弥陀岳・権現岳・編笠山縦走コースに参加した。

１日目の泊りは横岳を後に従えた行者小屋、満足度１００％。

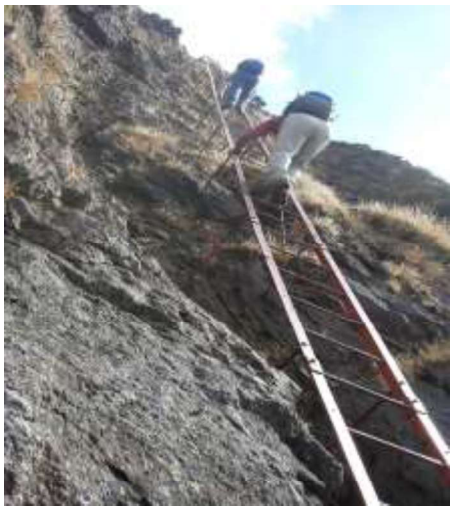
阿弥陀岳、赤岳、キレットと緊張を強いられる。権現岳への長がーい鉄の梯子、忘れられない。青年小屋の前のゴロゴロな大きな岩の裾野から樹林帯を抜けると編笠山の頂上。どこからも大展望だったが、編笠山からの大展望は特に素晴らしく感じた。オカリナの音色が心地よい。

３人と少ない参加者のこのコースでしたが、柴さん、斎藤さんに優しさをいっぱい頂いて素晴らしい１０周年記念山行となりました。有難うございました。

≪安田みづほ≫



阿弥陀岳山頂にて

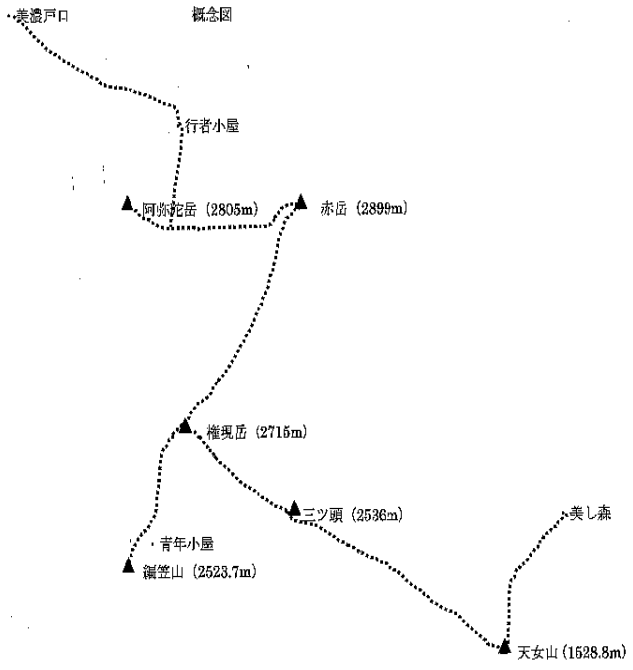


権現岳への長い梯子を登る

概　　要

山名	東八ヶ岳縦走（１０周年記念山行）		
月日	平成 18 年 10 月 13 日～15 日（日）		
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｃ
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳西部 八ヶ岳東部
目的	１０周年を記念して思い出の山行にする。紅葉・下山後の親睦会		
費用	24,000 円	交通機関	ＪＲ・バス・貸切バス
日程コース 一日目	我孫子駅 6:44→新宿 8:00（スーパーあずさ５号）→茅野 10:08/10:20→（バス>→美濃戸口 11:12/11:45⇒赤岳山荘 12:35/12:40⇒美濃戸山荘 12:47⇒休憩 13:30/13:38⇒休憩 14:15/14:20⇒行者小屋 15:30（泊） ＜晴れ　行動時間　３時間４５分＞		
日程コース 二日目	行者小屋 5:00/5:40⇒文三郎尾根分岐 6:10/6:12⇒赤岳分岐 6:37/6:40⇒阿弥陀岳 7:10/7:22⇒赤岳分岐 7:45⇒文三郎尾根分岐 8:28⇒赤岳山頂 9:00/9:30⇒休憩 10:40/10:58⇒キレット小屋 10:10/10:15⇒休憩 11:45/11:50⇒休憩 12:20/12:25 旭岳 12:45/12:50⇒権現小屋 13:30⇒青年小屋 14:00/14:07⇒網笠山 14:30/14:40⇒青年小屋 15:00（泊） ＜晴れ　行動時間９時間２０分＞		
日程コース 三日目	青年小屋 6:02⇒休憩 7:05/7:12⇒権現小屋 7:32⇒権現岳山頂 7:40/7:50⇒三ツ頭山 8:40⇒休憩 9:25/9:38⇒休憩 10:11/10:13⇒天女山 11:09/11:45⇒休憩 12:26/12:30⇒休憩 13:10/13:13⇒たかね荘 13:40 着 ＜晴れ　行動時間　７時間３８分＞ 懇親会へ		
参加者	柴（L）、斎藤、安田 男２名　女１名　計３名		
ルート状況	１日目 ・美濃戸山荘からの南沢ルートは危険箇所はなく安心して散策が出来る。 ・行者小屋は、最近改修したばかりで床も壁も天井も新しい木製。食堂の床は畳で食卓も感じいい木製、ストーブが暖かだった。寝室は一部が簡単に仕切られていて通路があるので夜中の出入りには便利。布団とともに薄めの寝袋がある		

ルート状況	ので寝ていて暑いくらい。コタツも用意されていた。 ・特にトイレが水洗式（簡易）で清潔。夕食がシチューと野菜サラダ、スープ、フルーツ。お弁当は五目おこわと野菜サラダ、フルーツ。 ２日目 ・赤岳分岐から阿弥陀岳は岩場とガレがあるので初心者は要注意。 ・赤岳からキレット小屋までは岩場・鎖場・ガレ場の連続。かなりの注意力と岩場に慣れた中級登山者の世界。キレット小屋は閉鎖されていた。キレット小屋の近くのトイレ、水場はＯＫ。 ・青年小屋までも岩場・鎖場・ガレ場が多く、特に旭岳登りの 61 段の長い源治バシゴは、岩場から 50 ㎝くらい離れていて緊張を強いられる。このルートも岩場に慣れた中級登山者の世界。 ・青年小屋は古く特にトイレは、比較的きれいであったが、匂いが鼻につく。 ・食事は夕食に馬刺しと葡萄のサービスがあり内容はまずまず。水場は小屋から１０分くらいの所。 ３日目 ・権現岳から天女山までは、危険箇所はほとんど無い。



＜５０６＞１０周年記念山行

南八ヶ岳（赤岳）

（２８９９m）

武内勇二

赤岳縦走「八ヶ岳」

第１日

いつもの奥多摩・中央線沿線への山行時と同じく、千代田線我孫子発５時３３分に乗車、武蔵野線経由で中央線高尾に到着、ここで７時２５分発小渕沢行の普通列車の客となった。紅葉シーズンの始まりでもっと混み合っているのではないかと心配したが、幸いにもいつも通りのガラガラ、４人で２ボックスを占めても全く問題ない混み具合だった。

終点の小渕沢で次の普通列車に乗り継ぎ、富士見駅で下車。美濃戸口へのバスはもう少し先の茅野駅から出ているが、タクシー利用とすれば富士見駅からのほうが近い。駅前に駐車中のタクシーに乗車、美濃戸口に向かう。標高１０００m辺りに来るとかすかに紅葉が始まっていた。

美濃戸口で身支度を整えて出発。林道を１時間位歩いて、美濃戸山荘で昼食。ここから行者小屋へは、北沢沿いに赤岳鉱泉を通ってゆく道と、南沢に沿って直接行者小屋へ行く道との２通りあるが、今日は南沢ルートを行くことにしている。沢の右岸・左岸を行ったり来たりしながら、展望の余り利かない木々の中の道を辿り少しずつ高度を稼ぐ。大学生と見られる男女９人のパーティと出会う。急ぐことは無いので、対面の紅葉の具合を観察したり、こまめに小休止を挟んだりして意識的にペースダウンしたが、それでもすぐ追いつきそうになる。相当にスローなパーティである。やがて、樹林帯を抜け河原にでた。



行者小屋テント場より大同心



行者小屋手前の河原にて（背景は横岳）

前面に大同心の岩壁が横岳を従えてそそり立っている。ここまで来れば、行者小屋は近い。

行者小屋前ではやたらとハイテンションな中年男性が大声で喋っていた。静寂な山の雰囲気に合わない。うるさいので、出来るだけ小屋から離れてテントを張った。風はほとんど無いが空気は冷たい。セーター、ヤッケを着込んで、持参のビールで乾杯！　ウマイ。ツメタイ。やっぱり熱燗がいいな。勝手なことをいいながら酒宴は進む。空は真っ青に晴れ上がり真近かに仰ぐ大同心に夕陽が映える。日が翳ってくるとさすがに冷える。ランタンに灯を燈しテントに入る。１０周年イブの食事はすき焼きの豪華版。明日の懇親会での余興のおさらいをしている間に夜がふけた。

第２日

４時１５分に目が覚めた。４時半起床には少し早いがゴソゴソしていると皆も起きだした。今日も快晴だ。朝食を済ませテントを撤収。テントにべったりと霜がついていた。明け方の冷え込みを物語っている。６時１５分出発。暫くは樹林帯を行くが、勾配がきつくなるにあわせて樹木は疎らになり南西側の展望が開けた。阿弥陀岳が上半分だけ朝日を浴びて立ち上がっている。西方遥かに後立山から槍穂にいたる北アルプスの峰々が白く輝き、乗鞍、御岳と毎度お馴染みの顔ぶれが雲上に浮かんでいる。今日は一際くっきりと輝いている。

梯子や鎖にも助けられて岩場を登りきると八ヶ岳縦走路の尾根に飛び出た。お地蔵さんが鎮座している。南東方向に富士山が大きい。古の昔、富士山と八ヶ岳が背比べをして、負けた富士山が八ヶ岳を蹴飛ばしたので八ヶ岳の上の部分が砕け散り、今の八ヶ岳の姿になったとの話がある。蹴飛ばされたかどうかは別として、大小さまざまな噴火が繰り返されたのであろう。横岳、中岳、阿弥陀岳など、赤岳を取り巻く山々の地形が荒々しい。

赤岳展望荘を越えると愈々赤岳への登りである。小さくジグザグにきってある道をゆっくりと登る。下山者もそれなりにいるので時間がかかった。頂上小屋には大勢の登山客がいた。みんな素晴らしい展望を楽しんだので満足げである。赤岳北峰の頂上で、パーティ全員と登頂の握手を交わす。権現、網笠等八ヶ岳南部の山の向こうに、白峰３山、甲斐駒、仙丈の南アルプスの山々、鳳凰のオベリスクが天に突き上げているのも望見できた。八ヶ岳は本州中部山岳の中央にあるので、名だたる山は全て指呼の内に捉えることが出来る。八ヶ岳縦走コース（２泊３日）をとっている村松パーティと携帯で連絡をとった。



赤岳山頂にて

今、赤岳展望荘を出たところとのこと。順調のようだ。

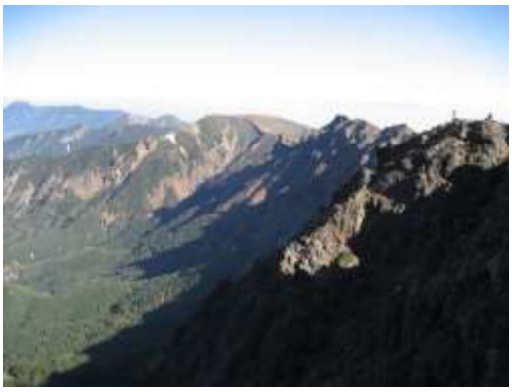
これから下る真教寺尾根がよく見えた。赤岳頂上から一旦鞍部へ下り、なだらかな尾根へ取付くのだが、山頂から鞍部まではかなりの急勾配の崖で、こんな所を下るのかと思うと緊張した。ともあれ、皆で「下り注意」の声を掛け合い下降を開始する。

梯子を下ってまもなく中岳・阿弥陀岳方面との分岐があり、道標に導かれてキレット方面へ向う。数年前のクリスマス山行時、行者小屋への下山時、この分岐で間違って引き返したことを思い出した。その時は、猛烈な突風に悩まされ、体を静めて風に耐えたものだ。今日は天気が素晴らしく風も全くない。鎖に導かれて、岩壁をトラバースするとやがて真教寺尾根への分岐に出た。愈々真教寺尾根への下りが始まる。急斜面のガラガラ道で、鎖場も連続する。浮石に乗らないよう、落石しないよう気を使いながら、それでも素晴らしい景色を楽しみながら下る。八ヶ岳東側の西上州や奥秩父の山々、秀麗な富士がいつも眼前にある。晴れていてよかった。天気が悪ければ、とてもこんな楽しみは出来ないし、まして雨で濡れていたら危険は倍加する。まもなく潅木帯に入ろうかというあたりで、上方から叫び声が聞こえた。　村松パーティが我々を認めたようだ。暫くすると、先を行く川下パーティから携帯の連絡が入った。川下

パーティは、昨夜は展望荘泊まりだったので、１時間程は先行している計算になる。まもなく扇山の頂上付近とのこと。

展望のよい岩場で休憩した後、愈々道は樹林帯に入る。鞍部まで下った後、緩やかな登りと小さな下りを繰り返すと扇山。小さな札がなければそれとも知らず通り過ぎてしまうような頂上である。展望は全くない。お腹はすいたが先に進むと１０分足らずで牛首山の頂上に出た。ここで昼食休憩。出発時に外崎さんが三角点上に「武内班、１２時１０分出発」のメモを置いた。後で聞くと、後続の村松パーティとその後の堀口パーティの励みになったという。

１時間ほどで賽の河原に到着。ここからの赤岳の眺めは素晴らしい。最後の休憩中に村松パーティに追いつかれた。ここまで来るとリフトで上がってきた観光客とも出会うようになり下界を感じさせるが、懇親会場の美しの森ファーム（旧たかね荘）まではあと40分ほどの頑張りが必要だった。



赤岳山頂から北八ヶ岳方面（中央は硫黄岳）



概　　要

山名	南八ヶ岳（赤岳縦走）Ｂ班		
月日	平成 18 年 10 月 14 日～15 日（日）		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｃ
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳西部・八ヶ岳東部
目的	１０周年記念山行		
費用	5,600 円（テント代含む）	交通機関	ＪＲ・タクシー・バス
日程コース	一日目	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺→高尾駅 7:16/7:25→富士見駅着 10:47/10:54→（タクシー）→美濃戸口 11:10/11:15⇒美濃戸山荘 12:10/12:40（昼食）⇒休憩 13:20/13:25⇒休憩 14:10/14:15⇒写真撮影 14:35/14:40⇒行者小屋着 15:05 ＜曇のち晴れ　行動時間 3 時間 50 分＞	
	二日目	行者小屋 6:20⇒地蔵さんの場所で休憩 7:10/7:15⇒地蔵仏尾根 7:30/7:35⇒赤岳展望荘 7:40/7:50⇒赤岳頂上（H2899m）8:30/8:50（村松班と携帯連絡する）⇒文三郎コースとの分岐 9:00⇒キレット越えコースとの分岐 9:15⇒休憩 9:47/10:00⇒堀口班とエール交換 10:10⇒川下班と携帯連絡 10:15⇒休憩 10:40/10:45⇒鞍部 11:10⇒扇山H2356m 11:43/12:00（昼食）⇒牛首山H2280m 12:10⇒賽の河原 13:05/13:15⇒たかね荘着 14:00 ＜快晴　行動時間 7 時間 40 分＞	
ルート状況	① 赤岳頂上～真教寺尾根は急な岩の下りで、鎖場が連続する。落石に気をつけ、慎重に行動する要。 ② 行者小屋テント利用料は一人当たり１千円とやや高い。		
参加者	武内（L）、外崎、高橋英、原田和 男３名　女１名　計４名		

＜５０７＞１０周年記念山行

南八ヶ岳（赤岳）

（２８９９ｍ）

やまたんより掲載

素晴らしい天候に恵まれた八ヶ岳（赤岳）山行

天気が良く非常に満足な山行でした。朝の中央線運転見合わせニュース、規制道路から引き返し命令（タクシー無線）等、久しぶりの山行は多難を予想されたが、行者小屋では若い人が多く驚き、天望荘では写真目的の人が多くこれに倣い、また想定外のサービスを得て、稜線までがんばったことで、阿弥陀に隠れる夕日、富士を始め雲海から顔を出す山々、朝日に輝く周辺の峰々を眺めつつ、静かな真教寺尾根をゆっくり後続を待ちながらの下山、早立ちと後続３組がいることが心強く、精神的に極楽山行（１日目：明日楽だから、今日のうちに稜線へ上っておこう！２日目：全組に抜かれない程度にゆっくりと、下山後の入浴時間だけ有ればいいよ！）。随分昔の公開登山以来の八ヶ岳、至れり尽くせりの山域は如何なものかと思っていたが、天気と日頃の行いの良い岳人あびこの皆様に只、感謝。

何と素晴らしい天候に恵まれた全山行だったことでしょう、自分としては二度目のトライで、少人数でまとまり良く和気あいあいとした楽しい山行でした。

（リーダー　川下敬史）

登り＝地蔵尾根、下り＝真教寺尾根とどちらも大変厳しかったのですが、下山してみれば充実した記憶に残る山行となりました。

帰りの車中で何方かが発言してらした「これだけの人数が其方のコースを楽しみ、誰ひとり怪我も無く、遂行出来たこと実績は岳人あびこ１０周年山行だからこそ」と深く共鳴致しました、これからも永く自分なりに会と共に楽しみたいと思います。

（山本紫津子）



赤岳山頂にて

出鼻をくじかれ、交通事情でいかれないかもと心配しながら新宿へ。あずさ１号に乗る。何事もなく予定通り茅野に着き、タクシーで美濃戸口より入った所で歩き出す。美濃戸山荘で腹ごしらえをし、行者小屋に向かう、行者小屋から赤岳を見上げるとジグザグに登っていく登山者が見える、私の行先・・・・。赤土の岩を登りクサリ、ハシゴと慎重に足をはこびながら地蔵尾根上に立つ、地蔵仏の脇を通って赤岳天望荘今日の宿に着く。お茶、コーヒー飲み放題、食事もバイキングにはビックリ！　とてもおいしかった。個室でしたので、静かでゆっくりと眠ることが出来ました。



地蔵尾根。後は阿弥陀岳

日の出は見られませんでしたが、遠い雲海の上に雪帽子をかぶった槍ヶ岳、南には富士

山の姿も見ることが出来、登ったことを実感、感激でした。赤岳頂上を経て、クサリ場８カ所を下り足もガクガクしながら下山、集合場所「美し森ファーム」へ。私にとっても、山行が奥深く一歩がふみこまれた事を心強く思いました。　　（藤倉貞江）



真教寺尾根

２日間共最高のお天気に恵まれ幸運。
いつも行者小屋から見上げる赤岳を越えて、真教寺尾根を下る事など考えてもいなかったので、岩場を下るのは大変でした。反面とても新鮮な八ヶ岳登山の経験をしました。
（原田君子）



赤岳の朝

概　　要

山名	南八ヶ岳（赤岳）		
月日	平成 18 年 10 月 14 日～ 15 日（日）		
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳東部・八ヶ岳西部

目的	１０周年記念山行		
費用	12,000 円	交通機関	ＪＲ・タクシー・バス
日程コース　一日目	成田線一番電車→新宿 7:00 あずさ１号→茅野 9:05/9:20（タクシー）→美濃戸口 10:10/10:15⇒美濃戸山荘 11:10/11:20⇒南沢⇒（昼食）⇒行者小屋 13:30/14:10⇒地蔵尾根⇒天望荘 15:40（泊）　＜行動時間：5 時間 25 分＞		
日程コース　二日目	天望荘 4:50/6:25⇒赤岳山頂 7:05/7:20⇒真教寺尾根⇒扇山 10:00/10:20⇒牛首山 10:25⇒賽の河原 11:00/11:20⇒羽衣池 12:20⇒美しの森ファーム 12:40（入浴）14:00 以降懇親会へ　＜行動時間：6 時間 15 分＞		
ルート状況	① タクシーで美濃戸山荘まで入るつもりでいたが不可、不慣れな運転手さんで連絡、手続きの不足か。 ② 天望荘は労山会員証で１０％引きであったが値引無しの代りに個室へ、予約時（美濃戸山荘）には 4,000 円／人と言われていたが単に部屋が空いていただけか？ ③ 天望荘では写真目的の人が大半、残りは携帯電話で撮影するにわかカメラマン、佐藤さんが薦めるだけあり食事も焼酎も納得。 ④ ルートではないが、ＪＲの運行案内は常磐線車内が一番親切、中央線の運転見合わせも山手線内では放送されず（ＣＭばかりで）新宿駅まで不安が続いた。		
参加者	川下（L）、原田君（SL）、山本、藤倉　男１名　女３名　計４名		



＜508＞10周年記念山行

八ヶ岳（天狗尾根）

由布仁子



天狗尾根に挑戦！

思い出に残る山行

山を歩く人なら誰しもが抱く「未知の場所」への憧れがあるだろうと思う。たとえば縦走路から覗き見た小さな草地、アプローチから見上げた残雪のカール、地図にしるされた未踏の湿原、目に焼き付いてしまった写真の中のお花畑・・・。

『あの場所へ行ってみたい』と、ひそかに抱いた夢を胸に温める時、その人には夢を持つ幸福感と実現への静かなエネルギーが時間と共に蓄積されていく気がするのです。今回の「八ヶ岳・天狗尾根」は、私にとってそんな場所でした。

10周年記念山行の原案が発表された時、正直言って天狗尾根は地図上でしか確認できませんでした。八ヶ岳は若い頃から馴染みの深い山でしたが、単独行の多かった私にはバリエーションルートなど考えも及ばず、危険地域はご法度でした。したがって持っている地図もガイドブックも一般向けで、破線のルートは論外でしたから「天狗尾根」を意識して見ることすら無かったのです。そのバリエーションルートが山行候補にあがった事で、私の中で興味の磁石がくるくると回り始めたのです。

『私にも登れるかもしれない。』でも実力が伴わなければメンバーを危険な目に遭わせる事になるし、いったいどんなコースなんだろう。

湧き出した興味はなかなか収まりません。これは現場を見てみるしかないでしょう、という事で夏の晴天をねらって西岳～権現～キレット～赤岳～真行寺尾根を歩きました。天狗尾根を東横から見て登り、ルート合流点を通過して降りは反対側から見ることができます。

実に登行意欲をそそる姿でした。文献やインターネットを調べると、まずその姿の奇怪さにふれているように大小の岩峰が急角度の尾根を形成しています。ザイル、カラビナ、ハーネス等の装備は必要ですが、夏も冬も初級バリエーションルートとしてよく登られており、危険ではあるが経験のあるリーダーとメンバーが一緒なら私でも行けそうです。

夢を温め始めました。楽しみと不安、一歩階段を上がる時はいつでもこの二つに悩まされます。不安を解消する為に健康管理とトレーニングを心がけました。まず体力です。体力がついてくれば気力も充実します。技術はすぐには身につきませんが、出来るだけ努力するしかありません。もちろん山の神様には晴れますようにお願いして・・・。

10月14日山行初日　まずまずの晴れ。美しの森駐車場からゲートをくぐって林道をたどる。今日は地獄谷出合いの避難小屋までなので、紅葉を愛でながら歩く・・・のだが

足の速いメンバーが揃っているのでたちまち汗をかいてしまった。「こりゃ明日が恐ろしい」と密かに案じたのは私だけなんだろうなぁ。

地獄谷に入り堰堤をいくつも越えたころ少しガスが降りてきた。空気がひんやり感じられ、谷がせばまって間もなく「出合小屋」に到着。地元の高根山岳会の小屋だ。さっそくビールを沢水に浸し、今夜の準備にとりかかる。嬉しい事に薪ストーブが置かれていた。狭い沢だが流木はたくさんある。それだけ冬の雪の厳しさが想われるが、今夜の私達には有り難い燃料だ。ルート偵察隊が戻る頃には白い煙が煙突から流れ、小屋は温かい一晩を私達に提供してくれた。

我々の後、間もなく男女3名のパーティが到着。ストーブを譲り、外でオカリナの伴奏でコーラスの練習を始めるがなかなかうまくいかない。3名のパーティは創立 10 周年の集中登山の余興練習と知り、にこにこと聞き流してくれたが・・・もうちょっと練習しないと・・・明日、大丈夫かな？

夜中、外に出て空を見上げると、黒々とそびえる尾根の間いっぱいに星が輝いていた。もう明日の晴天は約束されたようなものだ。ブルッと体を震わせたのは秋の冷えた夜気のせいか、それとも武者震いだったのか。あわてて煙臭いシュラフにもぐり込み「この匂いはどのくらい干したらとれるかしら・・・」などと考えながらウトウトと眠りについた。

10月15日（日） 晴れ

朝まだ暗い5時25分、出合小屋出発。朝露のついた笹を分け尾根に上がる取り付き点をめざす。ルート経験のある堀口リーダーと坂口さんの判断で30分ほど赤岳沢を詰める。間に何箇所か赤やピンクの目印があり迷う所だ。早く取り付けば尾根上でアップダウンの藪漕ぎだし、詰めすぎると尾根までの急登が長く時間のロスだ。一段と沢が狭くなり、左岸から大岩が張り出した地点に赤布がありここから取り付いた。いきなり立ち木にぶら下がるような急斜面で、踏み跡も無く足元も不安定だ。シュラフと装備の入ったザックがじゃまをする。しかし皆子供の頃に戻ったような身のこなしでほとんど前しか見ていない。朝日が木々の間から射し込み、一汗かいた頃尾根上に出た。どうも予定より左隣の尾根を登ったようだ。刃渡りのような岩稜にあがるとすばらしい紅葉の展望が開けた。左手から権現岳、ツルネ、キレット、突き上げる天狗尾根稜線、その脇奥に主峰赤岳、右手に長大な真教寺尾根、振り返れば遠く奥秩父山塊、今日は一日この景色を楽しめる。



岩峰群の中を登る

ハーネスをつけカラビナ、スリングをセットすればいよいよ登攀の開始だ。ぐっと気が引き締まる。

二つの小岩峰が「カニの爪」と呼ばれる地点で小休止。その先の大きな岩峰では先行3名の通過待ち。夕べ出合小屋で一緒だったパーティーだ。岩登りの訓練らしく、巻き道は使わずに行くらしい。私達はリーダーの体調不調もあって巻き道を行く。それでもなかなか厳しいルートだ。踏み外せばたちまち谷へ転げ落ちるだろう。

フィックスロープでいったんトラバースして草つきの凹部を這い登る。ここにフィックスロープがあるか無いかで通過時間が大いに異なるが、トップのリーダーが張った補助ロープに、各人カラビナで確保しながら登る。ブッシュの下はほぼ垂直に切れ落ちた崖だ。合図の笛が鳴る度に皆の安全が確認され、登る姿が見えない緊張感が安堵に変わっていく。 高度を上げるに従い赤岳沢をはさんだ真教寺尾根が近づいてきた。赤岳から下山する人の姿が見えている。と、「おーい、おーい」と聞きなれた声がこちらに届いた。村松会長だ！嬉しくなって皆で「オーイ」「ヤッホー」を連呼した。まさに集中登山の楽しさここに在り。仲間っていいなぁ。

大天狗と呼ばれる大岩峰は、奥穂高岳のジャンダルムを小型にしたようなドーム型で、直登はこの天狗尾根の核心部になるがロッククライミングの世界である。訓練された技術がなければ挑戦すべきではないだろう。赤岳沢側に巻き道があり上部のバンドまで這松漕ぎで上がれるので、私達は地道にそちらを楽しむ。大天狗をクリアすればもう目の前に小天狗が見えている。縦走路合流までもうすぐだ。リーダーの調子が回復せず無言で（いつもそうだが）、食欲が無いのが気になる。他のメンバーは至極元気。爽快な岩登りを心から楽しんでいる様子が少し疲労した笑顔に現われている。青山さんは詳細な記録を取るのに余念が無い。ちょっぴり家の事が心配な千葉さんは時々携帯をのぞいている。佐藤（明）さんは大好きな岩登りでまだまだ余裕。吉川さんはもちろん難しいルートの方に興味津々。佐藤（健）さんは大汗をかきながらも落ち着いた目の配りだ。ロックの心得のある坂口さんはラストを受け持ち頼もしい。



大天狗・小天狗を越えて

小天狗を越えたところで記念写真と大休止。11時をまわり、陽射しが高くなって暑いくらいだ。今日のハイライトは終わった。

12時、真教寺尾根下山開始。ひたすら集合のたかね荘を目指す。しかし鎖場の連続でスピードは上がらない。急ぐあまり事故を起こしてはならないので落ち着いて急ぐ？途中、仲間の置手紙があり皆で感激。おまけにその余白に、先行したあの3名パーティのエールのメモ書きもあり、改めて山を介した仲間の縁の嬉しさを感じた。

結局、集合時間には間に合わず、皆様には拍手で迎えていただく事になり、ホッとするやら申し訳ないやら・・・。

たかね荘の計らいで時間を少し延長していただき、私達の未熟なコーラスもご披露となり初代会長三浦さんの美味しいお酒も頂く事が出来た。

すばらしい記念山行が全員無事で、天候に恵まれた事を感謝しつつ、八ヶ岳の懐からさよならした。

また夢を抱いて来る日まで・・・。

概　要

山名	天狗尾根（10周年記念山行）		
月日	平成 18 年 10 月 14 日～15 日（日）		
形式	避難小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
山域	南八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳東部 八ヶ岳西部
目的	10周年に思い出に残る山行		
費用	6,000 円	交通機関	JR・タクシー・貸切バス
日程コース 一日目	我孫子 5:30→新宿 6:48/7:00（スーパーあずさ1号）→小渕沢 8:54/9:39→清里 10:02→美し森駐車場 10:30/10:50⇒林道分岐 11:30/11:40⇒休憩 12:30/12:40⇒出合小屋 12:55（小屋泊） ＜歩行時間　2時間5分＞		
日程コース 二日目	出合小屋 5:25⇒赤岳沢・天狗尾根取り付き 6:05/6:20⇒稜線上 6:45/7:00⇒樹林帯上部 7:30/7:43⇒カニのはさみ手前 8:24/8:47⇒第一岩峰手前（フィックスロープの所）8:57/9:37⇒第一岩峰 9:44⇒大天狗 10:03/10:20⇒小天狗 10:30⇒登山道手前 10:45/11:20⇒登山道 11:32⇒真教寺尾根出合 11:53/12:00⇒樹林帯 12:50/13:00⇒扇山 13:43/13:50⇒牛首山 14:00⇒羽衣池 15:35⇒美しの森ファーム・たかね荘 15:50 （懇親会へ） ＜歩行時間　10時間25分＞		
ルート状況	① 美しの森駐車場からの林道に、すぐ手前にゲートがありそのまま林道を進み、30分程するとY字路に、左方向に下る林道がある。堤越えに苦労する。 ② 出合小屋はストーブがあり、回りに倒木も多く快適な夜を過ごす事が出来る。水も豊富。 ③ 赤岳沢からの天狗尾根取り付き点が数多くの印があるために判断に苦労する。沢を詰めすぎると尾根への高低差があり過ぎてしまうので適切な判断が必要。 ④ 岩峰は手がかりが、予備知識よりしっかりしているので、装備を整えて挑戦できると思う。 ⑤ 森林限界に出ると360度の展望を楽しみながら歩行を楽しめる。 ⑥ コース全体はルートも印も明瞭だ。		
参加者	堀口（L）、青山（SL）、坂口、千葉、佐藤健、佐藤明、吉川、由布 男3名　女5名　計8名		

概念図



＜５０９＞１０周年記念山行

八ヶ岳本峰縦走

（北横岳 ～ 赤岳）

（2473m）（2899m）

矢野貞子

１日目

我孫子駅からＪＲ線で茅野駅まで行き、タクシーで４５分、そこからロープウエイに乗り一気に２８００ｍの高さの坪庭、北八ヶ岳の登山口に着いた。ロープウエイを降りると槍ヶ岳、穂高から南アルプスまできれいに見える。記念写真を撮りいざ出発。観光客のにぎわう坪庭を左に折れ横岳へ４０分ほど登ると左手に北横岳ヒュッテに着いた。休憩後樹林帯を登ると急な登りになり１０分程我慢すると南峰に着いた。



北横岳山頂にて

視界が開ける。目の前の蓼科山が大きい。快晴のため展望が素晴らしい、はるか彼方に白馬連峰が真っ白に雪を被った姿が見え、一週間前の遭難事故が思い起こされた。そこから穂高、槍、乗鞍岳、木曾御嶽山、南アルプスと一望できました。これから辿る南八ヶ岳の山々は遥か彼方にあり、その姿は前方の縞枯山に阻まれ見ることは出来なかった。北峰に行きお昼を食べる。２０分ほど休み、もと来た道を下り坪庭に着く。観光客でにぎわう坪庭を過ぎると静けさが戻った。横岳の下りでずっと見えていた青い屋根の縞枯山荘を過ぎる雨池峠の十字路に着いた。雨池から下ってくる登山客が多いが縞枯山に向かうのは私達だけだった。直線状の急な登りを３０分程登ると頂上に着く。頂上には立ったまま枯れた木や倒木があり展望はきかない。ひと休みし５分ほど下ると展望がひらける。荷物を置きそこからすぐの大きな岩の展望台へ往復する。これから登る茶臼岳への道が樹林帯の中に見える。再び下り、枯れた木々がごろごろする所や樹林帯の道を行くと茶臼岳山頂。ここも展望がない。村松隊長から西に２～３分行くと見晴台があると聞き展望台へ行く。荒れた岩との展望台からは樹林帯の縞枯現象の間に所々黄色い紅葉が見られる。茶臼岳からの下りは、始め急なくだりを 10 分ほど行くと平坦になったが、それを過ぎると大きな岩がごろごろして歩きづらい。疲れた足と倒木やぬれた石に足を取られ転んでしまう。４時すぎ麦草ヒュッテに到着。貸切のヒュッテはお風呂がありました。若くてかっこいいお兄さんが作った肉じゃがと虹ますのから揚げがおいしかった。夕食後、たかね荘で披露する余興の練習をする。小川さんの指導のもと笑いをこらえながら練習した。暖かな布団に入っても「夕焼け小焼け」ってどうだったけ、なんて思い出しながら眠りに就いた。



麦草ヒュッテ前にて

２日目

朝６時５０分出発。苔むした林を行くと急な登りになる。さまざまな苔生えるジグザグ急登、丸山頂上に着く。見晴しはない。大きな石と枯れ木の歩きにくい道を下ると高見石小屋に着く。

村松隊長を残し小屋の後ろの高見石に登り白駒池を見る。黄色く色づいた木々の真ん中に池が見えやっと秋らしい風景に出合った。危ない足元に注意しながら写真を撮っていると下から隊長の掛け声が聞こえ慌てて下りた。

再び樹林帯の中を１時間ほど登ると中山。ここは頂上らしくなくひと休みして樹林帯を下る。顔を上げるとこれから登る天狗岳が見えるが、中山峠まで下らなければならない。中山峠でひと休み。樹林帯を抜けると岩がごろごろして歩きにくい急登だ。一歩一歩ゆっくりゆっくり進む。ここまでの登り下りの疲労もあり足が思うように進まない。やっと東天狗岳の頂上に着く。どこから登ってきたのか頂上は登山者で賑わっていた。ここでお昼を食べて小川さんを残し西天狗岳を往復。私も待っていると言いたかったがタイミングを失ってしまう。ガラガラした岩場を下り西天狗岳へ。小川さんに合図を送り写真を撮ってもらう。

再び東天狗岳に向かう。帰り道登山者とは少し異なる集団の老人や若人一行に会う。ツアー客らしい。私は岳人あびこに入れてもらって良かった。



天狗岳山頂にて

東天狗岳で小川さんと合流して根石岳、箕冠山を通り夏沢峠へ。ここで最後の登りに備えひと休み。登りは５回目、今日はこれが最後の登りだ。天狗岳への登りほどではないが、疲れた体では思うように足が運ばない。あと少しで頂上のところで天候が変わり吹きつける風が冷たい。頂上まで頑張るつもりだったが、耐えられず１枚着る。５分程で硫黄岳頂上。広々した頂上から噴火口のお釜をのぞく。ぱっくり切り込んだお釜不気味だ。吹き抜ける風の中を下ると今夜の宿の硫黄岳山荘。皇太子が泊った記念碑があった。そのおかげか、ウオシュレット付きの水洗トイレがあった。夕食までの時間、余興の練習をする。夕食はこの日も肉じゃがだった。夕食時の小屋の話によると麦草ヒュッテは冬も営業しており、駅まで送迎があるとのことだった。隊長より明日は２時までにたかね荘に着くための行程について緊張感の漂う説明があった。歩けるか心配だ。中村さんからバンテリンを借り明日の登りに備え足にすり込む。大畠さんと田村さんは足が痛くないらしい。私はトイレに行く階段の下りでも足が痛いのに、やっぱり普段から登っている人はすごい。暑くてよく眠れなかった。



硫黄岳山荘前にて

３日目

朝食を駆け込み出発。足元の霜柱を踏みながら吹き抜ける風の中を歩き出す。早立ちしたおかげで横岳へのクサリ場ではすれ

違いなどの渋滞などには遭遇せず順調に進み１時間ほどで横岳の頂上に立てた。これからは最後の峰、赤岳だ。赤岳から横岳に向かう登山者にすれ違う。体は疲れているがこれが最後の登り、がんばろう！赤岳頂上到着。晴天に恵まれ３６０度の展望が得られた。



赤岳山頂にて

記念写真を撮っていると続々人が溢れてきた。５０人位のツアーのメンバーとのことだ。昨日、登山靴の底がプカプカしているのが見つかり、いつ剥がれてしまうか、どきどきしながら歩いて来た。具合の悪かった中村さんも良くなってきたとのことだ。良かった！ひと休みし、ツアー客を先に行かせて下り始める。

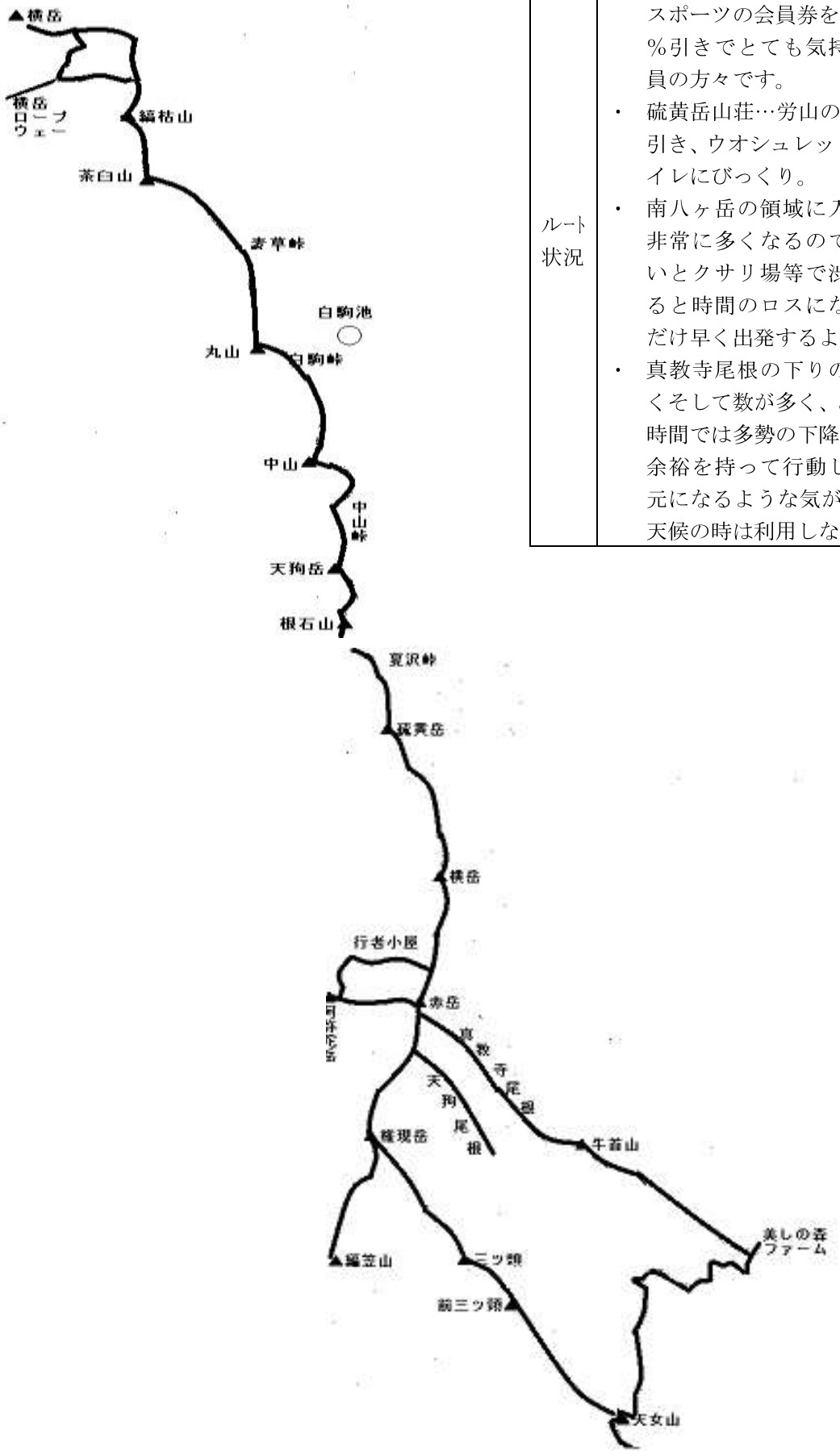
真教寺尾根はガラガラした急な岩場はクサリがあるが長く下が見えない所もあり気をゆるめることが出来ない。靴底が気になり、横滑りをしないように慎重に足を運ぶ。途中、天狗尾根にはりついている人影が見え、声を掛ける。返事が返ってきた。岳人あびこのメンバーらしい。途中扇山に先に歩く別ルートからのメッセージあり、力づけられる。山の仲間はいいものだ。

扇山を越えると樹林帯は紅葉真っ盛りだった。赤く色づいた木々を見るのは今回の山行で初めて出合った。紅葉を楽しみながら山歩きを楽しんだが、その長さにはうんざりした。最後には気力がなくなりのろのろと下り予定より少し遅れたがたかね荘に着いた。山行中に練習した手話の余興も大盛況でした。数十年ぶりの八ヶ岳で、行く前は不安でしたが、仲間のおかげでなんとか登りきることが出来ました。
有難うございました。

概　　要

山名	八ヶ岳本峰縦走（北横岳～赤岳）			
月日	平成 18 年 10 月 13 日～15 日（日）			
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｃ	
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	蓼科・八ヶ岳西部及び東部	
目的	創立１０周年を祝って集中登山（６コース）			
費用	22,000 円	交通機関	ＪＲ・タクシー・バス	
日程コース	一日目	我孫子 5:30→新宿駅 7:00（スーパーあずさ）→茅野駅 9:08→（タクシー）→ピラタスロープウエー駅 9:45/10:00→山頂駅発 10:20⇒北横岳ヒュッテ 11:00⇒北横岳南峰・北峰 11:20/11:45⇒坪庭分岐 12:30⇒縞枯山 13:30⇒茶臼山 14:40⇒麦草ヒュッテ 15:45（泊）		
	二日目	麦草ヒュッテ 6:50⇒丸山 7:50⇒高見石小屋 8:15／8:30⇒中山峠 10:25/10:35⇒東天狗⇔西天狗 11:45/12:50⇒根石岳 13:15⇒夏沢峠 14:00/14:10⇒硫黄岳 15:20⇒硫黄岳山荘 15:40（泊）		
	三日目	硫黄岳山荘 6:25⇒横岳 7:20⇒地蔵分岐 8:15/8:35⇒赤岳 9:15/9:30⇒真教寺尾根分岐 9:50⇒扇山 12:10⇒牛首山 12:20⇒賽の河原 13:15⇒美しの森（旧たかね荘）14:15…懇親会へ		
参加者	村松（L）、中村八、大畠、小川誠、田村、矢野　男２名　女４名　計６名			
ルート状況	一般的に登山道及び道標はしっかりしているので３日間歩く根性とスタミナさえあれば問題ない。但し横岳周辺と真教寺尾根の梯子、クサリ場の通過には充分注意して歩きたい。			

概念図



ルート状況	・ 麦草ヒュッテはこの時期風呂付（冬利用した時はなかった）。尚ヨシキスポーツの会員券を持参すると 10％引きでとても気持ちの良い従業員の方々です。 ・ 硫黄岳山荘…労山の会員は 500 円引き、ウオシュレット付きの水洗トイレにびっくり。 ・ 南八ヶ岳の領域に入ると登山者が非常に多くなるので早立ちをしないとクサリ場等で渋滞待ちに掛かると時間のロスになるので出来るだけ早く出発するよう心がけた。 ・ 真教寺尾根の下りのクサリ場は長くそして数が多く、とても地図上の時間では多勢の下降は無理。時間に余裕を持って行動しないと事故の元になるような気がしました。（悪天候の時は利用しない方が良い。）

＜５１０＞１０周年記念山行

天　女　山

（１５２９m）

松本　豊

１０周年記念山行に参加して

岳人あびこの１０周年記念山行として我々日帰り組は天女山に登り八ヶ岳本峰を縦走した各班に合流するため八ヶ岳山麓を横切り美し森ファームへのコースをとった。

好天気のなか予定どおりの時間に出発した貸切バスは順調に走行し９：００に天女山入口に到着。バスを降りようとした時に道路を横断した鹿の群れを目撃。八ヶ岳の自然の豊かさが実感できた瞬間でした。

登山道は天女山入口から頂上に向かう舗装道路脇から急な丸太の階段から始まる。山頂までは３０分で到着する。山頂から見る赤岳、権現岳は間近で迫力十分。ここで会友の三浦さんと合流し美し森ファームへ向かう。紅葉は始まっていて色の変わりかけた木々の間を歩き牧場方向へ進む。風で落葉松の葉が金色に輝いて落ちてくる。季節は厳しい冬に向かい停まることなく進んでいる。

牧場の中が唯一木々のない場所となり真夏は照りと草いきれ、牛の臭いで閉口しそうであるが目の前の八ヶ岳、遠くに甲斐駒、南アルプスが見えるポイントである。展望台を過ぎたところでまつむし草が一輪だけ咲いていた。天女が衣を洗ったという羽衣の池は小さな小さな湿田で池のイメージはない。水もよく見ないと確認できないくらいである。

集合場所となった美し森ファームはかつて町営たかね荘であったが今は民営となっているとのこと。ここで八ヶ岳各コースのメンバーと合流し盛大に１０周年の祝賀会を実施した。



天女山山頂にて



遠く赤岳をバックに（１班）



遠く赤岳をバックに（２班）



マツムシソウ

天女山の由来（大泉村観光協会）

昔々、諸国の神々が瑞穂の国の中程にあたる斎の杜（いつきのもり）「今は言葉がなまって（美し森）と呼ばれている」を盤座（ばんざ）の山と定めて八百万の神々が天下り、年に一度は集まりその歳の国を治める掟を話し合うならわしがあった。この杜が斎庭として使われていた。これが終わると天女山に住む仕女を招いて舞を奉仕させた。仕女は斎の杜にはべるときは天の河原で身を浄め、舞衣は羽衣の池で洗い浄めて用いた。天女はこの地に好んで住むようになりこの地を天女山と名付けられた。

概念図



概　　要

山名	天女山（１０周年記念山行）		
月日	平成 18 年 10 月 15（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳東部
目的	１０周年記念山行		
費用	4,200 円	交通機関	貸切バス
日程・コーズ	我孫子駅北口 5:35→（常磐道・首都高・中央道）→談合坂ＳＡ7:15/7:25→天女山入口 9:00⇒天女山 9:30/9:55⇒八ヶ岳牧場展望台 10:35/10:55⇒美し森ファーム 12:10⇒羽衣の池 12:25/12:50⇒美し森ファーム 13:05＜晴れ　歩行時間　２時間５５分＞ここから全員（懇親会 14:10～16:40）バス→双葉ＳＡ17:50/18:10→藤野ＰＡ19:50/20:00（中央道・首都高・常磐道）→我孫子駅北口着 22:05		
ルート状況	＊　登山道は天女山入口から頂上へ向かう堂を脇から急な丸太の階段を登る。 ＊　天女山から美し森方面へ向かうが案内板は完備している。天女山を降りきると八ヶ岳横断道路を横切りアップダウンを繰り返し牧場へ向かう。 ＊　牧場は鉄条網で囲われ牛との遭遇はない。ルートは八ヶ岳横断自然歩道となっており危険な箇所、迷う所はない。		
参加者	１班　松本（L）、中村美、品田、高橋芳（SL）、飯沼、原、箕輪カ、桐生、三浦 ２班　中村隆（L）、柴田、村松峰（SL）、高橋寿、中野、箕輪完、大平、瀬田、本間 男４名、女　14 名　計 18 名		

＜５１１＞

半　月　山

（１７５３ｍ）

田村光子

県連主催の平日ハイクに初めて参加する。半月山には何年か前の秋に友達と行き、すばらしい紅葉に感激した事を思い出しました。朝、新松戸の流経大学前からバスに乗り 6 時半に出発する。紅葉の真っ最中で渋滞を心配したが、日光有料道路の出口あたりが混んでいただけで、いろは坂はまわりの山々の紅葉を見ながらスムーズに進み、１０時ごろには中禅寺湖に到着する。10 時 20 分、登山を開始する。総勢７０名以上の参加者で、山の会ごとにパーティーを組んでの出発となり、岳人あびこは最後尾で、我々が登り始める頃には、先頭の人は見えない状態で延々と列が続き、他の登山者がいなくて幸いでした。

日光レークサイドホテル横登山口からの急坂をゆっくり紅葉を楽しみながら登り、茶ノ木平へ到着する。10 分休憩を取り展望台へ、男体山を真正面に見ることができた。狸山で昼食となり、ここで他のパーティーでリタイヤする人が 3～4 人でてしまう。稜線をしばらく歩き、半月山の頂上に到着。途中展望は余りよくなかったが、時々素晴らしい紅葉を見ることができ、記念写真を撮り、大展望台まで下る。眼下にカエデ・カツラ・ナナカマド等で赤や黄色に色取られた八丁出島が湖面に映え、思わず声が出てしまう。

一日中天候に恵まれ、すばらしい紅葉を堪能し、立木観音駐車場に着いたのは 4 時半すぎで、予定より 2 時間近くも遅くなってしまい、入浴を中止して帰路に着く。



男体山も眺望できた



コメツガの林の中を行く



半月山山頂にて

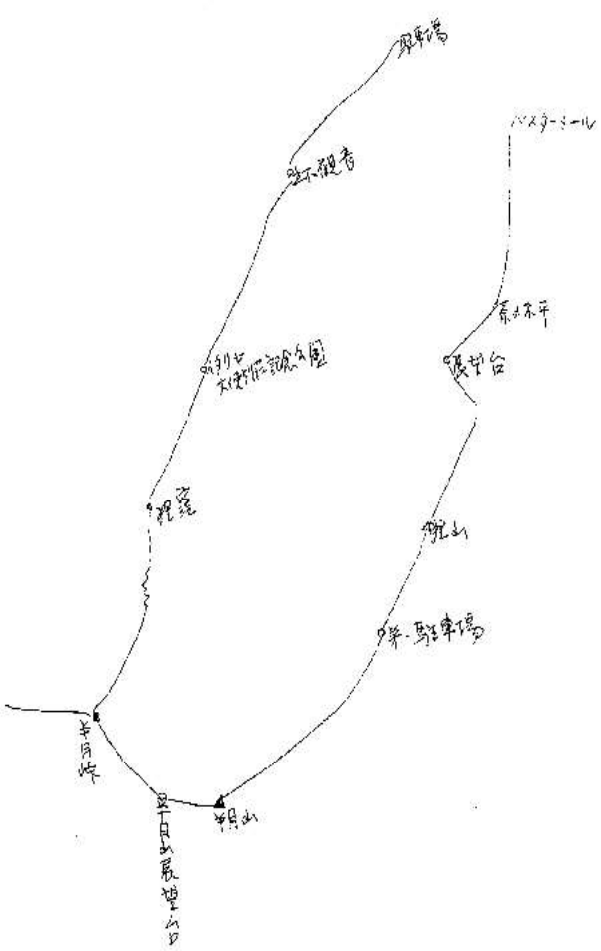


八丁出島では紅葉が見事

概　　要

山名	半月山（県連平日ハイク）		
月日	平成 18 年 10 月 19 日（火）		
形式	日帰り	グレード	１Ａ
山域	奥日光	地形図 1/2.5 万	中禅寺湖北岸
目的	男体山と中禅寺湖の展望・各会との交流		
費用	約 4,000 円	交通機関	貸切バス
日程コース	我孫子駅 5:56→新松戸駅 6:10⇒流経大学前貸切バス発 6:30→蓬田ＳＡ→日光ＳＡ→日光中禅寺湖着 10:00/10:20（登山開始）⇒茶の木平 11:25/11:35⇒展望台 12:20⇒中善寺スカイラインを横切る 12:23⇒狸山（昼食）12:50/13:15⇒第一駐車場 13:25/13:35⇒半月山頂上 14:25/14:30⇒展望台 14:40/14:45 半月峠 15:05⇒狸窪 15:53⇒立木観音駐車場 16:30/16:50→（貸切バス）→大谷ＰＡ→流経大学前 20:15⇒新松戸駅 20:28→我孫子駅 20:42 ＜晴れ　　歩行時間　5 時間 20 分＞		
参加者	日下（L）、斎藤（SL）、榊原、原田君、原田和、箕輪カ、田村 男３名　女４名　計７名		

概念図



＜５１２＞

大峰山　～　吾妻那山

（１２５５m）　（１３４１m）

村松敏彦

常夜塔の立つ山頂で
昔人は何を祈ったのだろうか

谷川岳とその周辺の山には何度か足を運んだがこの２つの山にはとんと縁がなかった。上越線が水上駅に近くなると左手に山頂部が平らな山並みが以前から気になっていた。話に聞くと沼の中の浮島やモリアオガエルの生息地等で谷川連峰でも特異な山で有名らしい。

沢山歩くので有名な青山リーダーを含めて 7 人のパーテイが上野駅から鈍行を乗り継いで、上越線の上牧駅に着いたのは晩秋に近い紅葉が期待出来る季節だった。降りたホームで何やら意味のない時間稼ぎをして、改札口の駅員さんから丁寧なルート説明を聞いて帰りの電車の時間を確認して出発する。国道を右に行き、変わった珍しい指道標にしたがってコンクリートの道を左に曲がる。利根川の橋を渡り、高速道路の下をくぐり、小和知の部落に入ると所々に紅葉の赤、黄色の鮮やかな木々が単調なコンクリート歩きを慰めてくれる。道標がしっかりしているので迷う心配はない。1 時間 30 分ほどで水分不動尊に着く。晩秋と思えないほどの気温に、飲むと冷たいここの水はおいしい。たっぷりお腹とテルモスに補給して大峰沼に向う。まもなく右に直接水上スキー場から吾妻耶山にむかう道を過ぎると大峰沼に着く。標高1000ｍの大きな道標がある沼はさして大きくない。浮島、サンショウウオ等で有名らしいが学習する時間がないのとあまり皆さん興味がなさそうなので簡単に通過する。近辺には古びたバンガローやキャンプ施設があるが果たしてシーズン中でも営業しているか疑問なほど荒れている



大峰沼の紅葉

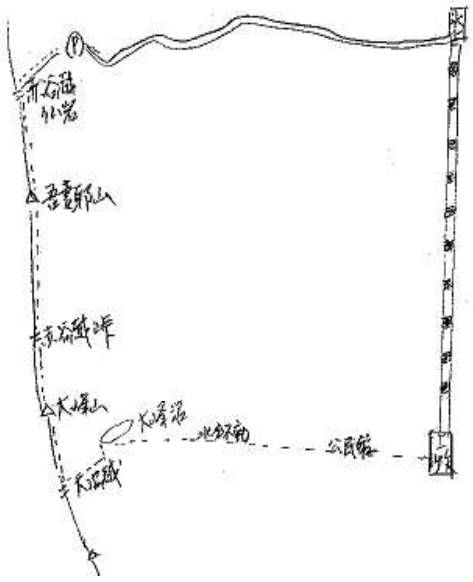
大沼越を過ぎると、何やら静かな自然界に相応しくない騒音が左手下から聞こえてきた。地図を開くと群馬サイクルスポーツセンターの施設がある。そこからの騒音と確認できた。周囲は自然林の美しい紅葉が素晴らしい景観を見せてくれているのに残念だ。まもなく鉄製の橋と梯子がある鞍部に着く。此処までしなくても良いと思われるほど立派で新しい。尾根は広くなって林道に出るとNHKその他、これでもかと思うほど沢山の電波塔が立つ大峰山の一角に着く。広い林道を行くと右側に展望台（木が邪魔して何も見えない)、その先にポツンと三角点がある。展望はなく、注意していないと見落すほど単なる通過点のような山頂だ。東電の大きな電波塔を左に見て緩やかに下っていくと赤谷越峠につく。道標を見ると左は相俣方面、右はスキー場、我々は正面の樹林の中の道を進む。道が緩やかになり、左に仏岩尾根のコースを過ぎ、北へ方向を変えながら進むと鳥居のある吾妻耶山の山頂に着く。月夜野、新治、水上3村の3基の大きな常夜燈と石祠が置かれている。こんな重い大きな石の祠を昔の人はどうやって運んできたのだろうか。考えると夜も眠れないと話していたら、それは簡単よ、山頂付近の石を採掘してここで加工したのよ・・と教えてくれた。本当かどうか確かめられないが妙に説得力がある説のように思われた。展望はうす曇りの中に谷川連峰がすでに白く雪を被って輝いていた。地図をみるとこの山頂には三角点はない。下山しながら

全員で探してみると仏岩尾根に分岐する左側のヤブの中にあった。先の山頂より２０ｍ程低く、尚かつ山名板も２万５千の地図でも山名が吾妻山になっていた。こうした事から此処には吾妻耶山と吾妻山の二つの山があると理解して良いのだろうか？それともこの辺一帯が吾妻耶山で、三角点の吾妻山はその一部という事だろうか。そんな事を考えながら「落石危険」と表示のある急降下のルートを仏岩に向かって進む。程なくこちらから見ると確かに僧侶が座禅を組んでいる姿に見える仏岩に着く。仏岩峠を右に下り、歩き易い道を進むと仏岩トンネル入口の駐車場に着く。此処にはトイレと公衆電話がある。何年か前に残雪の阿能川岳に登攀するために検討したルートの基点の場所で懐かしさがよみがえった所でもあった。（実際には阿能川を詰めたルートにしたが）ここからタクシーで水上駅まで行く。ここから帰りのルートについて皆で議論と検討をした。

①少しの待ち時間で出発する鈍行で上野駅まで行く。その場合欠点は反省会が出来ない。

②1 時間程待つと特急の谷川号がある。この特徴は反省会が出来、尚且つ上野駅には１時間近く早く着く。欠点は料金が高くつく。その結果伝統と慣習にならい②のルートを選んで駅前の蕎麦屋で反省会を行い、帰途についた。

概念図





吾妻耶山山頂にて

概　　要

山名	大峰山～吾妻耶山		
月日	平成 18 年 11 月 5 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	谷川連峰	地形図 1/2.5 万	猿ヶ京・水上
目的	紅葉と谷川連峰の展望		
費用	7,000 円	交通機関	ＪＲ・タクシー
日程コース	我孫子駅 5:30→上野 6:16→高崎 8:00/8:24→上牧 9:20/9:30⇒二本松 10:45⇒水分不動 10:57/11:05⇒大峰山キャンプ場 11:30⇒大沼越 11:45⇒昼食 11:53/12:15⇒大峰山 12:40/12:50⇒赤谷越峠 13:14⇒吾妻耶山 13:50/14:00⇒三角点 14:10⇒赤谷越仏岩 14:50⇒仏岩トンネル 15:10→（タクシー）→水上駅 15:35/16:40→上野駅 19:05→我孫子駅 19:40 ＜晴れ　　歩行時間　5 時間＞		
ルート状況	①大峰山頂は電波塔が乱立していて山頂が分かり難い。 ②吾妻耶山頂～岩稜、鎖コースは通行止めで踏み跡がない。 ③吾妻耶山三角点は山頂手前にあり、三角点までは踏み後はないが標識あり。 ④赤谷越仏岩は吾妻耶山側からは仏様に見えるが、仏峠側からは巨大な岩の塊にしか見えない。		
参加者	青山（L）、村松、外崎、高橋英、安田 中村八、佐藤明 男２名　女５名　計７名		

＜５１３＞

大菩薩嶺　～　小金沢山

（２０５７ｍ）　（２０１４ｍ）

～　雁ガ腹摺山

（１８７４ｍ）

大串秀雄

古道を登り、大菩薩連嶺を縦走

１日目

西国分寺駅の中央線下りが若干遅れていたため、立川駅では乗換え時間が２分ほど。大急ぎで満席の奥多摩行に間に合い安堵。ところが奥多摩駅に着くと、丹波行きバスが見当たらない。なんと、１０月より９時２５分発に変更…と(乗務員に確認したところホームページで告知済とのこと)。急遽、タクシー利用を考えたが、タッチの差で鹿倉山山行１０数名の一行に先を越され、結局、晴天の秋空を見上げながら、駅広で１時間ほどバス次便を待つ破目に。

漸く、バス終点の丹波に１時間遅れで到着。バス道路から丹波川河畔の村営釣り場登山口に下りると、なにやら騒がしい。なんと、熊の出没が相次ぎ、丹波山村挙げて厳重警戒中とのことだった。幸い、今朝方の出没箇所は、南側ルートの、村役場～キャンプ場～藤ダワ方面の由。全員で協議の結果、無料配布された熊対策用の鈴をストックに装着して、計画どおり出発することとした。

地元案内人の指示に従って、水車小屋裏の急な細道を登り、一旦林道まで出る。暫く貝沢川沿いを進むと林道終点。そこからは地形図に記載のない、急な石段状の山腹路を登る。鎖や手すりなども整備され全く問題ない。見通しの悪い箇所では、出会い頭に熊と遭遇しないよう大声をあげながら、藤ダワまで登り切る。ここで旧街道に合流。標識も確認でき一安心。その後は順調。昔から甲州街道の裏街道として往来のあったルート。柳沢峠が開通した明治初期までは、旧青梅街道の一つとして利用された古道で、整備状態、標識とも確りしている。先ずは旧街道筋の名残、追分で一服。紅葉の山肌の先には雲取山～石尾根が…。緩斜度の古道を、１時間歩行に５分休息のペースで快調に登る。樹林の中の紅葉が目を楽しませてくれる。



たわわに実ったマユミの木の下で

左手の木々の間には牛の寝通り(尾根道は旧青梅街道の主要路)の山々、右手正面は鶏冠山あたりだろうか。たわわに実る紅色のマユミの果実が、満開の紅梅のようで綺麗だ。その脇のフルコンパ小屋跡で一呼吸し、一気に大菩薩峠、介山荘へ。１時間遅れの出発だったが、陽が高いうちに到着できた。幸い、秋の空は晴れ上がり、一面枯草状の山腹の最上部に雷岩のピークがはっきり見える。小屋の了解をとってから、ザックを置き、防寒具と懐電と水を持って大菩薩嶺まで往復することにした。夕闇迫る樹林の山頂で記念撮影。秋の陽は釣瓶落し。薄暮の中、草原の稜線を下山。薄暗くなった賽の河原(丹波大菩薩峠、南峠)では、小屋の灯や満月近くのお月様が一段と明るく見え出した。懐電を必要とする直前に、小屋に帰着できた。

２日目

天気予報が悪い。朝一番の予報も、昨夜と同様、午後はまとまった雨かも…と。牛の寝通り尾根道（旧街道主要路）を小菅村に下山か、小金沢連嶺を縦走し大峠からタクシーで大月に下山か、いずれにしろ歩けるのは午前中と覚悟。ただ、早朝の峠は快晴に近い。取敢えず、大峠を目指して出発した。

石丸峠（小菅大菩薩峠、北峠）あたりや小金沢山山頂からは、朝日に輝く冠雪の富士山が…。また、牛奥の雁ガ腹摺山山頂からは、全身、綿雲で被われた珍しい姿の富士山が…。快晴だった空にも薄雲が広がり始めた。しかし、夕方まではなんとか持ちそうな空模様。ここで、タクシー予約を大峠から再度、計画どおりの金山鉱泉に変更することにした。黒岳に立ち寄ってから大峠に下る。



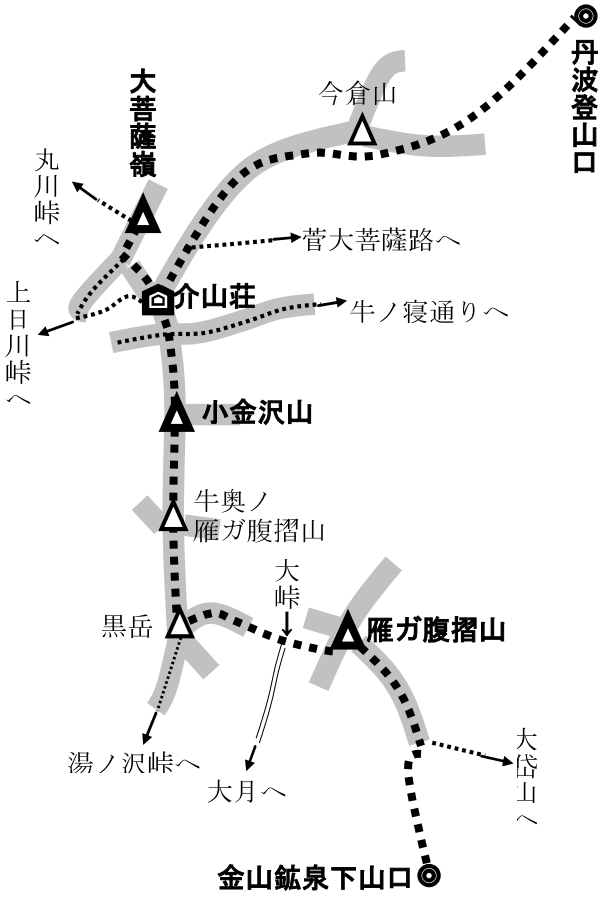
雪化粧を始めた富士山
（小金沢山山頂直下より）

名前どおりの大下りに体力を消耗したためか、雁ガ腹摺山への登りが意外と厳しい。

雁ガ腹摺山山頂からは薄雲の中に、昨日今日の縦走路、大菩薩連嶺を眺望。残念ながら富士山方面は雲がかかり真白。昼食を摂っていると、突然の寒風。見上げると空模様も怪しい。「５００円札の富士山」の案内板と記念撮影して、直ちに下山。間もなくパラパラと雨音が…、一応ザックカバーを装着したが、大した降りにならずに止んでくれた。暫くは紅葉の下山路を楽しむ余裕もあったが、金山峠あたりからは、沢沿いの難路や、急傾斜の舗装路の滑りやすい苔道に閉口。長時間歩行だっただけに、金山鉱泉の一風呂が何ともありがたかった。

バス減便や熊出没騒動などで、出足を挫かれたものの、天候に恵まれたこと、全員の足が揃ったことなどから、計画どおり２日間にわたる長時間ルートを歩き通せ、大満足。平日山行だったこともあり、小屋はガラガラ、行き交うハイカーも稀で、静かな晩秋の大菩薩連嶺縦走を心行くまで満喫した。

概念図



概　　要

山名	大菩薩嶺～小金沢山～雁ガ腹摺山		
月日	平成１８年１１月５日～１１月６日		
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｂ
山域	大菩薩連嶺	地形図 1/2.5 万	丹波・柳沢峠・大菩薩嶺・七保・大月
目的	① 紅葉の古道（旧青梅街道）を登って大菩薩嶺へ ② 冠雪の富士山（500 円札の富士山など）を眺望		
費用	約 14000 円	交通機関	ＪＲ・バス・タクシー
日程コース 5日	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→立川→奥多摩駅 8:23/9:25→（バス）→丹波 10:20/10:30⇒藤だわ 11:30/11:40⇒追分（昼食）12:50/13:05⇒ノーメダワ 13:45/13:50⇒フルコンバ小屋跡 14:55/15:05⇒大菩薩峠介山荘（荷物デポ）15:40/15:50⇒大菩薩嶺 16:30/16:35⇒大菩薩峠介山荘 17:10（泊） ＜歩行時間　6 時間 40 分＞		
日程コース 6日	介山荘 6:45⇒石丸峠 7:15⇒小金沢山 8:30/8:40⇒牛奥ノ雁ガ腹摺山 9:20/9:25⇒大峠分岐 10:15⇒黒岳 10:20/10:30⇒大峠分岐 10:35⇒大峠 11:10/11:20⇒雁ガ腹摺山（昼食）12:10/12:25⇒白樺平 12:50⇒金山峠 13:45/14:00⇒金山鉱泉（入浴＝山口館）14:35/15:55→（タクシー）→大月駅（反省会）16:20/17:06→高尾駅 17:44/17:51→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅 19:48 ＜歩行時間　7 時間 50 分＞		
参加者	大串秀（L）、斎藤（SL）、大串恵、田村、小松 男３名　女２名　計５名		



「500 円札の富士山」の案内板と
（雁ガ腹摺山山頂にて）

ルート状況	**奥多摩駅丹波行きのバス時刻変更＝** **土日曜の一番バス便（西東京バス）** １０月１日より次のとおり変更。 （東日原方面行のバス時刻は変更なし） (1) ８時３０分発便は鴨沢西止まりに変更。 (2) お祭～丹波行きの一番バス便は９時２５分発に変更（８：３０発は廃止）。なお、お祭～丹波方面へのタクシー利用は、台数が少なく、且つ、予約制なしのため、計画段階で織り込むのが難しいかも。 **丹波山村営釣り場（登山口）～大菩薩峠間ルート** 丹波山村営釣り場～貝沢川沿い～藤ダワ間は、地形図に記載のない箇所もあるが、登山口（水車小屋裏の急坂）さえ間違わなければ一本道で全く問題ない。 藤ダワ～大菩薩峠間は旧青梅街道の一つとして利用された古道で、整備状態、標識あとも確りしている。

＜５１４＞

菰釣山　～　三国山

（１３７９m）（１３２０m）

坂口よし江

静かな山

１１月１１日（土）一日目

天気予報通りの雨。その雨がいよいよ激しくなって、都留駅に降りた時には土砂降りになっていた。予約していた２台のタクシーのうちの一台が揃わず、待ち時間を利用してタクシー事務所の水道で水を汲ませて貰う。１０ℓ（各自２ℓ）の共同用の水を避難小屋まで担ぎ上げる予定だ。

当初は道志の森キャンプ場までタクシーで行き、そこから歩き出す予定にしていたが、大粒の雨の中を歩く気も萎えて、その先の水晶橋まで入って貰った。

樹林帯を進んでいくと、だんだん雨も小降りになってきてホットする。今日は２時間ちょっとの登りだと気楽に考えていたが、展望もなく雨の中のうっとうしさのためかとても長く感じる。麓はまだ紅葉していて綺麗だったが山の紅葉は終わっている。

ようやく城ヶ尾峠に到着、昼食のため休憩を取る。うっすらと太陽も顔を出し、雨もあがった。登っているときには、暑くて汗だくになっていたが、少し休んでいると冷たい風に震えてくる。やはり１１月だ。城ヶ尾峠からは、ところどころ急でぬかるんでいて、周囲に摑まるところもないので、滑りそうで注意を要する。急なアップダウンを繰り返し、１時間３０分ほどで避難小屋に着く。しっかりとしたきれいな小屋だ。トイレがないのが難点。中に入ると、先行者のものと思われるザックが３つ置いてある。どれも小さなザックなので日帰りの方々と思われる。しばらくするとザックの持ち主が現れた。今日出会った始めての登山者だ。賑やかに下山していった。

今日の泊まり客は私たちだけと思うとホットする。小屋の半分のスペースの土間にテーブルと椅子が置かれている。一段上がったところに就寝用のスペースがあり、詰めれば７、８人ぐらいは収容可能か？

外は再び雨となった。やることもないので、さっそく宴の始まり。メンバーはみんなベテラン揃い、手際よく準備が整えられ、本当に感心させられる。美味しいお食事と楽しいおしゃべりで時間を過ごす。



避難小屋での食事の準備



菰釣山山頂にて

１１月１２日（日）二日目

悪天が予想されたが、風は強いがまずまずのお天気、予定どおり三国山まで抜けることにする。小屋から１５分ほどで菰釣山山頂。山頂からは大きな富士山がくっきりと見えて何とも爽快。

山頂からの道筋は、東海自然歩道と名づけられているだけあって良く整備されしっかりとした道がついている。しかし、西側斜面は、急登・急下降となっており、危険で注意が必要。何度もアップダウンを繰り返すので予想していたよりも厳しい道のりとなったが、素晴らしいブナ林が疲れを癒してくれた。

西丹沢は交通が不便なこともあり、あまり訪れたことのない山域だったが今回来てみてブナ林の素晴らしさに感動した。若葉の季節にはもっともっと素晴らしいに違いない。新緑の季節にまた訪れてみたいもの。



菰釣山山頂からは大きな富士山の眺望が得られた



高指山付近の展望台より山中湖

概　　要

山名	菰釣山～三国山		
月日	平成 18 年 11 月 11 日～12 日（日）		
形式	避難小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	西丹沢	地形図 1/2.5 万	中川・御正体・駿河小山
目的	静かな山・富士山眺望		
費用	9,000 円	交通機関	ＪＲ・富士急・バス・タクシー
日程コース 一日目	我孫子駅 6:32→新松戸→西国分寺駅 7:52/8:03→高尾駅 8:27/44→大月駅 9:25/35→都留駅着 9:50/10:18→（タクシー）→道志の森キャンプ場→水晶橋着 10:47/55⇒林道からの登山口 11:15⇒休憩（衣服調整）11:25/30⇒城ヶ尾峠 1160m11:50/12:05（昼食）⇒城ヶ尾山 1199m12:10⇒中ノ丸 1280m12:48/53⇒ブナ沢の頭 13:10⇒菰釣山避難小屋着 13:35（泊） ＜曇りのち雨歩行時間２時間１５分＞		
日程コース 二日目	菰釣山避難小屋 5:55⇒菰釣山 1379m 6:18/30⇒ブナの丸 6:48⇒油沢ノ頭 7:10/18⇒樅ノ木沢の頭 7:32⇒西沢の頭 7:56⇒休憩 8:10/20⇒石保土山⇒水ノ木分岐 8:50⇒休憩（鉄塔のあった所）8:55/9:10⇒大棚ノ頭への分岐 9:15⇒富士岬平 9:50/10:05⇒高指山 1174m 10:15⇒平野への分岐 10:32⇒切通し峠 10:42⇒明神山 11:30/50（昼食）⇒三国山 1320m12:25/30⇒パノラマ台 13:05⇒三国山ハイキングコース入口バス停 13:20/14:00→（バス）→富士吉田駅 15:05/46→立川 17:35→西国分寺 17:43/54→新松戸 18:50/53→我孫子駅着 19:07 ＜晴れ・強風　歩行時間　６時間＞		

ルート状況	①水晶橋～城ヶ尾峠間に数箇所、左側が切れ落ちたザレ場があるがロープも架かっているので慎重に通過すれば問題ない。 ②尾根上の西側斜面は、急登・急降下となっているので注意が必要。 ③登山道は、東海自然歩道と名づけられているだけあって良く整備され、しっかりとした道がついている。
参加者	坂口（L)、村松敏（SL)、外崎 武内、原田和、千葉 男３名　女３名　計６　名



三国山山頂にて

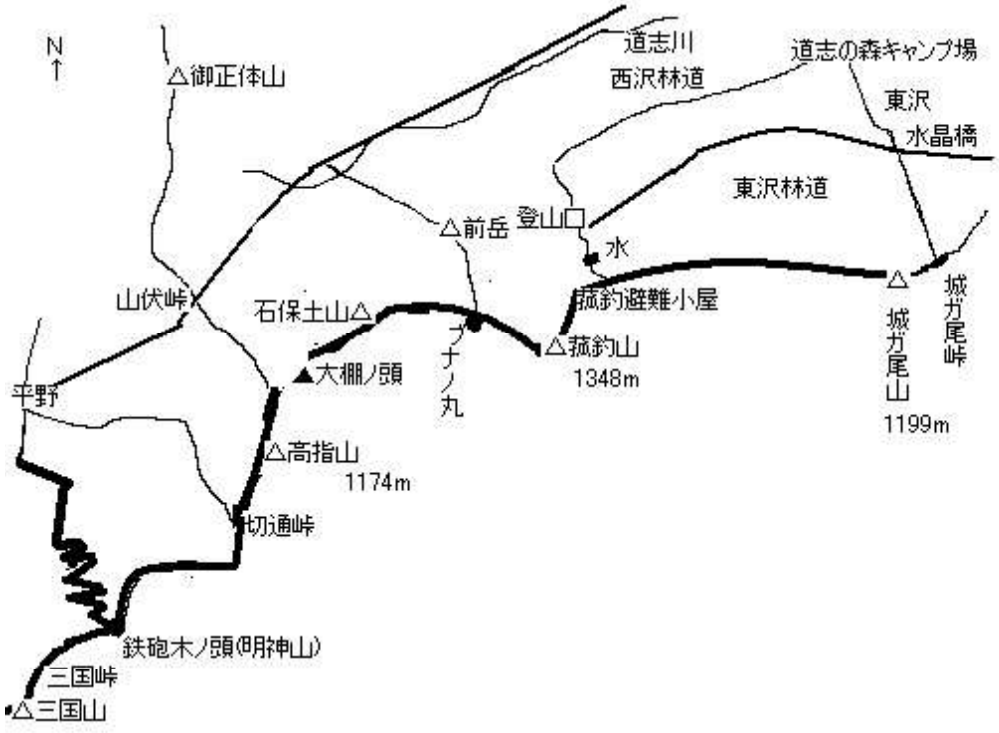
菰釣山避難小屋

※　菰釣山避難小屋は老朽化（見た目にはそう見えない）のため、建替え予定とのこと。利用の際は要確認。

神奈川県自然環境保全センター
電話　０４６－２４８－０３２３



概念図



＜５１５＞県連 40 周年

伊予ヶ岳　～　富山
（３３７ｍ）（３５０ｍ）

柴　勇

県連 40 周年記念レセプションに参加して

レセプションの最初は、クラシックの夕べということで、管楽 4 重奏を楽しんだ。ポピュラーな曲が多く懐かしい曲もあり、久しぶりに生演奏を聞くことが出来た。その後キャンプ場に戻り先ずは、バーベキューの準備をしながらビールで乾杯。肉も野菜も、十分に仕入れてきたのでみんな満足そう。お酒もビール、日本酒、ウィスキー、フルーツ割焼酎とこれも飲みきれないほど。このキャンプ場は、炊事場、バーベキューセット、トイレも整っていてテントを張るところも平でテントサイトとしては十分である。また、山の中にあるので静かで良かった。

その後、各山の会のスライドでの紹介があったが、わが岳人あびこの写真は、蒲生岳（当会発祥の地、福島県の会津朝日岳に登る前日に登った記念すべき山。これも、会津のマッターホルンの愛称がある。）をバックにした 8 人（8 名でこの会を立ち上げた）が映っているところを映し出した。
食べ物のサービスもよく、おでん、やきそば、うどん、翌日の弁当も振舞われた。

私としては、すべての内容が 40 周年に相応しい内容であると思った。

翌日は、早々と会場を後にして伊予ヶ岳に向かった。千葉県の山で唯一「岳」の着く山である。鳥居のある神社側から登り始めた。低い山だが、残り 100m くらいは勾配もきつくなり岩場であった。千葉のマッターホルンの愛称があるが、マッターホルンに申し訳ない愛称だ。山頂からの展望はすばらしく、これから登る富山も良く見られた。

富山へは、みかん畑の細い道を車でほとんど頂上まで登って行った。みかんが色づいていた。この日は小雨模様で、登山者は、われわれだけであった。南総里見八犬伝の舞台とされていて、それにちなんだ場所もあった。



清和県民の森キャンプ場にて

参加者の感想

「仲間と語る登山の夢と課題」
オートキャンプでバーベキュー大会

★久方振り、クラシックを音響が悪いとはいえライブで聴くのは楽しい。交流会は参加者１６団体、１０８名参加、県連４０周年の歩みと各会の出し物（歌と踊り）などで非常に盛り上がった。　山行の方は県を代表する伊予ヶ岳と富山を登り特に伊予ヶ岳は素晴らしい。　今回は県連４０周年記念行事で加盟しているからには、やはり義務を果たすのが当然だと考えます。もっと多くの会員が参加し、心から祝い、楽しむ、そのような環境、そのような心が必要だと切に感じました。楽しい２日間でした。（やまたんより　村松）

★「仲間と語る登山の夢と課題」が今回のテーマだった。県連１６の会から約１０８名が清和県民の森オートキャンプ場に集まった。これまで会ったことの無い人達ばかりだが、気楽に話ができる。労山会員というキーワードでつながっているからだろう。岳人あびこ

から７名が参加、テント設営後早速コップ片手の語らいが始まった。３時にコンサートが始まる頃にはほろ酔い加減、気持ちよく音楽に聴き入った。そして夕食バーベキュー、日が暮れるに連れ火の明るさが増す。火を囲むと気持ちが穏やかになり、加えて高橋さん差し入れの高級ウイスキー（ロイヤルサルート）で余計口が滑らかになる。テント隣組はらんたんの仲間、そして前の県連理事長の石川さんも交えて会話に花が咲く、中央会場では余興と歌声がこだましている。記念行事にふさわしい楽しい集いであった。　（武内）

★県連４０周年記念祭に参加するとコンサートが聴けて酒が飲める？とのことで参加を決意。レンタカーで送迎いただき懐かしい曲の演奏を堪能、バーベキューをつつきながら至福の時はあっという間に過ぎ去ってしまった。テントでの語らいを楽しみにしていたがシェラフにもぐり込んだとたんに記憶が無くなり夢の世界へ一番のりでした。
（松本）

★千葉県連４０周年レセプションに参加、想像以上の参加者と大いに盛り上がった４０周年記念でした。今日まで、尽力、支援してくださった多くの方々に対して敬意を表したに他なりません。祝宴が終了した後までも余韻を残しました。そぼ降る雨もなんのその若さとエネルギーに感服しました。岳人ここに在り、未来の県連は従来と変わりなく発展して欲しいと願う一人です。
（柴田）

★実を言えばレセプション参加の一番の目的は、木管四重奏のコンサート。ところが会場到着１２時過ぎ、コンサートが始まったのは１５時過ぎ、３時間も間があり、メンバーがメンバーならやる事は決まっていて不覚にも肝心なコンサートではうつらうつらしてしまった。夢見心地で聴いたフアゴットやオーボエの音色は素敵でした。また、二日目の伊予ヶ岳は行程（登り下り）１時間弱の小さな山ながら岩場あり、鎖ありでなかなか面白い山でした。近くてもなかなか足を伸ばせない房総の山に登る事ができ、いい思い出になりました。　（千葉）

★平成１８年１１月１８日～１９日の両日県連４０周年記念レセプションに参加して
１日目は１８日の前日にレンタカーを借り、当日、我孫子駅北口８時１５分出発、一路、清和県民の森キャンプ場へ、途中、君津でバーベキュー用の食材を買う、キャンプ場に着いたのは１２時過ぎ早速テントの設営にとりかかる。記念コンサートクラシックの夕べ（横浜ノネットクラブ）演奏を聴いたあとキャンプ場に戻り、バーベキューとなり宴が進むにつれ他会との交流、会話がはずむ。１６団体１０８名の参加は見事であった。
２日目は会場を８時１５分頃出発して伊予ヶ岳へ神社から登り１時間位で下りてくる。伊予ヶ岳は房総のマッターホルンの異名を持つ形のいい山である。富山は頂上近くまで車で行き頂上には皇太子様と雅子様が登頂した記念碑がある。帰路の途中、金谷でおみやげを買い我孫子へ。楽しい二日間でした。
（リーダー高橋英）



伊予ヶ岳頂上にて

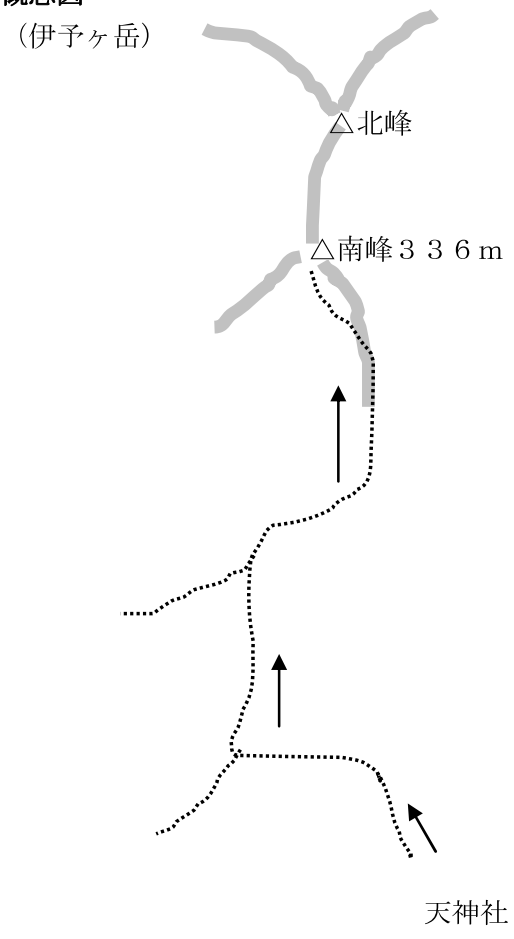
概　要

山名	伊予ヶ岳～富山		
月日	平成 18 年 11 月 18 日～ 19 日		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	南房総	地形図 1/2.5 万	那古・道路地図必要
目的	千葉県連４０周年レセプションに参加。千葉の山に登る。		
費用	約 8,000 円	交通機関	レンタカー
日程コース 1日目	我孫子駅北口 8:15→清和県民の森着 12:20…テント設営 記念コンサートクラシックのタベ（横浜ノネットクラブ）15:00～16:00 キャンプ場移動⇒40 周年交流集会 17:00～20:00		
日程コース 2日目	キャンプ場 8:15→天神社 8:45⇒伊予ヶ岳 9:15/9:25⇒天神社 9:55→富山へ移動→富山登山口駐車場 10:20⇒富山 10:35/10:45⇒駐車場 11:00/11:10→我孫子 14:30		
参加者	高橋英（L）、村松敏（SL）、柴、柴田、武内、松本、千葉 男５名　女２名　計７名		



伊予ヶ岳よりの富山

概念図





県連 40 周年記念・乾杯！

＜５１６＞

殿平　～　鞍吾山

（８１２ｍ）（１０３８ｍ）

本間恭子

１１月２３日の山行は、地図とコンパス持参の「殿平～鞍吾山」コース。鞍吾山は「くらごやま」と読めたが殿平の読みは「でんだいら」。重箱読みとは意外だった。

前日夜の天気予報によれば当日は雨。山行は100ﾊﾟｰｾﾝﾄ中止と思い、電話であちこち問い合わせなどしたが、そうしたのは二人だけだったとか。休息時の雑談の中で笑いの種になったが、とにかく雨に遭うこともなく幸いだった。

これまでは誰かに連れて行ってもらった山行ばかり。地形図に触れたのは今回初めだった。２万５千分の１の地形図では、１ｃｍが２５０ｍを表すことをどうやら理解できたが、真北と磁北が西に約７度ずれがあるなんて思いも寄らない。それで磁北線は夫が書き入れることになった。

当日は初狩駅で下車。甲州街道を渡り中央高速道路の下を通って藤沢集落へ。道筋にあるドウダンツツジは色鮮やか。菊も咲き乱れている。その集落の北端に藤沢子神社があった。この地点で、武内リーダーの指導によるコンパスを使った地図読みがあり、進む方向を確認しあう。地図読み初心者が覚えるのはなかなか大変なことだった。

神社の裏手が登山口になっていて、暗い杉林の中の急な勾配を登りながら頭の中は地図読みのことでいっぱい。７９７メートルの峰でひと休みする頃には、覚えた知識も薄れてきていた。

小さなピークをいくつか越え、疲れが出たころ殿平山頂に着いた。山頂には樹があって眺望は悪いが三等三角点がある。

殿平から鞍吾山までは見るべき道標がなく、外崎さんを先頭に、各自が地形図とコンパスを頼りに先へ進んだ。私は急なやせ尾根を登ることに精一杯で、みなさんの後ろについて歩くだけ。鞍吾山では、微かに覚えていた学習内容をすっかり忘れてしまっていて、リーダーに地図読みの内容を問われても全く答えられなかった。

鞍吾山からの下山路では、登山靴が落葉に埋もれた。サクサク音を立てながら３０分ほど急下降を続けると、ゆるやかな斜面にでたが、みごとに黄葉した唐松林に称賛の声があがった。この日は休日だったが他の登山者もなく、晩秋の静寂な山を満喫できた一日だった。地図読みが今後の私の大きな課題になった山行であった。



進行方向確認



殿平にて



鞍吾山の頂上にて



鞍吾山の急斜面

概　　要

山名	殿平～鞍吾山		
月日	平成 18 年 11 月 23 日（祝）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	大月
目的	晩秋の静かな山行、研修（地図読み）		
費用	約 4,400 円	交通機関	ＪＲ・ タクシー
日程コース	我孫子駅 5:33→西国分寺→高尾→初狩駅 8:25/8:33⇒藤沢子神社（研修）8:55/9:25⇒７９７ｍ地点（百反刈山）10:10⇒殿平（研修）10:20/10:35⇒鞍吾山 12:05/12:45（昼食ならびに研修）⇒恵能野川沿いの林道 13:25⇒遊仙橋バス停 14:00/14:15→（タクシー）→大月 14:28/16:20→新宿→神田→上野→我孫子駅 19:00 着 ＜曇り　歩行時間 4 時間 45 分 地図読み研修 45 分＞		
ルート状況	全体としては踏み跡はあるも、落ち葉に隠れて所々不鮮明箇所もある。鞍吾山の登り下りは急斜面の直登。		
参加者	武内（L）、外崎、清家、村松峯、 松本、原、矢野、桐生、本間 男２名　女７名　計９名		

概　念　図





鞍吾山山頂
（三角点）

＜５１７＞県連ロングハイク

大福山 ・ 三石山
（２８０m）

斎藤清一

房総の紅葉・黄葉を楽しみながら
東大演習林を学ぶ。
県連加盟の各会との交流を図る。

ハイキング委員長の御配慮により今回岳人あびこ参加者４名にもかかわらずバスを我孫子駅北口からと配車された。

県連の東葛エリアの各会の参加者（４３名）の待ち合わせ場所の鎌ヶ谷市役所にバスは順調に到着した。
松戸山の会、遠足クラブの会を乗せたバスに乗り換え養老渓谷方面に向かった。
交流会に参加後明日のロングハイクに参加する３０名の会員と七里川温泉で合流する。

一日目　（１２月２日）

市原ＳＡを後にしてバスは一路梅が瀬渓谷へ向かった。小湊鉄道養老渓谷駅前を過ぎ踏切を渡る頃よりハイキング姿の人々やマイカーが多くなってきた。 俄か作りの駐車場にマイカーがどんどん吸い込まれてゆくが、我々のバス２台の駐車場は当日予約は中々入れてもらえない。やっとの思いで仮駐車して下車する。

養老川支流の梅が瀬渓谷沿いを歩き出すが、両岸から迫り来る紅葉の樹林に見とれながら水かさの少ない川を何度と渡る。家族連れハイカーが紅葉の渓谷での遊びに多数の群れに紛れながら我々も渓谷美を味わった。

房総の土地は海底から隆起した土地と聞いているがこの渓谷沿いの両岸の壁は砂岩で出来ているのでハイキング路は崩れやすく足場も悪い。紅葉を楽しむハイクなので歩くペースは何時もより心なしか遅い。その分だけ目の楽しみに集中が出来た。

渓谷の谷間の平坦地に明治の教育学者日高邸跡があり大勢の人々が休憩を取っていた。我々もここで昼食タイムの指令が出る。「三本の楓」は太く大きく年輪を刻んでいるのが理解できる。江戸末期から明治に掛けて日向の国から安房の奥深いこの地に良く来たものだと想いにふける。紅葉の輝きを食しながら眺めていると別世界にのめり込んでいる気に我に返るのがもったいない気がした。

昼食後は梅が瀬渓谷のなかでもモミジ谷と呼ばれている谷を登り始める。登り詰めた処が大福山展望台。振り返って谷間を見ると紅葉に映えた梅が瀬渓谷が展望できた。
近くに車道が通っているのでマイカーの人々も眺望を楽しむのに多く出ていた。



大福山山頂の白鳥神社に到着

息つく暇もなく大福山への登りに取り掛かる。石段を登るのであるが房総の丘陵を眺望しながら楽しく登ることが出来た。山頂には樹林に覆われた日本武尊を祭った白鳥神社があった。ヤマトタケルノミコトが死後白鳥になって飛翔したとの伝説が伝わっている。

上古屋敷を通り切り通しの間を抜ける車道を下り降りた。車道に止めてあったバスに乗り込んで七里川温泉に向かった。

夕方５時３０分よりの７３名が大広間に集合、明日のオリエンテーションと食後の団欒と語らいの中就寝する。

二日目（１２月３日）

６時３０分バス２台車２台で「筒森もみじハイキングコース」の入り口で下車、小１時間かけて紅葉の茂る樹林道を歩く。「ふわくハイキング」の中原さんから道すがら説明を伺いながらの朝の樹林帯の散歩でした。宿に戻り朝食（ちまき風弁当）をほおばる。

８時３０分バスに乗り込み「東大演習林もみじコース」へ長崎十字路下車。東大演習林受付で案内図をもらい、また小冊子を購入するメンバー等それぞれ準備を整え猪川沿いの林道を歩く。１０分ほどで素堀のトンネルを過ぎた処に落差約１０ｍの黒滝が視界に入る。清流の為猪川渓谷の紅葉が映えた。左側の眼下の洗濯板状の河原では自然界がもたらした現象を目前にして感嘆の声を上げた！

河原一面が洗濯板だ！（鬼の洗濯場だ！）右側の崖の岩の隙間から白濁の硫黄泉が湧き出しているが少量の冷鉱泉とのこと。
草川原用水路は田んぼに水を引く為の用水路を整備したものです。 用水路は手掘りのトンネルを流れ、野を超え山を越えて水を流してゆくのです。（手掘りのトンネルと川廻し）

生きた化石といわれる落葉高木メタセコイアの林を過ぎ柚の木歩道でスタンプ押し場があり、いよいよ元清澄山への合流点の地蔵峠へ向けて登り始めた。地蔵峠を過ぎて陽だまりの場所で昼食をとる。

当日参加者を待ち合わせした「こまくさハイキングクラブ」の皆さんが遅れを取り戻すべく昼食している前を通り過ぎて行った。
三石山までは昨年一昨年と一般公募の参加者を伴ってのロングハイク時の元清澄山からの道を今年は県連会員のみの山行なので歩みが予定より早く通過できた。見慣れた三石山に着き下山後三石山観音寺に詣でて表参道を１時間ほどかけて下山する。

三石寺入り口で１４時解散であるが我々は１３:１０分に到着す。バスが到着するまで「岳人あびこ」の４名は水面に映える紅葉・アーチ型の架け橋がかかる亀山湖を散策して時間を費やした。空の青、湖面の青、架け橋の白、両岸の紅葉・黄葉のコントラスト！　色鮮やかな自然に触れた今回の山行は記念に残る山行であった！



ゴール地点の三石山神社入口で

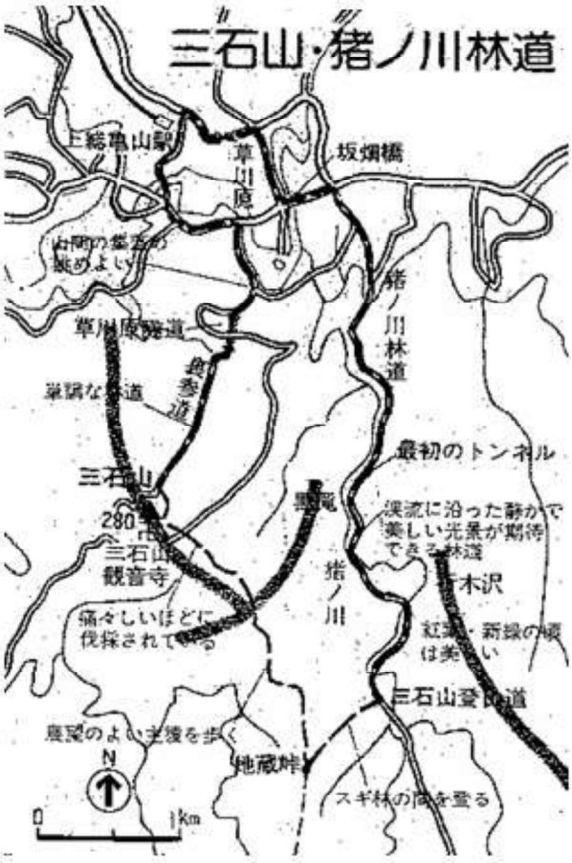
概　要

山名	県連ロングハイキング（県連主催） 大福山・三石山		
月日	平成 18 年 12 月 2 日～3 日（日）		
形式	温泉宿	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	房総 (清澄山系)	地形図 1/2.5 万	
目的	房総の紅葉・黄葉を楽しむ。 東大演習林を学ぶ。各会交流。		
費用	10,000 円	交通機関	貸切バス
日程コース 1日目	我孫子駅北口 6:25→（貸切バス）→鎌ヶ谷市役所 7:10/7:25→市原ＩＣ8:30/9:00→梅ヶ瀬渓谷入口駐車場 10:00/10:10⇒日高邸跡 11:30/12:00⇒大福山 12:45/12:55⇒展望台 13:00/13:10⇒上古屋敷⇒梅ヶ瀬渓谷入口駐車場 13:30→七里川温泉 14:00（泊） 歩行時間　2 時間 30 分		
日程コース 2日目	①朝の散歩　七里川温泉 6:30→(バス)→筒森紅葉台 6:35⇒紅葉谷⇒筒森紅葉台 7:30→七里川温泉 7:35 ②七里川温泉 8:00→長崎十字路 8:30/8:45⇒加勢林道 9:15 黒崎ゲート（東大演習林）⇒柚の木歩道下 10:25⇒三石山登山口 10:30⇒地蔵峠 10:40/11:00⇒三石観音寺 12:05⇒沢道⇒三石寺入口看板 13:10/14:00→道の駅 14:10/14:20→鎌ヶ谷市役所→我孫子駅北口 17:00 歩行時間　5 時間 5 分		
参加者	柴田（CL）、高橋英（L）、斎藤（SL）、大串恵 男２名　女２名　計４名		



紅葉真っ盛りの林道を歩く

概念図



＜５１８＞忘年山行

鶏足山　～　花香月山

（４３１ｍ）　（３７８ｍ）

佐藤健一

忘年山行

今年の忘年山行は、当会の１０周年に連なるメモリアルなものとして捉えていたし、個人的にも一区切りついた年として、例年とは異なった印象深い山行となる予定であった。だが、そうした期待に反して山行計画は遅々として進んでいないようで、最初から不安が先に立った。それでも、実力あるリーダーの事だから大して心配もせず、そのアバウトさを楽しんでさえいたかもしれない。

でも、『出だしが悪ければ仕舞いまでトラブルが多い』というような話はよく聞く。今回もまさしくそれに当たってしまったようだった。

成田線の車中で、体調を崩したＣＬのＫ様からいきなり「やまなみ担当」の指令が出る。さほど考えもせず気軽に受けてしまう我が身の思慮分別の無さが恨めしい。

辺りが未だ真っ暗な中、総勢３２名を乗せたバスは我孫子駅北口を出発し、鶏足山（けいそくさん）登山口に７時半に到着した。緩やかな林道を歩み、いよいよ山に取り付くかという地点で「地図の見方」についての勉強会が始まった。講師のＭさんは勉強がとても好きな方で、会員の理解度をチェックするのが趣味らしい。皆は指されるのを避けて、慌てて目をじっと伏せた。

大概の山の取っ付きは急なものだ。ここも同じように急斜面を直登する感じになったが、林を抜けると右手が開け、近辺の山々が見えた。名前の同定までは難しい。稜線上に出て折り返せば三角点のある鶏足山の山頂。今回の公式記録は登山口から 20 分とあったがそんなに掛からない感じ。しかし村松Ｌから『展望の良いもう一つの鶏足山山頂がある』と告げられ、北方に少し歩くと流石に展望は抜群だった。

真っ白い日光連山と思しき展望や、那須方面へ続く白い山並みが連なる中、向かって左前方の山野や里の上に雲海が広がっている。こんな光景は２０００ｍ 以上の高山やアルプスではよくある光景だが、我らが立つ鶏足山山頂４３０ｍ よりもずっと低いところにも悠々と展開していたとは！思わぬ自然からのご褒美に感嘆し、気を良くして花香月山へ向かった。



花香月山にて…Ａ班

今年の忘年山行に花香月山（はなかりさん）を選んだのは、ロマンチックな名前に惹かれたからに違いない。しかし実際の山は、名前とは裏腹に頭に何本も鉄塔を突き刺したような無粋な山に見えた。地図上では県境尾根を伝って無事に行ける筈が、途中の第一電波塔辺りで登山道は舗装道路になって道を失う。

計画者の ＣＬと応援の方々による事前調査の御蔭で、ここは間違わずに再度花香月山に向かう県境尾根に戻る事が出来た。しかし、再度の山への取り付き点が、幅員６ｍ もある

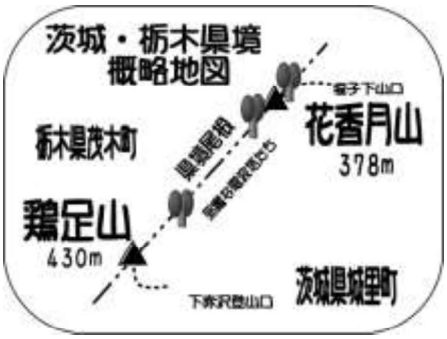
舗装道路の右肩に、高さ3～4mもある壁を、立木につかまりながら登っていくとは、僕なら見つけられなかっただろう。踏み跡もなくただの雑木林だったから。

NTT の電波塔側からは電波塔北東面が壁になり左側からは無理のようで、右・東電の電波塔から巻くような形で尾根に上がると花香月山山頂だった。　山頂は雑木林で中央には三等三角点が置かれ、花香月山と木の幹に山名板が掛けられていた。

軽い昼食と記念写真で時を過ごした後、協議の結果、南東側に向かう尾根道を下る事にした。地図にも適っている。ここから里の畦道に出るまでの１時間半の行程は、例年の忘年山行のように平和でのったりとした山行とはまるで違って、猛烈な薮漕ぎ山行となっていた。先頭集団の後をついていくのだが、木立が顔にあたって歩きを留め、バラのトゲが手を刺して腹を立て、計画者の計画の無さを恨んだものである。なんと、ここは事前調査では省いていたとは後で聞いた。時間が経過し、不安にもなったが、コンパスを見ると方向は間違っていなかった。

漸く、２m程の段差を飛び降りて廃道のような林道に戻った時は、正直『良かったァ、助かったァ』と思ったものだ。

その後の山びこの郷キャンプ場ではビールが待ちきれず、品性もなんも無く暴飲、暴食となったのは仕方の無い事だろう。食担さんが用意したトン汁が、殊のほか美味しかったのは今でも忘れていない。



今年はサプライズの連続で結果的にはとても面白い山行になったが、来年は出来ればもっと楽な忘年山行にしたいものだと思った。



鶏足山山頂にて…Ｂ班



鶏足山三角点にて…Ｃ班



大展望の鶏足山山頂で…Ｄ班



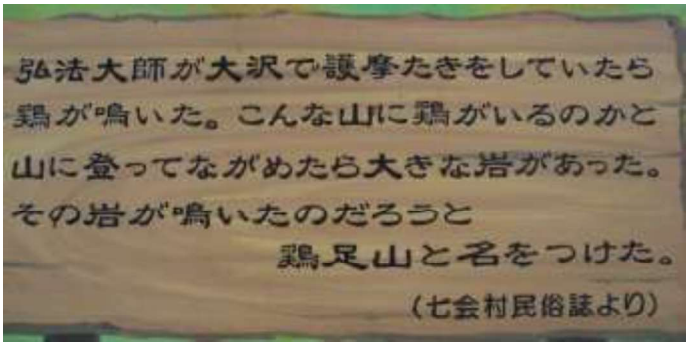
花香月山山頂にて　（全員集合）



急勾配の尾根を下る



薮の尾根道を登る



鶏足山の名前の由来

概　　要

山名	鶏足山～花香月山		
月日	平成 18 年 12 月 10 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	茨城・栃木県境	地形図 1/2.5 万	中飯
目的	① 一年を締める忘年山行 ② 山名と未知のルートの魅力に惹かれて		
費用	4,000 円	交通機関	貸切バス
日程・コース	我孫子駅北口 5：40→谷和原ＩＣ→友部ＩＣ6：45→鶏足登山口 7：30/7：45⇒鶏足山登山口 8：05⇒鶏足山 8：25⇒見晴台 8：30⇒第１電波塔 9：30/9：45⇒花香月山（第２電波塔）11：45/12：10⇒林道出合 12：55⇒塩子部落バス発 13：30→山びこの郷キャンプ場（忘年会）13：50/16：00→友部ＳＡ→谷和原ＩＣ→我孫子駅北口着 18：15 ＜晴れ　歩行時間　6 時間＞		
参加者	Ａ班　村松敏（L）、青山（SL）、佐藤健、佐藤明、大平、矢野、瀬田、本間 Ｂ班　武内（L）、柴（SL）、飯沼（食担）、大畠（食担）、原（食担）、原田和、松本 Ｃ班　中村隆（L）、外崎（SL）、村松峯、細野省、細野清、中野原田君、安田、中村八 Ｄ班　川下（CL）、清家（SL）、日下、大串秀、大串恵、高橋寿、藤倉 男１１名　女２０名　合計３１名		
ルート状況	＊ 一般的に鶏足山から花香月山までかすかな踏み跡がある程度のヤブ道で地図上の県境（栃木～茨城）を忠実に辿る。		

ルート状況	＊ 鶏足山へは林道から登山道に入ると急登になる。三角点のある山頂を右に 300m程行くと見晴台に着く。此処にも鶏足山の標識がある。 ＊ アップダウンを数回繰り返すと仮称第１電波塔（NTT）に着く。此処から稜線に乗るのが解りにくい。まず電波塔の前の舗装路を 100ｍ程下り、右折して 100mの所の右側にエフがあるので強引に崖を登る。 ＊ 尾根に出るとかすかな踏み跡があるので、地図でチェックしながら仮称第２電波塔のある花香月山を目指す。ヤブは所々激しくなり、踏み跡も解りにくいが、とにかく県境を辿る。 ＊ ４０分程で尾根が２つに別れる。直進する広い尾根に行かず右の狭い尾根に入る。木の所に古いエフが付いている。 ＊ 仮称第２電波塔を廻って急斜面を登ると花香月山はもう直ぐです。 ＊ 花香月山の山頂から塩子部落に至る下山路は計画では舗装された東南のルートを辿る予定だったが舗装路を回避して、地図上の北に向かう登山道に入った。このルートは廃道に近く、ヤブがひどく一般的な登山道ではない。利用しない方が良いのでは。 ＊ 林道に出ても利用していない道なので踏み跡が切れているがとにかく東に向かって行けば広い農道に出る。

＜５１９＞

高尾山

（５９９ｍ）

中村八重子

シモバシラの花

１２月、冬とは名ばかり、今年は暖冬となってしまった。シモバシラの観賞をと、山行を計画したのだが・・・。

４号路吊橋付近は、まだ紅葉の葉を落とさず回りを黄色に染めていました。

高尾山山頂は間伐のため、ヘリコプターが轟音をまきちらしながら仕事をしていた。林業の仕事を見るよい機会です。少しの間、運搬の様子を見守りました。富士の展望がよくなることでしょう。

シモバシラが見られるであろう場所はロープで囲まれ、写真つきで立て看板がつけられていました。何年か前に訪れた時は、氷の花が見られたのですが・・・。

これから先、高尾山では何回見ることができるだろう。いろいろな意味で四季ははっきりしていた方がいい。

もはや、見られないのか？



素晴らしい富士山の眺望



高尾山にて

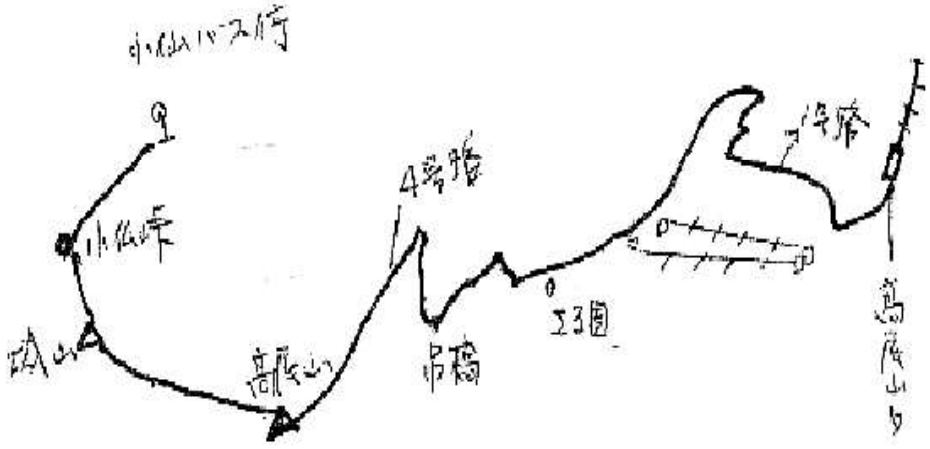
概　　要

山名	高尾山		
月日	平成 18 年　12 月　17（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	与瀬・八王子
目的	シモバシラの観賞		
費用	2,500 円	交通機関	ＪＲ・京王・バス
日程・コース	我孫子駅　6:10→新松戸→西国分寺 7:20/7:32→高尾 7:58/8:15→京王線高尾山駅 8:18（準備）⇒登山開始 8:30⇒ケーブルカー高尾山駅　9:20⇒４号路への分岐　9:26⇒自然研究路との合流点 10:00⇒休憩　10:02/10:06　高尾山頂上 599ｍ10:09⇒１丁目園地　10:50/11:25（昼食）⇒城山 670ｍ11:45⇒小仏峠 560ｍ12:18⇒小仏登山口　12:30⇒小仏バス停着　12:50/13:10→<バス）→高尾駅 13:29（反省会）→我孫子駅 15:50 着		
ﾙｰﾄ状況	稲荷山コースは間伐のため閉鎖…４号路に変更する。 １９年２月まで通行止め。		
参加者	中村八（L）、日下（SL）、榊原、高橋寿、原田君、中野、原田和、箕輪カ、 箕輪完　　男３名　女６名　計９名		



シモバシラの花の看板

概念図



＜５２０＞

谷　川　岳

（１９７７ｍ）

高橋　重

―クリスマス山行―
谷川岳　1963m

12 月 23 日（土）

昨年末も谷川岳へ同様の計画が立案されていたが、大雪のため中止になったと聞いた。今年は全国的に雪が少なく、近くのガーラ湯沢スキー場は閉鎖の状況。インターネットでは天神平スキー場はさすがにオープンしており、積雪は 50cm と報告されていた。

我孫子駅 5 時半過ぎレンタカーにて出発。途中鶴ヶ島付近で三重衝突のため渋滞、高坂ＳＡにて朝食、水上駅付近で買い物をし、9 時半過ぎにロープウエイ駅駐車場着。2 日分 2000 円を支払うが、ここは屋根もあり、いつ来ても登山前の準備に良い。今年はロープウエイも新しくなり、外に出ることなく出発駅まで歩け、さらに良くなった感がするが 10kg 以上のザックは 500 円の荷物代を取られる。輸送力が増したロープウエイは広く快適で、雪の少ない田尻沢に子供のカモシカを見る。白毛門、笠が岳方面や谷川岳の耳二つも見え隠れしている。

天神平駅はキラキラと眩しい。天神峠へのリフトは滑走具を持った人しか利用できず、足ごしらえをして、青空の峠に向かって汗をかきかき先人のトレースを辿る。サングラスのメンバーもいるほど。

辿り登り着いた天神尾根からは阿能川岳・小出俣山・川棚ノ頭・オジカ沢の頭などが美しい。いつの時期も素晴らしい「やまなみ」だが、冬の上越国境としては最高に近い



天神平から出発・良い天気です



天神平から稜線に登る
まだ青空、谷川連峰も見え隠れ

岳人誌掲載

「岳人」誌に（H19 年 5 月号）このクリスマス山行の写真が記録分とともに掲載されました。

文…リーダー村松敏彦

写真…高橋重

天候だ。俎嵓や幕岩の岩壁は黒々としている。天候のせいか、西黒尾根には点々と 20～30 人程が見える。12 時過ぎに熊穴沢避難小屋

に到着。

テントを二張し、昼過ぎからワインや美味しい酒精でクリスマス気分。ローソクやランタンの明かりのなか、「聖しこの夜」を歌いながら 7 個のプレゼントを回し、歌い終わったところで手に止まったものがサンタ？の贈り物となるゲームで大いに盛り上がった。

夕食はこれまでに味わったことのない、帆立の貝柱とそのダシが最高の味を作り出した贅沢な、野菜たっぷりのクリームシチューで大感激！女性陣との冬山の経験の少ない小生には驚きであった。また、三人のマリア様とテントに泊まれるビッグプレゼント？を手に入れた幸運者もいたが、別テントの 3 名はオイルサーディンの缶詰状態で、7 時過ぎには温かいシュラフにもぐり込み、酒精による肝臓疲労で早々と就眠した。

その晩、避難小屋には前橋の 4 名が宿泊、彼らは明け方二時近くまで聖夜を楽しんでいたようだ。近辺にはわれわれ以外に 5 張ほど幕営していた。小屋は、これ以上雪が多くなると開閉も出来ず、利用できなくなるだろう。夜半 22 時半頃から南東の風雪が強まり明け方まで吹き続けた。帰ってから見た新聞の天気図では 23 日 18 時新潟雨―西、東京付近快晴―南南西の風で大陸からの高気圧が緩んだところに小さな低気圧があったようだ。

12 月 24 日（日）

昨夜は何度か、テント下部に積もった雪を押しのけたり、結構吹いたため目が覚めた。枕元はそれ以外のプレゼントは見つからなかった。テント周囲や、小屋の入り口もかなり吹き溜った。朝食の準備の頃には風向きも変わり、テント撤収時はクリスマスではなく、冬山であった。もちろんここから上部はさらに風雪も強いことが予想され、下山となる。8 時過ぎには登ってくるパーティーもいくつかあり、小屋周辺は下山準備のパーティーとともに混雑状態。10 時前にはロープウエイ駅に到着した。



テント撤収・ブリザード

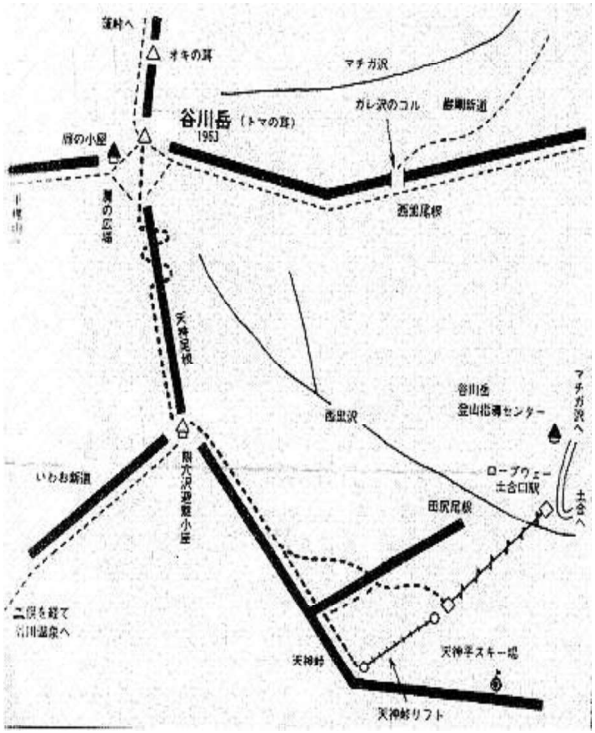


熊穴沢避難小屋より下山・まだ雪です。

土合の慰霊碑付近までは道路に雪があるが、レンタカーはスタッドレスで問題なし。赤城高原ＳＡで休憩し、新雪で真っ白に雪化粧した赤城山や雪のない榛名山や小持山などを眺めながら、関東平野をポカポカ車内のまま 2 時過ぎには柏に帰着した。

これまでも別のパーティーの食事や行動など文化の違いを興味津々で観察してきたが、今回は同じパーティーでありながら初参加、冬のテント泊も 10 年ぶり、多くの新しい発見？や体験もあり、目的のクリスマス山行とともに楽しい山行であった。

概念図





概　　要

山名	谷川岳		
月日	平成 18 年 12 月 23 日～ 24 日（日）		
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	４Ｄ
山域	谷川連峰	地形図 1/2.5 万	水上・ 茂倉岳
目的	①　美しくも厳しい雪山への挑戦 ②　ホワイトクリスマスを祝う		
費用	12,000 円	交通機関	レンタカー
日程コース　一日目	我孫子駅北口 5:30→柏インター→関越自動車道→水上インター8:30→谷川岳ロープウエイ終点天神平 9:30⇒稜線 10:15⇒夏道分岐 11:00⇒熊穴沢避難小屋 12:15 全面にテント設営		
日程コース　二日目	起床 5:30（天候悪化のため待機）熊穴沢避難小屋前テント場出発 8:00⇒天神平ケーブル終点 9:30→土合 10:00→谷川インター→関越自動車道経由柏インター→我孫子着 14:30		
ルート状況	・　谷川岳ロープウエイは新しくなって、2 本の架線で吊り下げているため風対策が充分なされている。 ・　天神平から熊穴沢避難小屋までは夏道は天神尾根をトラバースして行くが、この季節（雪）、直接天神峠に登り稜線にでるのが一般的のようだ。 ・　熊穴沢避難小屋は収納能力は大体１０名ほど、トイレはない。但し雪の深い山域なので 1 月頃からは雪に埋もれてしまう。		
参加者	村松敏（L）、清家、外崎、千葉、 佐藤健、吉川、高橋重 男４名　女３名　計７名		

＜521＞

高水山　～　棒の折山

（７５９m）　　（９６９m）

由布仁子

冬の低山歩き

お正月太りを解消する目的と、記録的な寡雪で奥多摩あたりの様子はいかがなものかと覗きに行く事にした。

立川駅で我孫子からの本体と合流、久し振りの顔合わせはそれなりに懐かしい。初めてお会いするのは小松さん。皆晴れ男､晴れ女なのか昨日の冷たい雨も上がり結構なお天気である。

軍畑駅から高水山登山口まで車道を歩く。以前来た時より道路が整備されていたが少々長い。それでも民家の庭や畑の脇に黄色の蝋梅が花をつけていて山里の風情も楽しめる。山道に入ると適度な登りでのんびりキツツキのドラミングなど聞こえた。息が多少上がるのはおしゃべりのせいか、太ったせいか？

高水山頂上下の常福院で今年の安全登山を祈願する。山寺にしては立派な造りで、手入れされた境内は昨夜降った雪がうっすらと積もり清浄な雰囲気である。皆、頭を垂れて写真をパチリ。



常福院にて今年の安全登山を祈願

植林された杉林の広い道をたどり岩茸石山へ向かう。何の話からか山名を英語に直せば、岩茸石山はMt.マッシュルームだなどと他愛も無い話に花を咲かせ、ワハハと笑いあうのも低山山行の気楽さだ。山頂は見晴らしがよく気持ちが良い。面白かったのは太い丸太が立ててあり、ちょうど目の高さに穴が開けてある。のぞくと棒ノ折山だけが見えるのである。「おやまあ、あんなに遠い所まで今から行くの？」と驚かされる。かわるがわる覗いては顔を上げて再確認。さてそろそろ気合を入れるか･･･

岩茸石山からの下りは気をつけよう。かなり急坂で私は思わず両ストックを出したほどだ。黒山まではアップダウンが激しく、小松さんは「また下るの」とウンザリ気味。しかし他に登山者も無く静かなコースで開放的な気分だ。いいかげん歩いた頃黒山山頂に着いた。さあご飯だ。各自空いたベンチに陣取り腹ごしらえをする。風が冷たく、汗をかいた体はたちまち寒くなった。こんな時はテルモスの熱い飲み物がありがたい。持つときは「これが重い」と悪態をつくくせにこんな時は大事に熱いお湯をすするのである。まったくいい加減なものだ。

そそくさと弁当をしまって棒ノ折山へ。山頂へは一時間もかからず行けるのだが、ずっと続く登りで、特に最後の階段登りはこたえる。ようやく登りあげると山頂広場は湧いたように人が居た。別にメジャーなコースがあるらしい。

陽射しでぐちゃぐちゃな土の広場で、記念撮影パチリ。武内さんの要望でもう一枚。帽子を被り忘れたとの事･･･皆、納得。

さあ下山だと勢い込んでひたすら下る。これまたジグザグの樹林帯の急斜面で足に負担がかかる。いや、これも体重のせいか？沢音が聞こえると間もなくワサビ畑が現われた。

何段も整備され、フェンスとネットで厳重にガードしてある。『ちょっと一株』なんて心得の悪い登山者もいるんだよねきっと。(つい美味しそうと思うくらいはいいよね、思うくらいは・・・)

奥茶屋に着いてタクシーを呼ぶが予約なしは断られてしまった。今日の日和でたくさん入山者があったのだろう。バスも休日運転でまったく頼りにならない。川井駅まで一時間半歩く事にする。さんざん歩いた頃、なんと！親切な女性が車に乗せてくださった。彼女はあのワサビ畑の持ち主の娘さんで、ご主人共々山登りを楽しんでおられるとか。わざわざ御岳駅の蕎麦屋まで送ってもらい有難かった。

蕎麦屋「玉川屋」で新年会も合わせて反省会。今年の初登山も無事で何よりでした。

概念図





棒の折山山頂にて

概　要

山名	高水山～棒ノ折山		
月日	平成 19 年 1 月 21 日(日)		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	原市場 武蔵御岳
目的	冬の低山歩き		
費用	2,300 円	交通機関	JR・自動車
日程・コース	我孫子駅 5:33→立川 7:05→軍畑駅 7:55/8:05⇒高水山登山口 8:30⇒常福院 9:30/9:40⇒高水山山頂 9:45⇒岩茸石山 10:10/10:20⇒黒山(昼食) 11:48/12:15⇒棒ノ折山 12:45/13:00⇒奥茶屋 13:40/13:50⇒乗車 14:25→御岳駅(反省会)14:40/15:41→我孫子駅着 18:00 ＜晴れ 歩行時間 4時間15分＞		
ルート状況	＊ 軍畑駅から登山口まで車道歩きが長い。(25分) ＊ 岩茸石山からの最初の下りが急。雪、雨の時などは特に注意が必要。 ＊ 岩茸石山から黒山までの稜線はアップダウンが多い。 ＊ 黒山から棒ノ折山までは急な登り。特に棒ノ折直下の階段が苦しい。		
参加者	千葉(L)、高橋英(SL)、安田、武内、小松、由布 男3名 女3名 計6名		

＜５２２＞

浜　石　岳

（７０７ｍ）

細野清子

今日の山行はわが会の若いホープ北川さんの初リーダー。新年山行で富士山が見えることと、離れた地にいるリーダーに代わっての、村松会長の説明が良かったのか、当初電車だったが変更になりバスで行くことになった。途中、興津で北川さんが乗ってくる。百人一首に出てくる『興津』だね、ということで上の句下の句を思い出そうとするが、なかなか思い出せない。やっと、下の句の雲井にまがう興津白波、だけ思い出せた。

〔わたの原こぎ出でてみれば久かたの
雲いにまがうおきつしらなみ〕

・・・・百人一首より

登山口までは、ひなびた田舎の風景が広がっていた。入口で表示がはっきり出ているのにもかかわらず、右に行きかけ後ろから来た村松さんたちのグループに「違うヨー」　の声をかけてもらい危うくセーフ。そのまま行くと沢に入ってしまうところであった。

登り道に入ると、とたんに左右植林地帯。スギやヒノキで、下草は払われてはいるものの林道に出るまでずっとうっそうとしていた。・・・・ガッカリしたのは私だけ？

途中１箇所だけ日の光が入って明るいところがあった。そこはアオキが新芽を膨らませていた。山桜の木が３～４本、スギやヒノキの木に押されて遠慮気味に立っていた。NHK のノッポ君を思い出してしまった。細くて背高ノッポだった。分岐付近で下田から来た３２人のパーテイに出会う。後ろの B 班の外崎さんが、すぐ後ろに迫ってきた。そして、「今日の山は何も書くことがないねえ」



浜石岳山頂にて

と気の毒そうに声をかけてくれた。

今日が誕生日の私。村松リーダー代理からのプレゼントらしいが、どうせならもう少し景色のよい山行で書きたかったなア～。

そうこうしているうちに林道に出たとたん、パア～と景色が開け、雄大な富士山が眼の前に飛び込んできた。『ワア～』と歓声があがる。暖冬で沢筋が見えるがやっぱり日本一の山。雪の富士は特に人々を魅了させる。眼が離せない。頂上までわずか５分とかからないが、後ろを振り返りながらのぼった。頂上では多くの人が富士に魅せられていた。富士を見ながら食事をした。寒くて長くはいられないのでそこそこで済ませ下山する。すぐキャンプ場に着く。見え隠れする富士を見ながらの林道歩きは長かった。期待したみかんも手の届きそうにあるのは鳥がつついている。やっと手に入れ、食べてみると甘酸っぱかった。

海抜０ｍから７０７ｍの浜石岳。歩き応えはあった。新年早々富士山が見られたこと。下山後の新年会では海の幸がたくさん食べられたことでまずまずの山行だったといえる。村松さんが「展望の山だから仕方がないだろ」と言っていた意味がわかった。長い植林の登山道歩きの後に広がる景色が、見事なほど印象に残る展望だといえるのだろう。



山頂よりの富士山

概念図





概　要

山名	浜石岳		
月日	平成 19 年 1 月 21 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
山域	駿河	地形図 1/2.5 万	興津
目的	①　山と海とみかん畑の織りなす早春の息吹 ②　本年度の初山行を駿河の山で実施		
費用	5,900 円	交通機関	貸切バス
日程コース	我孫子駅北口 5:30→柏インター→足柄ＳＡ→清水インター経由興津駅 8:45→下町屋登山口 9:05⇒のろし台（陣馬山）10:50⇒浜石岳 11:45／12:15⇒青少年野外センター12:40⇒由比駅着 14:05→桜えび会館 14:20/14:40→沼津駅反省会 15:30/17:35→海老名ＳＡ経由我孫子駅着 20:25		
ルート状況	①　浜石岳への登山道は表登山口（南面）以外には坂本と今回の下町屋とがある。坂本から入山するとのろし台（陣馬山）へ行くのに同じ登山道を往復する箇所あり、それを避けるために下町屋からの登山道を選んだ。 ②　下町屋からは一部急登があるが静かな樹林帯をしっかりした道標に導かれて山頂に辿る。 ③　下山道は青少年野外センターからは急降下の舗装路（自動車道）、膝ががくがくする。但し時折、畑のみかんがほっと慰めてくれる。		
参加者	北川（CL）、村松（SL）、 Ａ班　清家（L）、細野清、細野省、村松峯、佐々木、斎藤、箕輪完、桐生、原田和 Ｂ班　外崎（L）、柴田、日下、中野、原田君、松本、箕輪カ、本間、瀬田 男９名　女１１名　計 20 名		

＜５２３＞

花　咲　山

（７６１ｍ）

高橋芳恵

冬枯れの静かな里山歩きと熊騒動

「熊が出るかも知れません」リーダーからの注意を受け大月駅を出発した。

大月周辺の山には岩殿山、菊花山など何度か登っているがどれも小粒でもぴりりと辛い味わいのある山々で、ことに今回の中村リーダーの“侮るなかれ”シリーズにはリピーターも多く渋さとスリルを求めて私も参加した。

今年度私は春から咳に悩まされ、とうとう喘息持ちの烙印まで押されて散々だったが、久しぶりに岳人あびこの仲間と春のような暖かい日差しの中を軽快に歩くことができ、「本当にシアワセ」と思っているとどうやら登山口を通り越してしまったようで、戻って方向の石垣に沿ってまっすぐに登り藪を越えてやっと尾根道に出た。地図上の登山口はゴルフ場の開発でなくなってしまったのだとのこと。リーダーは地図読みのテストを我々に課した模様である。

三角点を通過し、早々とコーヒータイムとなった。このあたりは隣の岩殿山の稚児落としとそっくりな地形である。岩殿山でも同じ光景を見ながらコーヒーを飲んだことを鮮明に思い出した。この地点から滑りやすい坂道を３０分程で花咲山に到着し昼食休憩。一月とは思えない陽だまりでゆっくり過ごすことができた。

下りは岩の多い急坂で慎重に足を運ぶ。なかなか侮れない山である。途中、下の方から『おーい　岳ジーン』とかなんとか声がする。良く聞くと『そっちの尾根はー　熊が出るぞー』『えー？何ですってー？』　『熊が出るぞー！』『朝、リーダーの熊の話は本当だったんだ。』『こんなに暖かい冬じゃ、冬眠しないかも』などなど話し合い、前を歩く人との距離を狭め、足早に黙々と歩き始めたが、しばらくすると誰からか歌が出て、全員で熊を威嚇して歌いながら歩いた。幸か不幸か山中では熊と出会う機会には恵まれなかったが、リーダーが下見された１１月には大月周辺で５頭の熊を捕獲したとか。異常気象の暖冬は熊にも受難のことであろう。

「それにしても熊がでるぞー」って言った人は地元の人でしょうか？　何で岳人って呼んだのかな？私にとっては生涯の疑問となった熊騒動でした。

花咲山は大月駅から初狩駅へ駅から駅への近くて静かな侮れない山でした。



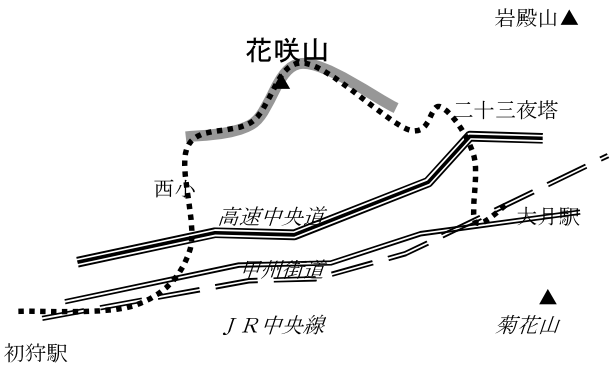
花咲山山頂にて



山頂での昼食風景

概　　要

山名	花咲山		
月日	平成 19 年 1 月 28 日（日）		
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1Ａ
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	大月
目的	冬枯れの静かな里山歩き。里山といえども侮るなかれ。確かな道をたどるには？		
費用	2,480 円 ホリデーパス	交通機関	電車・バス
日程コース	我孫子駅 6:10→新松戸 6:23/6:25→西国分寺 7:20/7:32→高尾 7:58/8:02→大月駅着 8:45/登山開始 8:55⇒廿三夜塔 9:15⇒登山道入口 9:25⇒お社 9:33⇒サス平（三角点）H610m10:12⇒コーヒータイム 10:20/10:40⇒**花咲山**H761m 11:10/11:50（昼食）⇒大岩山H717m 12:08⇒道路に出る 12:43⇒大月西小学校 12:45⇒高速道路を越える 12:58⇒初狩駅着 13:35/13:45→高尾駅 14:37/15:27（反省会）→西国分寺 15:50/15:56→新松戸 16:51/16:58→我孫子駅着 17:12 ＜晴れ　行動時間　４時間４０分＞		
参加者	中村隆（L）、細野清、細野省、日下斎藤（SL）、小川誠（SL）、原田君、高橋芳、中村八、原、原田和 男６名　女５名　計１１名		





熊除けの鈴や雲なき花咲山

散り敷きて山の座敷や朴落葉

枯木山莫蓙の代りの縞の影

熊出ると聞き足早の隊伍かな

小川誠二郎



概念図



＜５２４＞

朝日山　・　赤鞍ヶ岳
（１２９９m）（１２５７m）

青山寿子

道志山塊豪華山行

1日目

2月第1週、今冬は暖冬の為、積雪は期待出来ないだろうとの予測に反して、標高972Mの秋山二十六夜山頂にはアイスバーンと数センチの積雪があった。

二十六夜山とは正月と7月の２６日夜に登る山からの由来で、頂上直下には明治 22年7月建立の常夜灯が、破損していたが残っていた。　二十六夜山～三日月峠～棚ノ入山は北斜面は積雪していたが、アイゼンなしで急坂を登り、棚ノ入山山頂でランチタイムとなる。　サンショ峠からはアイゼンを装着し、朝日山の登りに取り付く。山頂には赤鞍ガ岳との標識があり、明日登る赤鞍ガ岳と同名だが、5万図では朝日山と表示している。

秋山峠から赤鞍ガ岳（ワラビタタキ）を目指すが、雨量ロボット観測所に到着しても赤鞍ガ岳の標識も三角点も見つからず、全員で探し回るとヤブの中にひっそりと三角点と標識が佇んでいた。標識が地面に落下していた為に判らなかったのだろう。ヤブの入口に赤テープをつけて頂上を後にした。

赤鞍ガ岳から本日宿泊の民宿「富士見荘」目指して急坂を下るが、明日又同じ登山道を登り返すのかと思うと気が重いな～と考えながら大栗に下る。

民宿「富士見荘」は下山口の車道を隔てた前にあり、訪れると法事のあとのカラオケ大会が行なわれていて、接客サービスはイマイチ（人手不足が原因？）だが、夕食はしし鍋、すき焼き、岩魚の塩焼き、山菜のてんぷら等食べきれない程の豪華料理だった。翌朝お弁当をお願いしたわけでもないのに、6人分のお弁当を用意してくれた上、ビール代は無料のサービス満点の民宿だった。（昨日カラオケで迷惑掛けた事を気にかけていたのかも）

2日目

サービス満点の民宿は、7：40出発時に咽飴まで持たせてくれ上機嫌で出発し、昨日下ってきた登山道を登り返す。昨日は気が重かったが、思いの外速く稜線（池の窪）に到着。尾根道は数センチ積雪していたが、展望がよく細茅ノ頭～長尾山～鳥井立はアップダウンを繰り返して巌道峠に到着。アイスバーンとなっている車道を横断し、東方向にムギチロ目指して登山道に入る。計画では巌道峠～月夜野に下る予定だったが、オマケで奥道志の終点、網子峠まで延長となった。

平野峠迄はピークを3個越えて到着。入道丸は三等三角点が木柵で囲まれていて、標識は三角点の前に置かれ、積雪していれば見失う所であった。　網子峠では標識が反対方向になっていたがコンパスと地図で確認し網子登山口に到着。　網子登山口から網子入口バス停迄は車道歩き 30分を強いられるが、一山越える車道歩きは辛く，愚痴をぼやきながらトボトボと重い足を運ぶ。タクシ ーを目標物がある地点で呼ぶ予定でバス停に向かったが、運良く一日 4本のバス便に乗れ幸運だった。



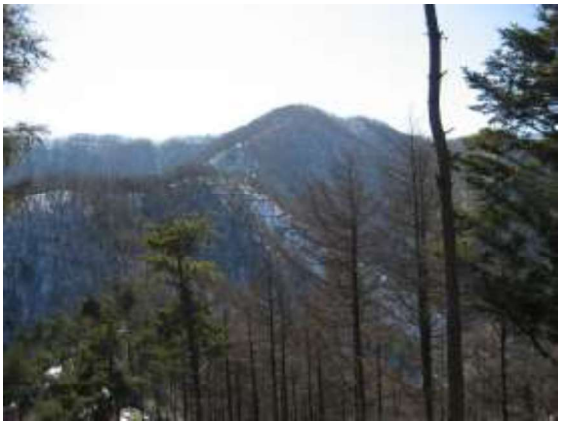
赤鞍ヶ岳山頂にて

概　　要

山名	朝日山・赤鞍ヶ岳		
月日	平成 19 年 2 月 3 日～ 4 日（日）		
形式	民宿	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
山域	道志山塊	地形図 1/2.5 万	大室山・大月都留
目的	①　朝日と名のつくシリーズ第 4 弾 ②　静かな道志の名峰に展望を期待 ③　冬の低山歩きの魅力を探しに		
費用	約 9,000 円	交通機関	ＪＲ・タクシー・バス
日程コース 一日目	我孫子駅 5:33→新松戸→高尾駅 7:25→上野原駅 8:05（タクシー）→下尾崎 8:30⇒秋山二十六夜山 9:55/10:10⇒棚ノ入山 11:25/11:50⇒朝日山 12:50/13:10⇒赤鞍ヶ岳 14:30⇒大栗 15:40 民宿泊		
日程コース 二日目	民宿 7:40⇒池の窪 9:17⇒長尾山 10:55⇒御牧戸山 11:30/12:00⇒巌道峠 12:30⇒ムギチロ 13:05⇒平野峠 13:40⇒入道丸 13:55⇒網子登山口 14:40⇒網子入口バス停 15:10/15:23（町営 100 円バス）→やまなみ温泉バス発着場乗換え 15:35/15:52→藤野駅 16:05→我孫子駅 20:10		
参加者	村松敏（L）、外崎、細野清、細野省、武内、青山 男３名　女３名　計６名		
ルート状況	・標高 900ｍを過ぎると雪がみえてくる。日陰と陽の当たる場所とで雪が出たり融けた雪が凍っていたり非常に歩きにくい。アイゼンを着けたり外したりするタイミングが難しい。 ・道標は少ない山域だが、地図をチェックしながら行けば問題ない。但し巌道峠以降は道標は極端に少なく山頂板も古く読むのに苦労する。 ・赤鞍ヶ岳から大栗部落への下降路で落石などに充分注意して登下降したい。 ・朝日山と赤鞍ヶ岳が地図と山頂板とで違っている。即ち朝日山が現地の山頂板では赤鞍ヶ岳になっている。何年も前から問題になっているのでぜひ統一して欲しい。地元の読み方と国土地理院との見解の相違だと思うが・・・。 ・網子峠の道標が場所の表示と指示方向と違っている。数少ない道標なので正確を期して欲しい。・首都圏に近いのにとにかく交通の便が悪い山域です。直接利用できる交通機関はなく、単独又は少人数の山行は交通費が多くかかる。その分入山者が少なく静かな山行ができるメリットがあるが・・・		



加入道山・大室山

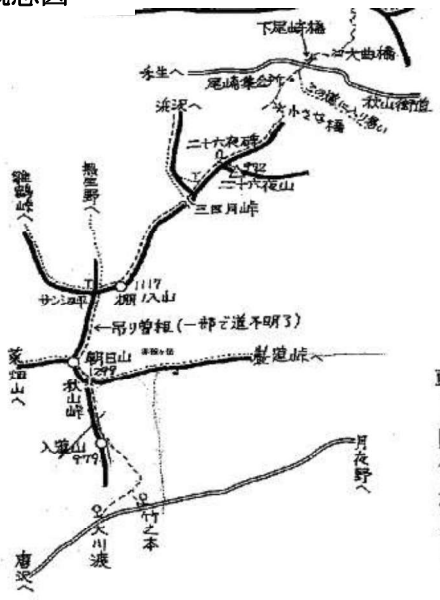


棚の入山より朝日山（赤鞍ヶ岳）



朝日山（赤鞍ヶ岳）雪道を行く

概念図



朝日山付近略図

創立 10 周年記念

記念山行　八ヶ岳集中

番号	山行	期間
505	東八ヶ岳縦走	10/13-15
506	南八ヶ岳(赤岳) B班	10/14-15
507	南八ヶ岳(赤岳) C班	10/14-15
508	天狗尾根	10/14-15
509	八ヶ岳本峰縦走	10/13-15
510	天女山	10/15
—	懇親会（美しの森ファーム）	10/15

記念行事　（南我孫子近隣センター）

落語　山遊亭金太郎

講演会　山で遭難しないために

都岳連救助隊長　渡邊輝男

展覧会

懇親会

10 周年記念祭の報告

イベント係：外崎蓮

日時：平成 18 年 10 月 29 日（日）9：00～18：00
場所：けやきプラザ９階ホール
（我孫子南近隣センター）
出席者：70 名
（会員 49 名、会友・家族・知人 21 名）
行事の進行：

9：00　10 周年記念実行委員と会員有志集合
会場設営、写真展示
12：00　会員及び家族・知人集合　出席者全員による写真投票（１人２点）
12：50　会長の挨拶
13：00～13：50　落語　山遊亭金太郎（真打）
14：00～16：20　講演　渡邊輝男
（都岳連救助隊長）
全員で記念撮影
16：40～17：30　懇親会
写真結果発表
17：45～18：00　後片付け

総括

・参加者７０名で、当初の目標に何とか到達できました。
・会場内（９階ホール）は近代的な設備が整い、しかも駅からすぐで、催し物を行うには最適な場所。ここを丸一日使用出来る幸運に恵まれました。思えば、8/29 の同時刻、あちこちの会場に走って頂いた方々、本当にお疲れ様でした。
・山とはおよそ縁のない落語は、会場内に笑いをもたらし、しばし楽しいひと時を過ごしました。忙しい現代こそ、ユーモアのある人生を送りたいものだと思いました。
・笑ったあとは、まじめに山の勉強もしました。ビデオ「山で遭難しないために」でお馴染みの渡邊輝男さんの講演は、登山中における水分のとり方、事故者の処置の仕方、背負い方（搬送）、地図読みの大切さ（現在地確認）、そして自分の健康を常にチェックしておくことなど噛んで含めるような話しぶりに、会員は引き込まれました。安全登山の大切さを再確認し、大変有意義なものでした。
・当初、写真の枚数が少なかったため会員に働きかけたところ、土壇場になっての持込が増えて、俳句も含めると 37 点の作品が集まりました。その場に足を運ばなければ撮れない力作ばかりが、会場内を華やかに飾り、記念祭を大いに盛り上げてくれました。

写真投票の結果

１位　14 票　「強く　チシマギキョウ」
髙橋　重さん
２位　11 票　「ツクモグサ」
髙橋　重さん
３位　8 票　「鳳凰と日本カモシカ」
佐藤明子さん

（尚、賞品は、4 位の桐生さんと原田和昭さんがジャンケンし、上記の 2 名と原田さんにさしあげました）

・限られた予算内での懇親会でしたが、10 周年にふさわしい打ち上げとなりました。
・「養老の滝」で行われた二次会には約 30 名が出席。渡邊氏を囲み、にぎやかな宴会で幕を閉じました。



山遊亭　金太郎さん



記念講演会会場風景

八ヶ岳集中登山　懇親会





10 周年記念イベントを迎えて

≪会長　村松敏彦≫

記念祭を始めるにあたって、ここ 10 年間、会の基礎作りに大変な努力された歴代の会長を紹介して感謝の意を表したいと思います。

まず、まだ見えていませんが長野県の諏訪から駆けつけて頂く予定の初代会長の三浦さん、二代目柴さん、三代目大串さん、四代目初の女性会長の外崎さん(ここから任期は２年になりました)、五代目武内さんです。感謝の意を込めて大きな拍手をお願いします。

さて、ご存知の方も多勢いらっしゃると思いますが「岳人あびこ」は市内のＡ登山倶楽部に同期入会した会員が会の山行、方針等に疑問を抱き、真に「質の高い登山」、「豊かな山行」を目指すべき８名で１０年前（平成８年）の１０月１０日に会津朝日岳の麓のテントの中で産声をあげました。

翌年には第１回の公開登山に参加した３０数名が２期生として入会されました。この方たちは登山の知識、経験等が余りありませんでしたが、将来の会の中核を背負っていただくためにも我々の持っている登山に関するノウハウを一生懸命伝授した事を今でも鮮明に記憶しています。それから２期、３期、４期、・・等、年を重ねて、今年は１０期、６名の新入会員を含め会員６４名、会友６名計７０名の会員で構成されています。

この１０年の間には先月（９月）に奇しくも朝日と名のつく朝日連峰の山行で定例山行５００回を迎えました。又、市民の皆様に登山の楽しさ、自然の美しさを体験して頂くためにいわゆる公開登山（市民登山）を１２回、市内の福祉作業所に通所する身障者の方と１日、自然の中で楽しむウイズハイクを５回行い、地域に根ざした山の会を目指してきました。このように活発な会になったのも会員の山に向う情熱、会を愛する心だと感じます。１５周年、２０周年に向けて更なる発展を期待するものです。

次に今後の「岳人あびこ」の目指すべき方向に触れたいと思います。会員の高齢化に伴い山行の形態も変化して来るのも当然の事です。若い時のように体力にまかせてガンガン高みを目指して行く山行は出来なくなります。しかし、体力はなくても経験にもとずく、山、ルートの取り方があります。又、会員の中には多種多様の趣味を持った人が多勢います。例えば写真、高山植物、絵画、ヤブ尾根歩き、源流を訪ねる山行、秘湯を探す山行等、自然の中に浸る行為は数多くあります。これらの目的別山行を押し進めて行きたいと思います。だからと言って従来のバリエーション山行を辞める事ではありません。要は会員の要望の多様化に伴い、会も変化していかなければなりません。但しいかなる山行でも創立時の「質の高い登山」、「豊かな山行」が底流になけねばなりません。

本日はこの後、山遊亭金太郎師匠の落語と渡邊輝男氏の講演があります。ゆっくり楽しんで下さい。

最後に本日を迎えるに当たって昨年から企画、実行に努力されてきた実行委員の方々にこの席を借りて厚くお礼申し上げたいと思います。どうもありがとう御座いました。



山で遭難しないために

渡邊輝男さんの講演（要旨）

≪記録：柴　勇≫

遭難事故を起こす原因で多い順は　１．道迷い　２．滑落・転落　３.病気

それではなぜそれらが発生するのか？

１．道迷い

普通よく見ているのは、昭文社の地図、これはポイントからポイントまでの時間は､分かるが、山歩きに必要な情報が分からない。国土地理院の 25,000 分の１の地形図（シートで包む）を常に持ち歩き今どこを歩いているか、地図上に現時点を絶えず確認しながら歩くこと。道に迷ってから地図を見ても遅い。

２．滑落・転落

１番多い時間帯は、下山時でしかも午後２時ごろ。なんでも無いところで、下山ルートの残り４分の１位の時におきる。

歩くときは、水の補給と、食べ物の補給とこれらを有効活用するための酸素（正しい呼吸）が必要。

水は、まず、出発する前に補給し、行動中に消費した分をのどが渇く前に補給すること。30 分から１時間に１回、１回当たり１５０から２００ｍｌ。必ず意識して補給すること。水を好きなだけ飲む人と、のどが渇いてから飲む人は、意識して飲む人より疲れやすい。

食べ物も、すぐに出せるポケットなどに入れて水と同様まめに補給すること。エネルギー源は絶えず少しずつ補給すること。飴などでも良い。

呼吸は、腹式呼吸が大切。ステッキは、下山時に有効で、しかもダブルストックが良い。下山の時は普段使わない筋肉を使うので、筋肉を傷める。ストックで筋肉への負荷を少なくする。

岩場では、危険なのでザックサイドに収納して使わない。

筋肉を鍛えるには、スクワットと階段昇降が良い。

３．病気

脳血栓や心筋梗塞は、山中で発生すれば助けることは困難。これを防ぐのも水の正しい補給。サラサラ血液を保つこと。普段の食事も大事。

高山病にならないためには、十分な睡眠と腹式呼吸で酸素を意識的に体内に送り込むこと、水分も重要。

・続いて遭難者を救出するためにはどうするか？という話に移った。

基本的には、セルフレスキューが大切。

１．遭難者を搬出するとき体力的に無理なとき、通りがかりの人の力を借りるのも良い。

２．遭難者を背負う方法として、シュリンゲまたは、雨具を使った搬出法を教えてくれた。

３．また、遭難して救助を求めるときは、現在地点を正しく伝えること。（出来れば北緯、東経何度）ヘリコプターに知らせるときは、無雪期は、白いタオルのようなもの、積雪期は、ブルーの色物を大きく左右に振る。ブルーシートは、ツェルト代わりにも使えて便利。

・ 怪我の手当て

１．切り傷、擦り傷は、まず水で洗う。（ペットボトルに水道水を入れて持ち歩き、小さな穴を開けた蓋を用意しこれで洗浄する。）消毒剤は使わない。消毒剤を使うと皮膚の有用な菌を殺してしまい回復を遅らせる。また、ガーゼも傷口に当てない。次に、専用の傷パッド（バンドエード）をあて、防水シール（通気性のある）で固定する。

・ 便利な小物

１．骨折・ねんざ時のとき

手や腕は、スーパーで買い物時のビニール袋の一端を切って首から吊るして固定する。また、固定を更にしっかりするには、エアーパッドを当てる。

２．簡易ハーネスの作り方

シュリンゲ（スリンク）を肩からかけて、前で結びカラビナをかけて使う。岩場の通過時にハーネスとして使うと便利。

・ 遭難時の通信機

１．携帯電話

便利であるが圏外もある。携帯は、電源は ON のままにしないで、時々電源を入れて通信可能なポイントを記憶（地図上に記録）しておく。遭難したときこれを利用する。

２．無線機

無線機は、かなり小型で、軽量になり山での通信手段としては良い。アマチュア無線の資格は､講習会を受講すれば９８％の合格率でゲットできる。

・ 登山中の脈拍（運動負荷）

１．最大脈拍数は、（２２０－年齢）よりも小さくなるように注意。

２.通常は脈拍数は､（１８０－年齢）位が良い。

３．脈拍は、15 秒測定し、４倍して求める。



渡邊　輝男さん



シュリンゲを使って簡易カラビナで岩場の安全通過法

講演会風景



記念講演会実行委員会の皆さんと
山遊亭金太郎さん



雨具を使っての遭難者救出法





← 写真等展示会


やまなみ
創刊号
岳人あびこ


やまなみ
第２号
岳人あびこ


富士山と富士周辺の山々
岳人あびこ


やまなみ
第３号
岳人あびこ


やまなみ
第４号
岳人あびこ


やまなみ
第５号
岳人あびこ


やまなみ
第６号
岳人あびこ


やまなみ
第７号
岳人あびこ


やまなみ
第８号
岳人あびこ

資　料

推移グラフ（1996 年～　）

山行一覧表（2006 年）

活動の記録(1996 年～　)

活動の記録

年	月	日	行　　事	場　　所	備　　考
1996年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
平成8年	10	12－13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
	11	12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会		運営委員会		備　　考
1997年	1	7	市民プラザ	21	市民プラザ	
平成9年	2	12	市民プラザ	25	市民プラザ	
	3	11	市民プラザ	25	市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	市民プラザ	27	市民プラザ	
	6	14	市民プラザ	24	市民プラザ	
	7	5	市民会館	22	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	26	市民プラザ	
	9	6	市民プラザ	6,19	市民プラザ	
	10	4	寿市民センター、	21	市民プラザ	
	11	8	市民プラザ	28	市民プラザ	
	12	13	市民プラザ	16	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
１９９７年	1	11-13	雪崩講習会	谷川岳	県連（川名、清家、坪井参加）
平成9年	1	15	岩トレ	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2	公開ﾊｲｷﾝｸﾞ及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16	公開ﾊｲｷﾝｸﾞ	石老山	一般40名参加
	3	26	新入会員決定通知		23名入会
	4	1	臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
	4	6	第２回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	13	新人装備購入ツアー	カモシカ	６名参加
	4	20	新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1	千葉県清掃ﾊｲｷﾝｸﾞ	養老渓谷	県連
	6	14	新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	6	21－22	救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28－29	登山交流集会	船橋	県連
	7	5	新人研修会	市民会館	歩き方
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	1	秋の公開登山参加者募集	市民広報掲載	
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10－11	１周年記念山行	尾瀬集中登山	３コース
	10	19	公開登山説明会		
	10	25－26	公開登山	丹沢主脈縦走	
	11	4	雪崩机上講習会		県連
	12	7	忘年山行		
	12	20－21	クリスマス山行	笠取山	

年	月	定例集会	運営委員会	備　　考

活動の記録

１９９８年	1	10	市民プラザ	20	市民プラザ	
平成10年	2	11	市民プラザ	17	市民プラザ	
	3	14	市民プラザ	17	市民プラザ	
	4	5	市民プラザ	21	市民プラザ	
	5	9	市民会館	26	市民プラザ	
	6	13	市民会館	23	市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	21	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	19	市民プラザ	
	9	5	市民会館	18	市民プラザ	
	10	3	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	24	久寺家通り会館	
	12	12	市民会館	22	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
１９９８年	1	10	臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
平成10年	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	10	臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18	拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第３回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	4	26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2ー5	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
	5	24	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ﾛｰﾌﾟﾜｰｸ、三点確保
	6	9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公園	
	7	11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ﾊｲｷﾝｸﾞ部、ﾗﾝｷﾝｸﾞ制
	8	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23	公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10ー11	公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
	11	8	機関紙発行者交流集会	柏	県連主催（中村出席）
	12	6	忘年山行	裏筑波山	
	12	19ー20	クリスマス山行	甲武信岳	

年	月	定例集会	運営委員会	備　　考

活動の記録

１９９９年	1	9	市民プラザ	9,26	市民プラザ	
平成１１年	2	13	市民プラザ	23	市民プラザ	
	3	13	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	17,27	市民プラザ	
	4	4	市民会館	20	市民プラザ	
	5	8	市民プラザ	25	市民プラザ	
	6	12	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	22	市民プラザ	
	7	10	五本松公園	21	市民プラザ	
	8	7	市民プラザ	24	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ	
	11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	12	11	市民会館	21	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
１９９９年	1	10	新年山行	鐘撞堂山	
平成１１年	1	30-31	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ	
	3	13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター	
	4	4	第４回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	4	18	新人歓迎山行	大鹿山、笹子雁ヶ腹摺山	
	5	1-4	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ合宿		雪山
	5	22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”
	5	23	登山学校開校式		県連主催（安田）
	5	30	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	5-6	公開登山実施	両神山	一般13名、会員20名
	6	13	新人研修	本社ヶ丸－鶴ヶ鳥屋山、高畑山	
	7	～２０００／６	誌上「岳人あびこ登山教室」１２回	《やまたん》	講師：村松敏彦（ﾘｰﾀﾞｰ部長）
	7	10-11	岳人祭	五本松公園	ｸﾘｰﾝ作戦、ﾃﾝﾄ講習、宴会、ﾃﾝﾄ泊
	7	10	新人研修	五本松公園	テント講習他
	7	21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		９６／１０～９８／１２
	10	2	「ブナの山旅」講演会（公開）	湖北台近隣センター	講師:坪田和人氏
	10	3	岡発戸・都部の谷津を探勝	我孫子市内	
	10	24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山
	11	13-14	新人研修山行	丹沢主脈縦走	
	12	5	忘年山行	百蔵山	
	12	23-25	クリスマス山行	甲武信岳ー金峰山	
	12/28ー1/5		海外トレッキング（県連主催）	ネパール	外崎、細野清参加

年	月	定例集会		運営委員会		備　　考
２０００年	1	11	市民プラザ	21	市民プラザ	

活動の記録

平成12年	2	5	市民プラザ	6.18.26	市民プラザ	
	3	5	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	22	市民プラザ	
	4	8	市民プラザ	18	市民プラザ	
	5	10	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	23	市民プラザ	
	6	10	市民会館	20	市民プラザ	
	7	12	湖北近隣センター	18	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	9	9	五本松公園	26	市民プラザ	
	10	11	市民プラザ	24	市民プラザ	
	11	11	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	12	9	市民会館	19	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０００年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
平成12年	1	23	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：安田みづほ
	1	29-30	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	5	５周年記念山行実行委員会	湖北台近隣センター	
	2	5	会員募集説明会	湖北台近隣センター	
	3	5	第５回総会	湖北台近隣センター	
	3	5	新人研修	湖北台近隣センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	3	26	新人歓迎山行	浅間嶺	
	4	8	５周年記念山行実行委員会	市民プラザ	
	4	15	登山学校開校式	県連主催	榊原、大串（恵）
	5	3-6	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ合宿	浅草岳・守門岳	雪山
	5		ホームページ開設		ＨＰ担当　川下
	5	20	公開登山説明会	市民プラザ	”雲取山”
	6	3-4	公開登山実施	雲取山	一般14名、会員17名、計31名
	6	17-18	リーダー研修	丹沢	
	6	1999／7～	誌上「岳人あびこ登山教室」１２回終了	《やまたん》	講師：村松敏彦（ﾘｰﾀﾞｰ部長）
	7	2	新人研修	岩山	
	8	～2001／7	「楽しい登山学」（机上講習会）開始	《やまたん》	講師：柴　勇（登山部長）
	9	9-10	岳人祭	五本松公園	ｸﾘｰﾝ作戦、ﾃﾝﾄ講習、懇親、ﾃﾝﾄ泊
	11	11-12	新人研修山行	塔ノ岳-鍋割山	
	12	3	忘年山行	倉岳山	
	12	23-24	クリスマス山行	安達太良山	

年	月	定例集会		運営委員会		備　　考
２００１年	1	10	市民プラザ	19	市民プラザ	
平成１３年	2	7	市民プラザ	16,24	市民プラザ	

活動の記録

	3	4	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	21	市民プラザ	
	4	7	市民プラザ	17	市民プラザ	
	5	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	22	市民プラザ	
	6	6	市民プラザ	19	市民プラザ	
	7	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	21	市民プラザ	
	9	9	アビイホール	25	市民プラザ	
	10	13	湖北近隣センター	23	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	12	8	市民会館	18	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００１年	1	14	新年山行	石老山	5周年記念山行富士周辺スタート
平成13年	1	21	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：榊原、大串（恵）
	1	27-28	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	18	会員募集説明会	市民プラザ	
	3	4	第６回総会	湖北台近隣センター	
	3	4	新人研修	湖北台近隣センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	3	18	新人歓迎山行	越前岳（富士）	
	4	14-15	登山学校開校式	県連主催	受講者：川下
	5	2-5	春山合宿	大笠山・笈ヶ岳	雪山
	5	19	公開登山説明会	湖北台近隣センター	”巻機山”
	6	9-10	公開登山実施	巻機山（越後）	一般13名、会員24名、計37名
	7	2000／8～	「楽しい登山学」（机上講習会）終了	《やまたん》	講師：柴　勇（登山部長）
	1～7月		５周年記念富士周辺シリーズ		14回
	8	18-19/25-26	5周年記念山行	富士山	４コース
	8		山行文集やまなみ　第２号の発行		平成11年1月～平成12年2月
	9	9	創立5周年記念講演会	アビイホール	講師：田部井淳子、坪田和人
	10	13	岳人祭	湖北台近隣センター	ｸﾘｰﾝ作戦、文化祭、5周年祝賀会
	10		五周年記念山行文集「富士山と富士周辺の山々」の発行		平成13年1月～平成13年8月
	12	2	忘年山行	助川山（常陸）	
	12	23-24	クリスマス山行	木曾駒ヶ岳	

山技術講習	年	月	日	No.	項　　目	講　　師
（集会時）	1	4	7	1	ウォーキング技術	村松、柴、清家
	1	6	6	2	救急処置法	外崎、清家
	1	11	8	3	山で遭難しないために	ビデオ
	2	1	9	4	ストックの使い方	清家
	2	2	6	5	アイゼンとピッケルの使い方	柴

年	月	定例集会		運営委員会		備　　考
２００２年	1	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	22	市民プラザ	
平成１４年	2	6	市民プラザ	17、23	市民プラザ	

活動の記録

	3	10	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	20	市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	16	市民プラザ	
	5	8	アビスタ	19	市民プラザ	
	6	6	湖北近隣センター	18	市民プラザ	
	7	10	市民プラザ	16	市民プラザ	
	8	7	アビスタ	20	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	10	19	五本松公園	22	市民プラザ	
	11	9	アビスタ	19	市民プラザ	
	12	5	湖北近隣センター	17	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００２年	1	26-27	房総ロングハイキング	房総	県連主催
平成１４年	2	17	会員募集説明会	市民プラザ	
	3	10	第７回総会	湖北台近隣センター	
	3	10	新人研修	湖北台近隣センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	3	24	新人歓迎山行	八溝山	
	5	3-6	春山合宿	鹿島槍ヶ岳	雪山
	5	19	公開登山説明会	湖北台近隣センター	”安達太良山”
	6	9	公開登山実施	安達太良山	一般29名、会員32名、計61名
	6	7	ウィズハイク実行委員会	アビスタ	
	8		山行文集「やまなみ」第3号発行		平成12年3月～平成13年2月
	9	28	ウィズハイク実施	(鋸山)	雨のため「大洗水族館」に変更
	10	19-20	岳人祭	五本松公園	ｸﾘｰﾝ作戦、講演会、実技研修、懇親、ﾃﾝﾄ泊
	12	8	忘年山行	加波山	
	12	22-23	クリスマス山行	会津朝日岳	
登山技術講習	月	日	項　　目		講　　師
(集会時)	8	7	ウォーキング技術		村松（敏）
	10	19	講演会　最近の山の道具について		よしき店主　吉野清氏
	10	19	テントの張り方、ロープワーク		リーダー部
	12	4	山行計画の立て方		細野（省）
	1	8	山の料理		清家

年	月	定例集会		運営委員会・リーダー会議		備　　考
２００３年	1	8	市民プラザ	21	市民プラザ	
平成１５年	2	8	アビスタ	16,22	アビスタ、市民プラザ	
	3	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	18	市民プラザ	

活動の記録

	4	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	アビスタ	18	市民プラザ	
	6	5	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	7	9	市民プラザ	15	市民プラザ	
	8	6	アビスタ	19	市民プラザ	
	9	4	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	10	4	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	11	5	アビスタ	18	市民プラザ	
	12	3	アビスタ	16	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００３年	1	25-26	房総ロングハイキング	房総	県連主催
平成15年	2	16	会員募集説明会	アビスタ	
	3	9	第8回総会	湖北台近隣センター	
	3	9	新人研修	湖北台近隣センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	3	30	新人歓迎山行	奥久慈男体山	
	5	2-5	春山合宿	白馬岳	雪山
	5	18	公開登山説明会	湖北台近隣センター	赤城山
	6	1	公開登山実施	赤城山	一般33名、会員34名、計67名
	9	27	ウィズハイク実施	鋸山	
	10	4-5	岳人祭	五本松公園	ｸﾘｰﾝ作戦、救急法講習会、懇親、ﾃﾝﾄ泊
	12	7	忘年山行	足和田山	
	12	20-21	クリスマス山行	和名倉山	
教育研修	月	机上研修		実技研修	
	3	山行の申し込み方、装備の点検		岩山	岩登り基礎。
				奥久慈男体山	山のマナー、パッキングの仕方
	4	地図の読み方、コンパスの使い方		モミソ・源次郎沢	沢登り基礎。
				百蔵山	地図読み山行
	5	筋肉痛と水分補給		岩山	三点確保
	6	楽しい山行計画の立て方			
	7	雷にあったら、蜂に刺されたら		黒姫山	テント泊体験
	8	三角巾の使い方			
	9	心臓蘇生法		白笹・南月山	地図読み山行
	10	心臓蘇生法　実技			
	11	山での歩き方		日和田山	ストックの使い方
	12			足和田山	山での食事の作り方
	12	山行計画作成（新人卒業山行）		安達太良山	冬山基礎、わかん、ピッケル。藪山の地図読み
	2			笹尾根	冬山体験。新人の卒業山行

年	月	定例集会		運営委員会・リーダー会議	備　　考
２００４年	1	7	アビスタ	14,20	市民プラザ
平成１６年	2	5	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	15.21	アビスタ、市民プラザ
	3	7	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	16	市民プラザ

活動の記録

	4	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	5	7	アビスタ	18	市民プラザ	
	6	9	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	7	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	8	4	アビスタ	17	市民プラザ	
	9	8	アビスタ	14	市民プラザ	
	10	6	アビスタ	19	市民プラザ	
	11	10	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	12	8	湖北近隣センター	12, 14	アビスタ、市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００４年	1	24-25	房総ロングハイキング	房総	県連主催
平成16年	2	15	会員募集説明会	アビスタ	
	3	7	第9回総会	湖北台近隣センター	
	3	7	山行文集「やまなみ」第4号発行		平成13年3月～平成15年2月
	3	7	新人研修	湖北台近隣センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	3	28	新人歓迎山行	足利行道山	
	5	2-4	春山合宿	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	雪山
	5	8	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生7名参加
	5	23	公開登山説明会	市民プラザ	会津磐梯山
	6	6	公開登山実施	会津磐梯山	一般16名、会員34名、計50名
	6	12	登山教室（実技）	岩山	受講生5名、会員（講師）3名、計8名
	7	10	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生5名参加
	9	11	登山教室（実技）	三頭山	受講生5名、会員（講師）2名、計7名
	10	2	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生3名、新人1名参加
	10	23	ウィズハイク実施	鹿野山　（マザー牧場）	福祉作業所16名、会員18名
	12	5	忘年山行	烏場山	
	12	25 - 26	クリスマス山行	和名倉山	
	1	16	岳人祭	湖北台近隣センター	講演会（講師：谷口けい）、懇親

教育研修	月	机上研修	実技研修	
	3	山行の申し込み方、装備の点検	行道山	山のマナー、パッキングの仕方
	4	地図の読み方、コンパスの使い方	九鬼山	地図読み山行
			モミソ・源次郎沢	沢登りを楽しむ。
	5	山の歩き方	赤ぼっこ	山の歩き方。ストックの使い方
	6	中高年の体力低下。日常のトレーニング	玉原高原	ブナを訪ねて
			南八ヶ岳	岩稜歩き
	7	山歩きの食事、十分な水分をとる	霞沢岳	山での食事（テント）
	8	基礎的な天気図の見方。観天望氣	背戸蛾廊	三点確保

活動の記録

	9	楽しい山行計画の立て方		
	10	地図の読み方、コンパスの使い方		
	11		矢倉岳	地図読み山行
	12	山の道具の使い方	烏場山	行事山行時の食事の作り方
			金峰山	雪山を楽しむ
	1	有効なストレッチ	鳴虫山	雪山の基礎

年	月	定例集会		運営委員会・リーダー会議		備　　考
２００５年	1	16	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	18	市民プラザ	
平成１７年	2	9	アビスタ	13, 19	アビスタ、市民プラザ	
	3	6	湖北台市民ｾﾝﾀｰ	15	市民プラザ	
	4	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	5	11	アビスタ	17	市民プラザ	
	6	9	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	7	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	8	3	アビスタ	16	市民プラザ	
	9	6	湖北近隣センター	13	市民プラザ	
	10	12	アビスタ	18	市民プラザ	
	11	12	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	12	8	湖北近隣センター	13	アビスタ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００５年	1	29-30	房総横断ロングハイキング	房総	県連主催
平成１７年	2	13	会員募集説明会	アビスタ	
	3	6	第10回総会	湖北台市民センター	
	3	6	新人研修	湖北台市民センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
	3	27	新人歓迎山行	二ッ箭山	
	5	1-3	春山合宿	景鶴山・燧ヶ岳	雪山
	5	24	第１回10周年記念準備委員会	市民プラザ	
	6	11	公開登山説明会	市民プラザ	早池峰山・栗駒山
	6	17ー19	公開登山実施	早池峰山・栗駒山	一般11名、会員20名、計31名
	7	20	第2回10周年記念準備委員会	市民プラザ	
	8	21	登山教室説明会	市民プラザ	出席者　男2名､女2名　計5名
	8	28	登山教室（実技・岩トレ）	岩山	受講生5名、会員9名、計14名
	9	6	山行文集「やまなみ」第5号発行		平成15年3月～平成16年2月
	9	11	登山教室（実技・沢登り）	丹沢葛葉川本谷	受講生1名、会員11名、計12名
	9	17ー19	労山フェスタ	美しの森　たかね荘	日本の登山と労山の未来を考える
	9	23	ウィズハイク実施	土岳・花貫渓谷	福祉作業所18名、会員24名
	9	27	第3回10周年記念準備委員会	市民プラザ	

活動の記録

	11	12	第4回10周年記念準備委員会	湖北近隣センター	
	11	12	岳人祭	湖北近隣センター	山での事故対応。ゲーム。懇親会
	12	5	忘年山行	蓬田岳	
２００５年	1	6	１０周年実行委員会	市民プラザ	
平成１８年	1	28ー29	房総横断ロングハイキング	房総	県連主催
教育研修	月	机上研修		実技研修	
２００５年	3	オリエンテーション（山行の申込、注意事項等）		二ッ箭山	山のマナー、山の歩き方
平成１７年	4	リーダーの役割、山の天気、緊急時の対策　（リーダー研修）		岩山	ロープの結び方、使い方。シュリンゲンによる支点のとり方　（リーダー研修）
	4	地図の読み方		道志二十六夜山	地図読み山行
	5	夏山に向けてのトレーディングおよび注意点		川乗谷逆川	沢を楽しむ
				塔ノ岳～檜洞丸	山小屋の利用の仕方
				早池峰	環境保護について考えよう
	7	ストックの応用			
				富士山	高度順応
				苗場山	山の歩き方。ストックの使い方
	10	雪山に向けての知識と準備		陣場山～高尾山	低山のロングハイクを楽しむ
	11	山の中で事故に遭ったら			
２００６年	1	ロープの結び方と使い方			

年	月	定例集会		運営委員会・リーダー会議		備　　考
２００６年	1			6	市民プラザ	10周年準備委員会
平成１８年		11	アビスタ	17	市民プラザ	
	2	8	アビスタ	14	久寺家通り会館	
	3	5	湖北台市民ｾﾝﾀｰ	14	市民プラザ	
	4	12	アビスタ	18	市民プラザ	
	5	10	アビスタ	16	市民プラザ	
	6	8	湖北近隣センター	13	市民プラザ	
	7	5	アビスタ	11	市民プラザ	
	8	9	アビスタ	22	市民プラザ	
	9	5	湖北近隣センター	12	市民プラザ	
	10	4	アビスタ	17	市民プラザ	
	11	8	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	12	7	湖北近隣センター	12	アビスタ	

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００６年	1	6	10周年準備委員会	市民プラザ	10周年準備委員会
平成１８年	1	28-29	房総横断ロングハイキング	房総	県連主催

活動の記録

	2	19	会員募集説明会	アビスタ	
	3	6	第11回総会	湖北台市民センター	
	3	6	新人研修	湖北台市民センター	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
	3	26	新人歓迎山行	難台山・吾国山	
	5	3-5	春山合宿	上州武尊岳	雪山
	5	21	公開登山説明会	市民プラザ	
	6	11	公開登山実施	男体山	一般28名、会員33名、計61名
	7	5	山行文集「やまなみ」第6号発行		平成16年3月～平成17年2月
	7	5	10周年記念　T－シャツ配布		
	7	12	10周年準備委員会	久寺家通り会館	
	8	30	10周年準備委員会	市民プラザ	
	9	23	ウィズハイク実施	佐白山・富士山	福祉作業所24名、会員25名
	10	13－15	10周年記念山行	八ヶ岳集中登山	懇親会会場　美しの森ファーム
	10	29	10周年記念祭	我孫子南近隣センター	講演:渡邊輝男（都岳連救助隊長） 「山で遭難しないために」 落語：山遊亭金太郎
	11	18－19	県連４０周年記念レセプション	清和県民の森	
	12	10	忘年山行	花香月山	
２００７年	2	7	山行文集「やまなみ」第7号発行		平成17年3月～平成18年2月

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２００６年	3	オリエンテーション（会山行申込み、注意事項その他）	難台山・吾国山	山のマナー、山の歩き方
平成１８年	4	地図の読み方　（尾根と谷）	鬼ヶ岳・節刀ヶ岳	地図読み山行
	5	事故事例に学ぶ		
	7	山で雷にあったら		
	10	環境保護について考えよう	八ヶ岳	テント生活を楽しむ
	10	山の中で事故に遭ったら	殿平・鞍吾山	地図読み山行
	12	雪山に向けての知識と準備	花香月山	行事山行時の食事の作り方
２００７年	1	ロープの結び方と使い方	房総の山	ロングハイクを楽しむ
平成１９年	2		朝日山・赤鞍ヶ岳	雪山を楽しむ
	3		奥久慈男体山	山行計画の作成と山行

編集後記

「岳人あびこ」に入会して３年が過ぎました。それでもご一緒する機会の少ない諸先輩の山行も沢山あります。編集を通してそのような方々の「岳人あびこ」に対する思い、また山に対する真摯な気持ちを教えて頂いているような気がします。

山仲間の絆は深いといいます。その絆の輪の一員に私も入らせていただいていることに感謝しています。これからもたくさんの方々と共に山への気持ちを共有したいと思います。

いつもながら助けて頂いた武内編集長には大変感謝しています。（ＫＫ）

文章には書いていただいた方の個性、性格がにじみ出ています。読んでいるといつの間にか自分がその山を歩いている姿を想像してしまいます。縦走、雪山、沢、高山植物、大展望、ハイキング、どんな山にもそこにはつらい登り、下りがあります。苦あれば楽しみあり、乗り越えた後の感動！だからこそ、また山に登ります。１０周年八ヶ岳記念山行の紀行文でも各会員のそれぞれの思いが溢れていました。

やまなみの編集のお手伝いをさせていただきましたが、未熟な私を支えてくださった編集長、桐生さんありがとうございました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。（ＭＹ）

２００７年もまもなく暮れようとしています。年末恒例の流行語大賞が発表され、本年は東国原宮崎県知事の「どげんかせんといかん」が年間大賞に選ばれました。知事の宮崎県議会での所信表明演説で「停滞のもととなった古いしがらみからの解放が必要」を方言混じで説いたもので、「テゲテゲ（いい加減）では地域間競争に勝ち残れない」とセットで述べられています。

やまなみの発行の遅れを「どげんかせんといかん」と編集を開始したのが本年３月、立ち上がりは早かったものの、市民登山や山行で忙しくなった夏場にかけて「テゲテゲ」となってしまい、結果的には前号より１ヶ月の期間短縮にとどまりました。それでも、年内に「どげんかできた」のは、桐生さん、安田さんご両名の頑張りがあったからこそで、改めて感謝したいと思います。（ＹＴ）

千葉県勤労者山岳連盟
岳人あびこ

山行文集　**やまなみ 第８号**

発行日　平成２０年１月９日
発行者　岳人あびこ　会長　中村隆泰
千葉県我孫子市青山台３－１１－３
編集者　会報部　やまなみ編集係
武内勇二　桐生恭子　安田みづほ
印刷所　太平洋印刷株式会社

ホームページ：http://www18.ocn.ne.jp/~kounkan/gakujin/
E-mail：gakujinab10@yahoo.co.jp